万崎建替公営住宅第二期建設工事

設計図書

図　面　リ　ス　ト

意　匠　図

図面番号	図　面　名　称
A／001	特記仕様書（No１）
A／002	特記仕様書（No２）
A／003	特記仕様書（No３）
A／004	特記仕様書（No４）
A／005	特記仕様書（No５）
A／006	特記仕様書（No６）
A／007	特記仕様書（No７）
A／008	特記仕様書（No８）
A／009	特記仕様書（No９）
A／010	特記仕様書（No１０）
A／011	特記仕様書（No１１）
A／012	特記仕様書（No１２）
A／013	別紙１特記仕様書
A／014	別紙２特記仕様書
A／015	付近見取図
A／016	特記事項・工事車両通行経路・安全巡視員配置図
A／017	外部仕上表
A／018	内部仕上表
A／019	敷地求積図・面積表
A／020	敷地求積図・面積表（仮想敷地）
A／021	建物求積図・面積表０１（建築基準法０１）
A／022	建物求積図・面積表０２（建築基準法０２）
A／023	建物求積図・面積表０３（建築基準法０３）
A／024	建物求積図・面積表０４（公営住宅法０１）
A／025	建物求積図・面積表０５（公営住宅法０２）
A／026	建物求積図・面積表０６（公営住宅法０３）
A／027	現況図
A／028	団地全体配置図（第二期工事完了時）
A／029	配置図
A／030	平面図０１（ピット階（全体））
A／031	平面図０２（１・２階（全体））
A／032	平面図０３（３～８階（全体））
A／033	平面図０４（屋根伏図（全体））
A／034	平面図０５（ピット階（X1～X10））
A／035	平面図０６（ピット階（X10～X19））
A／036	平面図０７（１階（X1～X10））
A／037	平面図０８（１階（X10～X19））
A／038	平面図０９（２階（X1～X10））
A／039	平面図１０（２階（X10～X19））
A／040	平面図１１（３～７階（X1～X10））
A／041	平面図１２（３～７階（X10～X19））
A／042	平面図１３（８階（X1～X10））
A／043	平面図１４（８階（X10～X19））
A／044	平面図１５（屋根伏図（X1～X10））
A／045	平面図１６（屋根伏図（X10～X19））
A／046	ピット展開図０１
A／047	ピット展開図０２
A／048	立面図０１
A／049	立面図０２・断面図０１
A／050	断面図０２
A／051	矩計図０１（１ＤＫタイプ）
A／052	矩計図０２（２ＤＫタイプ）
A／053	矩計図０３（３ＤＫタイプ）
A／054	ピロティ廻り詳細図
A／055	ＥＶ・ＥＶホール・屋外階段Ａ廻り詳細図０１
A／056	ＥＶ・ＥＶホール・屋外階段Ａ廻り詳細図０２
A／057	ＥＶ・ＥＶホール・屋外階段Ａ廻り詳細図０３
A／058	屋外階段Ｂ廻り詳細図
A／059	屋外階段Ｃ廻り詳細図
A／060	平面詳細図（１ＤＫタイプ）
A／061	展開図（１ＤＫタイプ）
A／062	平面詳細図（２ＤＫタイプ）
A／063	展開図（２ＤＫタイプ）
A／064	平面詳細図（３ＤＫタイプ）
A／065	展開図（３ＤＫタイプ）
A／066	天井伏図０１（１階）
A／067	天井伏図０２（２～４階）
A／068	天井伏図０３（５・６階）
A／069	天井伏図０４（７階）
A／070	天井伏図０５（８階）
A／071	建具キープラン０１（１階（X1～X10））
A／072	建具キープラン０２（１階（X10～X19））
A／073	建具キープラン０３（２階（X1～X10））
A／074	建具キープラン０４（２階（X10～X19））
A／075	建具キープラン０５（３～７階（X1～X10））
A／076	建具キープラン０６（３～７階（X10～X19））
A／077	建具キープラン０７（８階（X1～X10））
A／078	建具キープラン０８（８階（X10～X19））
A／079	建具表０１
A／080	建具表０２
A／081	部分詳細図０１
A／082	部分詳細図０２
A／083	部分詳細図０３
A／084	部分詳細図０４
A／085	部分詳細図０５
A／086	部分詳細図０６
A／087	部分詳細図０７
A／088	部分詳細図０８
A／089	部分詳細図０９
A／090	部分詳細図１０
A／091	部分詳細図１１
A／092	断熱材範囲図０１
A／093	断熱材範囲図０２
A／094	断熱材範囲図０３
A／095	内装パネル平面詳細図（１ＤＫタイプ）内法下
A／096	内装パネル平面詳細図（１ＤＫタイプ）内法上
A／097	内装パネル平面詳細図（１ＤＫタイプ）ピロティ横住戸
A／098	内装パネル平面詳細図（２ＤＫタイプ）内法下
A／099	内装パネル平面詳細図（２ＤＫタイプ）内法上
A／100	内装パネル平面詳細図（２ＤＫタイプ）ピロティ横住戸
A／101	内装パネル平面詳細図（３ＤＫタイプ）内法下
A／102	内装パネル平面詳細図（３ＤＫタイプ）内法上
A／103	内装パネル平面詳細図（３ＤＫタイプ）妻住戸
A／104	内装パネル断面詳細図０１
A／105	内装パネル断面詳細図０２
A／106	内装パネル断面詳細図０３
A／107	内装パネル断面詳細図０４
A／108	内装パネル床伏図（１ＤＫタイプ）
A／109	内装パネル床伏図（２ＤＫタイプ）
A／110	内装パネル床伏図（３ＤＫタイプ）
A／111	内装パネル天井伏図（１ＤＫタイプ）
A／112	内装パネル天井伏図（２ＤＫタイプ）
A／113	内装パネル天井伏図（３ＤＫタイプ）
A／114	台所セット詳細図（参考図）
A／115	浴室ユニットバス詳細図（参考図）
A／116	住戸ＡＬＶ算定図・算定表
A／117	外構撤去　配置図
A／118	外構撤去　詳細平面図
A／119	外構撤去　部分詳細図−１
A／120	外構撤去　部分詳細図−２
A／121	外構レベル計画平面図（全体）
A／122	外構レベル計画平面図（１／４）
A／123	外構レベル計画平面図（２／４）
A／124	外構レベル計画平面図（３／４）
A／125	外構レベル計画平面図（４／４）
A／126	外構計画平面図０１（舗装　全体）
A／127	外構計画平面図０１（舗装　１／４）
A／128	外構計画平面図０１（舗装　２／４）
A／129	外構計画平面図０１（舗装　３／４）
A／130	外構計画平面図０１（舗装　４／４）
A／131	外構計画平面図０２（工作物　全体）
A／132	外構計画平面図０２（工作物　１／４）
A／133	外構計画平面図０２（工作物　２／４）
A／134	外構計画平面図０２（工作物　３／４）
A／135	外構計画平面図０２（工作物　４／４）
A／136	外構詳細図（ごみ置場０１）
A／137	外構詳細図（ごみ置場０２）
A／138	外構詳細図（自転車置場０１）
A／139	外構詳細図（自転車置場０２）
A／140	外構詳細図（バイク置場）
A／141	防火水槽（耐震貯水槽）詳細図
A／142	外構部分詳細図０１
A／143	外構部分詳細図０２
A／144	外構部分詳細図０３
A／145	雨水排水計画平面図（全体）
A／146	雨水排水計画平面図（１／４）
A／147	雨水排水計画平面図（２／４）
A／148	雨水排水計画平面図（３／４）
A／149	雨水排水計画平面図（４／４）
A／150	雨水貯留水槽【北】平面図
A／151	雨水貯留水槽【南】平面図
A／152	雨水貯留水槽【北・南】断面詳細図
A／153	オリフィス桝詳細図０１、経路図
A／154	オリフィス桝詳細図０２
A／155	会所リスト−１
A／156	会所リスト−２
A／157	外構（雨水排水）詳細図０１
A／158	外構（雨水排水）詳細図０２
A／159	外構（雨水排水）詳細図０３
A／160	植栽計画図０１（植栽図）
A／161	植栽計画図０２（数量表・支柱図）
A／162	[参考]仮設計画図（ＳＴＥＰ０ 本工事前）
A／163	[参考]仮設計画図（ＳＴＥＰ１）
A／164	[参考]仮設計画図（ＳＴＥＰ２）
A／165	[参考]仮設計画図（ＳＴＥＰ３）

構　造　図

図面番号	図　面　名　称
A／166	[参考]仮設計画図（ＳＴＥＰ４）
A／167	計画配置位置図（全体）
A／168	計画配置位置図（１／４）
A／169	計画配置位置図（２／４）
A／170	計画配置位置図（３／４）
A／171	計画配置位置図（４／４）
V／001	昇降機設備工事　特記仕様書（１）
V／002	昇降機設備工事　特記仕様書（２）
V／003	設備工事共通　特記仕様書
V／004	付近見取図
V／005	配置図
V／006	仮設計画図
V／007	エレベーター仕様要領、昇降機断面図、乗場正面図、乗場あけ穴図
V／008	昇降機平面図
V／009	０１号機　かご室詳細図
V／010	０２号機　かご室詳細図
S／01	構造特記仕様書
S／02	設備工事構造特記仕様書
S／03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
S／04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）
S／05	高強度せん断補強筋施工仕様書
S／06	鉄筋コンクリート壁式構造配筋標準図
S／07	Ｈｙｐｅｒ−ＭＥＧＡ工法　特記仕様書
S／08	Ｆ．Ｔ．Ｐｉｌｅ構法　既製コンリート杭
S／09	ボーリング柱状図（１）
S／10	ボーリング柱状図（２）
S／11	杭伏図・基礎・ピット伏図
S／12	１階伏図・２階伏図
S／13	３～８階伏図・Ｒ階伏図
S／14	壁スリット配置図
S／15	軸組図（１）
S／16	軸組図（２）
S／17	部屋タイプ別拡大図
S／18	基礎・基礎梁・基礎小梁リスト
S／19	柱芯線図
S／20	柱・大梁リスト
S／21	小梁・床版・壁リスト
S／22	架構配筋詳細図
S／23	雑配筋図（１）
S／24	雑配筋図（２）
S／25	【ごみ置場】構造図（１）
S／26	【ごみ置場】構造図（２）
S／27	スリーブ図０１（ピット階（X1～X10））
S／28	スリーブ図０２（ピット階（X10～X19））
S／29	スリーブ図０３（１階（X1～X10））
S／30	スリーブ図０４（１階（X10～X19））
S／31	スリーブ図０５（２～８階（X1～X10））
S／32	スリーブ図０６（２～８階（X10～X19））
S／33	梁貫通孔補強筋標準図

堺市建築都市局建築部

特記仕様書 ［営繕編］

Ⅰ．工事概要

1 工事名称　万崎建替公営住宅第二期建設工事
2 工事場所　大阪府堺市西区草部１０１８番地１
3 敷地に関する事項
a 用途地域
・第一種低層 ・第二種低層 ⊙第一種中高層 ・第二種中高層
・第一種住居 ・第二種住居 ・準住居
・近隣商業 ・商業 ・準工業 ・工業 ・工業専用
・指定なし ・ ・ ・
b 防火地域
・防火 ⊙準防火 ・２２条区域
c その他の地域地区
⊙市街化 ・市街化調整 ⊙第二種高度地区
・宅造規制 ・風致 ・ ・
d 都市計画施設の区域
・指定あり （・都計道路 ・都計公園 ・ ・ ）
⊙指定なし
e 建蔽率・容積率
⊙指定建蔽率 ６０％ ⊙指定容積率２００％
f 敷地面積 ３６，４９１．０２㎡（第二期仮想敷地：１０，１３７．０５㎡）

4 工事建物概要
a．工事種別 新築
b．用途 共同住宅 （主要用途 共同住宅 ）
c．建築面積 １，４５３．６９㎡ （既設部分：５，５４４．９５㎡）
計 ６，９９８．６４㎡ 《建蔽率：１９．１８％》
d．延べ面積 ８，７０９．９４㎡ （既設部分：２０，５１２．６０ ㎡）
計 ２９，２２２．５４㎡
e．構 造 鉄筋コンクリート（住棟）
f．階数 地上 ８ 階、 地下 ― 階
g．棟数 １４ 棟
h．軒高 ２２．５２０ｍ （住棟）
i．最高の高さ ２４．１１０ ｍ （住棟）

各棟建築面積及び各棟床面積他

棟 名 棟別工事種別	各階床面積	建築面積	階数	構造	備 考
住棟	別紙による	別紙による	８階	ＲＣ造	棟数： １棟
ごみ置場	別紙による	別紙による	１階	ＲＣ造	棟数： １棟
自転車置場	別紙による	別紙による	１階	Ｓ造	棟数： １０棟
バイク置場	別紙による	別紙による	１階	Ｓ造	棟数： ２棟

5 工事範囲
① 建築主体工事
② 屋外附帯工事
3．既設改修工事 （・全館無人改修 ※執務並行改修）
④ 撤去工事
⑤ その他工事

6 別途工事
① 電気設備工事
② 給排水衛生設備工事
3．空気調和設備工事
4．ガス設備工事
5．し尿浄化槽設備工事
6．植栽工事
7．その他工事

Ⅱ．工事仕様

1 共通仕様
（１）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（令和４年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。
（２）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事および機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2 適用
特記仕様の取扱については、下記による。
（１）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
（２）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

3 設計図書の優先順位
設計図書に相違がある場合、設計図書の優先順位は下記による。
1．質疑回答書
2．現場及び机上説明書
3．特記仕様書
4．図面
5．標準仕様書
現場説明書とは、工事記録等現場での協議録を示す。

4 適用基準等
図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。
・建築物解体工事共通仕様書（平成31年度版）
国土交通省大臣官房官庁営繕部
・営繕工事写真撮影要領（平成28年版）
国土交通省大臣官房官庁営繕部
・建築工事標準詳細図（令和4年版）（以下「標準詳細図」という）
国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
・その他

章 一般共通事項

項目	特記事項
① 1 法令等の適用区分	※建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ⊙風圧力 風速（Ｖｏ＝ 34 m/s） 地表面粗度区分（・Ⅰ ・Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ） ⊙積雪荷重 垂直積雪量 30 cm
② 材料の品質等	(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。 (3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 (4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関[（一社）公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」]の評価書の写し等）を監督員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ①品質及び性能に関する試験データを整理していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 (5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 (一社)公共建築協会の「建築材料・設備機材等品質評価事業」において評価書が発行されている材料 床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、セラミックタイル、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材、防水剤、アルミニウム製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、樹脂製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、燻煙用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた ・ ・
3 技能士	適用工事種別 ／ 職種 ／ 技能検定の作業の職種 仮設工事 ／ とび ／ ・とび作業 鉄筋工事 ／ 鉄筋施工 ／ ・鉄筋組立て作業 コンクリート工事 ／ 型枠施工 ／ ・型枠工事作業 コンクリート圧送施工 ／ ・コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事 ／ 鉄工 ／ ・構造物鉄工作業 コンクリートブロック・ALCパネル及び押出成形セメント板工事 ／ ブロック建築 ／ ・コンクリートブロック工事作業 エーエルシーパネル施工 ／ ・エーエルシーパネル工事作業 防水工事 ／ 防水施工 ／ ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防止工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業 石工事 ／ 石材施工 ／ ・石張り作業 タイル工事 ／ タイル張り ／ ・タイル張り作業 木工事 ／ 建築大工 ／ ・大工工事作業 屋根及びとい工事 ／ 建築板金 ／ ・内外装板金作業 スレート施工 ／ ・スレート工事作業 金属工事 ／ 内装仕上げ施工 ／ ・鋼製下地工事作業 建築板金 ／ ・内外装板金作業 左官工事 ／ 左官 ／ ・左官作業 建具工事 ／ サッシ施工 ／ ・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ／ ・ガラス工事作業 自動ドア施工 ／ ・自動ドア施工作業 カーテンウォール工事 ／ カーテンウォール施工 ／ ・金属製カーテンウォール工事作業 サッシ施工 ／ ・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ／ ・ガラス工事作業 塗装工事 ／ 塗装 ／ ・建築塗装作業 内装工事 ／ 内装仕上げ施工 ／ ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 表装 ／ ・壁装作業 排水工事 ／ 配管 ／ ・建築配管作業 舗装工事 ／ 路面標示施工 ／ ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業 植栽工事 ／ 造園 ／ ・造園工事作業

章 一般共通事項

項目	特記事項
④ 材料及び施工の検査に伴う試験	受注者は材料の受入れ検査及び施工に伴う検査を自らの責任において行うこと。 また、各種試験の立会い公共試験所へのテストピースの搬入は受注者が行うものとする。 なお、試験費用は受注者の負担とする。
⑤ 騒音、振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に基づき指定された建設機械を使用する。 また「建設機械に関する技術指針」に定められた排出ガス対策型建設機械を使用する。 なお、油圧ブレーカー（ジャイアントブレーカー、アイヨン）は、原則として使用しないこととする。
⑥ 工事の記録等及び工事写真	報告に用いる書式等 ・現場説明書による ⊙標準仕様書1，2，4(4)により整理する工事写真については次による 『営繕工事写真撮影要領（平成28年版）による工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 平成30年版』 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 現況写真 工事場所及びその付近の必要と思われる箇所について着工前に写真を撮り提出する。 ※１部 ・（ ）部 提出 工事写真 各工程に沿って、日付内容その他必要事項を記入の上、順次アルバムに整理を行う。 ※１部 ・（ ）部 提出 工事出来高写真 中間支払いを請求する場合は、出来高が明確になるように写真を撮り提出する。 ※１部 ・（ ）部 提出
⑦ 設備工事との取り合い	施工図等の作成にあたり、別契約を含む施工上密接に関連する工事との納まり等について、当該工事関係者と調整の上、十分検討する。 施工範囲 1．図示した鉄筋コンクリート部分の貫通口、開口部、スリーブ等の補強 2．補強を要する壁・天井の仕上げ材・下地材の切込み及び下地材の補強 3．駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ 4．自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図・実施工程表（試運転期間を明記）
⑧ 設計ＧＬ	※図示 ⊙設計ＧＬ＝ＯＰ＋１７，３５０
⑨ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。 下記のものを監督員に提出する。 ただし、原板は撮影業者の保管とする。 分類・規格 ／ 撮影箇所数 ／ 提出部数 ／ 原板の大きさ（㎜） ⊙ｶﾗｰ ※ｷｬﾋﾞﾈ版（他に外観正面１ｶｯﾄのみ３枚（ｶﾗｰｷｬﾋﾞﾈ版）提出） ／ 外部（20）内部（30） ／ ※2 ・6 ／ ※100×125以上 ・ｶﾗｰ四切木製ﾊﾟﾈﾙ ／ 外部（ ）内部（ ） ／ ※2 ・ ／ ・ ・ｶﾗｰ半切木製ﾊﾟﾈﾙ ／ 外部（ ）内部（ ） ／ ※2 ・ ／ ・ ・ｶﾗｰｽﾗｲﾄﾞ ／ 外部（ ）内部（ ） ／ ※1 ・ ／ ※24×36以上 ・ ／ 外部（ ）内部（ ） ／ ・ ／ ・ 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者 ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする。
⑩ 完成写真	
⑪ デジタル工事写真の小黒板情報電子化	受注者はデジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「小黒板情報電子化承諾願い」を提出し、監督員 の承諾を受けること。 デジタル工事写真の小黒板情報電子化で使用可能な対象機器及び小黒板情報の電子的記入方法・取扱い・写真の納品等については「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」（堺市建築部ＨＰ掲載）によるものとする。
⑫ 支給物品	※無し ・有り
⑬ 保証	保証年限の起算日は契約竣工日の翌日とする。 保証書は２部提出すること。
⑭ 建築工事の適正な施工の確保について	1 建設業法第26条及び工事請負契約書第10条に定める受注者が工事現場に配置しなければならない現場代理人、監理技術者、監理技術者補佐、主任技術者及び専門技術者については、適切な資格、技術力等を有する者を配置すること。 （注）工事現場に常駐して専らその業務に従事する者で受注者と直接かつ、恒常的な雇用関係にある者に限る。 2 建設業法第22条及び工事請負契約書第 6条に違反する一括下請負い不必要な重層下請負その他不適切な形態による下請契約により、工事を施工するなど契約当事者相互間の信頼関係を損なうような行為を行わないこと。 3 特定建設業の許可を受けないで、下請代金の総額が建設業法施行令第２条で定める金額（8,000 万円）以上となる下請契約を締結することはできないのでとくに留意すること。
⑮ シンナー等の保管について	1 シンナー等有機溶剤の保管場所については、他の材料と区別し施錠する等保管管理を厳重にし盗難の防止に努めること。 なお、保管するときは換気に注意し、一定量以上保管する場合は消防法等関係法令に従うこと。 2 使用後は現場に放置することなく、速やかに持ち帰る等の処置を講ずること。

章 一般共通事項

項目	特記事項
⑯ シック・ハウス症候群対策について	ホルムアルデヒド・ＶＯＣ（揮発性有機溶剤）等の放散量を最小限にするために、建材・施工材（接着剤・塗料）の工種管理に留意し、作業中は室内の通風・換気を充分に行い、ホルムアルデヒド・ＶＯＣ（揮発性有機溶剤）の空気中の濃度低減を図ること。工事竣工後も建物の引継ぎをするまでの間は室内の通風・換気を充分に行うこと。
⑰ 化学物質の濃度測定	※適用する 測定時期 ・現場説明書による ※ 竣工時 ・ 測定対象化学物質 ⊙ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン ・パラジクロロベンゼン（学校施設に限る） 測定方法 ⊙パッシブ型採取機器による ・ 測定対象室及び測定箇所 ⊙仕上げ表による ・監督員の指示による 採取条件 平成13年国土交通省告示第1347号（以下「評価方法基準」という。）第5の6-3の(3)のイに定める採取条件に準ずる。 測定者 監督員が承諾する専門業者 室の床面積（A） ／ A≦50 ／ 50＜A≦200 ／ 200＜A≦500 ／ 500＜A 測定箇所数 ／ 1 ／ 2 ／ 3 ／ 4
⑱ 発生材の処理等	⊙発注者に引渡しを要するもの ⊙ 現場説明書による ・ ⊙特別管理産業廃棄物の種類及び処理方法 ⊙ 現場説明書による ・ ⊙工事現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの ⊙ 現場説明書による ・ 1 発生材の抑制、再利用、再資源化及び再生資源の積極的活用を行うこと。コンクリート、コンクリート及び鉄からなる建設資材、木材、アスファルト・コンクリートは「建設リサイクル法」による。その他のものは中間処理又は最終処理施設に搬入処理を行う。 2 受注者は該当工事に伴って生じた全ての建設廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。 3 受注者は収集運搬及び処分を委託する場合は、受注者と収集運搬業者との間の契約及び受注者と処分業者との間の２者間契約を締結し事前に許可証の写しを監督職員に提出すること。なお、収集運搬及び処分は受注者の責任においてマニフェストシステムにより適正に行うこと。 詳細等は、大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・豊中市・高槻市・枚方市・八尾市発行「産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律」のしおりによる。 4 処分方法の特記にないものについては、構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従う。
⑲ 工事実績データの作成・登録について	受注者は、受注時及び竣工時において請負代金額が５００万円以上の工事については、コリンズ（工事実績情報システム）に基づき、実績登録用データを作成し、監督員の確認を受けた後に、一般財団法人日本建設情報総合センター（ＪＡＣＩＣ）に登録しなければならない。登録後は速やかに「登録内容確認書」を監督員に提出しなければならない。 また、設計変更時（工期変更、請負代金額変更）及び技術者の変更時には、同様の変更登録をしなければならない。 いずれの場合も、登録事由発生時から１０日以内（土・日曜日、祝日及び年末年始の休日を除く。）に登録しなければならない。
⑳ 施工体制台帳 施工体系図	受注者は、当該建設工事を施工するために下請契約を締結したときは、建設業法及び公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（以下「公共工事入札契約適正化法」という。）の定めに従い、施工体制台帳を作成し、工事現場ごとに備え置くとともに、その写しを速やかに監督員に提出しなければならない。また、一度作成した施工体制台帳の記載事項等に変更があったときは、その都度、速やかに変更された施工体制台帳の写しを監督員に提出しなければならない。 また、上記下請契約を締結した場合、受注者は、各下請負人の工事現場における施工の分担関係を明示した施工体系図を作成し、これを当該工事現場の工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 施工体系図の記載事項等に変更があったときは、その都度、速やかに施工体系図を変更しなければならない。 施工体制台帳及び施工体系図の作成等に関しては、建設業法及び公共工事入札契約適正化法の定めに従うものとするほか、施工体系図では、建設工事だけでなく建設工事以外を請け負う下請負人（産業廃棄物及び建設発生土等処理業者（収集運搬業者、中間処理業者、処分業者）並びに警備業者等）においても、記載すべき下請負人の対象として扱うこととし、建設発生土等の搬出先についても、施工体系図の中で明示するものとする。 また、受注者は、すべての下請負人が記載された施工体系図の写しを監督員に提出しなければならない。また、施工体系図の記載事項等に変更があったときは、その都度、変更された施工体系図の写しを速やかに監督員に提出しなければならない。 受注者は、監督員等から公共工事の施工の技術上の管理をつかさどる者の設置の状況その他の工事現場の施工体制が施工体制台帳の記載に合致しているかどうかの点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。

	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
	図面名称	特記仕様書（Ｎｏ1）		
	Ａ３縮尺	―	Ａ１縮尺	―
2025．5．改訂	堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／００１

特記仕様書 ［営繕編］

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	(21) 火災保険について	この工事の施工にあたり、部分払いを請求する際には、工事出来高部分に対し火災保険を次のとおり付すこと。　また、保険契約締結後、速やかにその証券を堺市長に提出すること。 保険期間　工期プラス１ヶ月 被保険者　堺市長 保険金額　部分払いするときの出来高金額以上 なお、建設工事保険、組立保険等の総合保険に加入している場合は、保険証の写しと火災保険金の受取りを堺市長とした保険会社発行の証明書を提出すること。
	(22) その他の保険について	この工事の施工にあたり、目的に応じて次の保険を付すること。 第三者に与えた損害の補償 (・)請負業者賠償責任保険 従業員が受けた身体障害の補償 (・)法定外労災補償（建設共済）又は労働災害総合保険
	(23) 公共事業労務費調査	本工事が公共事業労務費調査の対象工事に選定された場合は、本調査の趣旨を理解し協力すること。なお、下請業者についても本調査の趣旨を周知し協力するよう指導すること。
	(24) 共通費実態調査	本工事が共通費実態調査の対象工事に選定された場合は、本調査の趣旨を理解し協力すること。共通費実態調査は受注者による営繕工事の実施状況を費用の面から把握し、発注者における工事費積算に適切に反映させることを目的とする。　なお、調査票は監督員から配布するものとする。
	(25) 建退共について	1　受注者は、建設業退職金共済制度（以下「建退共」）の主旨を理解し、建退共に該当する場合は同制度に加入し、「建退共掛金収納書扇」を工事請負契約締結後原則１ケ月以内（電子申請方式による場合にあっては、工事請負契約締結後４０日以内）に、発注者に提出しなければならない。 また、建退共制度対象労働者を雇用した場合については、建設キャリアアップシステムの活用等により技能労働者等の就業状況を適切に把握し、これに基づく履行状況について、工事完成後、速やかに掛金充当実績総括表を作成し、監督員に提示しなければならない。 2　受注者は、工事用掲示板付近の見易いところに「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。
	(26) 工事の下請け及び原材料の購入について	工事の一部を下請けさせる場合及び原材料を購入する際は地元産業の振興と市内業者の育成のためできる限り市内業者へ発注する。
	(27) 公共工事特定調達品目の採用について	堺市グリーン調達基本方針に基づき【最新版】堺市グリーン調達方針の定めによりグリーン調達やリサイクル製品の調達の一層の推進を図る必要があります。「堺市グリーン調達方針における公共工事特定調達品目」を本工事において市監督員と協議のうえ、極力採用するものとする。 （採用した品目は実績数を記載し、報告書を作成のうえ提出のこと）
	(28) 中間技術検査	中間技術検査は公共工事の品質向上を図るため、工事完成時に不可視となる部分や施工上重要な段階等において、施工中に検査を行うもので、設計図書及びその他の関係書類に基づいて行われる。 中間技術検査　(・)対象　※対象外　・元請けの適用区分による 実施回数　※（ ２ ）回　・協議による 実施段階　(※)協議による　(・)（ 躯体上棟　　）
	(29) 石綿（アスベスト）に関する調査・報告・掲示	「堺市建設工事低入札価格調査実施要領」による調査基準価格を下回る価格をもって契約した場合、技術検査を１回追加で受けなければならない。 （対象外の場合は検査回数が１回となる。） 工事開始前に、石綿含有建築材料の使用の有無を調査し、事前調査結果の書面の作成、発注者への報告を行うこと。　なお、事前調査結果を掲示するとともに有の場合は作業内容も掲示すること。 事前調査結果の書面の作成に当たっては、次に挙げる資格を有する者によるものとする。 ①特定建築物石綿含有建材調査者または一般建築物石綿含有建材調査者（平成３０年　厚生労働省、国土交通省、環境省告示第１号） ②（一社）日本アスベスト調査診断協会に登録された者
	(30) 現場代理人及び技術者の専任の期間について	監理技術者又は主任技術者の工事現場への専任期間及び専任を要しない期間については、国土交通省において定められている最新の監理技術者制度運用マニュアルによるものとする。（専任以外の監理技術者又は主任技術者及び現場代理人についても同様とする。）また、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がなく、かつ、本市との連絡体制が確保されると認めた場合には、監理技術者又は主任技術者及び現場代理人の工事現場における常駐を要しないものとする。
	(31) 施工条件　その他	1　工事に伴い障害物等が発見されたときは速やかに監督員に報告し協議の上施工する。 2　工事現場周辺の道路は、常時清掃すること。 3　作業時間は、原則として午前　8時から午後　6時までとする。 （夏期は午後　　時迄） 作業については日曜、祝日、土曜日、年末年始並びに盆休みは作業を中止する。（但し、やむを得ない場合は市監督員と協議を行う。） 4　地元協議がある場合はその内容を理解し尊重する。 5　工事に伴う官公署その他の関係機関への諸手続等の費用は、発注者の負担とする。 6　本工事において、住戸3戸(1･2･3DK)について先行仕上(モデルルーム)を行う事(対象住戸は協議による)

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	(32) 法定福利費について	受注者は契約後１４日以内に法定福利費を明示した「請負代金内訳書」を監督員に提出し、確認を受けること。
	(33) 墜落による危険の防止	受注者は墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、労働安全衛生規則に基づき、墜落制止用器具を使用させる等墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じること。 2022年1月2日以降使用する墜落制止用器具は、原則としてフルハーネス型とし、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」（平成30年6月22日付け基発0622第2号）の規定に従い、器具を適切に使用すること。 高さが２m以上の箇所で、作業床を設けることが困難なところにおいて、墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて作業（※ロープ高所作業に係る業務を除く。）を行う者は、労働安全衛生規則及び安全衛生特別教育規程に基づく特別教育を受講すること。
	(34) 施工中の安全確保について	同一場所で別契約の関連工事が行われる場合で、監督員により労働安全衛生法に基づく統括安全衛生管理義務者の指名を受けたときは、同法に基づく必要な措置を講ずること。 【また、その他の関連工事請負業者は統括安全衛生管理義務者と協力とし、工事全体の災害及び事故の防止に努めること。】
	(35) 概成工期について	本工事は概成工期設定工事である。 令和９年11月15日までに、完成前の総合試運転調整を行うにあたり、関連工事を含めた各工事が支障のない状態まで完了させること。
	(36) 週休２日制対象工事について	本工事は、工事現場の週休２日の確保に取り組むことを指定した「発注者指定方式」の週休２日制対象工事である。 週休2日の実施については、入札公告日時点の「堺市建築都市局建築部週休２日制工事実施要領」に基づくこととし、４週８休以上の達成にあたって、１週２休（原則として土曜・日曜）を確保できるよう努めること。 本工事の適用区分　(・)月単位　※通期
	(37) 遠隔臨場について	本工事は、「受注者希望型」の遠隔臨場対象工事である。 遠隔臨場の実施を希望する場合は、「堺市建設現場等の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき実施すること。
	(38) 情報共有システムについて	本工事は、情報共有システム利用対象工事である。(・)発注者指定型　※受注者希望型 「堺市建設工事情報共有システム活用試行要領」（営繕系工事編）に基づき実施すること。
2 仮設工事	(1) 仮設計画	領」に基づき実施すること。
	(2) 仮設物の設置場所	※敷地内　・敷地外
	(3) 監督員事務所	種別　・１号（１０m2程度）・２号（２０m2程度）・３号（３５m2程度） ・４号（６５m2程度）・５号（１００m2程度）　(・)図示による 備品 (※)机、いす、書棚、黒板、掛時計、寒暖計 (※)ゴム長ぐつ、雨がっぱ、保護帽、懐中電灯、フルハーネス、消火器 (・)衣類ロッカー (・)冷暖房機器 (・)湯沸器 (・)掃除具　(・)パソコン　(・)電話 (・)ＦＡＸ (・)プリンター
	(4) 工事用電力 水道引込	本工事に必要な工事用電力及び水等の費用は受注者の負担とする。 (・)工事用電力　構内既存の施設　※ 利用できない ・ 利用できる（※ 有償　・ 無償） (・)工事用水　構内既存の施設　※ 利用できない ・ 利用できる（※ 有償　・ 無償） 仮設給水の引き込みは、工事着手前に本市上下水道局と事前協議を行い、仮設給水申請書を提出のこと（加入金は受注者の負担とする）
	(5) 仮囲い	(・)別紙１特記仕様書　種別　・Ａ　・Ｂ　・Ｃ (・)Ｄ (・)ガードフェンス H=1,800（頭つなぎ共）　・ シート張り (・)有　・無
	(6) 安全対策	(・)メッシュシート（防炎Ⅰ類）(・)防音シート　・防音パネル　・朝顔 安全巡視員 (・)常駐　７人　・スポット延　50 人） 大阪府公安委員会告示（平成27年11月2日第123号）を遵守すること。
	(7) 工事用表示板	(・)別紙１特記仕様書による。　・
	(8) 仮設足場	足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省　基発第0424001号　平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。
3 土工事	(1) 埋戻し及び盛土	埋戻し及び盛土の材料及び工法 (※)標準仕様書　表3.2.1による　・ ・Ａ種　施工箇所（　　） ※ Ｂ種　施工箇所（　　） ・Ｃ種　施工箇所（　　）　土質（　　） 受渡場所（　　） ・Ｄ種　施工箇所（　　） (・)その他搬入土（ 改良土 ）

章	項目	特記事項
3 土工事	(2) 建設発生土の処理	・構外搬出適切処理　（自由処分） ※ 構外指定場所搬出適切処理 ・構内指示の場所に敷き均し ・構内指示の場所にたい積
	(3) 山留め	※ 図示
	(4) 水替え	(・)水中ポンプ３インチ程度
4 地業工事	(1) 試験及び報告書	(・)杭基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） (・)図示による　・ 試験杭の位置 (・)図示による　・ ・直接基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む） ・図示による　・ 試験堀り（根切り底の状態の確認等） ・行わない　・行う 位置等　・図示による　・ ・杭の載荷試験 載荷試験の方法 ・鉛直載荷試験 ・地盤工学会基準JGS（　　）による ・ ・水平載荷試験 ・地盤工学会基準JGS 1831 による ・ ・ 試験の位置、本数、載荷荷重 ・図示による　・ 報告書の記載事項 ・ ・地盤の載荷試験 載荷試験の方法 平板載荷試験　・地盤工学会基準JGS 1521 による ・ 試験の位置、載荷荷重 ・図示による　・ 報告書の記載事項 ・
	(2) 既製コンクリート杭	種類 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（ＰＨＣ杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（ＰＲＣ杭） ・外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭） ＳＣ杭の鋼管材料　・ＳＫＫ400　・ＳＫＫ490　・ (・)Ｈａｙｐｅｒ-ＭＥＧＡ工法、Ｆ.Ｔ.Ｐｉｌｅ構法既製コンクリート杭 (・)構造図による 杭の種類、性能及び曲げ強度区分（種別）、寸法、継手の箇所数等 (・)構造図による

		種類 種別	コンクリート強度 (N/mm2)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状
・開放形　・半開放形　・閉そく形　(・)構造図による

・セメントミルク工法
掘削深さ
・図示による　・
杭の支持層への根入れ長さ
・図示による　・
杭の水平方向の位置ずれ精度
・杭径の1／4かつ100mm以下　・
根固め液及び杭周固定液の管理試験
※ 標準仕様書4.3.4(6)(コ)による
・

章	項目	特記事項
4 地業工事	3 鋼杭地業	・特定埋込杭工法 ・平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα＝250を採用できる工法 ・平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α＝（　）、β＝（　）、γ＝（　） 工法 ・プレボーリング拡大根固め工法 ・中堀り拡大根固め工法 ・ 杭の継手の工法 ・アーク溶接継手 溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・ ・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） (・)構造図による 杭頭の処理 ・処理しない (・)処理する 処理方法（切断に伴う補強方法含む） (・)図示による　・ 杭の種類　（材料）、寸法、継手等

		種類	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

特定埋込杭工法
・平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα＝250を採用できる工法
・平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α＝（　）、β＝（　）、γ＝（　）
工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭の継手の工法
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・
・機械式継手
杭頭の処理
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による　・

4 砂利地業	材料 (・)再生クラッシャラン　・切込砂利　(※)切込砕石 砂利の厚さ ※ 60mm　(・)図示による 範囲 ・基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下、土間コンクリート下 (・)図示による　・

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ２）		
Ａ３縮尺	―	Ａ１縮尺	―
2025. 5. 改訂	堺市　建築都市局　建築部	図面番号	Ａ／００２

特記仕様書 [営繕編]

④ 地業工事

5 砂地業
材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂の厚さ
※ 60mm　・
範囲
・図示による　・

⑥ 捨コンクリート地業
捨コンクリートの厚さ
※ 50mm　⊙図示による　・
範囲
・基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下
⊙図示による　・
コンクリートの種類
※普通コンクリート　・
呼び強度
※ 18　・
スランプ
※ 15cm

⑦ 床下防湿層
材料
※ ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm以上　・
重ね枚数　（ 3 ）枚
重ね合わせ及び基礎梁際ののみ込み幅　※２５０mm
砂利地業の上に直接施工する場合は、目つぶし砂を敷き均すこと。
適用範囲　※ 図示　・

⑧ 地盤改良
※ 図示
⊙六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）
六価クロム溶出試験対象工種名及び試験数
工法：配合設計段階　2 検体、　施工後段階　　検体
タンクリーチング試験対象工種名及び検体数
工法：　検体
・ラップルコンクリート　呼び強度　※ １８　　所要スランプ　※ 8
セメントの種類　※ 高炉Ｂ種　・普通

⑤ 鉄筋工事

① 鉄　筋
鉄筋の種類

種　類	径	継　手
⊙ＳＤ２９５	Ｄ１６　以下	※重ね継手　・スパイラル　・工場溶接
⊙ＳＤ３４５	Ｄ１９　以上	・重ね継手　㊟ガス圧接　⊙溶接継手
⊙ＳＤ３９０	Ｄ２９　以上	㊟ガス圧接　⊙溶接継手　・機械継手（　級）

※ 規格証明書　　・ メタルタッグの提出
加工
・ 鉄筋の折曲げ角度が90° 未満の折り曲げ内法直径（D）
（　）以上

② 溶接金網
鉄筋の形状等

種　類	種類の記号	綱目の形状、寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
⊙ 溶接金網		150×150　径 6φ	
・ 鉄筋格子			

③ 材料試験
※標仕 5．2．3による

④ 加工場所
・ 現場加工　⊙工場加工

⑤ 鉄筋の継手及び定着
鉄筋の継手の方法等
継手位置
⊙図示による（構造図）・

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
※ 標準仕様書 表5.3.2による
⊙図示による　・

耐力壁の重ね継手の長さ
※ 標準仕様書 5.3.4(3)(ァ)による
⊙図示による　・
・ 先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同箇所に設ける場合
・ 図示による　・

鉄筋の定着長さ
※ 標準仕様書 5.3.4による
⊙図示による　・

標準仕様書 5.3.4(5)(ィ)の場合の折り曲げ定着の方法
※ 標準仕様書 図5.3.3により 5.3.4(5)(ィ)を全て満足する
・

機械式定着工法
・ 適用する
適用箇所　・ 図示による　・
種類　・ 図示による　・

⑥ 溶接フープ
検査　※ 引張試験（数量　各階サイズ毎に３本抜き取り）現場溶接に限る

⑦ 壁、床版の開口部補強
図示（図示なき場合標準配筋図による）

⑧ 土間コンクリート補強
図示（図示なき場合Ｄ１０－２５０@タテヨコ）

⑨ 梁貫通孔補強
図示（図示なき場合標準配筋図による）

⑩ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）
最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）
※ 標準仕様書 表5.3.6による
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・ あり　使用箇所（　）
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
軽量コンクリートの適用の有無
・ あり　使用箇所（　）
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ（　）mm
・
耐久性上不利な箇所の有無（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・ あり　使用箇所（　）
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ（　）mm
・
⊙図示による　・

⑪ 各部配筋
各部配筋
⊙図示による　・

⑫ ガス圧接及び完了後の試験
抜取試験
※ 超音波探傷試験　　標準仕様書5.4.10(ィ)(a)による
・ 引張試験
試験方法等　※ 標準仕様書5.4.10(ィ)(b)による

13 機械式継手
適用箇所
・ 図示による　・
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能
・ Ａ級　・
機械式継手の種類
・ 図示による　・
鉄筋相互のあき
・ 評定等の内容による　・ 図示による
施工完了後の継手部の試験
・ 外観試験（全ての圧接部）
試験項目、試験方法
・ 図示による　・
・ 超音波測定試験
試験対象
・ 図示による　・
不合格となった場合の措置
・ 図示による　・

⑭ 溶接継手
適用箇所
・ 図示による　⊙評価取得基準による
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能
⊙Ａ級　・
溶接継手の工法
・ 図示による　⊙評価取得工法
鉄筋相互のあき
⊙図示による　・
施工完了後の継手部の試験
⊙外観試験（全ての圧接部）
試験項目、試験方法
・ 図示による　⊙評価取得基準による
⊙超音波測定試験
試験対象
・ 図示による　⊙評価取得基準による
不合格となった場合の措置
・ 図示による　⊙評価取得基準による

⑮ 継手の検査
溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 （鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準）
JIS Z 3064 （鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準）

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの類別等
コンクリートの種別
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

⊙普通コンクリート

設計基準強度(N/mm2)	スランプ(cm)	適用箇所
⊙ 24　⊙ 27	※ 15　・	基礎、基礎梁、土間スラブ
⊙ 24　⊙ 27	※ 18　・	柱、梁、スラブ、壁
・	・	
・	・	

・ 軽量コンクリート
（特記事項は、「14.軽量コンクリート」に示す）

・ 建築基準法第37条第二号の規定に基づき認定を受けたコンクリート
適用箇所（　・　）
呼び強度
※ Ｆc＋Ｓ
Ｓ：構造体強度補正値　　※標準仕様書 表6.3.2による
セメント及び気温による補正　（3N/mm2、6N/mm2）

② レディーミクストコンクリート
種別　・Ⅰ　類（㊟マーク取得工場）　※Ⅰ　類　　・Ⅱ　類

③ セメント
種類
㊟普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
適用箇所（※下記以外全て　・　）
⊙高炉セメントＢ種
適用箇所（⊙図示による　）
・ フライアッシュセメントＢ種
適用箇所（　・　）
・ 普通エコセメント
適用箇所（　・　）
・ 再生骨材Ｈを使用する
適用箇所（　・　）
湿潤養生の期間（　）日以上
型枠の最小存置期間（　）

④ 骨材
フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材
・ 使用する　適用箇所（　・　）
アルカリシリカ反応性による区分
※ Ａ　・ Ｂ
別紙 Ⅰ 特記仕様書による

⑤ 混和材料
・ 混和剤
混和剤の種類
※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による　・

⊙混和材
混和材の種類
※ 標準仕様書 6.3.1(4)(b)による　・
標準仕様書 6.3.2(ィ)(f)の①～③以外の混和材料
・ 混和剤（　）　・ 混和材（　）
使用方法　・
使用量　・

⑥ 普通コンクリートの調合
荷卸し地点におけるスランプ　　基礎、基礎梁　＊１５cm　・１８cm
柱、梁、床版、壁　＊１８cm
単位水量の上限　※１８５kg/m3
荷卸し地点における所要空気量　　※４．５％

⑦ コンクリート圧送
労働安全衛生法に定める特別教育を終了し、職業能力開発促進法に規定する技能検定試験に合格した省
・ １級コンクリート圧送施工技能士
※ ２級コンクリート圧送施工技能士

⑧ 圧送用モルタル
１：２モルタル（セメント量７００kg／m3）
圧送用モルタルは型枠内に打ち込まないこと

⑨ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地
打継の位置
梁及びスラブ
※ スパンの中央又は端から1/4の付近
・ 図示による　・
柱及び壁
※ スラブ、壁梁又は基礎の上端
・ 図示による　・
目地の寸法（ひび割れ誘発目地を含む）
※ 標準仕様書 9.7.3(1)(ァ)による　・
・ 図示による　・
ひび割れ誘発目地の位置、形状
⊙図示による　・

⑩ コンクリートの仕上り
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種　別	適　用　箇　所
・ Ａ種	・ 図示
⊙ Ｂ種	⊙ 図示
・ Ｃ種	・ 図示

Ａ種及びＢ種の場合、型枠締付材に用いるコーンは樹脂コーンとする。
（基礎の類、地下室のない場合の基礎梁を除く）

コンクリートの仕上げの平たんさ

種　別	適　用　箇　所
・ ａ種	・ 図示
⊙ ｂ種	⊙ 図示
・ ｃ種	・ 図示

⑪ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）
打増し厚さ
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
㊟ 20mm　⊙ 10mm（上裏）
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
※ 10mm　・ 20mm　・
打増し範囲　⊙図示による　・

⑫ 型枠
せき板の材料
※標準仕様書 6.8.2(1)(ァ)、(ィ)による　・
⊙合板（厚さ　※ 12mm　・　）
・
⊙断熱材を兼用した型枠
使用箇所　⊙図示による　・
・ ＭＣＲ工法用シート
使用箇所　・ 図示による　・
スリーブの材種・規格等　※ 図示による　・

13 合板以外の型枠
・ 床型枠用鋼製　デッキプレート　施工箇所　床版
・ メタルラス　施工箇所

14 軽量コンクリート
適用箇所　・ 図示による　・
呼び強度　※ 18　・ 21
種類　・１種　・２種
気乾単位容積重量　・（　）t/m3
所要空気量　※ 5.0%　・
スランプ　※ 21cm　・

⑮ 無筋コンクリート
コンクリートの種類
※ 普通コンクリート　・
設計基準強度
※ 18 (N/mm2)　・
スランプ　※ 15cm　・
適用箇所
※ 標準仕様書 6.14.1(4)による
・ 図示による　・
・ 標準仕様書 表 6.2.1以外のコンクリートを用いる場合
（　）

⑯ コンクリートの単位水量測定
⊙行う（延べ面積 1,500m²以上の新築・増築を対象に行う）　・ 行わない
実施要領
（１）単位水量の測定は、150m3に１回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
（２）単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(ィ)(c)による。
（３）単位水量の管理目標値は次のとおりとして、施工する。
１）測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m3の範囲にある場合はそのまま施工する。
２）測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m3の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後設計値±１５kg/m３以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
３）設計値±20kg/m3を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m3以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m3以内で安定するまで、運搬車の3台毎に１回、単位水量の測定を行う。
４）３）の不合格生コンを確実にも持ち帰ったことを確認する。
（４）単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
（５）単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
	図面名称	特記仕様書（Ｎｏ３）		
2025. 5.改訂	Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
	堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／００３

特記仕様書 [営繕編]

7 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場
鉄骨製作工場の加工能力
⊙ 国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄鋼製作工場又は同等以上の能力のある工場
（ J ）グレード以上
・ 監督員の承認する工場

② 施工管理技術者
※適用する

③ 鋼材
種類等

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
SS400	落下防止庭	⊙ JISによる ・
		・ JISによる ・
		・ JISによる ・
		・ JISによる ・
		・ JISによる ・

形状及び寸法
⊙ 図示による ・
板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験
・ 行う（適用箇所： ） ・ 行わない

④ 材料試験
※規格証明書提出

⑤ 高力ボルト
高力ボルトの種類
・ トルシア形高力ボルト
・ ＪＩＳ形高力ボルト
⊙ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
・ 建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト
ボルトの寸法
ねじの呼び
⊙ 図示による ・
ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示による ・
摩擦面の性能及び処理
・ すべり試験
試験の方法等
・ 図示による ・
・ 溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法
※ 標準仕様書7.12.5.(1)(ア)、(イ)による
・
ＪＩＳ形高力ボルトの締付け（本締め）
ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの５倍を超える場合の回転量
・ 図示による ・

⑥ 普通ボルト
ボルト及びナットの材料
※ 標準仕様書 表7.2.3による ・
ボルトの形状及び寸法
ねじの呼び
⊙ 図示による ・
ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示による ・
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ ねじの呼び径 ＋1.0mm ・

⑦ アンカーボルト
種類
⊙ 構造用アンカーボルト
・ ABR400 ・ ABR490 ⊙ SS400
・ 建方用アンカーボルト
・ SS400 ・ ・
アンカーボルト及びナットのねじの交差域クラス及び仕上げの程度
※ 標準仕様書 表7.2.3による ・
ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示による ・

⑧ 溶接材料
溶接材料
※ 標準仕様書 7.2.5.(1)、(2)による
・ 図示による ・

9 ターンバックル
種類
建築用ターンバックルボルト
※ 羽子板ボルト ・
建築用ターンバックル胴
※ 割枠式 ・
ねじの呼び等
・ 図示による ・

10 床構造用デッキプレート
材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法	備考
・ デッキプレート単独の構法			
・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・			

7 鉄骨工事

11 スタッド
種類等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・ 16		
・ 19		
・ 22		

12 柱底均しモルタル
・ 無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料、調合等
※ 標準仕様書 7.2.9(2)による ・
・ 標準仕様書 7.2.9(1)によるモルタル

13 鉄骨の仮組
※ 行う
仮組を行う範囲
・ 図示による ・

14 溶接技能者の技量付加試験
試験の要領
・ 図示による ・

15 溶接接合
開先の形状
・ 図示による ・
鋼製エンドタブを切断する箇所及び切断範囲
・ 図示による ・
切断面の仕上げ
※ 標準仕様書 7.6.7(1)(ｶ)(b)②による ・
スカラップの形状
・ 図示による ・
低応力高サイクル疲労を受ける部位
・ 図示による ・

16 溶接部の試験
溶接部の外観試験
平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験
試験の方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル（鉄骨製作管理技術者登録機構）」3.5.2受入検査による
・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②
・
JASS 6 付則 6 の付表3「溶接」に関する試験
試験の方法
・ JASS 6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。
・
・ 完全溶込み部の超音波探傷試験
工場溶接の場合
AOQL(%) ※ 4.0 ・ 2.5（防災庁舎等）

筋	・ 全て ・	
検査水準	※ 第6水準	

17 錆止め塗装
標準仕様書 表18.3.1 ＪＩＳ Ｋ ５６７４（１種）
ただし、ＤＰ塗りの場合は標準仕様書 表18.3.1 ＪＩＳ Ｋ ５５５１（Ａ種）とする。
※ 工場塗装1回と同種の錆止め塗料を現場塗装1回
塗装の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・ 図示による ・
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
※ 標準仕様書 7.8.2(1)による
・ 図示による ・
下記以外の塗料の種別は、18章による
・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止めの塗料の種別
※ Ａ種 ・ Ｂ種
・ 耐火被覆が接着する面の塗料の種別
・

18 耐火被覆
種類、材料、工法等

種 類	材料・工法	耐火性能(時間)	適用箇所(部位・部分)
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール		
	・ 半乾式吹付けロックウール		
	・ 湿式ロックウール		
	・		
	・		
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール		
	・		
・ ラス張りモルタル塗り	—		
・ 耐火塗料			

7 鉄骨工事

⑲ アンカーボルトの設置等
※鉄骨の主要部材に取付くＡＬＣパネル及び押出成形セメント板等の下地鋼材（ピースアングル及び定規アングル等）及びＡＬＣパネル及び押出成形セメント板等の取付け金物は必要な耐火性能を有する被覆を行うこと。

構造用アンカーボルトの形状及び寸法
⊙ 図示による ・
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
⊙ 図示による ・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別 ・ Ａ種 ・ Ｂ種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
厚さ ・ mm
種別 ※ Ａ種 ・

20 軽量形鋼構造
ボルト接合方法
・ 普通ボルト接合 ・

㉑ 溶融亜鉛めっき工法

亜鉛めっきの種別	材 料	適用部位
Ａ種	最低板厚６ ㎜以上の形鋼、鋼板	落下物防護庇
Ｂ種	最低板厚３．２㎜以上、６ ㎜未満の形鋼、鋼板	
Ｃ種	普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚１．６㎜以上、３．２㎜未満の形鋼、鋼板	落下物防護庇（ボルト）

素地ごしらえは、ＪＩＳＨ９１２４溶融亜鉛めっき作業標準による。

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造
材料

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・ 空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)				・ 無 ・ 有		
・				・ 無 ・ 有		
・				・ 無 ・ 有		

モルタルの調合（容積比）
ブロックの区分が A(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地巾が10mm程度の場合
※ 標準仕様書 表 8.2.1による
上記以外の場合 ・
各部の配筋 ・ 図示による ・

目地仕上げ ・ 押し目地仕上げ ・ 化粧目地仕上げ

まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲
・ 図示による ・

2 コンクリートブロック帳壁及び塀
材料

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※ 空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)				・ 無 ・ 有	※表 8.3.1	
・	・ 120 ・ 150			・ 無 ・ 有	※ 塀	
・				・ 無 ・ 有		

モルタルの調合（容積比）
ブロックの区分が A(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地巾が10mm程度の場合
※ 標準仕様書 表 8.2.1による
上記以外 ・
鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
・ 図示による ・
各部の配筋 ・ 図示による ・

3 ＡＬＣパネル
材料、構法

パネルの区分 用途	形状	表面加工	単位荷重(N/m2)	厚さ(mm)	幅及び長さ(mm)	耐火性能(時間)	構法の種別
・ 外壁用	・ 一般 ・ ｺｰﾅｰ	・ 平 ・ 意匠		・ 100 ・	・ 図示	・ 有(1)	・ Ａ種 ・ Ｂ種
・ 間仕切壁用	・ 一般 ・ ｺｰﾅｰ	・ 平 ・ 意匠		・ 100 ・	・ 図示	・ 有(1) ・ 無	・ Ｃ種 ・ Ｄ種 ・ Ｅ種
・ 屋根版用	—	—		・ 100 ・	・ 図示	・ 有(0.5)	・ Ｆ種
・ 床版用	—	—		・ 100 ・	・ 図示	・ 有( ) ・ 無	

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材
・ 図示による ・
・ 外壁パネル構法、屋根及び床パネル構法
耐風圧性能（ ）
耐震性能 （ ）
・ 間仕切壁パネル構法
耐震性能 （ ）
パネル幅の最小限度 (mm)
・ 300未満（・ 図示 ・ ）

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）
パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅(mm)
※ 10～20 ・ 図示による
伸縮目地への耐火目地材の充填
・ 適用する ・ 適用しない

材料、工法

パネルの種類	形 状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別	備考
・ 外壁パネル	・ Ｆ(フラットパネル)	・50 ・60・	600	・ Ａ種 ・ Ｂ種	
	・ Ｄ(デザインパネル)	・50 ・60			
	・ Ｔ(タイルベースパネル)	60			
・ 間仕切壁パネル	・ Ｆ(フラットパネル)	・50 ・60・	600	・ Ｂ種 ・ Ｃ種	
	・ Ｄ(デザインパネル)	50 ・60			
	・ Ｔ(タイルベースパネル)	60			

・外壁パネル工法
耐風圧性能（ ）
耐震性能 （ ）
・ 間仕切壁パネル工法
耐震性能 （ ）
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※ パネルの製造所の仕様による ・
パネル幅の最小限度 (mm)
・ 300未満（・ 図示 ・ ）
パネル相互の目地幅 (mm)
長辺の目地幅 ・ 10以上 ・ 図示による
短辺の目地幅 ・ 15以上 ・ 図示による

出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅 (mm)
※ 15程度（シーリング材を充填） ・ 図示による
溝堀及び開口部の措置
やむを得ず設備開口等を設ける場合のパネルの開口寸法等の限度
・ 図示による ・

9 防水工事

1 アスファルト防水
屋根保護防水
防水層の種別

種 別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・ Ａ－１			※ ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm以上又はフラットヤーンクロス 70g/m2程度 ・
・ Ａ－２			
・ Ａ－３			
・ Ｂ－１			
・ Ｂ－２			
・ Ａ Ｉ－１		（厚さ） ・ mm	※ フラットヤーンクロス 70g/m2程度 ・
・ Ａ Ｉ－２			
・ Ａ Ｉ－３			
・ Ｂ Ｉ－１			
・ Ｂ Ｉ－２			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.2.3及び 表9.2.4による
・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ・ Ｒ種 ・ Ｎ種
厚さ ・ mm以上
部分貼着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.2.5及び 表9.2.6による
・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ・ Ｒ種 ・ Ｎ種
厚さ ・ mm以上
押え金物の材質及び形状寸法
※ アルミニウム製Ｌ-30×15×2.0mm程度
・
立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置
・ 適用する ・ 適用しない

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（No４）		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
2025. 5.改訂	堺市 建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／００４

特記仕様書 ［営繕編］

9 防水工事

① アスファルト防水

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・D-1	図示による		・カラー	※製造所の仕様による ・
・D-2				
・DI-1	図示による	（種類）・図示（厚さ）・50mm	・カラー	※製造所の仕様による ・
・DI-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.8による
・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ・ R種 ・ N種
厚さ ・ mm以上
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.2.7及び 表9.2.8による
・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料構成による区分 ・ R種 ・ N種
厚さ ・ mm以上
押え金物の材質及び形状寸法
※ アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度
・
絶縁工法及び断熱絶縁工法の脱気装置の種類及び装置数量
種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様（ステンレス製）
・
設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様
・ 個 （ ㎡あたり１個） ・図示による

屋内防水
防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・設ける（・図示 ・ ）
・設けない
E－１の工程 3 を行う場合の部位
※ 貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位
・
施工
防水層の下地のモルタル塗り
・ 適用する（施工範囲 ・図示 ・ ）
・ 適用しない
防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ
※ 標準仕様書 表6.2.4のＢ種 ・
絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
・図示による ・
保護層等の施工
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上 ・
床タイル張り ※ 水下 60mm以上 ・
立上り部の保護工法
・ 乾式保護材
乾式保護材の材料 ・
・ コンクリート押え
・ モルタル押え（屋内等）
・ れんが押え（・図示 ・ ）
れんがの材料
・ JIS R 1250（普通れんが及び化粧れんが）
・
伸縮目地
※ 標準仕様書 9.2.5 (6) による

屋上排水溝の設置
・図示による ・
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・AS-T1				・	※ 製造所の仕様による ・
・AS-T2					
・AS-T3					
・AS-T4					
・AS-J1					
・ASI-T1		（種類）・（厚さ）・mm	・設ける ・設けない		
・ASI-J1					

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.3.1から表9.3.3による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.3.2から表9.3.3による ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.3.2から表9.3.3による ・
押え金物の材質及び形状寸法
※ アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度 ・

② 改質アスファルトシート防水

③ 合成高分子系ルーフィングシート防水

屋根露出防水絶縁工法、屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様（ステンレス製）
・
種類数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定
・ 個 （ ㎡あたり１個）

防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・S-F1				※ 非歩行用 ・軽歩行用	・	※製造所の仕様による ・
・S-F2				・非歩行用 ・軽歩行用		
・S-M1				※ 非歩行用 ・軽歩行用	・	※製造所の仕様による ・
・S-M2				・非歩行用 ・軽歩行用		
・SI-F1			（種類）・（厚さ）・mm		・	※製造所の仕様による ・
・SI-F2						
・SI-M1			（種類）・（厚さ）・mm		・	※製造所の仕様による ・
・SI-M2		・発泡ポリエチレンシート ・				

屋内防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚（mm）	保護層 平場のモルタル塗り 工法	立上り部の保護 モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・	・床塗り ・下地モルタル塗り	※ 7mm以下 ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書 表9.4.1から表9.4.3による ・
固定金具の材質及び形状
材質 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
・
厚さ（mm） ※ 0.4以上 ・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様（ステンレス製）
・
種類数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様
・ 個 （ ㎡あたり１個）
断熱工法（SI－M1，SI－M2の場合）の防湿用フィルム
・ 設置する ・ 設置しない
接着工法の場合のＰＣコンクリート部材防水下地の目地処理
・ 行う（・図示 ・ ） ・ 行わない
ＰＣコンクリート下地の入隅部の増張り
（S－F1，SI－F1の場合）
・ 行う（・図示 ・ ） ・ 行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・ 図示による ・

④ 塗膜防水

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層
・X-1		・	※製造所の仕様による ・	
・X-2	・図示による	・製造所の仕様による ・カラー	※製造所の仕様による ・	
・Y-1	・地下外壁防水 ・図示による			
・Y-2	・屋内防水 ・			・ ・

ウレタンゴム系塗膜防水 X－1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ 主材料の製造所の仕様（ステンレス製）
・
種類数量 ※ 主材料の製造所の仕様
・ 個 （ ㎡あたり１個）

⑤ ケイ酸質系塗布防水

防水層の下地（壁及び天井）
※コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書 表6.2.4のＢ種）
・

⑥ その他の防水

下地処理
コンクリートの打継箇所の処理
※ 標準仕様書 9.6.4(2)(ア)による ・
標準仕様書 9.6.4(2)(イ)及び(ウ)以下の下地処理
・ 図示による ・

種別	施工箇所	備考

⑦ 保証書

受注者、施工者、製造者の３者連名にて年限（１０年）保証すること。
保証書は２部提出すること。

⑧ 漏水試験

陸屋根については、水上より５０mmの高さにて２４時間水張試験を行う。

⑨ 施 工

各防水組合加盟店の施工とし、工事完了後施工プレート取付けのこと。
尚、完了年月日は契約竣工年月日とする。
材料
種類及び施工箇所
※下表以外は、標準仕様書 表9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは１１章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは１７章による

記号	施工箇所	目地寸法	備考
SR-1	図示による	図示による	HM、防カビ
PU-2			
PS-2			
MS-2			

⑩ シーリング

ＳＲ－１ ＨＭ シリコーンシーリング材（１成分形）高モジュラス形
ＳＲ－１ ＬＭ シリコーンシーリング材（１成分形）低モジュラス形
ＳＲ－２ シリコーンシーリング材（２成分形）
ＰＳ－２ ポリサルファイドシーリング材（２成分形）
ＭＳ－２ 変成シリコーンシーリング材（２成分形）
ＰＵ－２ ポリウレタンシーリング材（２成分形）
・保証書 受注者、施工者、製造者の３者連名にて年限（３年）保証すること。 保証書は２部提出すること。

仕上げを行わない施工箇所（ ）
※簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 ・

⑪ 接着性試験

10 石工事

1 施 工

2 石材等

石材の割付け ・図示による ・

天然石

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	バフ仕上げの有無	備考
	・	・図示による			

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ（mm）	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法（mm）	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面小口仕上げ ・有 ・無 ・両面小口仕上げ ・有 ・無			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ（mm）	寸法による区分（mm）	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・300×300 ・400×400		

取り付用モルタル、既調合の目地用モルタル、浸透性吸水防止剤、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料
※ 専門工事業者の指定する製品 ・

3 床及び階段の石張り

石材の厚さ（mm） 床（ ）、階段（ ）
床石張り
浸透性吸水防止剤 ・適用する ・適用しない
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
階段張り
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅（mm）
・図示による ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない

伸縮調整目地
位置 ※ 床面積 30m2程度ごと、廊長い通路の場合 6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示による
シーリング材の目地寸法
※ 幅・深さとも （10×10）
・図示による

11 タイル工事

① 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※標準仕様書 表11.1.1による
・ 外壁 ※ 図示
・ 内壁 ※ 入隅部、建具廻り、設備機器廻り
・ 床 ※ 図示

② 見本焼、試験施工

見本焼き ・行う ・行わない
試験張り ・行う ・行わない

③ セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法（mm）	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
図示による	図示による	図示による	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

・ ＬＩＸＩＬ ビアッツア 又は 同等品以上
既調合モルタル
・既調合モルタルの製造所の仕様による
・
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法
・ 目荒し工法（標準仕様書 15.3.4(4)による）
・ ＭＣＲ工法（標準仕様書 6.8による）
・
壁タイル張りの工法
内外装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り
内外装タイル以外のユニットタイル
・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

4 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法（mm）	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
	定形		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆ ・
外装タイルにおける目地詰め
・ 行う ・ 行わない
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地
※ ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地
※ 変成シリコーン系シーリング材 ・
その他の目地
※ 変成シリコーン系シーリング材 ・

下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理方法
・ 目荒し工法（標準仕様書 15.3.4(4)による）
・ ＭＣＲ工法（標準仕様書 6.8による）
・

⑤ 検 査

※ 外観検査 ※ 打診検査 ・ 引張接着試験

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ５）		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
2025. 5.改訂	堺市 建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／００５

特記仕様書 ［営繕編］

章 12 木工事

① 施工一般

ホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・

② 製材

⊙「製材の日本農林規格」による下地用製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
⊙ 図示	⊙ 図示	※ 2級 ・	※ A種 ・ B種 ・	
		※ 2級 ・	※ A種 ・ B種 ・	

⊙「製材の日本農林規格」による造作用製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面	⊙ 図示	※ 上小節 ・	※ A種 ・ B種 ・	
見え掛り面以外	⊙ 図示	※ 小節以上 ・	※ A種 ・ B種 ・	
			※ A種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理
		※ 1等 ・	※ 10%以下 ・ A種 ・ B種	
		※ 1等	※ 10%以下	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	含水率	防虫処理
		(　　) 造作材の場合 (※A種・B種)	※A種 ・ B種 ・	・ 行う ・ 行わない
		(　　) 造作材の場合 (※A種・B種)	※A種 ・ B種 ・	・ 行う ・ 行わない

③ 造作用集成材

⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面	見付け材面の品質
⊙ 図示			⊙ 図示	⊙ 米栂	※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率(%)
				※ 15以下 ・
				※ 15以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率(%)
	化粧薄板： 芯材：				※ 15以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※ 15以下 ・

4 造作用単板積層材

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	防虫処理
			・有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（等級：・1等・2等・3等）	・行う ・行わない

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	含水率 (%)	防虫処理
		・有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（　　）	※ 14以下 ・	・行う ・行わない

・CLT（直交集成材）

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)

章 12 木工事

⑤ 合板等

⊙「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
⊙ 住戸床		※ 5.5 ⊙ 4.0 ◯ 9.0 ⊙ 12.0	ラワン	※ 1類 ・ 2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上 ・	⊙ 行う ・ 行わない
		・			・	

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	等級	単板の樹種名	板面の品質	保存処理	防虫処理	強度等級
		※ 12 ・	・ 1級 ※ 2級以上		・ ※C-D以上		・行う ・行わない	
		※ 12 ・	・ 1級 ※ 2級以上		・		・行う ・行わない	

接着の程度　常時湿潤状態となる場所での使用
※特類 ・
その他の場合
※1類以上 ・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
				・ 1類 ・ 特類	・ 行う ・ 行わない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理
			・ 1類 ・ 2類	・ 行う ・ 行わない

⊙「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	品目	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
物入		⊙ 4.0	・ 1類 ⊙ 2類		・オーバーレイ ⊙ プリント ・塗装	・行う ⊙ 行わない

⊙ パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
床下地		※ 13タイプ ⊙ 18タイプ	※ MR1(M)又は MR2(P)タイプ ・		※ 15 ⊙ 20

・構造用パネル

施工箇所	品名	寸法 (mm)

・MDF

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着性による区分	難燃性による区分

⑥ 防虫処理

ラワン合板のみ適用（防虫処理証明書の提出）

⑦ 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち
・ 適用する（※ 隠し釘打ち ・ ） ⊙ 適用しない
踏金物の形状、寸法及び材質
※ 標準仕様書 12.2.2(2)(ア)による ・
接着剤（木れんが用接着を含む）のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・

⑧ 防腐・防蟻処理

・ 薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部材：（ ）
⊙ 工場における薬剤の加圧注入処理による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
合板	・K2 ⊙K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による ・	・
	・	・

章 12 木工事

項目	特記事項
9 間仕切軸組に用いる木材	・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 適用部材：（ ） ・合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理 適用部材：（ ）
10 床組に用いる木材	※（製材を用いる場合）杉又は松 ・
⑪ 窓、出入口、その他に用いる木材	※（製材を用いる場合） 吊元枠、水掛りの下枠及び敷居は、ひのき、その他は、松又は杉 ・
⑫ 縁甲板及び上がりかまちに用いる木材	※（製材を用いる場合）ひのき ⊙ 上り框：タモ集成材
13 壁及び天井に用いる木材	※（製材を用いる場合）杉又は松 ・
⑭ その他	木材は、工事現場搬入時に監督員の検査を行う。 尚、含水率は工事現場搬入時の数値とする。

章 13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

材料

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等	厚さ (mm)	屋根葺形式	葺板の寸法・厚さ	下地	留め付け方法
	※JIS G 3322の屋根用コイル ・			・ 立て平葺 ・ 心木なし瓦棒葺 ・ 横葺 ・			

下葺材料 ・ アスファルトルーフィング940
・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
・ 一般タイプ
・ 複層基材タイプ
・ 粘着層付タイプ

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・ 図示による ・
横葺の場合のけらば納め
・ つかみ込み納め ・ けらば包み納め
雪止め ・ 設置する（・ 図示 ・ ）

2 折板葺

材料

施工箇所	形式	山高・山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板
	・			(　)種	※鋼板製 ・		・ 有り ・ 無し

材質の種類（ ）
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等（ ）
断熱材 ・ 有り
（種別： 厚さ(mm)： 防火性能 時間）
・ 無し

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・ 図示による ・
耐雪性能に応じた工法
・ 適用する（・ 図示 ・ ） ・ 適用しない
折板のけらば納め ※ けらば包みによる方法 ・

3 保証書

請負者、施工者の２者連名にて施工保証５年の保証書２部、
及び製造者による材料保証１０年の保証書２部を提出すること。

④ とい

材料
といの材種 ・ 配管用鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（カラー）
⊙ 硬質塩化ビニル雨とい（ごみ置場）
・ 表面処理鋼板
・ 表面及び裏面の塗膜の種類（ ）
・ 耐酸被覆鋼板 ・
とい受金物
⊙ 排水管バンド
※ 溶融亜鉛めっき（ 3×32） ・ ステンレスSUS304（ 2×32）
⊙ ワンタッチキャップ付アンカー
※ 溶融亜鉛めっき（ 4.5×32） ・ ステンレスSUS304（ 3×32）
⊙ その他の受け金物（ごみ置場）
とい受金物の材種、形状、取付け間隔
※ 標準仕様書 表13.5.2による ・
足金物の材種、形状、取付け間隔
※ 標準仕様書 表13.5.2による ・

章 13 屋根及びとい工事

⑤ ルーフドレイン

防露材のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
工法
・ 鋼管製といの場合の防露巻きの工法
※標準仕様書 表13.5.4による ・

JCW 301によるルーフドレインの種類及び呼び

種類		呼び	施工箇所
⊙ ろく屋根用たて形Ⅰ類	ねじ込み式	⊙	屋根
⊙ ろく屋根用横形Ⅰ類	ねじ込み式	⊙ 75	EVホール屋根・庇
・ バルコニー中継用	⊙ ねじ込み式	⊙ 75	共用廊下
⊙ 共用廊下 横形	・ 差し込み式		
⊙ バルコニー用 たて形	⊙ ねじ込み式	・	バルコニー
	・ 差し込み式	⊙ 75	
・		・	

章 14 金属工事

① ステンレス表面仕上げ

種別	施工箇所
・ No 2B	・ 手すり
※ HL	・ サッシ ⊙ 手すり ・ 三方枠
・ 鏡面	・ サッシ ・ 三方枠 ・ 鏡

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

表面処理

種別	施工箇所（成型板、笠木、建具以外）	色合い等
・ AB-1種		
・ AB-2種		
・ AC-1種		
・ AC-2種		
・ BA-1種		
・ BA-2種		
⊙ BB-1種	アルミサッシ、水切り	無着色
・ BB-2種		
・ BC-1種		
・ BC-2種		
・ C種		

・（C種のみ）常温乾燥形の塗装の場合（ ）

陽極酸化被膜の着色方法
※二次電解着色 ・ 三次電解着色

③ 鉄鋼の亜鉛めっき

鉄鋼の亜鉛めっき

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	⊙ A種	落下防止庇
	・ B種	
	⊙ C種	落下防止庇（ボルト類）
電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

④ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類
屋外 ※ 25形 ・ 19形
屋内 ※ 19形 ・ 25形
・屋外の場合の形式及び寸法
野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離
・ 図示による ・
野縁の間隔
・ 図示による ・
工法
・ つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ・ 図示による ・
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ・ 図示による ・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所、補強方法 ・ 図示による ・
・ 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
補強箇所、補強方法 ・ 図示による ・
※ 溶接した箇所は、標準仕様書 14.4.4 (9) による

⑤ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナ等の種類
※ 標準仕様書 表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・ 図示による
スタッドの高さが 5.0mを超える場合
・ 図示による
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※ 標準仕様書 14.5.4(5)による ・ 図示による
溶接した箇所
※ 標準仕様書 14.4.4 (9) による

2025. 5. 改訂

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	特記仕様書（No 6）
A3縮尺	—
A1縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部	図面番号 A／006

特記仕様書 ［営繕編］

14 金属工事

6 金属成形板張り

種別　・図示による　・
表面処理　・図示による　・
取付け用下地
※標準仕様書 14.4による　・図示による
伸縮調整継手
・設ける（施工箇所　・図示　・
・設けない

7 アルミニウム製笠木

部材の種類
・250形　・300形　・350形
表面処理　※ＢＢ－１種又はＢＢ－２種　・
色合等　・標準色（　）
・特注色（　）
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による　・

⑧ 金属既製品及び製作金物

⊙ドアガード：ごみ置場　⊙別図詳細図による
⊙ガードパイプ：ごみ置場　⊙別図詳細図による

15 左官工事

1 ラス系下地

下地の種類
・通気構法　（・二層下地　・単層下地）
・直張り工法
（・ラスモルタル下地　・ラスシートモルタル下地）
・図示による（外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気構法を行う場合）
材料
ラス材及び補強用平ラス
材料記号（※Ｋ　・　）
種類及び単位面積当たりの質量
・二層下地通気構法
・波形ラス（Ｗ700）　・こぶラス（Ｋ800）
・力骨付きラス（ＢＰ700）
・単層下地通気構法
・リブラスＣ（ＲＣ800）にターボン紙などの裏打ち材と一体化したラス
・
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分
※ＬＳ４（耐力壁の場合）　・
ステープルの形状及び寸法
リブラス
※Ｌ925ＴＳ以上（リブラスＣ（ＲＣ800）の場合）
・
波形ラス
※Ｌ1019ＪＳ以上（波形ラス（Ｗ700）の場合）
・
施工
二層下地通気構法
換気口部の措置　※講ずる　・
直張り工法（ラスシートモルタル下地の場合）
建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工
・図示による　・

2 せっこうボード、その他のボード下地

材料
せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ
せっこうボード　種類（　）　厚さ（　mm）
せっこうラスボード　種類（　）　厚さ（　mm）
木質系セメント板　種類（　）　厚さ（　mm）

3 こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定　・なし　・あり

4 木ずり下地

材料
木ずり用小幅板の材種　※杉（心去り材）　・

5 モルタル塗り

モルタル　・現場調合材料　・既調合材料
既製目地材
・設ける　施工箇所（　）
形状　（・図示　・　）
・設けない
床の目地
・設ける　目地割　※ 2m2程度（最大目地間隔 3m程度）
・
種類　※押し目地　・
・設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・行う　・行わない

15 左官工事

6 床コンクリートの直均し仕上げ

下記以外は、標準仕様書 表6.2.5及び標準仕様書15.4.2による

施工箇所	平たんさ(mm)	備考
フリーアクセスフロア（パネル構法）範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
フリーアクセスフロア（溝構法）範囲	3mにつき 7以下	

⑦ 仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆
材料
⊙薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Ｓi	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
・可とう形外装薄塗材Ｓi	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
⊙外装薄塗材Ｅ	⊙砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・さざ波状 ・着色骨材砂壁状	⊙吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り		⊙適用する ・適用しない
・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	・吹付け ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状	・吹付け		・適用する ・適用しない
・内装薄塗材Ｃ ・内装薄塗材Ｌ	・凹凸状 ・平たん状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装薄塗材Ｓi ・内装薄塗材Ｅ	・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装薄塗材Ｗ	・京壁状じゅらく ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない

・厚付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装厚塗材Ｃ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・吹付け ・こて塗り		・適用する ・適用しない
・外装厚塗材Ｓi ・外装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
・内装厚塗材Ｃ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・吹付け ・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材Ｌ	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材Ｇ	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材Ｓi ・内装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない

外装厚塗材Ｃにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合
（　）
外装厚塗材Ｓi、外装厚塗材Ｅにおける上塗材の適用
・適用する　・適用しない

15 左官工事

⊙複層仕上塗材
・軽量骨材仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	耐候性	防火材料
・複層塗材ＣＥ ・複層塗材ＲＥ ・複層塗材Ｓi ⊙複層塗材Ｅ	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状 ⊙小粒	⊙吹付け ・ローラー塗り	・耐候形3種 ⊙耐候形2種	・適用する ⊙適用しない
・可とう形複層塗材ＣＥ	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・耐候形3種 ・	・適用する ・適用しない
・防水形複層塗材ＣＥ ・防水形複層塗材ＲＥ ・防水形複層塗材Ｅ	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・耐候形3種 ・	・適用する ・適用しない
・吹付用軽量塗材	・砂壁状	・吹付け		・適用する ・適用しない
・こて塗用軽量塗材	・平たん状	・こて塗り		・適用する ・適用しない

複層仕上塗材の上塗料
樹脂　※アクリル系　・シリカ系　・ポリウレタン系
・アクリルシリコン系　・ふっ素系　⊙ウレタン
外観　※つやあり　・つやなし　・メタリック
溶媒　・溶剤系　・弱溶剤系　※水系

⑧ 下地調整塗材

仕上塗材用下地調整材　※ＪＩＳ Ａ 6916規格品
製造所　※仕上塗材の製造所
工法　※こて　・ローラー　・吹付け
施工箇所　外部打放し面（床版を除く）で薄付け仕上塗材、複層仕上塗材及び塗装等の下地
内部打放し面で薄付け仕上塗材、複層仕上塗材、塗装及びクロス等の下地
合成樹脂系シーラー　※仕上げ塗材全面

⑨ 仕上塗材の保証

剥がれ、退色について受注者、施工者、製造者の3者連名による保証書を提出する
薄付け仕上塗材　アクリル　3年
複層仕上塗材　アクリルシリコン系　10年
水系ウレタン　8年
水系アクリル　5年

10 ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆　・
仕上げ吹付け厚さ（mm）
・図示による　・

11 セルフレベリング材塗

種類　・石こう系　※セメント系
品質　※ＪＩＳＳ15Ｍ-103による
厚さ　※10mm　・

⑫ 目地

※モルタルこて押さえ面については、3m以内に縦横設ける
（面台の長いものについては中央に1本設ける）

⑬ 樹脂混入モルタル

⊙エレホン化成工業（株）　ポリマーＢ
⊙日本化成（株）　ＮＳハイフエックスＨＦ-1000
⊙太平洋マテリアル（株）　ＣＸ-Ｂ　太平洋エフェクト同等品以上

16 建具工事

① 防火戸

⊙建具表による　・
・防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等
・建具表による　・

② 見本の製作等

建具見本の製作
・行う（建具符号：　）　⊙行わない
特殊な建具の仮組
・行う（建具符号：　）　⊙行わない

③ 防犯建物部品

⊙適用する（適用箇所　⊙建具表による　・　）
・適用しない

16 建具工事

④ アルミニウム製建具

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級
⊙建具表による　・図示による
外部に面する建具の種別
※ 標準仕様書 表 16.2.1、表16.2.2による
・Ａ種　・Ｂ種　⊙Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級（・　）
・断熱ドア、断熱サッシとする場合
遮音性の等級（・　）
表面処理
外部に面する建具　（表 14.2.1）
種別　※ＢＢ-1種　・ＢＢ-2種
着色　※標準色　・特注色
屋内の建具　（表 14.2.1）
種別　※ＢＣ-1種　・ＢＣ-2種
着色　※標準色　・特注色
ステンレス鋼板の種類
※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
ステンレス製くつずりの仕上げ
※ HL　・
結露水の処理方法　・図示による　・
水切り板、ぜん板　⊙図示による　・
木下地の内付け建具
・適用する（建具の製造所の仕様）　⊙適用しない

⑤ 網戸等

防虫網の材料

種類	材質	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS316）製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・

6 樹脂製建具

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級
・建具表による　・
外部に面する建具の種別
※ 標準仕様書 表 16.3.1、表16.3.2による
・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級
・T-1種　・T-2種
・断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級
※ 外部に面する建具は標準仕様書 表 16.3.3による
（等級・　）
・
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
ガラス　※複層ガラス　・　・　・
ステンレス製くつずりの仕上げ
※ HL　・
表面色　・標準色　・特注色
水切り板、ぜん板
・図示による　・
木下地の内付け建具
・適用する（建具の製造所の仕様）　・適用しない

⑦ 鋼製建具

性能値等（建具符号は建具表による）
簡易気密型ドアセットの気密性等級、水密性等級
※ 標準仕様書 表 16.4.1、による　⊙建具表による
外部に面する建具の耐風圧性（表16.2.1による）
・Ｓ-4　・Ｓ-5　⊙Ｓ-6
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級（・　）
・断熱ドア、断熱サッシとする場合
断熱性の等級（・　）
ステンレス鋼板の種類
※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
点検口の類のくつずりの材料　・
鋼板類の厚さ（mm）
※ 標準仕様書 表 16.4.2による　・
ステンレス製くつずりの仕上げ
※ HL　・
標準型鋼製建具の有効内法寸法（標準仕様書 表 16.4.5による）
・適用する（建具符号、形式及び寸法は建具表による）
⊙有効内法寸法：８００mm以上

2025. 5.改訂

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ７）		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／００７

特記仕様書 ［営繕編］

16 建具工事

8 鋼製軽量建具

性能値等（建具符号は建具表による）
簡易気密型ドアセットの気密性等級
・A-3　・建具表による
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級（・　）
・断熱ドア、断熱サッシとする場合
断熱性の等級（・　）
鋼板の種類
・亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
召合せ、縦小口包み板の材質　※鋼板　・
鋼板類の厚さ（mm）
※ 標準仕様書 表 16.5.1による　・図示による
ステンレス製くつずりの仕上げ
※ HL　・
標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法（標準仕様書 表 16.4.5による）
・適用する（建具符号、形式及び寸法は建具表による）

9 ステンレス製建具

性能値等（建具符号は建具表による）
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級
・建具表による　・
外部に面する建具の耐風圧性（標準仕様書 表 16.2.1による）
・S-4　・S-5　・S-6
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級（・　）
・断熱ドア、断熱サッシとする場合
断熱性の等級（・　）
ステンレス鋼板の種類
※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1　・
表面仕上げ　※ HL　・
ステンレス製くつずりの仕上げ
※ HL　・
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ　・角出し曲げ

⑩ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率
※ A種　・B種
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆　・
枠、くつずりの材料　⊙建具表による　・
⊙フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	表面材の品質等	備考
⊙普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質　※広葉樹1等　・ ・（　）	
・天然木化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（　）	
・特殊加工化粧合板 ⊙ポリエステル化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（　）	
・ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）	表裏面の状態による区分（　） 曲げ強さによる区分（　） 接着剤による区分（　） 難燃性による区分（　） ・（　）	

表面材の材料のホルムアルデヒド放散量
※ 標準仕様書　16.7.2(ｲ)(a)による　・
表面板の厚さ
㊎標準仕様書 表 16.7.6による　⊙4.0（ポリエステル化粧合板）
引戸の定規縁
・召し合せかまちを、いんろう付きとする
・かまち戸
かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
見込み寸法　※ 36mm　・建具表による　・
・ふすま
種別、工法　・Ⅰ型　・Ⅱ型
上張り　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上　・塗り縁　・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※ 19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面材の種類、品質等（　）
見込み寸法　※ 30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※ 30mm　・建具表による　・

⑪ 建具用金物

金物の種類・見え掛り部の材質等
※ 標準仕様書 表 16.8.1及び適用（備考欄の特記事項も含め）は、建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※ 標準仕様書 表 16.8.2による　・
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※ 標準仕様書 表 16.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※ 標準仕様書 表 16.8.4による　・
木製建具に使用する戸車及びレール
※ 標準仕様書 表 16.8.5による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
⊙建具表による　・

⑫ 鍵

マスターキー　・製作する（・新規　・既設合せ）　⊙製作しない
鍵の製作本数　※ 各室３本１組　・

13 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式　・図示による　・
自動ドア開閉装置の性能
駆動装置の性能
※ 引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書 表 16.9.1による
防鋲の適用　・適用する　・適用しない
・
車椅子使用者便房出入口の引き戸用駆動装置の性能
※ 標準仕様書 表 16.9.2による
防鋲の適用　・適用する　・適用しない
・
検出装置の性能
※引き戸用検出装置の性能は標準仕様書 表 16.9.3による
防鋲の適用　・適用する　・適用しない
・
引き戸用検出装置の種類は標準仕様書 表 16.9.4による
種類
・光線（反射）センサー　・熱線センサー　音波センサー
・光電センサー　・電波センサー
・タッチスイッチ
（・無線式タッチスイッチ　・光電式タッチスイッチ）
・押しボタンスイッチ
・車椅子使用者便房スイッチ
（・大形（開・閉）押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ）
凍結防止措置
・適用する　・適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置

性能
※ 標準仕様書 表 16.10.1による　・図示による

15 重量シャッター

シャッターの種類　・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッター　耐風圧強度（　）pa
開閉方式の種類（標準仕様書 表 16.11.1）
※ 電動式（手動併用）　・手動式
安全装置の設置箇所
急降下制御装置又は急降下停止装置の設置箇所
・図示による　・
障害物感知装置の設置箇所　・図示による　・
危害防止機構の設置箇所　・図示による　・
管理用シャッターのシャッターケース
・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3312(塗装亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量　※ Z12 又はF12　・
ステンレス鋼板の種類
※ SUS304,SUS430J1L 又は SUS443J1　・

16 軽量シャッター

開閉形式
※ 手動式　・電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）pa
電動式の場合の安全装置
障害物感知装置の設置箇所　・図示による　・
スラットの材質の種類
・JIS G 3312(塗装亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量　※ Z06 又はF06　・
・JIS G 3322(塗装溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量　※ AZ90　・
スラットの種類
・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア

区分、材料

セクション材料による区分	風圧力区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所　・図示（　）

⑱ ガラス

適用は以下によるほか、
ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による。
⊙フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類
⊙図示（※ 建具表　・　）による　・
⊙型板ガラスの厚さによる種類
⊙図示（※ 建具表　・　）による　・
⊙網入板ガラス及び線入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類
⊙図示（※ 建具表　・　）による　・
⊙合わせガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類
⊙図示（※ 建具表　・　）による　・
・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称（呼び厚を含む）、特性による種類
・図示（※ 建具表　・　）による　・
・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
・図示（※ 建具表　・　）による　・
⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮蔽性による区分、乾燥気体の種類
⊙図示（※ 建具表　・　）による　・
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射熱遮蔽性及び耐久性による区分
・図示（※ 建具表　・　）による　・
・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類
・図示（※ 建具表　・　）による　・

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・建築用ガスケット ※グレイジングチャンネル ・	※建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	・建築用ガスケット ・グレイジングビード	※建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・

ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ
標準仕様書 16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は、（社）日本建築学会 JASS 17 ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督員に提出し、承諾を受ける。

19 ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※ 内張り・外張り	飛散防止率　D1

品質　JIS A 5759による

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

性能

耐風圧性	耐震性 水平方向(kH)	耐震性 垂直方向(kV)	水密性	気密性	耐火性	耐温度 差性(℃)	遮音性	断熱性
	・1.0 ・	・0.5 ・			・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60		

性能の確認方法及び判定方法
※ 性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料

2 メタルカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による
金属系材料の種類
・アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
（アルミニウム材の場合）
規格等　標準仕様書 16.2.3による
種別　・
着色　・標準色　・特注色
シーリング材（ガラス取付けは除く）
下表以外は標準仕様書 表 9.7.1による

被着体の組合せ	シーリング材の種類 記号	主成分による区分

ガラスの取付け材料
・シーリング　（種類：　）
・構造ガスケット
（材質、形状等　・図示　・　）
断熱材
種類（　）
厚さ（mm）（　）
施工箇所　・図示による　・
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.2.1による　・
見え掛り部の仕上げ　・
ガラス溝の寸法、形状等
※ カーテンウォールの製造所の仕様　・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.2.2による　・図示による
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.2.2による　・図示による
ガラスの取付け方法
・

3 ＰＣカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による
材料
コンクリート
種類（　）
品質　設計基準強度（Fc）　※ 30N/mm2　・
スランプ　※ 12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合
2.1t/m3を超え 2.5t/m3以下
・
単位水量の最大値
※ 185kg/m3　・
鉄筋　種類記号　※ SD295　・
補強鉄線　径（mm）・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
絹目寸法　・
シーリング材
下表以外は標準仕様書 表 9.7.1による

被着体の組合せ	シーリング材の種類 記号	主成分による区分

ガラスの取付け材料
・構造ガスケット
（材質、形状等　・図示　・　）
耐火目地材　・
断熱材
種類（　）
厚さ（mm）（　）
施工箇所　・図示による　・
先付け材料
・先付け材料の仕上材
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・セラミックタイル
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ８）		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／００８

2025. 5.改訂

特記仕様書 [営繕編]

17 カーテンウォール工事

形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.3.1による
・ 上記以外
辺長（ mm）、対角線長の差（ mm）
版厚（ mm）
開口部内法寸法（ mm）、ねじれ、そり（ mm）
曲がり（ mm）、面の凸凹（ mm）
先付け金物の位置（ mm）
カーテンウォールの仕上げ ・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差（mm）
・ 図示による ・
製作
配筋 ・ 図示による ・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.2.2による ・ 図示による
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
※ 標準仕様書 表 17.3.2による ・ 図示による
ガラスの取付け方法
・

18 塗装工事

① 材料
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
⊙防火材料
・ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする（箇所： ）

② 素地ごしらえ
種別

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種 ・ B種
	透明塗りの場合	※ B種 ・ A種
鉄鋼面	耐候性塗料塗り（DP）の場合	※ B種 ・ A種 ・ C種
	上記以外の場所	※ C種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鋼面		⊙ A種 ・ B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※ B種 ・ A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※ B種 ・ A種
コンクリート面（DP）の場合		※ A種 ・ B種
押出成形セメント板面		※ B種 ・ A種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※ A種 ・ B種
	目地：継目処理工法以外	※ B種 ・ A種

③ 錆止め塗料塗り
種別

下地面等			錆止め塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面（JIS K 5674）	見え掛り部分	SOP	A種	※ A種 ・ B種
		DP	1回目 C種 2,3回目 D種	標準仕様書 表 18.3.4
		EP-G	※ B種 ・ A種	※ A種 ・ B種
	見え隠れ部分	SOP	A種	※ B種 ・ A種
		DP	1回目 C種 2,3回目 D種	標準仕様書 表 18.3.4
		EP-G	※ B種 ・ A種	※ B種 ・ A種
亜鉛めっき鋼面（JPMS 28）	鋼製建具等	SOP	※ A種 ・ B種	※ A種 ・ B種
		DP	B種	標準仕様書 表 18.3.6
		EP-G	C種	※ A種 ・ B種
	鋼製建具以外	SOP	※ B種 ・ A種	※ B種 ・ A種
		DP	B種	標準仕様書 表 18.3.6
		EP-G	C種	※ B種 ・ A種

④ 塗装
種別

塗装		種別
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	木部屋外	※ A種 ・ B種
	木部屋内	※ B種 ・ A種
	鉄鋼面	※ B種 ・ A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表 18.4.3
・ クリアラッカー塗り（CL）		※ B種 ・ A種
・ アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り（NAD）		※ B種 ・ A種
⊙耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面	標準仕様書 表 18.7.1
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表 18.7.2
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	※ A種 ・ B種 ⊙ C種

塗装		種別
⊙つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）	コンクリート面、モルタル面等	※ B種 ・ A種
	木部	標準仕様書 表 18.8.2
	屋内の鉄鋼面	※ B種 ・ A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表 18.8.4
・ 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）		※ B種 ・ A種
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り（UC） 着色無し		※ B種 ・ A種
・ ステイン塗り	・ ピグメントステイン塗り	—
	・ オイルステイン塗り（OS）	—
・ 木材保護塗料塗り（WP）	屋外	※ B種 ・ A種

塗料の種類等
クリヤラッカー塗り（CL）
種別がA種の場合における、標準仕様書 表 18.5.1の工程2
・ 塗料の種類（ ）
耐候性塗料塗り（DP）
上塗り塗料の等級 鉄鋼面 ※ 1級 ・ 2級 ・ 3級
亜鉛めっき鋼面 ※ 1級 ・ 2級 ・ 3級

ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）
標準仕様書 表 18.10.1の工程1の着色 ・ 適用する
オイルステイン塗り（OS）
・ 図示による ・

5 防塵用塗料塗り
材質 水性アクリル系樹脂塗料（※標準色 ・ ）
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主材2回塗りとし、総塗布量は 0.25kg/m2以上とする

6 塗装業者
・ 日本塗装工業会の会員 ※監督員の承諾する塗装業者

7 その他
・ 下、中、上塗りは色を変えること

19 内装工事

① 接着剤等
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合のゴム床タイル用接着剤の主成分による区分
・ 図示による ・
下地の施工
標準仕様書 表 19.2.3(1)(ア)から(ウ)以外の下地の工法
・ 図示による ・

② ビニル床シート
材料

種類	JISの記号	色柄	厚さ（mm）
※発泡層のないもの	※ FS ・ TS	※ 無地 ・ マーブル柄 ⊙ 図示による（抗菌、防滑、消臭）	※ 2.0 ⊙ 2.5
⊙発泡層のあるもの ・	※ KS ・ HS	※ 無地 ・ 柄物	⊙ 2.3

工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け（施工箇所： ）
工法 ⊙ メーカー仕様による（発泡層のあるもの）

3 ビニル床タイル
材料

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※KT（コンポジションビニル床タイル）	・ 無地	・ 300×300	※ 2.0	
・ TT（単層ビニル床タイル）	・	・ 450×450	・	
・ FT（複層ビニル床タイル）		・ 500×500		
・ FOA（置敷きビニル床タイル）				
・ FOB（薄型置敷きビニル床タイル）				

4 特殊機能床
材料

シート・タイルの種類	種類	性能	厚さ、寸法、形状（mm）
・ 帯電防止床シート		※ 1	厚さ：
・ 帯電防止床タイル		※ 1	寸法： 厚さ：
・ 視覚障害者用床タイル		—	形状：
・ 耐動荷重性床シート		—	厚さ：
・ 防滑性床シート		—	厚さ：
・ 防滑性床タイル		—	寸法： 厚さ：

※ 1 体積抵抗値（JIS K 6911による） $1.0\times10^{4}\Omega$ 以下又は漏えい抵抗値（JIS A 1454による）$1.0\times10^{10}\Omega$ 未満

⑤ ビニル幅木
材質の種類 ⊙軟質 ・ 硬質
高さ（mm） ※ 60 ・ 75 ・ 100
厚さ（mm） ※ 1.5以上 ・

19 内装工事

6 ゴム床タイル
種類 ・ 単層品 ・ 積層品
色柄 （ ）
厚さ（mm） ・ 3.0 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0 ・ 9.0
寸法（mm） （ ）

7 カーペット敷き
・ 織じゅうたん

織り方	パイル形状	帯電性	備考
・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット・ループ併用	・ 適用する ・ 適用しない	

色柄、パイル系の種類等
※ 色柄は模様のない無地のもの
種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種
・
下敷き材
※ JIS L 3204（反毛フェルト）の第2種2号 呼び厚さ 8mm
・
見切り、押え金物
・ 適用する（材質、形状等 ・ 図示 ・ ）
・ 適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ ヒートボンド工法 ・
・ タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長（mm）	工法	帯電性	備考
・ カットパイル	・	・ グリッパー工法 ・ 全面接着工法	・ 適用する ・ 適用しない	
・ ループパイル	・			
・ カット・ループ併用	・			
	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※ JIS L 3204（反毛フェルト）の第2種2号 呼び厚さ 8mm
・
見切り、押え金物
・ 適用する（材質、形状等 ・ 図形 ・ ）
・ 適用しない
・ タイルカーペット

種類	パイル形状	寸法（mm）	総厚さ（mm）	施工箇所	備考
※ 第一種 ・ 第二種	※ ループパイル	※500×500 ・	※ 6.5 ・		
・ 第一種 ・ 第二種	・ カットパイル	※500×500 ・	※ 6.5 ・		
・ 第一種 ・ 第二種	・ カット・ループ併用	※500×500 ・	※ 6.5 ・		

見切り、押え金物
・ 適用する（材質、形状等 ・ 図示 ・ ）
・ 適用しない
タイルカーペットの敷き方
平場 ※市松敷き ・ 模様流し ・
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き ・

8 合成樹脂塗床
合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ・
種類

種類	工法	仕上げの種類	施工箇所
・ 厚膜型塗床材（弾性ウレタン樹脂系塗床材）		※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ	
・ 厚膜型塗床材（エポキシ樹脂塗床材）	⊙ 薄膜流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ⊙ 防滑仕上げ	
・ 薄膜型塗床材（エポキシ樹脂塗床材）		※ 平滑仕上げ	
・			

9 フローリング張り
フローリングのホルムアルデヒド放散量
※ 標準仕様書 19.5.2(2)による ・
単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・ フローリングボード 1等	・ 釘留め工法（根太張り）	・	※ 標準仕様書 表 19.5.1による ・
	・ 釘留め工法（直張り）	・	※ 標準仕様書 表 19.5.3による ・
	・ 接着工法	・	※ 標準仕様書 表 19.5.5による ・
・ フローリングブロック1等	・ 接着工法	・	・

19 内装工事

複合フローリング

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・ 複合フローリング（天然木化粧）	・ 釘留め工法（根太張り）	・	標準仕様書 表 19.5.2による ・ A種 ・ B種 ・ C種
	・ 釘留め工法（直張り）	・	標準仕様書 表 19.5.4による ・ A種 ・ B種 ・ C種
	・ 接着工法	・	標準仕様書 表 19.5.6による ・ A種 ・ B種 ・ C種

接着工法の場合の不陸緩衝材
※ 合成樹脂発泡シート ・

10 畳敷き
種別
・ A種 ・ B種 ・ C種
・ D種
（畳床 ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-III ・ KT-K ・ KT-N）
・ 衝撃緩和型畳
畳表（JIS A 5902） ・ C1 ・ C2

11 ポリスチレンフォーム床下地材
畳下地 厚さ（mm） ※ 40 ・ 65 ・ 80
フローリング類 厚さ（mm） ※ 80 ・ 95

⑫ せっこうボード、その他ボード及び合板張り
材料

規格名称	種類	厚さ（mm）等
木質系セメント板	・ 硬質木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
	・ 中質木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
	・ 普通木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
	・ 硬質木片セメント板	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21
	・ 普通木片セメント板	・ 30 ・
繊維強化セメント板	⊙ けい酸カルシウム板	タイプ2（無石綿） ⊙ 6 ・ 8
火山性ガラス質複層板（VSボード）	・ 火山性ガラス質複層板	・ ・
繊維板	・ ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・
	・ ハードボード（素地）	・ 無研磨板（・ スタンダード ・ テンパード） ・ 研磨板（・ スタンダード ・ テンパード） ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
	・ ハードボード（化粧）	・ 内装用 ・ 外装用 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
	・ インシュレーションボード	A級 （・ 天井仕上 ・ 内装仕上 ・ ） ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18
パーティクルボード	・ 単板張りパーティクルボード	・ 無研磨板 ・ 研磨板 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・
	・ 化粧パーティクルボード	・ 単板オーバーレイ ・ プラスチックオーバーレイ ・ 塗装 ・ 10 ・ 12
吸音材料	・ ロックウール化粧吸音板（DR）	・ フラットタイプ （・ 9（不燃） ・ 12（不燃） ・ ） ・ 凹凸タイプ （・ 9（不燃） ・ 12（不燃） ・ ）
	・ ロックウール吸音ボード1号（RW-B）	・ 25 ・
	・ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ボード32K（GW-B）	・ 25（ガラスクロス包） ・
せっこうボード製品	⊙ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	・ 2.5（不燃）・15（不燃）⊙ 9.5（準不燃）
	・ 不燃積層 せっこうボード（GB-NC）	・ 化粧無（下地張り用） ・ 化粧有（トラバーチン模様） ・ 9.5（不燃） ・
	⊙ シージング せっこうボード（GB-S）	・ 12.5（不燃） ⊙ 9.5（準不燃）
	・ 強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	・ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）
	・ せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	・ 9.5 ・
	・ 化粧せっこうボード（木目）（GB-D）	模様（・ 柾目 ・ 板目） 専用下地材有り ・ 12.5（不燃） 幅 440mm程度
	・ 化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）（GB-D）	・ 9.5（準不燃）
	・ 化粧せっこう吸音ボード（GB-P）	・ 9.5（準不燃）

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	特記仕様書（No 9）
A3縮尺	—
A1縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部	図面番号 A／009

2025. 5.改訂

特記仕様書 [営繕編]

19 内装工事

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

ボード表面への化粧張仕上げの有無
・有り（種類： ） ・

天井のボードの重ね張りの張り付け方法（ロックウール吸音板を除く）
（ ）

せっこうボードの目地工法
種類
・図示（仕上げ表）による ⊙突き付け工法

せっこうボードのエッジの種類
・図示による ⊙ベベルエッジ

材料

種類	規格	防虫処理
⊙普通合板	表板の樹種名（⊙ラワン ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（⊙2.5 ）	⊙行う ・行わない
・天然木化粧合板	化粧板の樹種名（ ） 厚さ（mm）（ ）	・行う ・行わない
・特殊加工化粧合板 ⊙ポリエステル化粧合板	化粧加工の方法 ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 ・ 表面性能（ ） 厚さ（mm）（⊙4.0 ）	・行う ⊙行わない

合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書 19.7.2(2)(ｲ)のいずれかによる
・

合板の張付け ・A種 ⊙B種

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※ 適用する ・適用しない

13 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

種類

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考
	紙	繊維	無機質材	プラスチック（塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂等）	その他		
図示による	・	・	・	⊙	・	・不燃 ⊙準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・		

施工
モルタル面及びプラスター面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ
※ B種 ・A種
コンクリート面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ
※ B種 ・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ及び
けい酸カルシウム板面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ
※ B種 ・A種

14 断熱材

⊙断熱材打込み工法

種類		施工箇所	厚さ（mm）
断熱材名	種類（記号）		
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・	・
⊙押出法ポリスチレンフォーム断熱材 （スキン層なし）	3種ｂA	⊙図示による	⊙20 ⊙30 ⊙40
		・	・
⊙硬質ウレタンフォーム断熱材	2種1号	⊙図示による	⊙50
⊙フェノールフォーム断熱材	1種2号CⅡ	⊙図示による	⊙30

フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H
吹付け厚さ（mm） ・25 ・30 ・
施工箇所 ・図示による ・

⊙グラスウール 24kg/m3 施工箇所：最上階天井裏 厚さ 50mm
⊙次世代省エネ基準を満足すること（住宅性能表示 等級4）

15 浴室天井材

市販品

材質	表面仕上げ	性能	幅（mm）	備考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※ 200	廻り縁は
	・アルマイト処理品		・ 100	額付とし、
・硬質塩ビ製	※塗装品		※ 300	製造所の標準
	・木目調		・ 100	品とする

16 保証書

⊙ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイルのはがれについて
・アリーナ床材の置床式及び組床式の音鳴り等について
受注者、施工者、製造者の3者連名による保証書を提出すること
保証年限 5年

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

材料等

施工箇所	構造	寸法（mm）	高さ（mm）	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備考
	・支柱調整式 ・置敷式	・500×500 ・	・	・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	

帯電防止性能 ・U値（0.6以上） ・U値（1.2以上）
漏えい抵抗 ・R≧1×10⁶Ω ・
耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法
※標準仕様書 20.2.2.(2)(ｲ)による ・
寸法精度
※標準仕様書 20.2.2.(2)(ｵ)による ・

2 可動間仕切

材料等

構造形式による種類	構造基材の種類		パネル表面仕上げ	透過損失（dB/500Hz）
	スタッド	パネル		
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式			・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36

パネル内に取付ける建具
・あり（寸法及び形状 ・図示 ・ ）
・なし
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

3 移動間仕切

材料等

操作方法による種類	圧接装置の操作方法	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	透過損失（dB/500Hz）
・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・	・鋼板 ・ ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

ハンガーレールの取付け下地の補強
※標準仕様書 20.2.4(3)(ｳ)による ・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※標準仕様書 20.2.4(3)(ｴ)による ・図示による
ハンガーレール
※標準仕様書 20.2.4(3)(ｵ)による ・図示による
ランナー
※標準仕様書 20.2.4(3)(ｶ)による ・図示による
あと施工アンカー
・使用する
種類： 材質： 寸法：
・使用しない

4 トイレブース

材料等

パネル表面材の材質	脚部の種類	ドアエッジの材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

パネル材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

5 手すり

材料の種類 ⊙アルミニウム製 ・
仕上げ ・樹脂成型被覆 径40φ ⊙樹脂成型被覆 径34φ

6 階段滑り止め

材料等

材種	形状	寸法（mm）	取付け方法
※ ステンレス製（SUS304） ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材	※ タイヤ型 ・	※ 40㎜ ⊙50㎜	※接着工法（ｶｰﾙﾌﾞﾗｸﾞ併用） ・埋込み工法

7 黒板及びホワイトボード

種類		寸法（mm）	色彩	備考
・黒板	※ 焼付け（ほうろう）		※ 緑 ・黒	※ 平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
・ホワイトボード	※ ほうろう		※ 白	

8 鏡

取付箇所 （ ）
寸法（mm） ・図示による ・
厚さ（mm） ※ 5 ・

20 ユニット及びその他の工事

⑨ 表示

・衝突防止表示
形状、寸法（・30φ ・ ）
材質 （・ステンレス製 ・ ）
・非常用進入口等の表示等
※消防法に適合する市販品 ・

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式
⊙図示による ・

⑩ タラップ

材料の種類 ※ステンレス製 ・
仕上げ ※研磨等の仕上げを行わない ・

11 煙突ライニング

煙突用成形ライニング材
適用安全使用温度 ・ ℃
工法 （ ）

12 ブラインド

材料等
・横形ブラインド
種類 ※ギア式 ・コード式 ・操作棒式
幅、高さ ・図示による ・
スラット幅 ※ 25㎜ ・
材質
スラット ※アルミニウム合金製 ・
ヘッドボックス ※鋼製 ・
ボトムレール ※鋼製 ・
・縦形ブラインド
幅、高さ ・図示による ・
開閉方式 ・片開き ・両開き
操作方法 ※ 2本操作コード方式 ・ 1本操作コード方式
スラットの材質 ・焼付け塗装仕上げのアルミスラット
・消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工クロススラット
スラットの幅 （ ）mm

13 ロールスクリーン

材質等

材種	品質	操作方式	幅、高さ	取付箇所
・ポリエステル ・	・	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・図示 ・	・図示 ・

防炎性能 ※ 有り ・

14 カーテン

材料等

形式		開閉操作方法	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ（三つ山ひだ、二つ山ひだ） ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ	・ ・ ・	・図示 ・	
						（暗幕）

暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※ 300mm以上 ・

15 カーテンレール

材料等
レール及びブランケットの強さによる区分
※ 10-90 ・
レールの材料による区分
※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス製
レールの仕上げ ※アルマイト ・
レールの形状 ※角形 ・
カーテン付属物 フック（ひるかん）
※鋼製 ・樹脂製
ランナー ※ 1mあたり 8個 ・

16 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

材料等

材料	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—	
・コンクリート間知ブロック	—		・A ・B	

工法
積み方 ※谷積み ・布積み
目塗り ・図示による ・
伸縮調整目地 材種 ・図示による ・
厚さ ・図示による ・

20 ユニット及びその他の工事

17 ブラインドボックス及びカーテンボックス

清幅×深さ（mm）
・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80
・図示による
材質
・集成材（仕上げ： ）
・アルミニウム製 押出し型材（市販品）
種別（標準仕様書 表 14.2.1） ※ BC-1種 ・BC-2種
色合い ・標準色（ ） ・特注色（ ）
・鋼製（仕上げ： ）

⑱ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙アルミニウム製 ・	⊙450×450 ⊙600×600 ⊙300×300 ・	⊙一般形	・屋内外用 ・屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ

⑲ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
⊙アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	⊙450×450 ⊙600×600 ・	⊙一般形 ・密閉形 ・	・屋内外用 ・屋内用	⊙鍵付き

⑳ 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
⊙垂直方向 ⊙水平方向	⊙完全（全貫通型） ・	⊙耐火型 ・非耐火型	⊙有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材（見え掛り部のみ）	⊙シーリング材（見え掛り部のみ） ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・幅 20×深さ 10 ・	⊙幅 20×深さ 10 ・

目地材の材質は標準仕様書 表 9.7.1による

㉑ 止水板

形式 ・差込式 ⊙据置式 ・壁張り式
施工箇所 ⊙図示による ・

22 エキスパンションジョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150 ・	・有り（ ） ・無し	

外部は防水型とする

23 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉔ 流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
⊙流し台	⊙1,200 ・1,500 ・1,800	⊙550 ・600 ・650	⊙800 ・850	※ 優良住宅部品（ｾｷｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ Ⅰ型） トラップ付き 天板ステンレス製
⊙コンロ台	⊙600	⊙550 ・600 ・650	⊙620 ・670	※ 優良住宅部品（ｾｷｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ Ⅰ型） バックガード有り 天板ステンレス製
⊙つり戸棚	⊙1,200 ⊙900	⊙450	・500 ⊙700	※ 優良住宅部品（ｾｷｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ Ⅰ型）
⊙水切り	・1,200 ⊙900 ・600	⊙276 —	⊙250 —	市販品 ステンレス製 ⊙1段式 ・

品質・性能 JIS A 4420による
形状 ※図示による ・

25 旗竿

材質	形式	高さ（m）	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー型 ・同一断面型		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式	

26 旗竿受金物

材種 ・ステンレス製（SUS304） ・

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（No10）		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／010

2025. 5. 改訂

特記仕様書 [営繕編]

20 ユニット及びその他工事

27 車止め支柱

形式		材種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)
・上下式鎖内蔵型	⊙標準品	⊙ステンレス製	⊙ φ60.5 1.5t	⊙850
⊙脱着式	・スプリング式	・	・	・
・				

28 フェンス

フェンスの種類
- ・ビニル被覆エキスパンドフェンス
- ⊙樹脂塗装メッシュフェンス
- ・鋼管フェンス
- ・アルミフェンス

高さ
- ・図示による ・

29 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JIS S 1039による	・1種 ・2種 ・3種
・鋼製物品棚		・4種 ・5種 ・6種 ・

30 屋内掲示板

枠の材質 ※アルミニウム製 ⊙ステンレス製
表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ⊙掲示板用クロス

31 洗面カウンター

材種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石
奥行 (mm) ・約450 ・約600

32 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考
※網入り磨き板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
・線入り磨き板ガラス	・	・	

・可動式

種類	材質	高さ (mm)	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品））	※ 500 ・ 800	ガイドレール ※固定式（壁埋込み型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込み型）

33 収納家具

材質形状・寸法 ※図示による ・
合板、集成材、ＭＤＦ、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆☆ ・

34 屋外掲示板（広場）

照明器具 ※有り ⊙無し
施錠 ※有り ⊙無し

35 敷地境界石標

種類 ※コンクリートブロック製（市販品）
・花こう石類（文字記号等入り）

36 キャスタブル耐火物

工法 ※こて押さえ
最高使用温度 ※ 400℃
製造所 監督員の承諾する製造所

37 かぎ箱

市販品
形式 ・30組用 ⊙60組用×3 ・120組用

38 誘導路及び注意喚起用床材

屋内 ※ 塩化ビニル製
・磁器又はせっ器質タイル（※ 300 ・ ）
・レジンコンクリート製
屋外 ※ レジンコンクリート製
・磁器又はせっ器質タイル（※ 300 ・ ）

39 フック

SUS製 TOTO株式会社 YKH20R 同等品以上

40 壁点検口

塩ビ製 創建 WH300-6 同等品以上 ⊙図示による

41 樹脂ｶﾀﾞﾐ

アルミ製樹脂複合版 東プレ株式会社 SFシリーズ同等品以上

21 排水工事

① 屋外雨水排水

排水管用材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
⊙遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管(1種)	⊙B形管 ・	⊙図示 ・	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	⊙VP		⊙図示 ・	
	⊙VU		⊙図示 ・	
	・RS-VU		・図示 ・	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV		・図示 ・	
	・VU継手		・図示 ・	

② 鋳鉄製ふた

種類

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	⊙水封形	⊙Ｔ－2用	⊙有	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による。
	・簡易密閉形（パッキン式）	⊙Ｔ－6用	・無	
	⊙密閉形（テーパ・パッキン式）	⊙Ｔ－20用		
	・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）			

③ グレーチング

材料等

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき (付着量)	上面形状
⊙鋼製	⊙受枠付き、ボルト固定	・溝ふた（横断用）	・歩行用	・細目	・（ ）	・凹凸形 ・
		⊙溝ふた（側溝用）	⊙Ｔ－2用	※普通目	・（ ）	・平形
		⊙桝ふた用	⊙Ｔ－6用	⊙細目		⊙凹凸形
		⊙U字溝用	⊙Ｔ－25用			
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用）	・歩行用	・	―	・凹凸形 ・
		・溝ふた（側溝用）	・Ｔ－2用	・	―	・平形 ・
		・桝ふた用	・Ｔ－6用			
		・U字溝用	・Ｔ－14用			
			・Ｔ－20用			

④ 街きょ、縁石、側溝

材料

種類	形状、寸法
⊙縁石	⊙図示 ・
⊙Ｌ形側溝	⊙図示 ・
⊙Ｕ形側溝	⊙図示 ・
・Ｕ形側溝ふた	・図示 ・
⊙Ｖ型側溝	⊙図示

砂地業の材料
・シルト ⊙山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
⊙再生クラシャラン ・切込砂利 ・切込砕石
砂利地業の厚さ ※ 100(mm) ・図示による
⊙現場打ちの場合のコンクリート材料
※普通コンクリート ・
設計基準強度 ※ 18N/mm2 ⊙呼び 18N/mm2
スランプ ※ 15cm又は 18cm ・
⊙現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号
※ SD295 ・
凍土抑制層に用いる材料 ・
砂を用いる場合の粒度試験 ・行う ⊙行わない

⑤ 埋戻し土

※ B種（標準仕様書 表 3.2.1） ⊙改良土

⑥ タラップ

⊙φ２２ ステンレス製（ｗ＝４００）現場打（貯留槽）
⊙φ１９ 合成樹脂被覆加工
内法が６００㎜を超え、かつ、深さ１.２mをこえる排水桝には、足掛け金物を取り付ける。

22 舗装工事

① 路床

路床の材料

種別	材料	厚さ (mm)
⊙盛土	標準仕様書 表 3.2.1により ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ⊙改良土	⊙図示 ・
・凍上抑制層	※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂	・図示 ・

透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ
⊙図示による ・
路床安定処理 ・適用する ⊙適用しない
安定処理の方法 ・置き換え工法 ・安定処理工法
添加材料
種類 ・普通ポルトランドセメント
・高炉セメント B種
・フライアッシュセメント B種
・生石灰（・特号 ・1号）
・消石灰（・特号 ・1号）
添加量を定めるために用いる CBR（ ）
試験
路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う ※行わない
路床締固め度の試験（現場密度） ・行う ※行わない
現場 CBR 試験 ・行う ※行わない

② 路盤

路盤の厚さ ⊙図示による ・
路盤材料
※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・粒度調整砕石
※再生粒度調整砕石 ・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ
※ 図示による ・
材料
アスファルト ※再生アスファルト （・ 60～80 ・ 80～100）
・ストレートアスファルト

加熱アスファルト混合物の種類

区分	地域	種類
表層	⊙一般地域	⊙密粒度アスファルト混合物 (13)
		・細粒度アスファルト混合物 (13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物 (13F)

試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ⊙行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

④ コンクリート舗装

コンクリート舗装の厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	歩行者用通路	⊙図示 ・	※ 70 ⊙図示
	車路及び駐車場	⊙図示 ・	⊙図示 ・

材料
コンクリート
※普通コンクリート、標準仕様書 表 22.5.1による
・図示による
早強ポルトランドセメント ・使用する ⊙使用しない
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性ﾀｲﾌﾟ
施工：目地
種類、間隔、構造
※標準仕様書 表 22.5.3及び図 22.5.1による
・図示による
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5 カラー舗装

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ ・図示による ・
表層に用いる加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物 顔料の添加量（ %）
加熱系混合物に添加する材料
・着色骨材（ ）
・自然石 （ ）
アスファルト混合物の抽出試験
・行う ・行わない
・常温系カラー舗装
工法 ・ニート工法 ・塗布工法
着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装
ニート工法及び塗布工法の配合等 ・
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

22 舗装工事

⑥ 透水性アスファルト舗装

舗装の構成 ※ 図示による ・
材料
アスファルト
※再生アスファルト （・ 60～80 ・ 80～100） ⊙図示による
・ストレートアスファルト
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ⊙行わない
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの ・

7 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材
・普通平板（N）	・300角	※ 60	・砂
・透水性平板（P）	・	・	・モルタル
・保水性平板（M）			

クッション材 ・砂 ・空練モルタル
仕上がり面の平たん性
※コンクリート平板間の段差 3mm以内

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状、寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	色彩、表面加工等
※普通ブロック（N）	車路	・図示	※ 80	※ 5.0	・標準品
・透水性ブロック（P）			・	・	・
・保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示	※ 60	※ 3.0	
			・	・	

インターロッキングブロックの割付け
・図示による ・
仕上がり面の平たん性
※インターロッキングブロック間の段差 3mm以内

・舗石舗装

種類	形状、寸法	厚さ (mm)	割付け	基層 (mm)
・小舗石（花崗岩）	・図示	・80	・図示	・コンクリート版（※ 70 ・ ）
・	・			・アスファルト混合物（※ 50 ・ ）

クッション材 ・砂 ・空練モルタル
舗石の割付け ・図示による ・
仕上がり面の平たん性
※舗石間の段差 3mm以内 ・

8 砂利敷き

種別
通路 ※ A種 ・図示による
建築物周囲その他 ※ B種 ・図示による
（ ） ・

⑨ 路面表示用塗料

⊙品質 JIS K 5665 による ※ 3種 1号
⊙寸法 幅 (mm) ⊗150 厚さ (mm) ※ 1.0 ⊙450（横断歩道）
⊙施工 溶融式

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確保等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験
・行う ⊙行わない
電気伝導度（EC）の試験 ・行う ⊙行わない

② 植栽基盤の整備

整備内容

植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲（面積）	土壌改良材
⊙樹木	※ A種 ・B種 ⊙C種 ・D種	樹高 12m以上 (※ 100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m以上～ 12m未満 (※ 80 ・ 100) 樹高 3m以上～ 7m未満 ⊗60 ・ 80) 樹高 3m未満 (※ 50 ⊙60)	・葉張り部分 ・植栽部分 ⊙図示 ・	⊙適用する ・適用しない
※芝、地被類	※ B種 ・	※ 20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備
（暗きょ、開きょ、排水層縦穴排水等）
・設ける（・図示 ・ ）
⊙設けない

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ１１）		
Ａ３縮尺	―	Ａ１縮尺	―
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／０１１

2025. 5.改訂

特記仕様書 [営繕編]

23 植栽及び屋上緑化工事

③ 植込み用土
・ 現場発生土の良質土　⊙ 客土（※ 真砂土　・　　）

④ 土壌改良材
種類、指定量
⊙ バーク堆肥
施工箇所　⊙ 植栽範囲　・ 図示による
指定量　植栽基盤面積 1m2当たり（・　L　⊙ 5kg　）
・ 汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
施工箇所　・ 植栽範囲　・ 図示による
指定量　植栽基盤面積 1m2当たり（・　L　・　）

⑤ 樹木
種類、寸法、株立数　⊙ 図示による　・
刈込みものの適用　・ 適用する（数量：　）
⊙ 適用しない

⑥ 支柱
支柱材の種類
※丸太（間伐材）　・ 真竹　・
防腐処理方法
※加圧式防腐処理丸太材　・
形式
・ 添え柱形　⊙ 鳥居形　・ ハツ掛け形
・ 布掛け形　・ ワイヤ掛け形　・ 地下埋設形　⊙ 生垣形

⑦ 幹巻き用材料
材料
※幹巻き用テープ　・ わら　・ こも

8 芝
種類
※コウライシバ　・ ノシバ
芝張りの工法
平面　※ 目地張り　・ べた張り
法面　・ 目地張り　※ べた張り

9 吹付けは種
種類等

種子の種類	種子の量（g/m2）	備　考
※洋芝類		
・		

10 地被類
種類等

植物の種類	芽立数	径	単位面積当たりの株数
・	・	・	・
・	・	・	・

⑪ 新植、移植樹木、芝等の枯補償
新植樹木の枯補償の期間
（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）
※契約竣工日の翌日から1年　・　・ 無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
※契約竣工日の翌日から1年　・　・ 無し

12 屋上緑化
植栽基盤及び材料
・ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・ 図示による　・
排水層　・ 軽量骨材（層の厚さ：　）
・ 板状成形品
植込み用土　※改良土　・ 人工軽量土
・ 屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類
樹種、寸法、株立数　・ 図示による　・
刈込みものの適用　・ 適用する（数量：　）
・ 適用しない
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等
・ 図示による　・
工法
平成12年建設省告示第 1458号に基づく風圧力に対応した工法
・ 図示による　・
支柱
・ 設置する（形式　・ 図示による　・　）
かん水装置
・ 設置する（種類　・ 図示による　・　）

24 内装プレハブ工法

① 適用範囲
本仕様は部品工場で内装床パネル、壁パネル、天井パネル、造作材その他内装パネル及び付属部分（以下内装部品という）等を製作し、これを用いて組み立て施工する内部工事に適するものとする。

② 工事範囲
内装部分は、内装プレハブ図面に記入されているものとする。
内工事における内装部品は下記による。
(a) 床パネル　(物入)
(b) 外周壁パネル　(物入)
(c) 間仕切パネル
(d) 天井パネル　(現場貼りも含む)
(e) 造作材
(f) 付属部品　(合板　敷居すべり)
(g)
(h) 各種手摺補強

③ 品質保証
内装プレハブ部品（パネル・造作材・建材等）については保証期間を１０年間とする。

④ 施工管理
着工に先立ち下記の書類を提出し承認を得ること。
（施工計画書、施工図）

⑤ 保管養生
現場での内装部品の保管は、仮設倉庫等を設けて破損、汚損なきよう行う。

⑥ 他工事取合
設備工事及びユニット工事に伴う開口部及びボックス等の下地補強は本工事に含み施工図の作製時に入念に打合わせを行い監督員の承認を得ること。

⑦ 内装パネル仕様
(1) 床パネル　押入、物入の床棚　床　厚※35　棚　厚※30
(2) 外周壁パネル　押入、物入　厚※15
(3) 間仕切パネル　厚※50
上記パネルのパネルコア材は針葉樹又は針葉樹単板積層材（ＬＶＬ）とする。

⑧ 造作材仕様
(1) 単一造作材は含水率１８%以下とし樹種及び品質は下記による。
米栂上小節
(2) 上り框　タモ（積層材）
(3) 玄関勝枠　米栂上小節

⑨ 下地材仕様
下地材は含水率２０%以下とし樹種及び品質は下記による。
米栂又は針葉樹2級
土台及び調整材も準ずる。（便器取付け補強材共）

⑩ 工事範囲外
畳床、キワ板太、防露壁、畳、流し台水切、シーリング、
ビニルクロス、塗装
その他内装プレハブ図面に記入のないもの

⑪ 合板類
F☆☆☆☆を使用すること

⑫ その他
本項目の記載以外は［１２章．木工事］による。

25 その他

① 天井見切縁
材種　⊙ 塩化ビニル製　・

② 換気パイプ
材種　⊙ 塩化ビニル製　⊙ ステンレス製（１ＤＫ最上階の共用廊下部のみ）
適用パイプ　⊙ VU50　⊙ SUS50（１ＤＫ最上階の共用廊下部のみ）
付属部品　⊙ 網　⊙ 井桁

③ タオル掛け
⊙ 便所　ステンレス製（ＳＵＳ３０４）　リング
⊙ 洗面所　ステンレス製　L=４００　φ１９～φ１９
⊙ 浴室　ＵＢ仕様による

④ 消火器ボックス（ＰＳ・ＭＢ内））
⊙ 標準図部分詳細図による　※ 図示 A-33

⑤ 屋上点検口
型式　６００角　ＳＵＳ３０４　南京錠付き　※ 図示 A-5

⑥ 物干金物
型式　アルミニウム製　※ 図示 A-10

⑦ 浴室ユニット
種類　⊙ ＢＬ認定長寿社会対応型またはＢＬ認定長寿社会対応型に準ずる
形状寸法　⊙ １２１６型
材質等　⊙ 浴室ユニット参考図による

⑧ 集合郵便受箱（ＢＬ仕様）
種類　※ ＳＨ型（縦型）
台数　１２戸用×１２台　計１４４戸分

⑨ 掲示板
ステンレス製枠　W１２００×H９００程度　※ 図示 D-13

⑩ 日除けカーテン
材質　ポリエチレンシート　t=０.０４
取付場所　⊙ 住戸の居室の窓全面

⑪ 市章
ステンレス製　既製品　※ 図示 A-40

⑫ 棟番号
アルミニウム製　※ 図示 A-41

⑬ 吊環
ステンレス製　既製品　※ 図示 A-1

⑭ 防護柵
ＢＬ認定品　アルミニウム製　※ 図示 D-14

⑮ 木製ベンチ
ＥＶホール　※ 図示 D-6

⑯ バルコニー隔板
アルミニウム製枠　既製品　※ 図示 A-13

⑰ クーラー取付用インサート
ステンレス製　座板：ＡＢＳ樹脂　※ 図示 A-19

⑱ クーラースリーブ
・ ＡＢＳ樹脂製
・ ステンレス製（共用廊下側）

⑲ ピット換気孔
ステンレス製換気フード　φ１５０（防虫網付き）　※ 図示 D-4

⑳ 窓面格子
アルミニウム製（外付型）　※ 図示 A-29

㉑ 共用廊下エアコン用排水レール
角パイプ　ＳＵＳ３０４　※ 図示 D-7

㉒ 階数表示板
アクリル樹脂製　※ 図示 A-43

㉓ 玄関室名札
ステンレス製　※ 図示 A-42

㉔ 室名札
アルミニウム製　既製品　W３００×H６０程度　⊙ 図示による（倉庫）

㉕ 玄関手すり
ステンレス製　樹脂被覆タイプ　φ３４　Ｉ型　L=６００

㉖ 便所手すり
ステンレス製　樹脂被覆タイプ　φ３４　Ｌ型　７００×７００

㉗ 補助手すり用点字表示板
ポリカーボネイト製

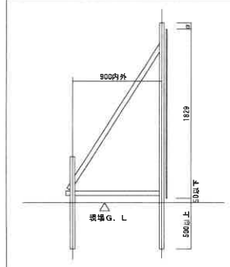
2025. 5. 改訂

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	特記仕様書（Ｎｏ１２）
Ａ３縮尺	—
Ａ１縮尺	—
堺市　建築都市局　建築部	図面番号　Ａ／０１２

別紙１特記仕様書

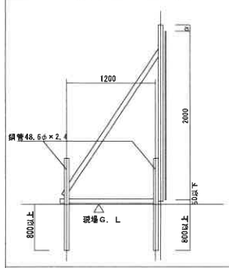
２章　仮設工事（仮囲い図面）

Ａ　鋼管製Ｈ＝１８００仮囲い図面



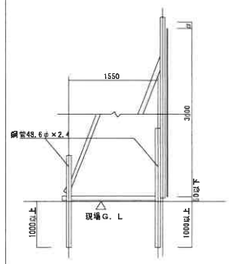
仕　様	
本　柱	鋼管４８．６φ　@２０００
控　柱	鋼管４８．６φ　@４０００
足元つなぎ	鋼管４８．６φ　@４０００
鋼管ジョイント	クランプ止めとする。
胴　縁	桟木６０×３０木柱に番線止め。
頭つなぎ	鋼管４８．６φ
カラー鉄板	波板、０．１９Ｘ７６２Ｘ１８２９
備　考	

Ｂ　鋼管製Ｈ＝２０００仮囲い図面



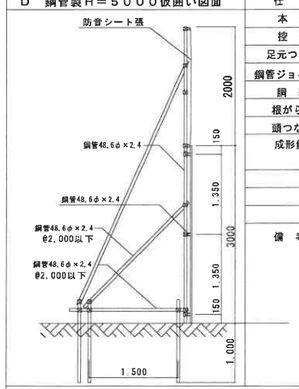
仕　様	
本　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
控　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
足元つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
鋼管ジョイント	クランプ止めとする。
胴　縁	鋼管４８．６φ×２．４
根がらみ	鋼管４８．６φ×２．４
頭つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４
成形鋼板	（ｔ）１．２×５００×２０００新品と同程度とする。
備　考	

Ｃ　鋼管製Ｈ＝３０００仮囲い図面



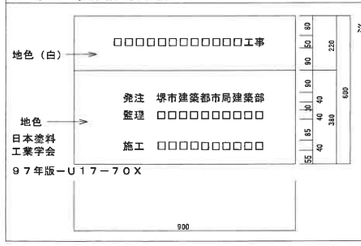
仕　様	
本　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
控　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
足元つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
鋼管ジョイント	クランプ止めとする。
胴　縁	鋼管４８．６φ×２．４
根がらみ	鋼管４８．６φ×２．４
頭つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４
成形鋼板	（ｔ）１．２×５００×３０００新品と同程度とする。
備　考	

Ｄ　鋼管製Ｈ＝５０００仮囲い図面



仕　様	
本　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
控　柱	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
足元つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４　@２０００
鋼管ジョイント	クランプ止めとする。
胴　縁	鋼管４８．６φ×２．４
根がらみ	鋼管４８．６φ×２．４
頭つなぎ	鋼管４８．６φ×２．４
成形鋼板	（ｔ）１．２×５００×３０００新品と同程度とする。
備　考	

２章　工事現場用表示板



注　１．設計監理が同一の場合は
　　発注　堺市建築都市局建築部
　　整理
　　と記入する。
　２．常用漢字を使用し書体は角ゴシックとし黒とする。
　３．亜鉛鉄板製とし桟木を裏打ちし補強する。
　４．取付場所は工事用進入口の見えやすい所に取り付けること。

４章　地業工事

１　ベントナイトセメントミルク注入根固め工法の施工方法
２　オーガーセメントミルク注入根固め工法の施工方法
　　（該当するものに○をする）

１．オーガーの中心を所定の杭心に合わせオーガーの垂直性を保ちつつ所定の深度まで掘削する。
　　オーガー径は杭径より１００㎜先端オーガー径を大きくする。

２．（イ）　掘削中は安定液を用いて孔周壁の崩落を防止する。安定液は主としてベントナイトを用い孔周壁の崩落防止に必要な濃度のものとする。
　（ロ）　掘削中は掘削速度を一定にしてアンメーターなどの電気抵抗の変化を利用して急にアンメーターが上がる点を読み、支持層とする。

３．掘削が予定深度に達したら、根固め液及び杭固定液に切り替え注入しオーガーを引き抜く。
この場合あまり早く引き抜くと水圧のバランスが崩れサクション効果によって掘削孔の崩壊を招くので注意する。

４．根固め液は、水セメント比７０％/ｗｔ程度のセメントミルクとし４週圧縮強度２０Ｎ/㎜２以上とする。
杭周固定液は、４週圧縮強度０．５Ｎ/㎜２以上（あふれ液において）とし、安定液と兼用することができる。
なお、杭周固定液が浸透して敷逸した場合は補充する。
　根固め液の充填長さ　・（　　）ｍ　・２ｍ
　杭周固定液の充填長さ・（　　）ｍ

５．オーガーによって排除された土は、掘削孔中に落ち込まないようにすること。　又、杭の挿入時も同じ。
なお、オーガーは正転のみとし、反転は絶対避ける。（引き抜き時とも）

６．杭の挿入はショックを与えないよう、掘削孔の中心部にゆっくりと行わねばならない。

７．杭を掘削孔に挿入する。　自重で入らなければドロップハンマー（２ｔ程度）又は、機械自重（２０～３０ｔ）を利用して圧入する。　軽打する場合ドロップハンマーの落下高さは、０．５ｍ程度とする。
強打は固く禁止する。
　杭許容高止まり量　・（　　）ｍ　・０．５ｍ以下
　根入れ深さ　・（　　）ｍ　・１．５ｍ程度

８．安定液などの処理は、関係法令等に基づき適切に処理する。
＜注＞オーガーセメントミルク注入根固め工法の場合は、２－（イ）を省略する。

９．残土処分について
掘削工事に伴う汚泥と土砂の判断（掘削工事に伴う汚泥と土砂の判断区分について（第６版）発行令和２年４月大阪府・大阪市・堺市・豊中市・吹田市・高槻市・枚方市・八尾市・寝屋川市・東大阪市）に基づき適切な処分を行う。

６章　コンクリート工事

コンクリートの材料及び調合

６．３．１　（３）水
　水は、ＪＩＳ Ａ ５３０８（レディーミクストコンクリート）の附属書Ｃ(規定)［レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水］による。　ただし、設計基準強度が３６N/mm2を超える高強度コンクリートの場合」は回収水を使ってはならない。

６．４．３　コンクリートの発注及び製造
　（６）製造に先立ち、レディーミクストコンクリート工場の配合計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。　なお、配合計画書は、材料、調合設計の基礎となる資料、計算書等を含むものとする。

６．４．５　調合管理強度
　鉄筋コンクリートによる構造体の総合的耐久性の計画供用期間は「標準」とし、調合管理強度は、設計基準強度（Ｆc）に構造体強度補正値（Ｓ）を加えたものを満足する値とする。　ただし、無筋コンクリート、土間その他コンクリートを除く。
構造体強度補正値（Ｓ）
　Ｓ＝３Ｎ／㎜2　　２月２１日より７月３日及び９月１１日より１２月３日
　Ｓ＝６Ｎ／㎜2　　１２月４日より２月２０日及び７月４日より９月１０日

６．６．１　工事現場内運搬
　コンクリートの圧送に先立ち富調合モルタルを圧送して、コンクリートの品質変化を防止すること。
配合は、セメント量７００kg／ｍ３（容積比１：２）以上とする。
圧送されたモルタルは型枠内に打ち込まないこと。

６．７．１　養生
コンクリート打ち込み後、５日以上は散水その他の方法で湿潤を保つ。

６．８．４　型枠の存置期間及び取り外し
床スラブ、屋根スラブ、及び梁下のせき板は原則として支柱を取り外した後に取り外す。
支柱の存置期間は、原則としてスラブ下、梁下とも材齢２８日とする。

６．９　試験等
　塩分試験　　砂の塩分試験（ＪＡＳＳ５Ｔ－２０２）は生コンプラントの報告書を計画配合決定時に提出。

Ａ、アルカリシリカ反応性試験
　延べ面積1500㎡以上の新築、増築を対象に行う。
　骨材は当初及び品質が変わった場合下記のｂ）試験方法により試験を行う。
　但し、品質が変わった場合でＩ類コンクリートは製造工場の管理試験結果提出により試験を省略できる。

ａ）使用骨材　※区分Ａ（ＪＩＳＡ５３０８）（無害と判定されたもの）の骨材を使用する。
　・区分Ｂ（ＪＩＳＡ５３０８）（無害と判定されないもの又は、試験を行っていないもの）の骨材を使用する。
ｂ）試験方法　下記の内から選定し登録試験所にて実施する。
　１．化学法（ＪＩＳＡ５３０８）付属書－７）
　２．迅速法（財）日本建築総合試験所、ＧＢＲ促進法ＪＩＳＡ１８０４）
　３．モルタルバー法（ＪＩＳＡ５３０８、付属書－８）
　試験回数　※１回　・　回

Ｂ、コンクリート中の塩化物量
　コンクリートに含まれる塩化物量は０．３０ｋｇ/ｍ３塩化物イオン（Ｃｌ⁻）量以下とする。

Ｃ、塩化物量の試験
　測定器
　　（一財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けたものとする。
　試料の採取
　　下記により、試験値は同一試料における３回の平均値とする。
　　試験回数は、コンクリートの種類が異なるごとに１日１回以上かつ、１５０m3ごと及び、その端数につき１回以上。　ただし、最初の測定は打ち込み当初とする。
　　不合格の場合の処置は監督員の指示による。

Ｄ、呼び強度の選定
　打設時期に見合う呼び強度は標準品及び特注品の内から選定する。
　（注）上記の各種試験費用は受注者の負担とする。

Ｅ、コンクリートの各種強度試験

試験の種目	試験の目的	養生方法	材　齢	試験場所	監督員の立会
試練の調合強度の確認試験	①計画調合における調合強度の確認	標準養生	２８日	生コンプラント	有
調合管理強度の管理試験	②調合管理強度の管理	標準養生	２８日	生コンプラント	有
構造体のコンクリート強度の推定試験	③構造体コンクリートの２８日圧縮強度の推定	現場水中養生	２８日	登録試験所	無
	④型枠取り外しの時期決定	同上	必要に応じて定める。	登録試験所	無
	⑤構造体コンクリートの材齢２８日及び材齢２８日を超え９１日以内の圧縮強度の推定（注）	工事現場における封かん養生	２８日及び２８日を越え９１日以内	登録試験所	無

（注）　下記＜２＞を満足しないと想定される場合
＜１＞　②の試験結果は、次の(1)及び(2)を満足すれば合格とする。
　(1)１回の試験結果は、調合管理強度の８５％以上とする。
　(2)３回の試験結果の平均値は、調合管理強度以上とする。

＜２＞　③の試験結果は、次の(1)又は(2)を満足すれば合格とする。
　(1)材齢２８日までの平均気温が２０℃以上の場合は、１回の試験結果が、調合管理強度以上とする。
　(2)材齢２８日までの平均気温が２０℃未満の場合は、１回の試験結果が、設計基準強度に３N/mm2を加えた値以上とする。
　上記(1)及び(2)を満足しなかった場合は、材齢２８日の圧縮強度試験の１回の結果が設計基準強度に０．７を乗じた値以上であり、かつ⑤の１回の試験結果が設計基準強度に３N/mm2を加えた値以上であれば合格とする。

・３階以上の階を有し、又は延べ面積が５００㎡を超える鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物を新築、増築する場合は、下記の試験についても行うこと。

試験項目	試験回数	試料の採取場所	材齢その他	試験場所	監督員の立会
（普通骨材） 絶乾密度 吸水率 粒度	工事開始前１回 工事中１回／月	ﾚﾃﾞｨｰﾐｷｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ工場の骨材置場	試料の採取は登録試験所又は工事施工者による	登録試験所	試料採取に立ち会い
⑥構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度	１回／日 かつ １回／１５０m3以内	荷卸し地点	７日 現場水中養生	登録試験所	無

注）上記の各種試験費用は受注者の負担とする。
③④⑤⑥の受け入れ検査については受注者自ら実施すること。
※無筋コンクリート、土間その他コンクリートは、強度試験を省く。
なお、現場で施工管理するものは、大阪府内建築行政連絡協議会制定の「コンクリート工事に関する取扱要領」に基づく研修を修了したもの、又は本協議会が認めたものとする。

〈参考〉標準配合表（ＪＩＳＡ５３０８レディーミクストコンクリート）
＊砕石・粗骨材の最大寸法２０mm
・密度（g/cm3）（細骨材２．５６、粗骨材２．６４、セメント３．１６）
・粗骨材率２０mm５８％
・空気量４．５％

◆土間その他コンクリート
（土間コンクリート（鉄筋、無筋）、Ｌ型より壁、現場打金所等）

呼び強度	W/C %	スランプ cm	S/A %	単位水量 kg/m3	重量（kg/m3） セメント	細骨材	粗骨材	
１８	６８	１５	４９．９	１８０	２６５	８８３	９１３	ＡＥ減水剤使用
		１８	５１．８	１９０	２７９	８９９	８６１	ＡＥ減水剤使用
２１	６３	１５	４９．０	１８０	２８６	８５８	９２１	ＡＥ減水剤使用
		１８	５０．８	１９０	３０２	８７０	８６９	ＡＥ減水剤使用

◆鉄筋コンクリート　　（構造体に使用するコンクリート）
設計基準強度（Ｆｃ）＝２１Ｎ/mm2の場合

打設期間	呼び強度	W/C %	スランプ cm	S/A %	単位水量 kg/m3	重量（kg/m3） セメント	細骨材	粗骨材	
2/21～7/3及び9/11～12/3	２４	５７	１５	４７．７	１８０	３１６	８２４	９３２	ＡＥ減水剤使用
			１８	４９．０	１８０	３１６	８４７	９０８	高性能ＡＥ減水剤使用
12/4～2/20及び7/4～9/10	２７	５３	１５	４６．８	１８０	３４０	７９９	９３７	ＡＥ減水剤使用
		５４	１８	４８．４	１８０	３３３	８２９	９１３	高性能ＡＥ減水剤使用

設計基準強度（Ｆｃ）＝２４Ｎ/mm2の場合

打設期間	呼び強度	W/C %	スランプ cm	S/A %	単位水量 kg/m3	重量（kg/m3） セメント	細骨材	粗骨材	
2/21～7/3及び9/11～12/3	２７	５３	１５	４６．８	１８０	３４０	７９９	９３７	ＡＥ減水剤使用
		５４	１８	４８．４	１８０	３３３	８２９	９１３	高性能ＡＥ減水剤使用
12/4～2/20及び7/4～9/10	３０	４９	１５	４５．８	１８０	３６７	７７３	９４２	ＡＥ減水剤使用
		５０	１８	４７．４	１８０	３６０	８０１	９１９	高性能ＡＥ減水剤使用

※ＡＥ減水剤の量はセメント質量の０．２５％使用の場合。
高性能ＡＥ減水剤の使用量はセメント質量１．５％使用の場合。

	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
	図面名称	別紙１特記仕様書		
	Ａ３縮尺	ー	Ａ１縮尺	ー
2025．5.改訂	堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０１３

別紙２特記仕様書

1章 （ 別 表 ）

＜工事区分＞

図面に記載のない場合は原則として下記標準工事区分表による。

標準工事区分表 （取合い区分欄は、原則●印の区分とする。）

工 事 項 目	建築	給排水	空調	電気	備考
【躯体関係】					
貫通スリーブ	●	●	●	●	
貫通スリーブの補強	●				
開口補強を要する型枠材及び取付（埋込機器・盤等の仮枠含む）	●				
開口部の補強	●				
貫通孔・開口部の墨出し	●	●	●	●	
スリーブ・型枠の穴埋め	●	●	●	●	
【軽鉄天井・壁下地関係】					
補強を要するボードの切込み及び下地の補強	●				
補強を要しないボードの切込み	●	●	●	●	設置者が施工
開口部の墨出し	●	●	●	●	
振れ止め切断後の補強	●	●	●	●	
天井点検口の取付	●				
機器・器具及び配管等の吊ボルト用インサート		●	●	●	
【便所関係】					
衛生器具廻りのシーリング	●	●			設置者が施工
便器洗浄用感知装置への電源供給配管配線				●	
【設備基礎関係】					
機器の基礎・基礎鋼材（H鋼等）及びピット	●				
機器据付台		●	●	●	
【設備関係】					
機器への給排水配管接続工事		●			
機器へのガス配管接続工事（ガス指定工事店が施工）		●			
機器付属操作盤への一次側電気工事				●	
同上操作盤からの二次側電気工事		●	●		
同上操作盤からの故障警報用配管配線				●	
空調機等のリモコンスイッチの取付及び結線			●		
同上機器からリモコンスイッチまでの配管及びボックス				●	
同上機器からリモコンスイッチまでの操作配線			●		
セパレート型エアコンの室内から室外機への送り操作配線			●		
マルチ型エアコンの室内機間の渡り配線及び集中操作盤の取付			●		
換気扇の取付			●		
同上機器の手元スイッチの取付及び配管配線・ボックス及び結線				●	
自動制御盤一次側電源工事（配管・配線及び結線共）				●	
水槽類の電極棒・電極帯及びフロートスイッチ				●	
給湯器等の機械機器接地（最寄りコンセントまで）			●		

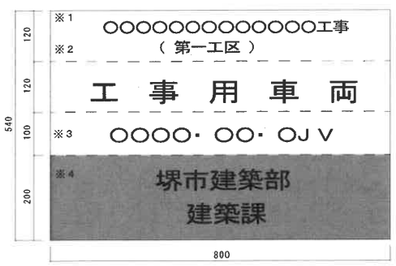
⊙道路交通の安全対策

１０ｔ級以上のダンプトラック（土砂・ガラ等の排出車、アスファルト合材・砕石等の搬入車すべて対象）により搬出入を行う場合は監督員に報告し、運搬経路について協議を行うこと。

⊙工事車両幕

１０ｔ級以上のダンプトラック（土砂・ガラ等の排出車、アスファルト合材・砕石等の搬入車すべて対象）に下記の通り工事用車両幕を作成し取り付けること。 なお、工事用車両幕の仕様における詳細については、別途、監督員の指示を受けること。

工事用車両幕の仕様
- 寸法： 縦５４０mm×横８００mm程度
- 材質： ターポリン
- 表示内容：工事名称、受注者名、発注部署名
- 装着枚数：１枚
- 装着場所：ダンプトラックの前面
- 取付方法：工事用車両幕の四隅とダンプトラックの４カ所を紐で結ぶ
- その他：工事用車両幕の四隅にハトメ（紐穴）を取付ける



※１ 工事用車両幕に記載する工事名、「工事用車両」、受注者名、発注者名の字体は、ＭＳＰゴシックとする。
※２ 工事名が一段で入りきらない場合は、二段で記載する。
※３ 受注者名は、一段に記載する。株式会社は、㈱と記載する。建設工事共同企業体はＪＶと記載する。
※４ 発注者名は、局名を記載しない。

＜完成図作成要領＞

１．完成図は、発注（契約）工事ごとに工事完成時における状態を示したものであること。

２．完成図原図

完成図原図は、業者（現場代理人）及び監理事務所（総括責任者）の押印の後、提出。
原設計図を修正する場合は、ＣＡＤデータを修正し作成すること。
原図、完成図電子データ（設計図）とも提出のこと。
内容（電子データで提出する図面）
①完成図原図
原則として、設計図を修正すること。（設備工事では、施工図の修正でもよい。）
屋外配管（設備工事）については、埋設深さ・建物等目印よりの寸法を記入すること。
②施工図（外装の石、金属板張り、カーテンウォール、エレベーター等）
③制御回路図（エレベーター、圧送給水システム等）

３．製本図面

市確認後に完成図原図を青焼き背張製本したもの。
部数は、２部（※A2・原寸図）（新築住宅建設工事は３部）とする。
発注（契約）工事ごとに製本する。
仕様
①製本の色（発注工事ごと）
建築（緑・ＤＢ１５０３）［Ａ・Ｓ・Ｖ］、電気（赤・ＤＢ２０１２）、
機械（青・ＤＢ２００７）［Ｊ・Ｋ・Ｍ］、ガス（黄・ＤＢ２０１４）とする。
［］内英字は工事種別です。
②表紙の文字
工事名称・完成年月日・監理事務所名（自主監理は不要）・請負業者名の順に印字する。
可能な場合は、背の部分に工事名称のみ印字する。

４．施工図製本（建築工事）

各専門工事ごとに背張製本を１部提出のこと。（原図と同サイズ）

５．機器完成図（設備工事）

Ａ４版チューブファイル（表紙の記入内容は製本図面に同じ）にて２部提出のこと。
内容
①提出した機材使用願による主要機器。
②各種試験成績表
③各種検査合格書
④保証書
⑤保守に関する指導案内書（取扱説明書）

６．完成図電子データー

①提出用メディア
ＣＤ（７２０ＭＢ）１枚に発注（契約）ごとに全図面を１枚に入れて提出する。
ラベルには、竣工年月（西暦）・工事名称を記入すること。

＜書類保管箱＞

工事完成時に完成図、施工図、保全に関する資料及び工事関係書類を保管箱に入れ、提出すること。
サイズ Ａ４ファイル収納用
材質 段ボール

＜建設リサイクル法「分別解体の届出」＞

１．適 用

１） 本仕様書は、公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び再生資源活用工事実施要領（営繕）により、堺市建築部が発注する工事に適用する。

２．建設副産物の処理

１） 受注者は、工事の施工により発生する建設発生土の処理及びコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設汚泥等の建設廃棄物の処理にあたって、適切な処理が計画的に行われるよう発生土処理計画書及び廃棄物処理計画書並びに発生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を所定の様式（建設リサイクルガイドライン）により作成し、施行計画書に含め監督員に提出、承認を得なければならない。
また、建設発生土の搬出にあたっては、建設廃棄物が混入しないよう分別に努めなければならない。

２） 本工事における特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う。

	特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所在地
※１	コンクリートガラ	泉州リサイクル(協)	和泉市上代町1280-1
	アスファルトガラ	(協)大阪南部 リサイクルセンター	松原市大堀4-536-1
	木 材	木材開発(株)岸和田工場 (株)前田造園	岸和田市木材町11-13-18 交野市青山2-2642-1
※２	建設発生土	阪南港阪南２区（ちきりアイランド）	岸和田市岸之浦９番地

※１ 積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。
※２ 建築発生土の搬出先については、上記の再資源化施設に搬出すること。
なお、受け入れ条件等により提示する施設と異なる再資源化施設となる場合は監督員と協議するものとする。

３．特定建設資材の分別解体等・再資源化等の適正な措置

１） 本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下、「建設リサイクル法」という。）施行令で定める工事の種類、規模の基準に基づき特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の条件を設定しているが、請負代金額のうち解体工事に要する費用等に定める事項は、契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。
ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。

（建築物に係る解体工事の場合）

①分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法
	①建築設備・内装材等	建築設備・内装材の取り外し □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由（ ）
	②屋根ふき材	屋根ふき材の取り外し □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由（ ）
	③外装材・上部構造部分	外装材・上部構造部分の取り壊し □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	④基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの取り壊し □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	⑤その他（ ）	その他の取り壊し □ 有 □ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用

「この特記を使用する対象工事」
建築物の解体 床面積の合計８０㎡以上

（建築物に係る新築工事等（新築・増築・修繕・模様替）の場合）

①分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法
	①造成等	造成等の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	②基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	③上部構造部分・外装	上部構造部分・外装の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	④屋根	屋根の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	⑤建築設備・内装等	建築設備・内装等の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	⑥その他 （ ）	その他の工事 □ 有 ☑ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用

（注１） 適用となる事項の □ にチェックする。

「この特記を使用する対象工事」
⊙建築物の新築・増築 床面積の合計５００㎡以上
・建築物の修繕・模様替（リフォーム等） 請負代金の額１億円以上

②再資源化等をする施設の名称及び所在地
２－２）による。
（注１） 新築工事では、発生量等が特定できないため、この限りでない。

（建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等（土木工事等）の場合）

①分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ☑ 有 □ 無	□ 手作業 ☑ 手作業・機械作業の併用
	⑥その他（ ）	その他の工事 □ 有 ☑ 無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用

「この特記を使用する対象工事」
⊙その他の工作物に関する工事（土木工事等） 請負代金の額５００万円以上

２） 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第１８条に基づき、以下の事項を「再資源化等報告書」に記載し、監督員に報告するものとする。
・工事名
・工事場所
・再資源化等が完了した年月日
・特定建設資材廃棄物の再資源化等をした施設の名称及び所在地
・特定建設資材廃棄物の再資源化等に要した費用
・再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書（建設リサイクルガイドライン様式）

４．再生資材

本工事の施工については、次表の再生資材を見込んでいる。 品質等を確認し、監督員の承認を得た上で使用に努めなければならない。

再 生 資 材 名	使 用 箇 所
再生クラッシャラン（ＲＣ－４０）	外構部、駐車場、道路路盤材等

５．過積載について

１ 受注者は建設副産物を搬出するときは、ダンプトラックの規格（最大積載重量）を事前に把握し、過積載しないよう常に注意すること。
２ 受注者は、建設副産物搬出後速やかに、マニフェストや計量証明書等で過積載のないことを確認するとともに、監督職員に提出を求められた場合は、その都度、速やかに提出すること。
３ 受注者は、建設資材を注文するときは、その都度、納入業者に過積載しないよう指導すること。
４ 受注者は、建設資材納入時には、試験成績書等により資材の単位重量等を事前に把握し、搬入トラックの規格（最大積載重量）から過積載になっていないことを確認するとともに、監督職員に提出を求められた場合は、その都度、速やかに納品伝票を提出すること。
５ 受注者は、建設副産物及び建設資材の運搬にあたって、次の道路交通法等関係法令を厳守すること。
イ 道路交通法第５７条
ロ 道路法第４７条
ハ 貨物自動車運送事業法（平成元年法律第83号）第１７条
ニ ダンプ規制法（土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法） 第３条、第４条（許可条件等の表示）
ホ ダンプ規制法第６条（自重計の設置）

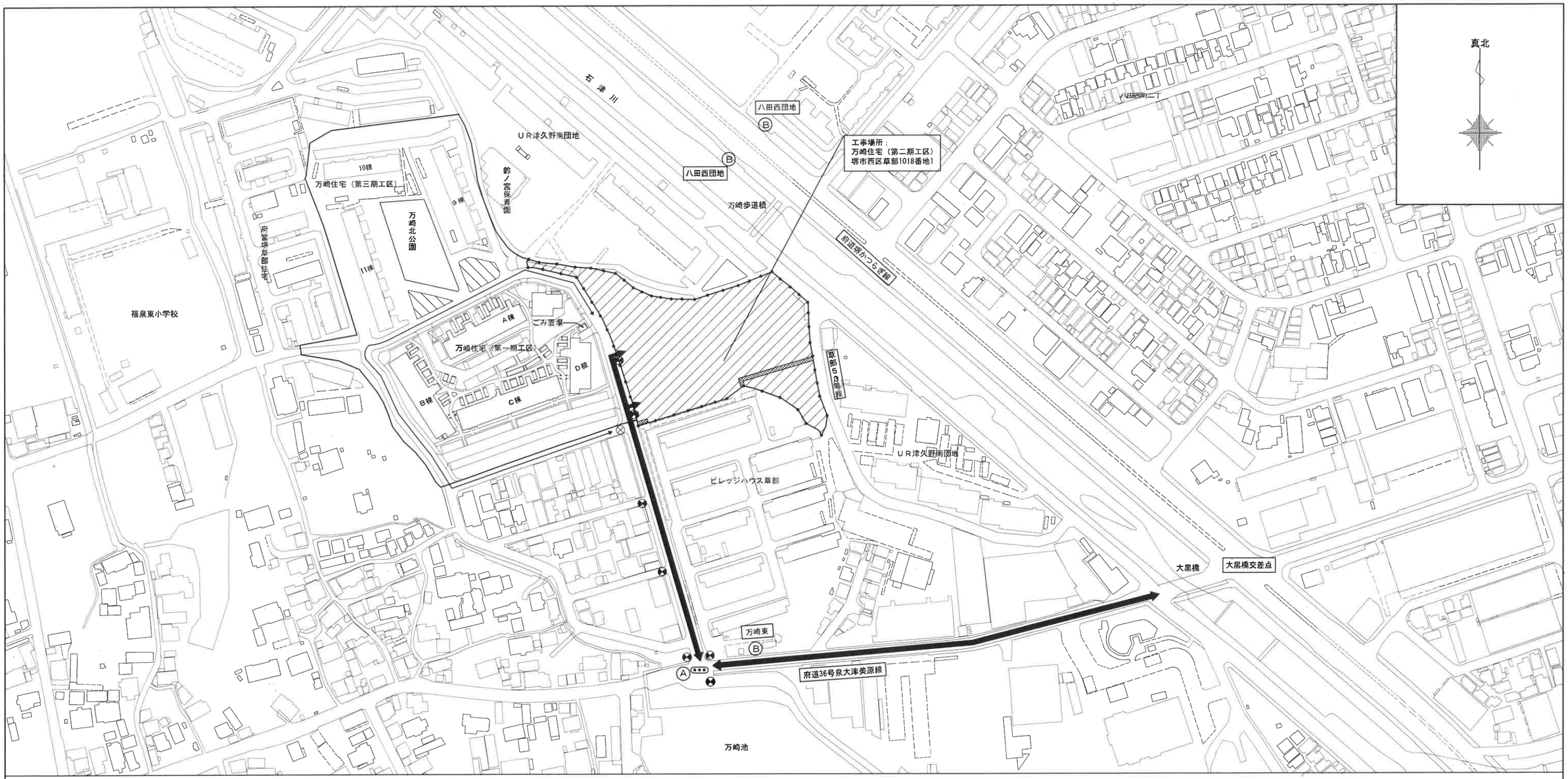
	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
	図面名称	別紙２特記仕様書		
	Ａ３縮尺	１／０００	Ａ１縮尺	１／０００
2025. 5.改訂	堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／０１４



凡例・注記

	敷地範囲を示す。
	第二期工事敷地範囲（仮想敷地）を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	付近見取図		
A3縮尺	1／6,000	A1縮尺	1／3,000
堺市	建築都市局　建築部	図面番号	A／015
原寸法	0　50　100　150　200　250　300m		



■特記事項

1. 工事における仮設は、既設範囲含め受注者責任により設置し、維持管理を行うこと。
2. 仮設工事着手前に仮設工事施工計画書を作成し、監督員に事前に承認を得ること。
3. 本敷地は、工事区域以外は一般者などが使用するため、工事状況により適材適所に安全仮設を行い、設置替えを行うこと。
4. 工事期間中は、安全巡視員を図示位置に常駐配置し、工事状況により適所に増員を行うこと。車両出入の際は、誘導を行うこと。
5. 外部に工事案内を掲示すること。
6. 工事車両出入りに伴う一般道路の汚泥流出防止に努め、道路に汚れが生じた場合は、速やかに清掃を行うこと。
7. 工事に伴い施設、設備、道路等に損害を与えた場合は、監督員に報告の上、受注者負担により速やかに復旧すること。
8. 雨水幹線への接続に際し、隣接道路への仮設材設置が必要な場合は、諸官庁へ届出等の上、設置すること。
9. 工事期間中における防犯灯（既存含む）電気料金については、関西電力に申請の上、施工者により支払うものとする。
10. 工事車両通行経路について、Ⓐ交差点より北側の経路は原則徐行とし、安全確保を徹底すること。
11. Ⓐ交差点より西側の道路は、原則、通勤車両も含め、いかなる車種、時間帯においても通行しないこと。
12. 監督員事務所等（監督員事務所、建築・電気・機械現場事務所、建築・電気・機械作業員詰所）は、空き住戸（９～１１棟 計７戸 約２８０㎡）を使用し、使用期間の光熱水費及び共益費の負担、整理清掃を行い、使用後は現状復旧し、監督員の確認を受けること。
13. 工事関係者の通勤車両は、仮囲い内及び工事関係者利用スペースに駐車し、全て収容できない場合は、受注者で確保すること。
（全て建築工事関係者で利用せず、電気・機械設備関係者と調整して利用すること。）
14. 空き住戸、工事関係者利用スペースの利用は、建築・電気・機械設備の受注者で調整を行い、不公平の無いように協力して利用し、騒音を含め、周辺に十分配慮を行うこと。
15. 空き住戸、工事関係者利用スペースは、受注者の責任により適切に維持・管理を行い、利用後は現況復旧し、監督員の確認を受けること。
16. 第一期工区の東側のごみ置場前面道路施工時、ごみ収集車両の進入が可能とするよう、仮囲いの開閉等を行うこと。
尚、ごみ収集日は以下の通りとする。
●生活ごみ：毎週火曜日、金曜日　●プラ容器包装：毎週月曜日　●缶、びん：第二、四 木曜日　●小型金属：第三 火曜日　●ペットボトル：第一、三 木曜日
17. 工事期間中は、やむを得ない場合を除き、仮設通路の通行が可能な状態を維持し、盛替等で通行できない場合は事前に監督員に承諾を受け、周知徹底を行うこと。

凡例

- 工事車両通行経路
- 安全巡視員（常駐）を示す
- 安全巡視員（スポット）を示す
- Ⓑバス停を示す
- 信号機設置場所を示す
- 工事車両進入口を示す
- 工事場所を示す
- 工事関係者利用スペースを示す
- ごみ置場前施工時、迂回ルートを示す。（通常利用不可）
- 仮設通路を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	特記事項・工事車両通行経路・安全巡視員配置図		
A3縮尺	1／2500	A1縮尺	1／1250
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	A ／ 016
原寸法	0 1 5 10 15 20 25m		

外　部　仕　上　表

箇所		外壁・柱・梁	屋根（住戸部）		屋外階段				共用廊下			
仕上	外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	屋根	コンクリート直均し仕上の上　アスファルト防水 屋根露出防水絶縁断熱工法（ＤＩ－１）　保護塗料仕上げ	屋根	コンクリート直均し仕上の上　アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（Ｄ－１）　保護塗料仕上げ	階数表示板	合成樹脂製 アクリル樹脂（透明 t=５.０）	屋根	コンクリート直均し仕上の上　アスファルト防水　屋根露出防水 絶縁工法（Ｄ－１）（一部断熱なし）　保護塗料仕上げ	竪樋	硬質塩化ビニル管　φ１００（カラーＶＰ）
			断熱材	硬質ウレタンフォーム断熱材 t=５０（Ａ種 ２種１号）	立上り天端	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）			立上り天端	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）	呼び樋	硬質塩化ビニル管　φ７５（カラーＶＰ）
	柱・梁（側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	防水層立上り	押え金物（アルミニウム既製品）	床	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５			床	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５ 端部（側溝含む）：床モルタル塗り t=２０ の上 ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ－２） 床シート貼との重ね代２００以上（簡易防水工法） エアコン室外機排水用溝材（蓋付）：角パイプ　ＳＵＳ３０４	ドレイン	鋳鉄製フロアドレイン　φ７５（ＶＰ用）
			ドレイン	外断熱アスファルト防水用鋳鉄製ルーフドレインφ１００（ＶＰ用） 外断熱アスファルト防水用横引き用鋳鉄製ドレインφ１００（ＶＰ用）	踏面	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５					清蓋 （EVホールA0）	ステンレス製、グレーチング（組目） ノンスリップ（ゴム付）溝巾１００
	根廻り	接地面 ー160まで、複層塗材Ｅ	吊環	ステンレス丸環（１箇所／２スパン、妻面）	蹴込	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５					面格子	アルミニウム製　タテ格子　外付タイプ
	巾章	ステンレス製鏡面仕上（側面ヘアライン仕上）	太陽光設備架台	支持架台：Ｈ-１５０×１５０×７×１０、溶融亜鉛メッキ 鳩除けメッシュ：ポリエチレン、目合い１６㎜（角目）	上部３欄共通	端部（踏面・蹴上共、側溝含む）：　床モルタル塗り t=２０の上　ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ－２） 床シート貼との重ね代２００以上（簡易防水工法）			巾木	コンクリート打放しの上　外装薄塗材Ｅ	住戸室名札	ステンレス製　２７０Ｗ×１３５Ｈ
	様番号	アルミ製（既製品）８６０型							天井	コンクリート打放しの上　外装薄塗材Ｅ	１階 床点検口	化粧フロアハッチ（防臭型）　ステンレス製枠　６００角
	目地	打継目地、化粧目地（横・縦）、誘発目地、水切り目地			巾木	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ			コンクリート手すり外壁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	最上階 屋根点検口	角型屋根マンホール　ＳＵＳ３０４　開口６００×６００ 掛け金物、南京錠付（市指定品）
	耐震スリット	耐火スリット材　t=２５			天井上裏	コンクリート打放しの上　外装薄塗材Ｅ			コンクリート手すり内壁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	点検用	ステンレス製　５段　φ１６　４００Ｗ
					コンクリート手すり外壁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ			コンクリート手すり天端	コンクリート金コテ仕上の上　ＤＰ（Ｃ種）塗	落下防護庇 タラップ	鋼製溶融亜鉛メッキ
					コンクリート手すり内壁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ			歩行補助手摺	笠木：アルミニウム製樹脂被覆成形品（屋外用）φ３４ キャップ付 笠木受：アルミニウム押出形材		
					コンクリート手すり天端	コンクリート金コテ仕上の上　ＤＰ（Ｃ種）塗			住戸側壁 アルコーブ	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ		
					歩行補助手摺	笠木：アルミニウム製樹脂被覆成形品（屋外用）φ３４ 笠木受：アルミニウム押出形材			柱・梁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ		
	備考	ハンドホール蓋床面：コンクリート金コテ仕上げ マンホール蓋φ７５０（鋳鉄製、施錠装置付き、簡易防水型） 引き込み盤コンクリート架台			階段内壁	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ			アルコーブ天井	ＦＫ t=６.０の上　外装薄塗材Ｅ　目すかし張り 廻り縁：塩ビ製見切 梁下端：　コンクリート打放しの上　外装薄塗材Ｅ		
					段鼻	ＳＵＳノンスリップ金物（ビニルタイヤ入） フラットエンドタイプ						
					小庇	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）			MB・PS扉	鋼製建具　ＳＯＰ塗装		

箇所		バルコニー			ＥＶシャフト		ＥＶホール					
仕上	屋根	コンクリート直均し仕上の上　アスファルト防水　屋根露出防水 絶縁工法（Ｄ－１）（一部断熱なし）　保護塗料仕上げ	物干金物	アルミニウム製　壁付　縦収納型	屋根	コンクリート直均し仕上の上 屋根露出防水絶縁工法（Ｄ－１）　保護塗料仕上げ	屋根	コンクリート直均し仕上の上 屋根露出防水絶縁工法（Ｄ－１）　保護塗料仕上げ				
	立上り天端	コンクリート金コテ押えの上 屋根露出防水　塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）			防水層立上り	押え金物（アルミニウム既製品）	防水層立上り	押え金物（アルミニウム既製品）				
	床	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５ 端部（側溝含む）：床モルタル塗り t=２０ の上 ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ－２） 床シート貼との重ね代２００以上（簡易防水工法）			パラペット天端	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）	パラペット天端	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）				
					外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ ※地下ピット外部側にはゴムアスファルト系塗膜防水Ｙ－１を施すこと	外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ				
	巾木	コンクリート打放し仕上Ｂ種の上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）H=６０			ドレイン	鋳鉄製横引き用ドレイン　φ７５（ＶＰ用） ステンレス製オーバーフロー管　φ７５　端部ゴミよけネット付き	ドレイン	鋳鉄製横引き用ルーフドレイン　φ１００、φ７５（ＶＰ用）				
	天井	コンクリート打放の上 外装薄塗材Ｅ			竪樋	硬質塩化ビニル管　φ７５（カラーＶＰ） ※ 屋根上放流部分は、９０°エルボ　３００角平板受け設置	小庇	コンクリート金コテ押えの上 塗膜防水（ウレタンゴム系、Ｘ－２）				
	コンクリート手すり外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ			塔屋タラップ	ステンレス製　３段　１,６００Ｈ×４００Ｗ						
	コンクリート手すり内壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ										
	コンクリート手すり天端	コンクリート金コテ仕上の上　ＤＰ（Ｃ種）塗 アルミ製手摺（トップレールタイプ）（1階のみ）										
	住戸側壁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ										
	柱・梁	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ										
	梁下端	コンクリート打放の上　外装薄塗材Ｅ										
	竪樋	硬質塩化ビニル管φ１００、φ７５（カラーＶＰ）										
	呼樋	硬質塩化ビニル管φ７５（カラーＶＰ） 継手：９０°大曲がり両Ｙ										
	隔て板	アルミニウム製枠　ＦＫ板 t=５.０　ＥＰ－Ｇ塗 壁面共色塗装										
	ドレイン	鋳鉄製ルーフドレイン　φ７５（ＶＰ用） 鋳鉄製中継ドレイン　φ１００（ＶＰ用）										

共　用　部　仕　上　表

室名	床	巾木	巾木高さ	壁・腰壁	天井	天井高さ	備考
１Ｆ　ＥＶホール	モルタル下地の上　磁器質１００角タイル張り	—	—	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	コンクリート打放しの上　外装薄塗材Ｅ	GH=2,580	＊ベンチ D-6　＊国際シンボルマーク　＊手摺 A-38　＊触知案内板 A-47　＊インターホンボックス　＊点字注意名板
ピロティ	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５	—	—	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	押出法ポリスチレンフォーム保温板 t=４０打込み（梁型側面） ＦＫ板 t=６.０（ＬＧＳ下地）の上 外装薄塗材Ｅ	GH=2,450 GH=2,290	＊集合郵便受箱　＊掲示板　＊手摺 A-38　＊住戸配置案内板
２～８Ｆ　ＥＶホール	モルタル塗り（t=２０）の上　防滑性ビニル床シート t=２.５	—	—	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	コンクリート打放し　素地のまま ８Ｆのみ　ＦＫ板 t=６.０（ＬＧＳ下地）の上 外装薄塗材Ｅ	GH=2,580 8FのみGH=2,610	＊ベンチ D-6　＊国際シンボルマーク　＊手摺 A-38　＊触知案内板 A-47
ＥＶシャフト	防水モルタル金コテ押え t=３０	防水モルタル金コテ押え t=３０	１ＳＬ＋３０まで	コンクリート打放し　素地のまま	コンクリート打放し　素地のまま	—	＊ＥＶ吊りフック　＊《煙感知器》　＊外部：ゴムアスファルト系膜防水Ｙ－１工法 ＊《煙感知器点検ハッチ２００角》
階段下倉庫	コンクリート金コテ押え	—	—	コンクリート打放し　素地のまま		直天	
床下ピット（住戸下）	再生砕石 t=６０、目つぶし砂の上　防湿ポリエチレンシート t=０.１５ ３枚敷の上　無筋コンクリート t=１００　木コテ押え	—	—	コンクリート打放し　素地のまま	押出法ポリスチレンフォーム保温板 t=４０打込み（梁型側面）	直天	＊通気管　ＶＰφ７５　＊人通口　φ６００　＊ピット換気孔 D-4
床下ピット（共用廊下下）	コンクリート　木コテ押え	—	—	コンクリート打放し　素地のまま	コンクリート打放し　素地のまま	直天	＊床下点検口 D-3　＊タラップ D-3　＊釜場　６００×６００×３００Ｈ　＊人通口　φ６００

凡例・注記等

1．アルミニウム製品の表面処理は、特記無き限りＢ－２種（シルバー）とする。
2．複層塗材Ｅの仕上げ形状は、特記仕様書による。
3．外装薄塗材Ｅ、複層塗材Ｅの色は、別途提供する外壁色彩計画によるものとする。
4．誘発目地（パラペット、コンクリート手すり、妻側の４ｍ以内毎設置、位置は意匠図による。
5．共用部に設置のＡＢＣ消火器１０型については別途工事とする。
6．《　》内は、別途設備工事を示す。
7．◇O/O◇ は、標準部分詳細図番号を示す。

準不燃材料　外装薄塗材Ｅ　：　準不燃 QM-９８１２　同等以上
複層塗材Ｅ　：　準不燃 QM-９８１６　同等以上

ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
ＤＰ	耐候性塗料塗りＣ種（標仕18.7.4）
GB-R	せっこうボード
GB-S	耐水性せっこうボード
化粧ＦＫ	化粧けい酸カルシウム板

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	外部仕上表		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
堺市	建築都市局　建築部	図面番号	Ａ／０１７
原寸法	0　10　20　30　50　75　100mm		

内 部 仕 上 表 （ 住 棟 ）

※ 火気使用室の壁・天井の仕上げは準不燃性能を有する。
※ 居室の室内に面する部分の壁・天井の仕上げは準不燃性能を有する。
※ 居室から地上に通ずる主たる階段・廊下・エントランスホール・ＥＶホールの室内に面する部分の壁・天井の仕上げは準不燃性能を有する。
※ 仕上げ材料及び接着剤については、天井裏ともＦ☆☆☆☆を使用する。

住戸タイプ	室 名	下 地	床	巾木 材質	巾木 高さ	巾木 塗装	壁	壁と天井の見切	天 井	天井高	木部仕上	備 考
[１ＤＫ] [２ＤＫ] [３ＤＫ]	玄関	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	最上階：CH=２，４７０ 一般階：直天 CH=２，５４０	上り框：ＵＣ	＊上り框 ＊補助手摺：Ｉ型 L=６００ ＊手摺補強下地 ＊ダクトスペース
		RC	モルタル金コテ押えの上 長尺塩ビシート t=２．５貼り（ノンスリップ）	ビニル巾木	H=６０	—	外壁 ：断熱材 t=３０ 裏打ちＧＢ−Ｒ t=９．５の上，ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	一般階：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り			
	廊下	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	最上階：CH=2,410 一般階：直天 ※１ＤＫ CH=2,480 最上階：CH=2,410 一般階：直天 CH=2,490	—	＊手摺補強下地
		RC	乾式二重床システム （ラワン合板（防虫） t=１２．０＋５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	—	—	—	—	—	一般階：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り			
	ＤＫ	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル） 一部（水廻り） ＧＢ−Ｓ t=９．５の上 化粧ＦＫ板 t=６．０貼り	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	最上階：CH=２，４１０ 一般階：直天 CH=２，４８０	—	＊アルミカーテンレール(W) ＊流し台 L=１，２００ ＊コンロ台 L=６００ ＊コンロ脇台 L=１００・１５０ ＊吊戸棚 L=９００・１，２００ ＊水切棚(ＳＵＳ３０４ １段 L=９００) ＊クーラースリーブ φ７５ ＊排気ダクト ＊手摺補強下地 ＊クーラーインサート２本(化粧ナット付) ＊《レンジフード》 ＊《給気スリーブ φ１００》 ＊《給気ユニット》
		RC	乾式二重床システム（一部パラフィン処理） （ラワン合板（防虫） t=１２．０＋５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	ビニル巾木	H=６０	—	外壁 ：断熱材 t=３０ 裏打ちＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り 住戸界壁：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り 一部（水廻り） ＧＢ−Ｓ t=９．５の上 化粧ＦＫ板 t=６．０貼り	—	一般階：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り			
	洋室 （１・２・３）	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	最上階：CH=２，４１０ 一般階：直天 CH=２，４８０	—	＊アルミカーテンレール(W) ＊クーラースリーブ φ７５ ＊手摺補強下地 ＊クーラーインサート２本(化粧ナット付) ＊《給気スリーブ φ１００》 ＊《給気ユニット》
		RC	乾式二重床システム （ラワン合板（防虫） t=１２．０＋５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	ビニル巾木	H=６０	—	外壁 ：断熱材 t=３０ 裏打ちＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り 住戸界壁：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り	—	一般階：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り			
	洗面室	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｓ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（木下地）	最上階：CH=２，０５０ 一般階：CH=２，０５０	—	＊タオル掛け：ステンレス製 L=４００ ＊床下点検口：４５０角（アルミ枠） ＊壁点検口：樹脂製枠 ６００角（ビス止め） ＊天井点検口：アルミ製枠 ３００角 ＊《洗面化粧ユニット》 ＊《洗濯機用防水パン》
		RC	乾式二重床システム（一部パラフィン処理） （ラワン合板（防虫） t=５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	ビニル巾木	H=６０	—	外壁 ：断熱材 t=３０ ＧＢ−Ｓ t=９．５の上ビニルクロス貼り 住戸界壁：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り	—	一般階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（木下地）			
	便所	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（木下地）	最上階：CH=２，０５０ 一般階：CH=２，０５０	—	＊タオル掛け：ステンレス製リング ＊補助手摺：Ｌ型 ６００×７００ ＊手摺補強下地 ＊天井点検口：アルミ製枠 ３００角 ＊《紙巻器》 ＊《便器》
		RC	乾式二重床システム（一部パラフィン処理） （ラワン合板（防虫） t=５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	ビニル巾木	H=６０	—	外壁 ：断熱材 t=３０ 裏打ちＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り 住戸界壁：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り	—	一般階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（木下地）			
	浴室 （浴室ユニット）	W･LGS	—	—	—	—	—	—	—	—	—	＊補助手摺：Ｉ型 L=６００・６５０ ＊手摺補強下地 ＊鏡 ＊タオル掛け：ステンレス製 L=４００ ＊照明：樹脂グローブ ＊ＦＲＰ製浴槽
		RC	浴室ユニット１２１６型（高齢者対応浴槽落し込み型）	—	—	—	浴室ユニット１２１６型（高齢者対応浴槽落し込み型）	—	浴室ユニット１２１６型（高齢者対応浴槽落し込み型）			
	物入	W･LGS	—	雑巾摺	—	素地	間仕切 ：押入用プリント合板 t=４．０貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 押入用プリント合板 t=２．５貼り（ＬＧＳ下地）	展開図による	—	＊中段：ラワン合板（防虫）（押入パネル t=３０） 一部 可動棚（ラワン合板（防虫）フラッシュ t=３０） ＊枕棚：ラワン合板（防虫）（押入パネル t=３０） ＊ＳＵＳハンガーパイプ φ３２
		RC	木製床組押入パネル t=４２（ラワン合板（防虫） t=９．０貼り）	雑巾摺	—	素地	外壁 ：断熱材 t=３０ 裏打ち押入用プリント合板 t=４．０貼り 住戸界壁：押入用プリント合板 t=４．０貼り（内装パネル）	—	一般階：スラブ下ポリスチレンフォーム保温材 t=２５（外壁より９００迄） 押入用プリント合板 t=２．５貼り			
	物入 （１ＤＫ廊下部）	W･LGS	—	ビニル巾木	H=６０	—	間仕切 ：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（内装パネル）	—	最上階：ＧＢ−Ｒ t=９．５の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	最上階：CH=２，４１０ 一般階：直天 CH=２，３５０	—	
		RC	乾式二重床システム （ラワン合板（防虫） t=１２．０＋５．５捨貼の上 発泡層付塩ビシート t=２．３貼り）	ビニル巾木	H=６０	—	住戸界壁：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り	—	一般階：コンクリート打放し下地処理の上 ビニルクロス貼り			
共 通	ＰＳ・ＭＢ ＥＰＳ	W･LGS	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		RC	コンクリート打放し金コテ押え 一部防水モルタル金コテ押え	—	—	—	コンクリート打放し 素地のまま	—	コンクリート打放し 素地のまま			

化学物質の濃度測定

測定対象室及び測定箇所
※ 監督員の指示による（各住戸タイプの居室がすべて測定できるようにする。）
採取条件
※ 平成１３年国土交通省告示第１３４７号（以下「評価方法基準」という。）
第５の６−３の（３）のイに定める採取条件に準ずる。
測定者
※ 監督員が承諾する専門業者

測定数：
※ 当該団地における建設戸数又は大規模改善戸数の１割以上（１０戸未満の場合は１戸以上）で、各住戸２室以上とする。
１４９戸／１０＝１４．９→１５戸
（基準階及び最上階の１ＤＫ：５戸、２ＤＫ：５戸、３ＤＫ：５戸）

注記

1. 住戸の内装は、内装プレハブ工法による間仕切壁、外周壁（物入）、床パネル（物入）等による。
2. 外壁廻りは、断熱壁：押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=３０の上、ＧＢ−Ｒ t=９．５ とする。
断熱壁（８階３０Ｋ妻住戸のみ）：フェノールフォーム断熱材Ⅰ種2号ＣⅡ t=３０の上、ＧＢ−Ｒ t=９．５ とする。
１Ｆスラブ下断熱材は、スラブ下〜梁側面４５０まで、押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=４０ とする。
ピロティ部スラブ下断熱材は、２Ｆスラブ下〜梁底までとする。
ＲＦスラブ下断熱材（８階３０Ｋ妻住戸のみ）は、梁側面〜４５０まで押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=２０ とする。
ＲＦスラブ下梁側面断熱材（８階太陽光パネル基礎直下のみ）は、梁底まで押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=２０ とする。
3. 住戸界壁は、コンクリート打放し仕上げＢ種の上、仕上材張りとする。
4. 住戸界壁は、内装ボード類は、全てノンアスベストとする。
5. 日除けカーテン（ビニル底製品）を、全住戸の窓に設置する。
6. 最上階天井裏：住宅用グラスウール断熱材（ＧＷ−Ｆ）敷込み t=５０ ２４Ｋｇ相当とする。
7. 《 》内は、別途設備工事を示す。
8. 廊下・ＤＫ・洋室・洗面室・便所の床下地は、ベースパネル＋合板＋支持脚
（１階：一般タイプ、２階以上：遮音タイプ、ＢＬ認定品）とする。
9. 補助手すりは、ステンレス製樹脂コーティング φ３４とする。
10. 妻住戸等、断熱計算において数値を裏足できない場合は、フェノールフォーム断熱材１種２号ＣⅡ t=３０により断熱補強等を行う。
11. 居室、廊下の壁・天井の仕上は準不燃仕上とする。

準不燃材料 石こうボード t=９．５ ： 準不燃 ＱＭ−９８２８ 吉野石膏(株) タイガーボード 同等以上
シージング石こうボード t=９．５ ： 準不燃 ＱＭ−９８９８ 吉野石膏(株) タイガーボード 同等以上
ビニルクロス（不燃・準不燃石膏ボード下地）： 防火種別 ２−２ 準不燃 ＱＭ−９４１９ 同等以上

不燃材料 化粧珪酸カルシウム（ＦＫ）板 t=６．０ ： 不燃 ＮＭ−８４２４ 同等以上

化学物質の測定箇所 住戸： １５戸（建設戸数の１割以上） 各住戸：２室
（基準階及び最上階の１ＤＫ：５戸、２ＤＫ：５戸、３ＤＫ：５戸）

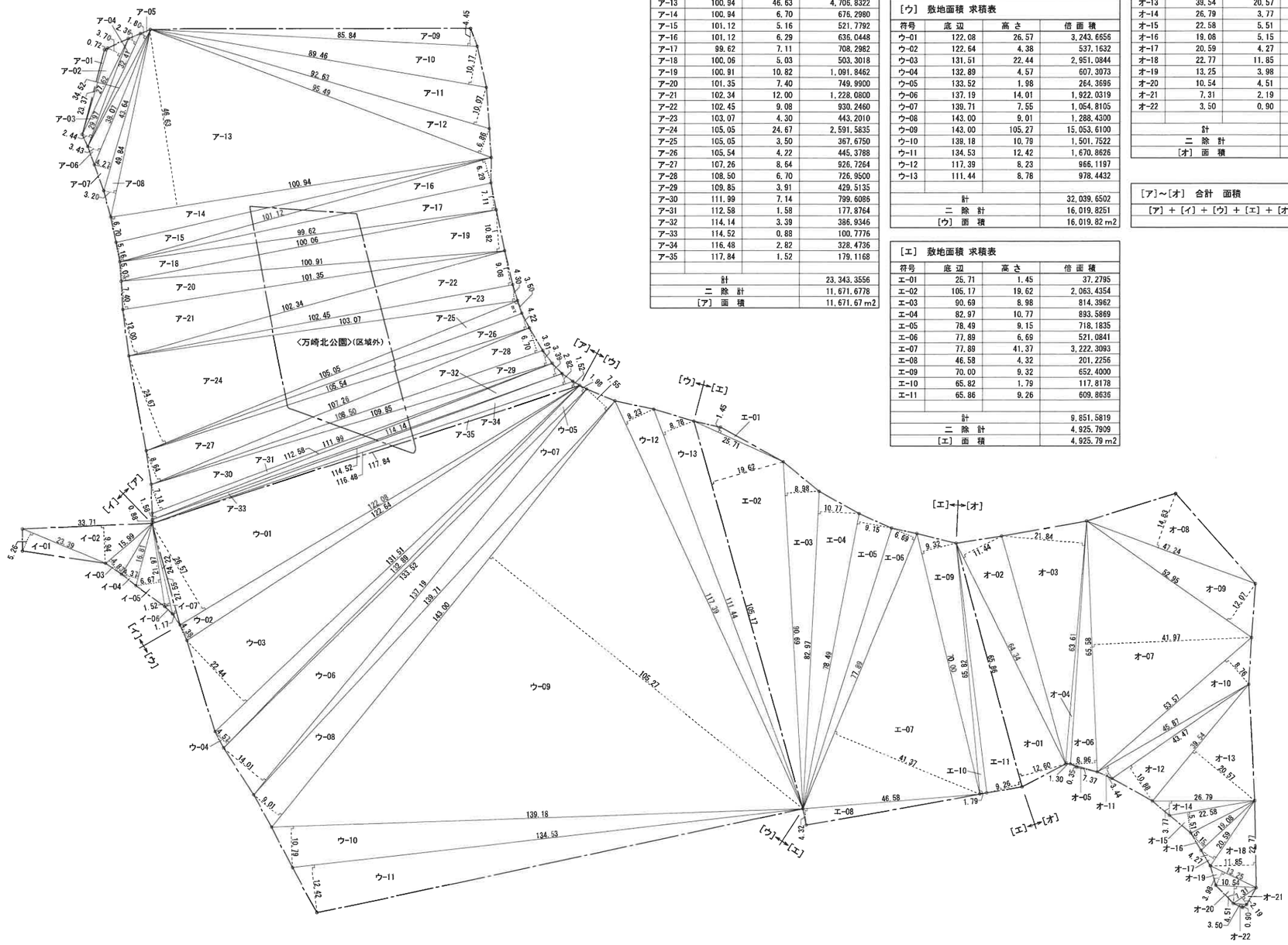
凡例

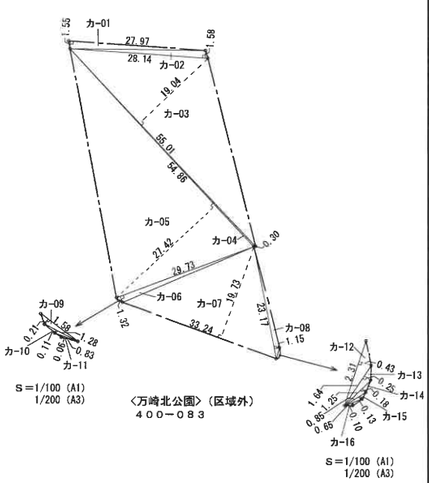
ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
ＤＰ	耐候性塗料塗りＣ種（櫻仕18,7,4）
ＧＢ−Ｒ	せっこうボード
ＧＢ−Ｓ	耐水性せっこうボード
化粧ＦＫ	化粧けい酸カルシウム板

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	内部仕上表		
Ａ３縮尺	—	Ａ１縮尺	—
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０１８

原寸法 0 10 20 30 50 75 100mm

真北





［ア］ 敷地面積 求積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
ア-01	23.37	0.72	16.8264
ア-02	27.62	3.70	102.1940
ア-03	29.97	2.44	73.1268
ア-04	32.41	2.36	76.4876
ア-05	34.52	1.80	62.1360
ア-06	38.07	3.43	130.5801
ア-07	43.64	4.27	186.3428
ア-08	49.84	3.20	159.4880
ア-09	85.84	4.45	381.9880
ア-10	89.46	10.17	909.8082
ア-11	92.63	10.07	932.7841
ア-12	95.49	6.86	655.0614
ア-13	100.94	46.63	4,705.8322
ア-14	100.94	6.70	676.2980
ア-15	101.12	5.16	521.7792
ア-16	101.12	6.29	636.0448
ア-17	99.62	7.11	708.2982
ア-18	100.06	5.03	503.3018
ア-19	100.91	10.82	1,091.8462
ア-20	101.35	7.40	749.9900
ア-21	102.34	12.00	1,228.0800
ア-22	102.45	9.08	930.2460
ア-23	103.07	4.30	443.2010
ア-24	105.05	24.67	2,591.5835
ア-25	105.05	3.50	367.6750
ア-26	105.54	4.22	445.3788
ア-27	107.26	8.64	926.7264
ア-28	108.50	6.70	726.9500
ア-29	109.85	3.91	429.5135
ア-30	111.99	7.14	799.6086
ア-31	112.58	1.58	177.8764
ア-32	114.14	3.39	386.9346
ア-33	114.52	0.88	100.7776
ア-34	116.48	2.82	328.4736
ア-35	117.84	1.52	179.1168
計			23,343.3556
二 除 計			11,671.6778
［ア］ 面 積			11,671.67 m2

［イ］ 敷地面積 求積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
イ-01	23.39	5.26	123.0314
イ-02	33.71	9.94	335.0774
イ-03	15.99	4.83	77.2317
イ-04	16.81	4.37	73.4597
イ-05	21.97	6.67	146.5399
イ-06	24.22	1.52	36.8144
イ-07	27.55	1.17	32.2335
計			824.3880
二 除 計			412.1940
［イ］ 面 積			412.19 m2

［ウ］ 敷地面積 求積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
ウ-01	122.08	26.57	3,243.6656
ウ-02	122.64	4.38	537.1632
ウ-03	131.51	22.44	2,951.0844
ウ-04	132.89	4.57	607.3073
ウ-05	133.52	1.98	264.3696
ウ-06	137.19	14.01	1,922.0319
ウ-07	139.71	7.55	1,054.8105
ウ-08	143.00	9.01	1,288.4300
ウ-09	143.00	105.27	15,053.6100
ウ-10	139.18	10.79	1,501.7522
ウ-11	134.53	12.42	1,670.8626
ウ-12	117.39	8.23	966.1197
ウ-13	111.44	8.78	978.4432
計			32,039.6502
二 除 計			16,019.8251
［ウ］ 面 積			16,019.82 m2

［エ］ 敷地面積 求積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
エ-01	25.71	1.45	37.2795
エ-02	105.17	19.62	2,063.4354
エ-03	90.69	8.98	814.3962
エ-04	82.97	10.77	893.5869
エ-05	78.49	9.15	718.1835
エ-06	77.89	6.69	521.0841
エ-07	77.89	41.37	3,222.3093
エ-08	46.58	4.32	201.2256
エ-09	70.00	9.32	652.4000
エ-10	65.82	1.79	117.8178
エ-11	65.86	9.26	609.8636
計			9,851.5819
二 除 計			4,925.7909
［エ］ 面 積			4,925.79 m2

［オ］ 敷地面積 求積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
オ-01	65.86	12.60	829.8360
オ-02	64.34	11.44	736.0496
オ-03	63.61	21.84	1,389.2424
オ-04	63.61	1.30	82.6930
オ-05	7.37	0.35	2.5795
オ-06	65.58	6.96	456.4368
オ-07	65.58	41.97	2,752.3926
オ-08	47.24	14.83	700.5692
オ-09	52.95	12.07	639.1065
オ-10	53.57	8.76	469.2732
オ-11	45.87	3.44	157.7928
オ-12	43.47	10.88	472.9536
オ-13	39.54	20.57	813.3378
オ-14	26.79	3.77	100.9983
オ-15	22.58	5.51	124.4158
オ-16	19.06	5.15	98.2620
オ-17	20.59	4.27	87.9193
オ-18	22.77	11.85	269.8245
オ-19	13.25	3.98	52.7350
オ-20	10.54	4.51	47.5354
オ-21	7.31	2.19	16.0089
オ-22	3.50	0.90	3.1500
計			10,303.1122
二 除 計			5,151.5561
［オ］ 面 積			5,151.55 m2

［カ］ 敷地面積 求積表（万崎北公園）

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
カ-01	27.97	1.55	43.3535
カ-02	28.14	1.58	44.4612
カ-03	55.01	19.04	1,047.3904
カ-04	55.01	0.30	16.5030
カ-05	54.86	27.42	1,504.2612
カ-06	29.73	1.32	39.2436
カ-07	33.24	19.73	655.8252
カ-08	23.17	1.15	26.6455
カ-09	1.58	0.21	0.3318
カ-10	1.28	0.11	0.1408
カ-11	0.83	0.06	0.0498
カ-12	2.31	0.43	0.9933
カ-13	1.64	0.25	0.4100
カ-14	1.25	0.18	0.2250
カ-15	0.85	0.13	0.1105
カ-16	0.65	0.10	0.0650
計			3,380.0098
二 除 計			1,690.0049
［カ］（万崎北公園） 面 積			1,690.00 m2

［ア］～［オ］ 合計 面積

［ア］＋［イ］＋［ウ］＋［エ］＋［オ］ ＝	
38,181.02	m2

敷地面積

（［ア］～［オ］）－（万崎北公園）＝	
38,181.02 － 1,690.00 ＝	36,491.02 m2

工事概要

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	敷地求積図・面積表		
A３縮尺	１／１，２００	A１縮尺	１／６００
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／０１９
原寸法	0 10 20 30 40 50 60m		

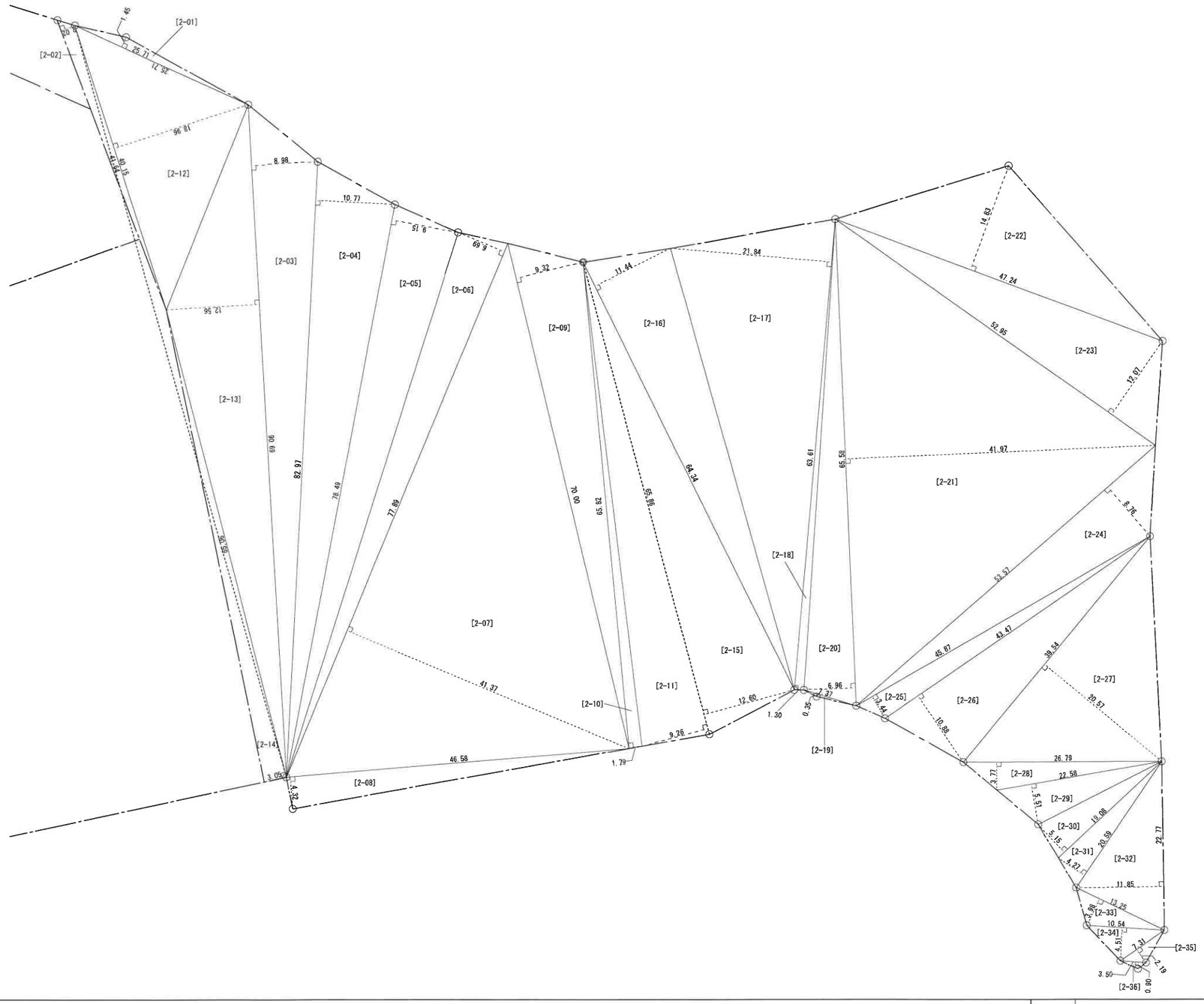
真北

東ブロック[２期] 面積表

符号	底 辺	高 さ	倍 面 積
[2-01]	25.71	1.45	37.2795
[2-02]	41.64	2.02	84.1128
[2-03]	90.69	8.98	814.3962
[2-04]	82.97	10.77	893.5869
[2-05]	78.49	9.15	718.1835
[2-06]	77.89	6.69	521.0841
[2-07]	77.89	41.37	3,222.3093
[2-08]	46.58	4.32	201.2256
[2-09]	70.00	9.32	652.4000
[2-10]	65.82	1.79	117.8178
[2-11]	65.86	9.26	609.8636
[2-12]	40.15	18.96	761.2440
[2-13]	90.69	12.56	1,139.0664
[2-14]	65.06	3.05	198.4330
[2-15]	65.86	12.06	829.8360
[2-16]	64.34	11.44	736.0496
[2-17]	63.61	21.84	1,389.2424
[2-18]	63.61	1.30	82.6930
[2-19]	7.37	0.35	2.5795
[2-20]	65.58	6.96	456.4368
[2-21]	65.58	41.97	2,752.3926
[2-22]	47.24	14.83	700.5692
[2-23]	52.95	12.07	639.1065
[2-24]	53.57	8.76	469.2732
[2-25]	45.87	3.44	157.7928
[2-26]	43.47	10.88	472.9536
[2-27]	39.54	20.57	813.3378
[2-28]	26.79	3.77	100.9983
[2-29]	22.58	5.51	124.4158
[2-30]	19.08	5.15	98.2620
[2-31]	20.59	4.27	87.9193
[2-32]	22.77	11.85	269.8245
[2-33]	13.25	3.98	52.7350
[2-34]	10.54	4.51	47.5354
[2-35]	7.31	2.19	16.0089
[2-36]	3.50	0.90	3.1500
計			20,274.1149
二 除 計			10,137.0574
仮 想 敷 地 面 積			10,137.05 m2

東ブロック[２期] 仮想敷地面積

１０，１３７．０５ ｍ２



工事概要

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	敷地求積図・面積表（仮想敷地）		
A３縮尺	１／６００	A１縮尺	１／３００
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／０２０
原寸法	0 5 10 15 20 25 30m		

【建物（住棟[１]・ごみ置場[１４]・自転車置場[２～１１]・バイク置場[１２，１３]）求積図・面積表】（建築基準法）

【 面 積 表 】

名称	計算式	面積等
敷地面積	敷地求積図・求積表より （１０，１３７．０５ ㎡）第二期仮想敷地面積	３６，４９１．０２ ㎡
建築面積	１，２４９．２１（住棟） ＋ １１２．３２（自転車置場） ＋ ４１．１６（バイク置場） ＋ ５１．００（ごみ置場） ＝	１，４５３．６９ ㎡
延床面積	８，３４５．０６（住棟） ＋ ２４２．５２（自転車置場） ＋ ７１．３６（バイク置場） ＋ ５１．００（ごみ置場） ＝	８，７０９．９４ ㎡
自動車車庫等の部分面積	８，７０９．９４（延床面積） ／ ５ ＝ １，７４１．９９ ㎡ ＞ ３１３．８８（自転車置場 ＋ バイク置場）	判定：［適合］
容積率対象床面積	７，９３８．７５（住棟） ＋ ５１．００（ごみ置場） ＝	７，９８９．７５ ㎡
建ぺい率	１，４５３．６９（建築面積） ／ ３６，４９１．０２（団地全体敷地面積） × １００ ＝ ３．９８３６ ％ ＜ ６０％（規定値） 判定：［適合］	３．９８ ％
	（ １，４５３．６９（建築面積） ／ １０，１３７．０５（第二期仮想敷地面積） × １００ ＝ １４．３４０３ ％ ＜ ６０％（規定値） 判定：［適合］ ）	（ １４．３５ ％）
容積率	７，９８９．７５（容積率対象面積）／ ３６，４９１．０２（団地全体敷地面積）× １００ ＝ ２１．８９５１ ％ ＜ ２００％（規定値） 判定：［適合］	２１．９０ ％
	（ ７，９８９．７５（容積率対象面積）／ １０，１３７．０５（第二期仮想敷地面積）× １００ ＝ ７８．８１７３ ％ ＜ ２００％（規定値） 判定：［適合］ ）	（ ７８．８２ ％）

エレベーター昇降路の部分面積 ＝ ８４．４０ ㎡　　共同住宅の共用廊下等の部分面積 ＝ ３２１．９１ ㎡

［住棟］ 建築基準法 建築面積求積表 （㎡）

記号	記号計算式	記号面積	倍率	計
(い)	１０５．１００ × ９．８００ ＝	１，０２９．９８００	１	１，０２９．９８００
(ろ)	５．１００ × ５．７５０ ＝	２９．３２５０	１	２９．３２５０
(は)	０．６００ × ３．６８０ ＝	２．２０８０	１	２．２０８０
(に)	２．９４０ × ７．０５０ ＝	２０．７２７０	１	２０．７２７０
(ほ)	１．４８０ × ４．４００ ＝	６．５１２０	２	１３．０２４０
(へ)	１．４５０ × ４．０５０ ＝	５．８７２５	２	１１．７４５０
(と)	１０５．３２０ × ０．６８０ ＝	７１．６１７６	１	７１．６１７６
(ち)	５０．２８０ × ０．６８０ ＝	３４．１９０４	１	３４．１９０４
(り)	５０．２００ × ０．６８０ ＝	３４．１３６０	１	３４．１３６０
(ぬ)	０．５３０ × ０．３５０ ＝	０．１８５５	２	０．３７１０
(る)	２．８７０ × ０．３８０ ＝	１．０９０６	１	１．０９０６
(を)－１	０．２７０ × １．０７０ ＝	０．２８８９	１	０．２８８９
(を)－２	０．９２０ × ０．２７０ ＝	０．２４８４	２	０．４９６８
合 計				１，２４９．２００３
改め計（建築面積）				１，２４９．２１

［住棟］ 建築基準法 床面積（容積率対象）求積表 （㎡）

階	記号	記号計算式	記号面積	倍率	計
１階	１ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	４０．５６１０	１	４０．５６１０
	２ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	５１．４４２５	１１	５６５．８６７５
	３ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	５９．９０２５	５	２９９．５１２５
	(A)	３．４００ × １．２００ ＝	４．０８００	８	３２．６４００
	(B)	４．０００ × １．１７０ ＝	４．６８００	１	４．６８００
	(C)	１．４９０ × ４．１５０ ＝	６．１８３５	１	６．１８３５
	(D)	２．９００ × １．３００ ＝	３．７７００	１	３．７７００
	(E)	１．４５０ × ２．５５０ ＝	３．６９７５	１	３．６９７５
	(F)	１．４８０ × ４．４００ ＝	６．５１２０	２	１３．０２４０
	(G)	１．４５０ × ４．０５０ ＝	５．８７２５	２	１１．７４５０
	(H)	０．４４５ × ２．０５０ ＝	０．９１２２	１	０．９１２２
	(I)	２．８５０ × ０．４５０ ＝	１．２８２５	１	１．２８２５
	(J)	０．２７０ × １．０７０ ＝	０．２８８９	１	０．２８８９
	(K)	０．９２０ × ０．２７０ ＝	０．２４８４	２	０．４９６８
	(2)	４．７００ × ７．３５０ ＝	３４．５４５０	１	３４．５４５０
	(3)	２．０００ × １．２８０ ＝	２．５６００	１	２．５６００
	(4)	２．２５５ × ２．０５０ ＝	４．６２２７	１	４．６２２７
	(5)	２．８１０ × ０．４００ ＝	１．１２４０	１	１．１２４０
	(9)	０．６００ × ２．０８０ ＝	１．２４８０	１	１．２４８０
	計				１，０２８．７６１１
	改め計（１階 容積率対象面積）				１，０２８．７７
階	記号	記号計算式	記号面積	倍率	計
２～８階	１ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	４０．５６１０	２	８１．１２２０
	２ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	５１．４４２５	１１	５６５．８６７５
	３ＤＫ（住戸専用）	住戸専用面積 求積図・求積表より ＝	５９．９０２５	５	２９９．５１２５
	(A)	３．４００ × １．２００ ＝	４．０８００	８	３２．６４００
	(B)	４．０００ × １．１７０ ＝	４．６８００	１	４．６８００
	(I)	２．８５０ × ０．４５０ ＝	１．２８２５	１	１．２８２５
	(J)	０．２７０ × １．０７０ ＝	０．２８８９	１	０．２８８９
	(K)	０．９２０ × ０．２７０ ＝	０．２４８４	２	０．４９６８
	(9)	０．６００ × ２．０８０ ＝	１．２４８０	１	１．２４８０
	計				９８７．１３８２
	改め計（２～８階（各階）容積率対象面積）				９８７．１４
	計（２～８階 容積率対象面積 計） ９８７．１４ × ７ ＝				６，９０９．９８
容積率対象面積 合計					７，９３８．７５

［エレベーター昇降路の部分・共同住宅の共用廊下等の部分］ （㎡）

［エレベーター昇降路の部分 合計］ １０．５５ ＋（ １０．５５ × ７ ） ＝	８４．４０
［共同住宅の共用廊下等の部分 合計］ ４４．２２ ＋（ ３９．６７ × ７ ） ＝	３２１．９１

［住棟］ 建築基準法 床面積求積表 （㎡）

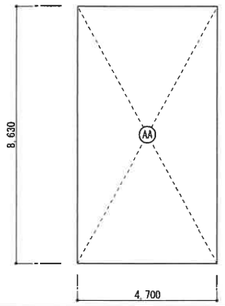
階	建築基準法床面積（容積率対象＋対象外）			建築基準法床面積（容積率対象）
	（容積率対象面積）	（容積率対象外面積）		
８ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
７ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
６ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
５ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
４ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
３ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
２ 階	９８７．１４ ＋	５０．２２	＝ １，０３７．３６	９８７．１４
１ 階	１，０２８．７７ ＋	５４．７７	＝ １，０８３．５４	１，０２８．７７
合 計			８，３４５．０６	７，９３８．７５

［住棟］ 建築基準法 床面積（容積率対象外）求積表 （㎡）

階	記号	記号計算式	記号面積	倍率	計
１階	［エレベーター昇降路の部分］				
	(1)	２．８５０ × ３．７００ ＝	１０．５４５０	１	１０．５４５０
		計			１０．５４５０
		改め計（エレベーター昇降路の部分）			１０．５５
	［共同住宅の共用廊下等の部分］				
	(6)	１．８３０ × １．１７０ ＝	２．１４１１	１	２．１４１１
	(7)	８．６４０ × １．６００ ＝	１３．８２４０	１	１３．８２４０
	(8)	２．２５０ × ４．１５０ ＝	９．３３７５	１	９．３３７５
	(10)	１．４５０ × １．６００ ＝	２．３２００	１	２．３２００
	(11)	１．５５５ × ０．５００ ＝	０．７７７５	１６	１２．４４００
	(12)	０．８７０ × ０．７７０ ＝	０．６６９９	１	０．６６９９
	(13)	０．２７０ × ２．０００ ＝	０．５４００	１	０．５４００
	(14)	０．９２０ × １．６００ ＝	１．４７２０	２	２．９４４０
		計			４４．２１６５
		改め計（共同住宅の共用廊下等の部分）			４４．２２
		計（１階 容積率対象外面積 計）			５４．７７
階	記号	記号計算式	記号面積	倍率	計
２～８階	［エレベーター昇降路の部分］				
	(1)	２．８５０ × ３．７００ ＝	１０．５４５０	１	１０．５４５０
		計			１０．５４５０
		改め計（エレベーター昇降路の部分）			１０．５５
	［共同住宅の共用廊下等の部分］				
	(5)	２．８１０ × ０．４００ ＝	１．１２４０	１	１．１２４０
	(8)	２．２５０ × ４．１５０ ＝	９．３３７５	１	９．３３７５
	(11)	１．５５５ × ０．５００ ＝	０．７７７５	１６	１２．４４００
	(13)	０．２７０ × ２．０００ ＝	０．５４００	１	０．５４００
	(14)	０．９２０ × １．６００ ＝	１．４７２０	２	２．９４４０
	(15)	５．７００ × １．６００ ＝	９．１２００	１	９．１２００
	(16)	２．７００ × ０．７７０ ＝	２．０７９０	１	２．０７９０
	(17)	２．７００ × ０．７７０ ＝	２．０７９０	１	２．０７９０
		計			３９．６６３５
		改め計（共同住宅の共用廊下等の部分）			３９．６７
		計（２～８階（各階）容積率対象外面積 計）			５０．２２
		計（２～８階 容積率対象外面積 計） ５０．２２ × ７ ＝			３５１．５４
容積率対象外面積 合計					４０６．３１

［住棟］ 住戸専用面積 求積図・求積表

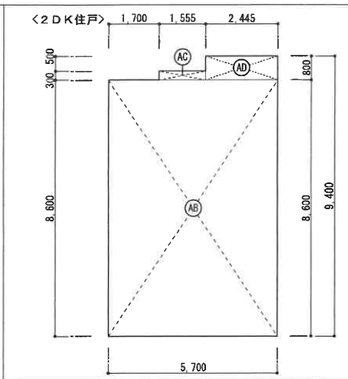
〈１ＤＫ住戸〉



［１ＤＫ住戸］ 住戸専用面積 （㎡）

符号	計算式	面積
(AA)	４．７００ × ８．６３０ ＝	４０．５６１０
合 計		４０．５６１０

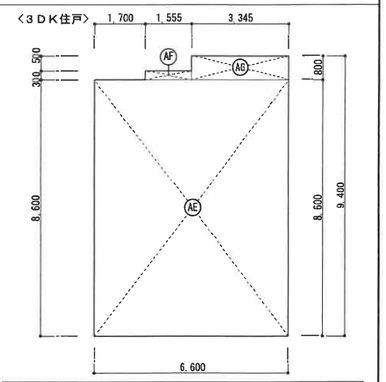
〈２ＤＫ住戸〉



［２ＤＫ住戸］ 住戸専用面積 （㎡）

符号	計算式	面積
(AB)	５．７００ × ８．６００ ＝	４９．０２００
(AC)	１．５５５ × ０．３００ ＝	０．４６６５
(AD)	２．４４５ × ０．８００ ＝	１．９５６０
合 計		５１．４４２５

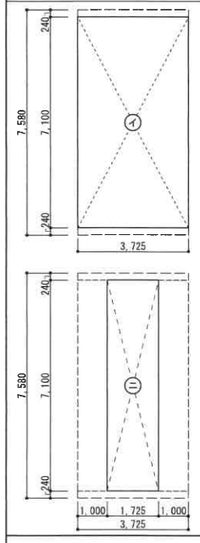
〈３ＤＫ住戸〉

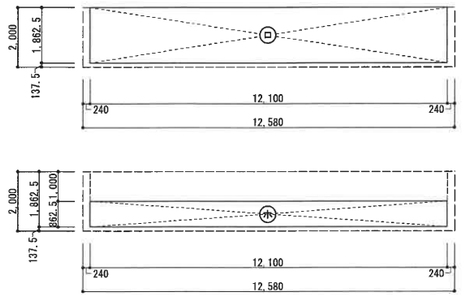


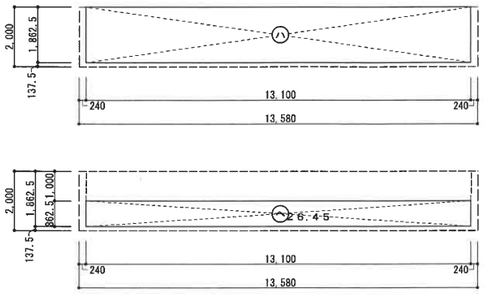
［３ＤＫ住戸］ 住戸専用面積 （㎡）

符号	計算式	面積
(AE)	６．６００ × ８．６００ ＝	５６．７６００
(AF)	１．５５５ × ０．３００ ＝	０．４６６５
(AG)	３．３４５ × ０．８００ ＝	２．６７６０
合 計		５９．９０２５

［自転車置場］ 床面積・建築面積 求積図・求積表







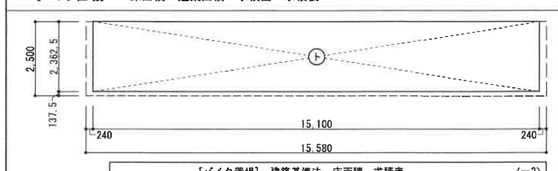
［自転車置場］ 建築基準法 床面積 求積表 （㎡）

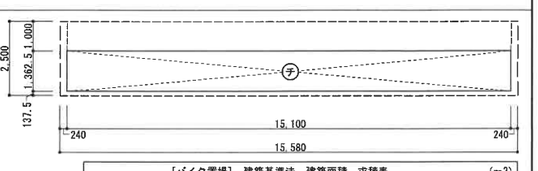
符号	計算式	記号面積	倍率	面積
(イ)	３．７２５ × ７．１００ ＝ ２６．４４７５	２６．４５	２	５２．９０
(ロ)	１２．１００ × １．８６２５ ＝ ２２．５３６２	２２．５４	３	６７．６２
(ハ)	１３．１００ × １．８６２５ ＝ ２４．３９８７	２４．４０	５	１２２．００
合 計				２４２．５２

［自転車置場］ 建築基準法 建築面積 求積表 （㎡）

符号	計算式	記号面積	倍率	面積
(ニ)	１．７２５ × ７．１００ ＝ １２．２４７５	１２．２５	２	２４．５０
(ホ)	１２．１００ × ０．８６２５ ＝ １０．４３６２	１０．４４	３	３１．３２
(ヘ)	１３．１００ × ０．８６２５ ＝ １１．２９８７	１１．３０	５	５６．５０
合 計				１１２．３２

［バイク置場］ 床面積・建築面積 求積図・求積表





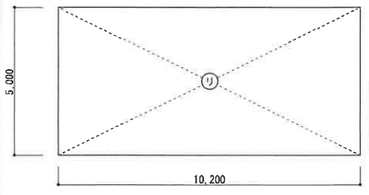
［バイク置場］ 建築基準法 床面積 求積表 （㎡）

符号	計算式	記号面積	倍率	面積
(ト)	１５．１００ × ２．３６２５ ＝ ３５．６７３７	３５．６８	２	７１．３６
合 計				７１．３６

［バイク置場］ 建築基準法 建築面積 求積表 （㎡）

符号	計算式	記号面積	倍率	面積
(チ)	１５．１００ × １．３６２５ ＝ ２０．５７３７	２０．５８	２	４１．１６
合 計				４１．１６

［ごみ置場］ 床面積・建築面積 求積図・求積表



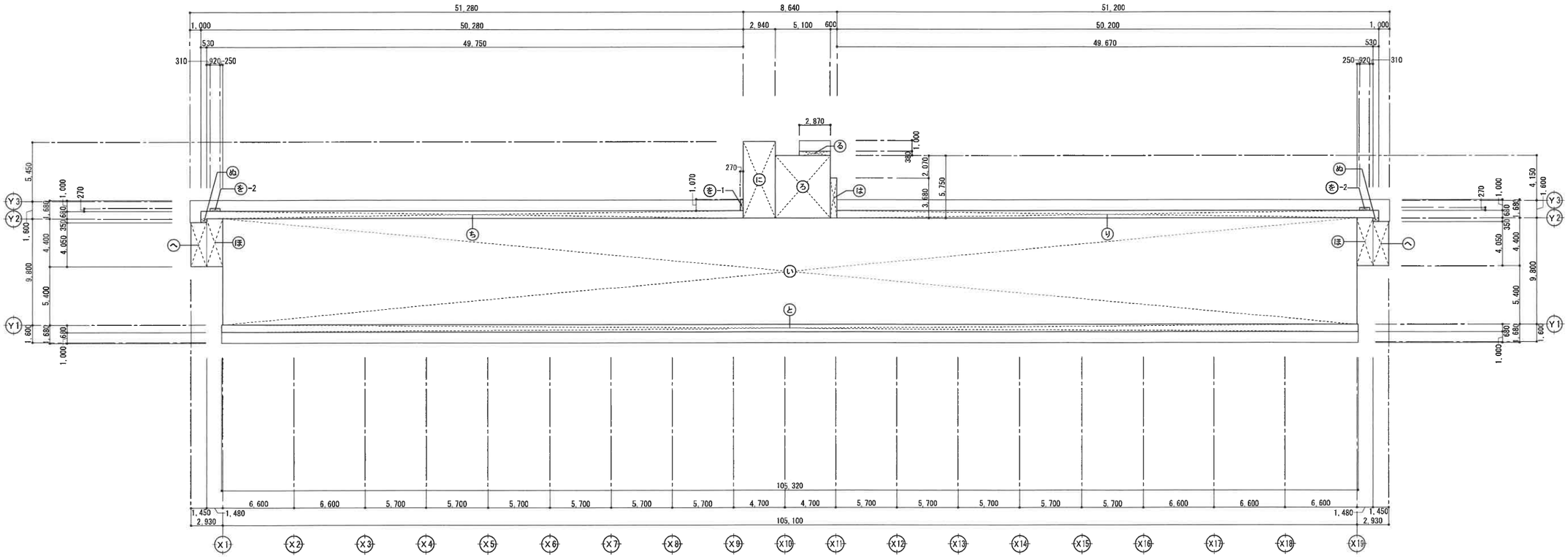
（㎡）

符号	計算式	記号面積	倍率	面積
(リ)	１０．２００ × ５．０００ ＝ ５１．０００	５１．００	１	５１．００
合 計				５１．００

一級建築士（大臣）第251646号 庄田 正

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０１（建築基準法０１）		
A３縮尺	１／２００	A１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０２１

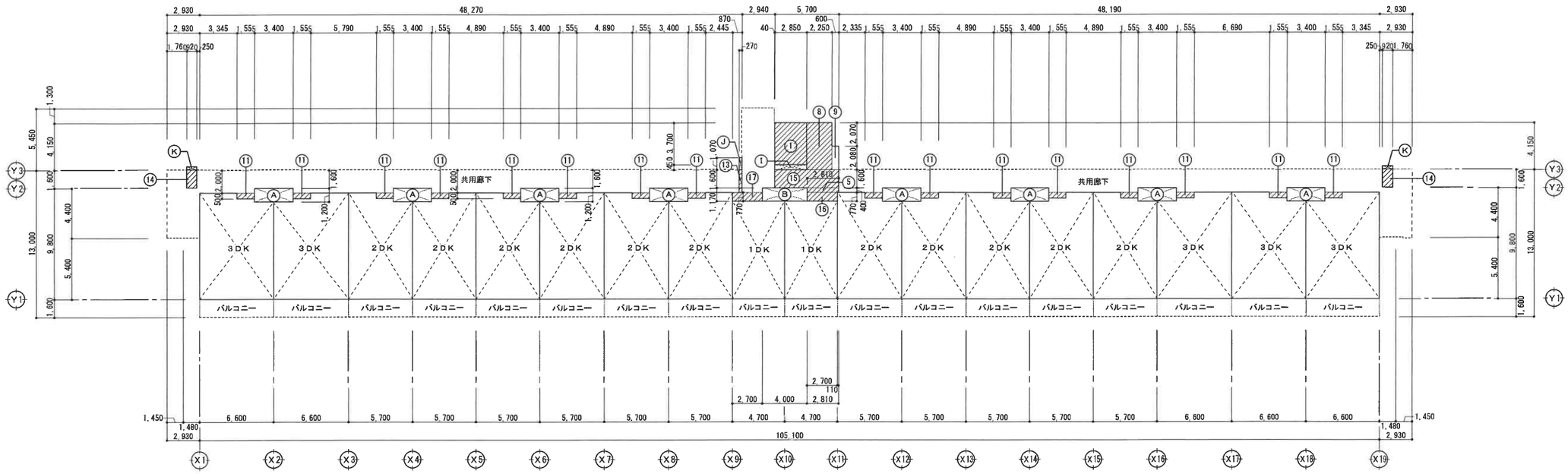
原寸法 0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm



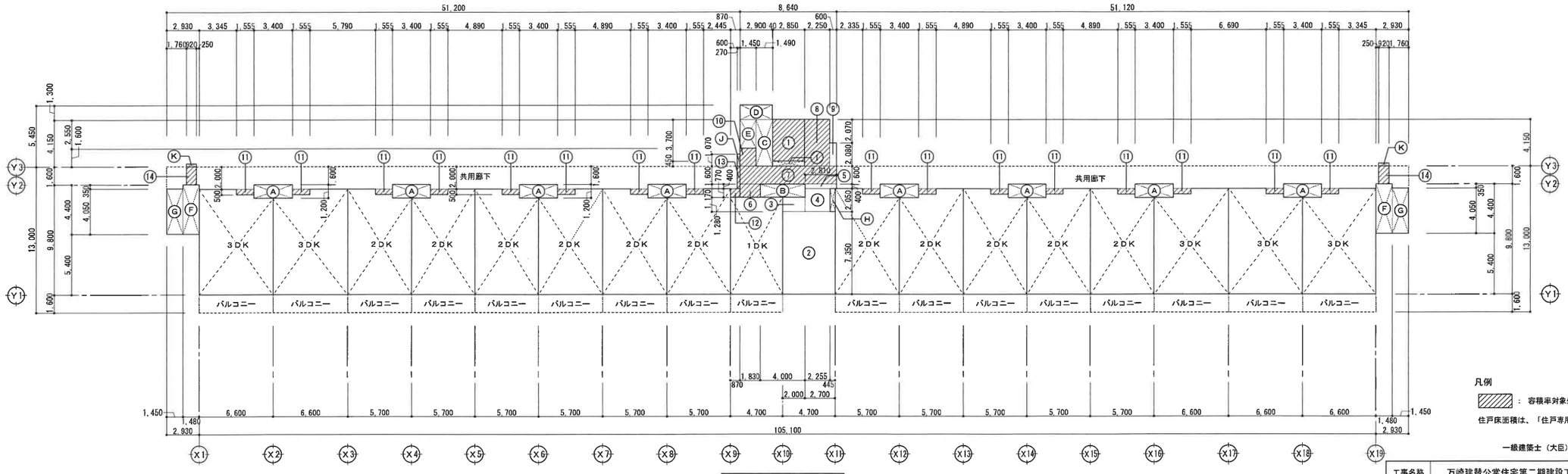
建築面積　求積図

一級建築士（大臣）第251646号　庄田　正

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０２（建築基準法０２）		
Ａ３縮尺	１／４００	Ａ１縮尺	１／２００
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０２２
原寸法	0　2,000　5,000　10,000　15,000　20,000mm		



2～8階床面積　求積図



1階床面積　求積図

凡例

▨ ： 容積率対象外面積部分を示す。

住戸床面積は、「住戸専用面積算定表」による。

一級建築士（大臣）第251646号　庄田　正

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０３（建築基準法０３）		
A３縮尺	１／４００	A１縮尺	１／２００
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０２３
原寸法	0　2,000　5,000　10,000　15,000　20,000mm		

【建物（住棟）求積図・面積表】（公営住宅法）

［公営住宅法］ 床面積 求積表

(m2)

階	住戸タイプ	戸数	住宅占有面積 住戸専用面積							バルコニー面積（1／3）				小計	住宅共用部面積	階面積 合計
8階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	318.7868	1,321.3422
7階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
6階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
5階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
4階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
3階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134	86.1354		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
2階	1DKタイプ住戸	2戸	40.5610	×	2	=	81.1220	2.5067	×	2	=	5.0134			
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400			
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000			
	計	18戸					946.5020					56.0534	1,002.5554	325.3029	1,327.8583
1階	1DKタイプ住戸	1戸	40.5610	×	1	=	40.5610	2.5067	×	1	=	2.5067	43.0677		
	2DKタイプ住戸	11戸	51.4425	×	11	=	565.8675	3.0400	×	11	=	33.4400	599.3075		
	3DKタイプ住戸	5戸	59.9025	×	5	=	299.5125	3.5200	×	5	=	17.6000	317.1125		
	計	17戸					905.9410					53.5467	959.4877	365.8639	1,325.3516
合計	1DKタイプ住戸	15戸	40.5610	×	15	=	608.4150	2.5067	×	15	=	37.6005	646.0155		
	2DKタイプ住戸	88戸	51.4425	×	88	=	4,526.9400	3.0400	×	88	=	267.5200	4,794.4600		
	3DKタイプ住戸	40戸	59.9025	×	40	=	2,396.1000	3.5200	×	40	=	140.8000			
	計	143戸					7,531.4550					445.9205	2,536.9000	2,636.4681	10,613.8436
戸当り床面積			7,531.4550	／	143戸	=	52.6675	445.9205	／	143戸	=	3.1183	55.7858	2,636.4681 ／ 143戸 = 18.4368	74.2226

［公営住宅法］ 住宅共用部面積 求積表

1階 住宅共用部面積 求積表

符号	計算式							符号面積（m2）
①	4.700	×	8.630	×	1	=		40.5610
②	9.400	×	2.770	×	1	=		26.0380
③	8.910	×	1.070	×	1	=		9.5337
④	8.640	×	1.010	×	1	=		8.7264
⑤	8.040	×	2.070	×	1	=		16.6428
⑥	2.940	×	1.300	×	1	=		3.8220
⑦	2.445	×	2.000	×	1	=		4.8900
⑧	2.335	×	2.000	×	1	=		4.6700
⑨	1.555	×	2.500	×	16	=		62.2000
⑩	3.400	×	2.800	×	8	=		76.1600
⑪	4.890	×	2.000	×	4	=		39.1200
⑫	5.790	×	2.000	×	1	=		11.5800
⑬	6.690	×	2.000	×	1	=		13.3800
⑭	3.345	×	2.000	×	2	=		13.3800
⑮	2.930	×	6.000	×	2	=		35.1600
1階 住宅共用部面積 合計								365.8639

2～7階（階面積） 住宅共用部面積 求積表

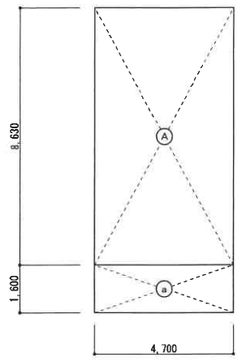
符号	計算式							符号面積（m2）
②	9.400	×	2.770	×	1	=		26.0380
③	8.910	×	1.070	×	1	=		9.5337
④	8.640	×	1.010	×	1	=		8.7264
⑤	8.040	×	2.070	×	1	=		16.6428
⑥	2.940	×	1.300	×	1	=		3.8220
⑦	2.445	×	2.000	×	1	=		4.8900
⑧	2.335	×	2.000	×	1	=		4.6700
⑨	1.555	×	2.500	×	16	=		62.2000
⑩	3.400	×	2.800	×	8	=		76.1600
⑪	4.890	×	2.000	×	4	=		39.1200
⑫	5.790	×	2.000	×	1	=		11.5800
⑬	6.690	×	2.000	×	1	=		13.3800
⑭	3.345	×	2.000	×	2	=		13.3800
⑮	2.930	×	6.000	×	2	=		35.1600
2～7階（階面積） 住宅共用部面積 合計								325.3029

8階 住宅共用部面積 求積表

符号	計算式							符号面積（m2）
②	9.400	×	2.770	×	1	=		26.0380
③	8.910	×	1.070	×	1	=		9.5337
⑦	2.445	×	2.000	×	1	=		4.8900
⑧	2.335	×	2.000	×	1	=		4.6700
⑨	1.555	×	2.500	×	16	=		62.2000
⑩	3.400	×	2.800	×	8	=		76.1600
⑪	4.890	×	2.000	×	4	=		39.1200
⑫	5.790	×	2.000	×	1	=		11.5800
⑬	6.690	×	2.000	×	1	=		13.3800
⑭	3.345	×	2.000	×	2	=		13.3800
⑯	5.700	×	1.010	×	1	=		5.7570
⑰	5.100	×	2.070	×	1	=		10.5570
⑱	1.470	×	0.530	×	1	=		0.7791
⑲	2.940	×	3.850	×	1	=		11.3190
⑳	1.545	×	1.600	×	2	=		4.9440
㉑	1.480	×	0.450	×	2	=		1.3320
㉒	2.930	×	3.950	×	2	=		23.1470
8階 住宅共用部面積 合計								318.7868

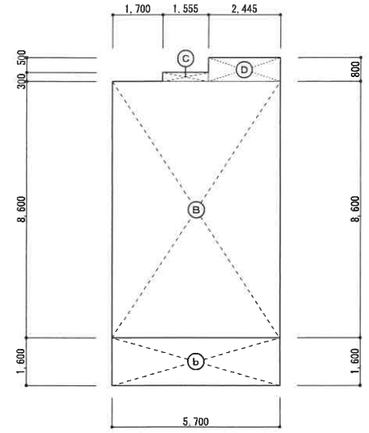
［住戸］ 住戸専用面積・住戸占有面積 求積図・求積表

［A］ 1DKタイプ住戸（15戸）



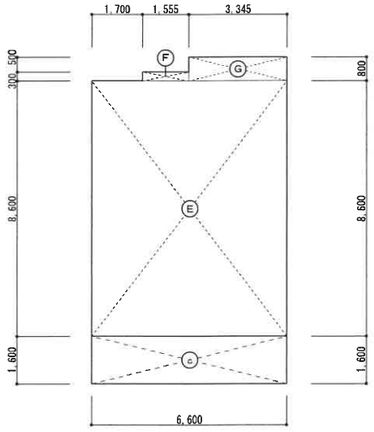
符号等		計算式				面積（m2）
住戸専用面積	A	4.700	×	8.630	=	40.5610
	計					40.5610
バルコニー面積（×1/3）	a	4.700	×	1.600	× 1／3 =	2.5067
	計					2.5067
住宅共用部面積		2,630.9367 ×（40.5610 ／ 7,531.4550 ）=				14.1690
1DKタイプ住戸 合計（住宅占有面積）						57.2367

［B］ 2DKタイプ住戸（88戸）



符号等		計算式				面積（m2）
住戸専用面積	B	5.700	×	8.600	=	49.0200
	C	1.555	×	0.300	=	0.4665
	D	2.445	×	0.800	=	1.9560
	計					51.4425
バルコニー面積（×1/3）	b	5.700	×	1.600	× 1／3 =	3.0400
	計					3.0400
住宅共用部面積		2,630.9367 ×（51.4425 ／ 7,531.4550 ）=				17.9702
2DKタイプ住戸 合計（住宅占有面積）						72.4527

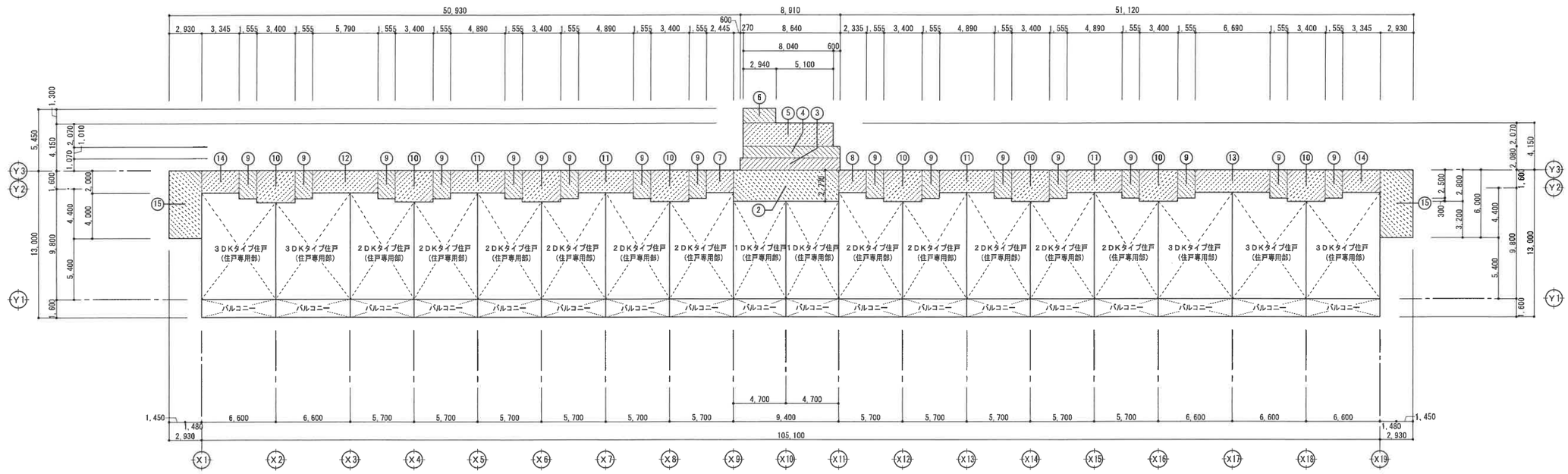
［C］ 3DKタイプ住戸（40戸）



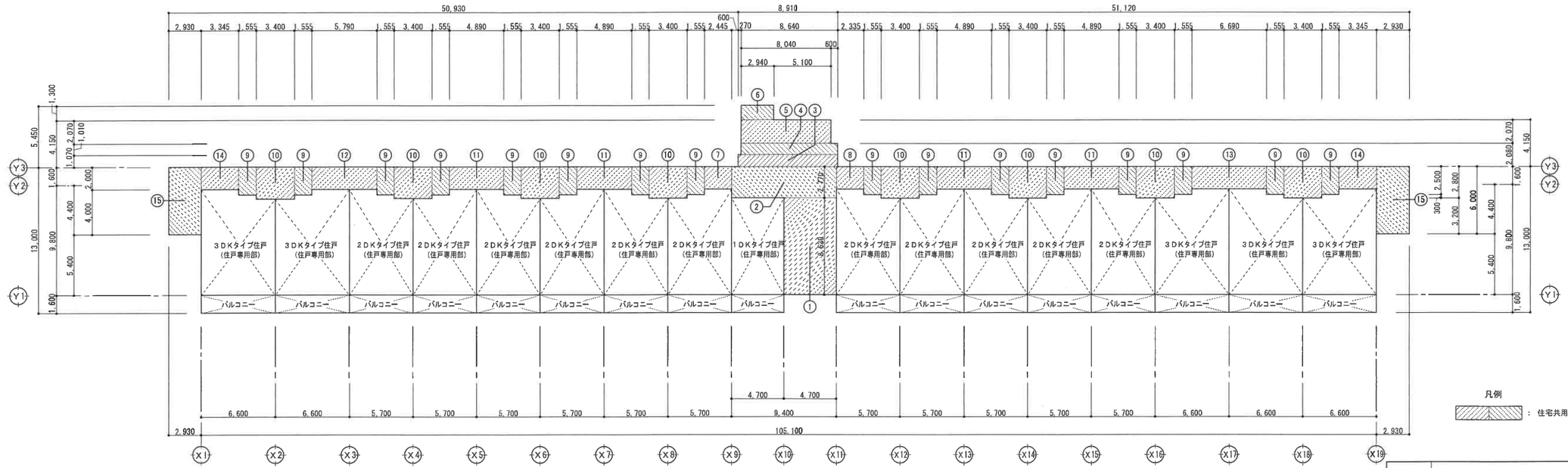
符号等		計算式				面積（m2）
住戸専用面積	E	6.600	×	8.600	=	56.7600
	F	1.555	×	0.300	=	0.4665
	G	3.345	×	0.800	=	2.6760
	計					59.9025
バルコニー面積（×1/3）	c	6.600	×	1.600	× 1／3 =	3.5200
	計					3.5200
住宅共用部面積		2,630.9367 ×（59.9025 ／ 7,531.4550 ）=				20.9255
3DKタイプ住戸 合計（住宅占有面積）						84.3480

符号等		計算式	面積（m2）
住戸専用面積			
バルコニー面積（×1/3）			
住宅共用部面積			
1DKタイプ住戸 合計（住宅占有面積）			

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０４（公営住宅法０１）		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／024
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



2～7階住宅共用部面積　求積図

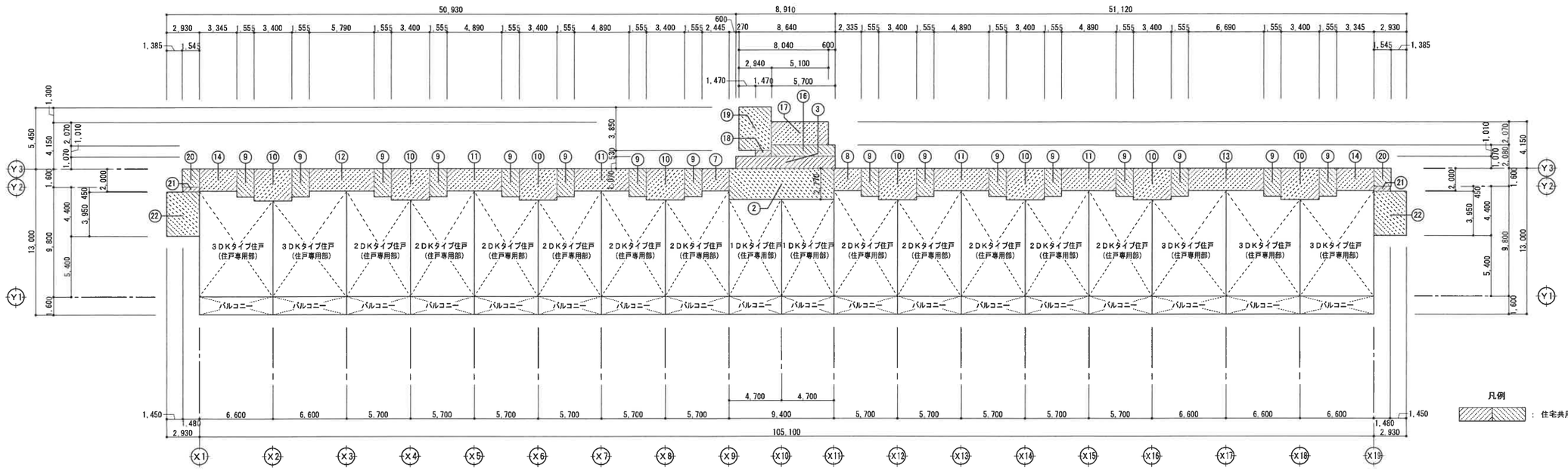


1階住宅共用部面積　求積図

凡例

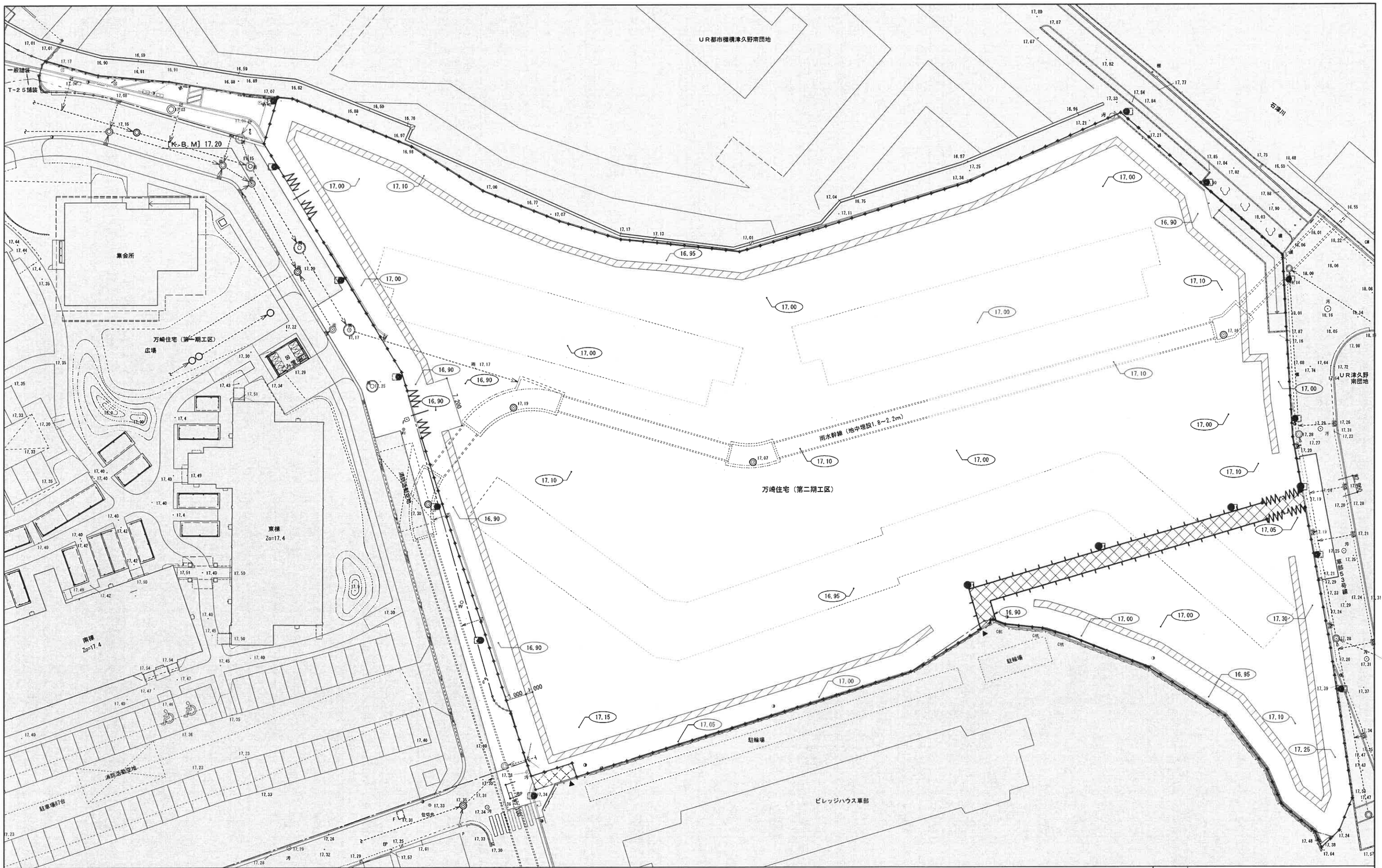
：住宅共用部面積部分を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０５（公営住宅法０２）		
A３縮尺	１／４００	A１縮尺	１／２００
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０２５
原寸法	0　2,000　5,000　10,000　15,000　20,000mm		



8階住宅共用部面積　求積図

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	建物求積図・面積表０６（公営住宅法０３）		
Ａ３縮尺	１／４００	Ａ１縮尺	１／２００
堺市	建築都市局　建築部	図面番号	Ａ／０２６
原寸法	0　2,000　5,000　10,000　15,000　20,000mm		

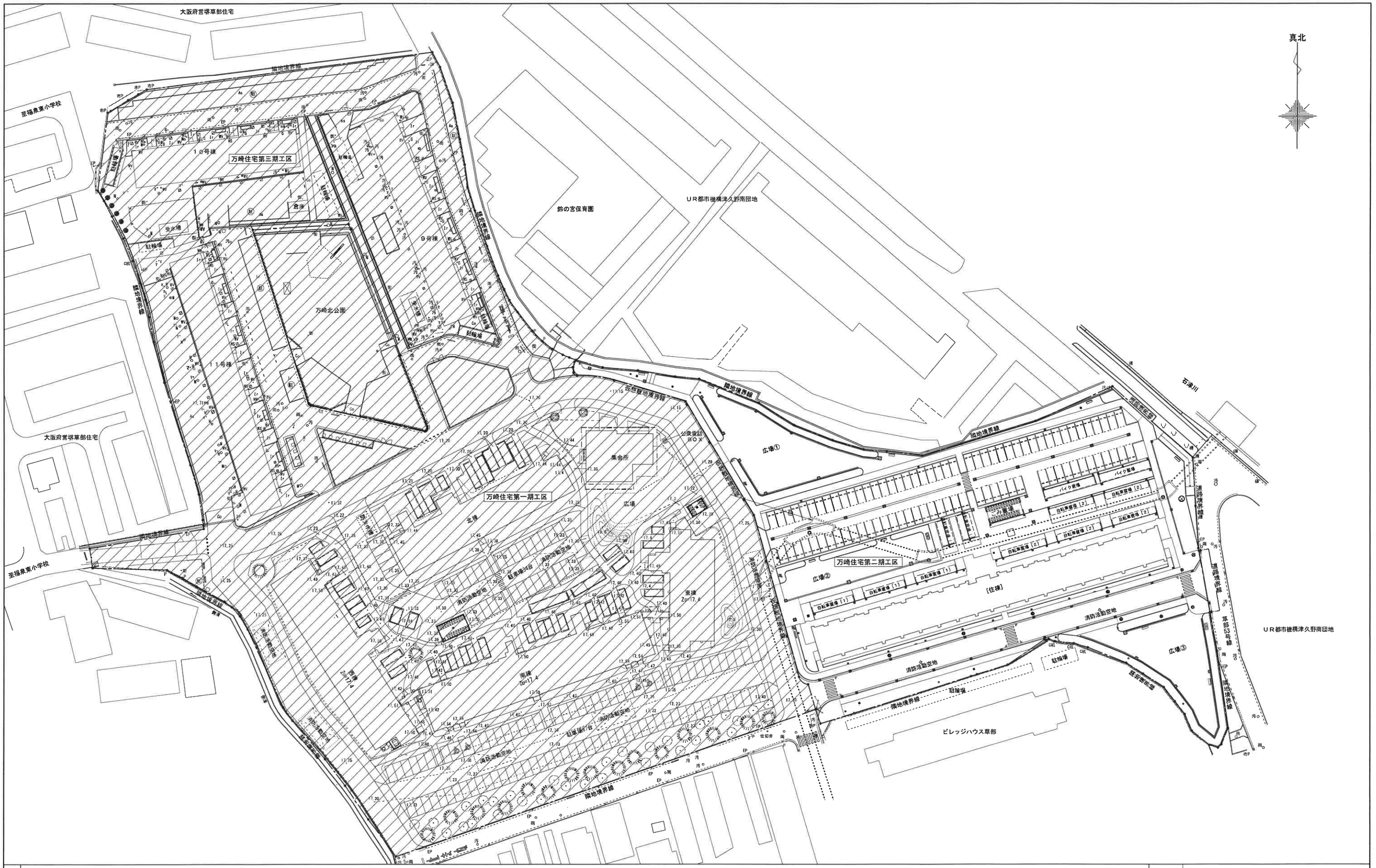


凡例

- 既存仮囲い：万能鋼鈑 H=3.0mを示す。
- 既存パネルゲート（W7.2m×H4.5m）を示す。
- 素掘側溝：W1.0m×H0.5mを示す。
- 17.15 整地地盤高を示す。
- 既設防犯灯を示す。
- 新設防犯灯を示す。【別途工事】
- 解体前住宅位置を示す。
- 17.33 既存地盤高を示す。
- 仮設通路①
- 仮設通路②
- 仮設通路部ガードフェンス H=1.8m L=95.3m（既存）
- パネルキャスターゲート（W6.3m×H2.0m）計2箇所（既存）
- ：工事対象外範囲を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	現況図		
A3縮尺	1／500	A1縮尺	1／250
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／027

原寸法 0 1 5 10 15 20 25m



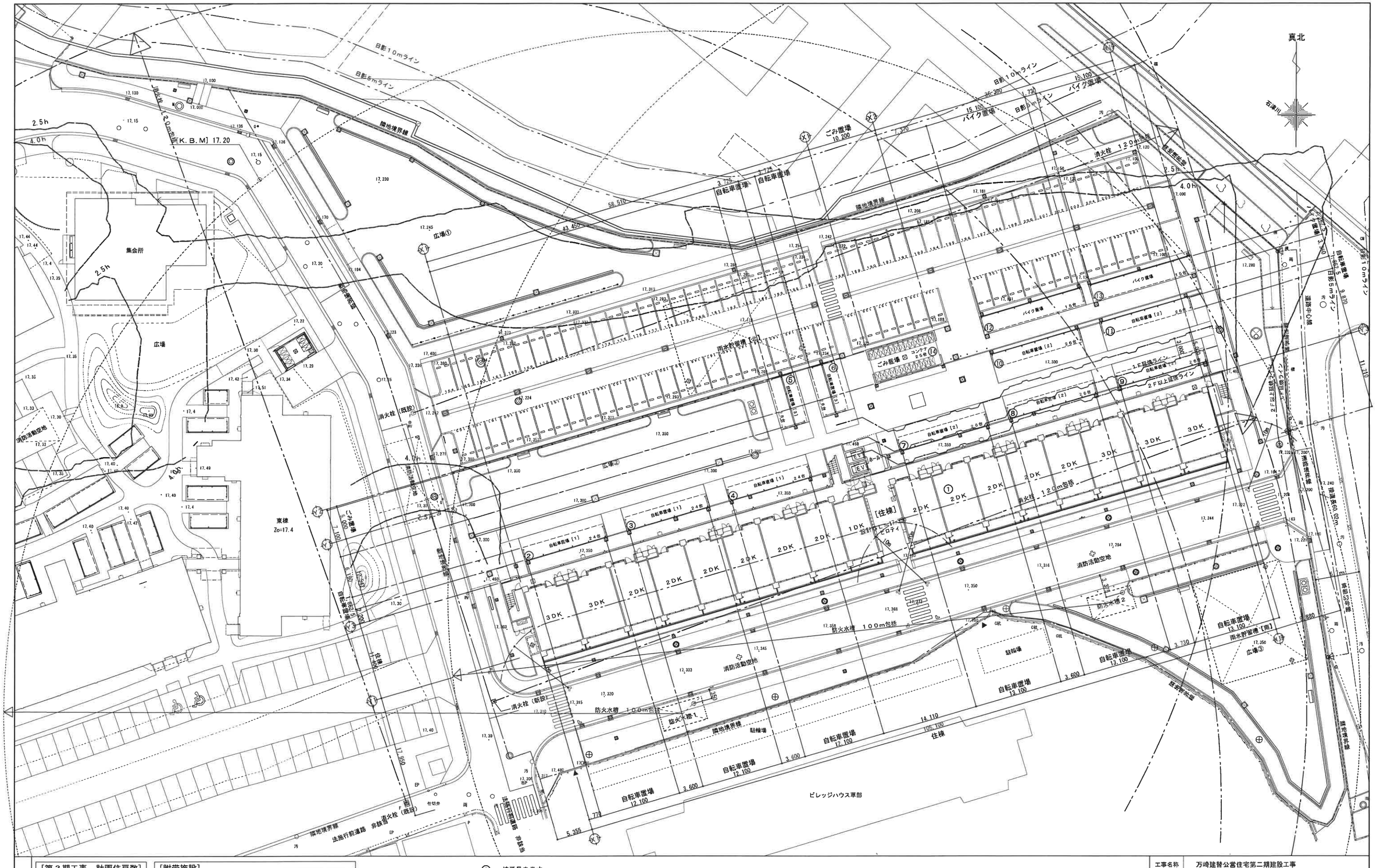
工事概要

［第２期工事　計画住戸数］	
住戸タイプ	戸数
１ＤＫ住戸	１５戸
２ＤＫ住戸	８８戸
３ＤＫ住戸	４０戸
合　計	１４３戸

［附帯施設］	
駐車場	８６台　60.13%≧60%
自転車置場	２５８台（１２棟）180.41%≧180%
バイク置場	３０台（２箇所）20.97%≧20%
ごみ置場	コンテナ２５台（１棟）
	（生活ごみ１５台　10戸/台）
	（資源ごみ１０台　15戸/台）

：工事対象外範囲を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	団地全体配置図（第二期工事完了時）		
A3縮尺	１／１，０００	A1縮尺	１／５００
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０２８
原寸法	0　5　10　20　30　40　50m		



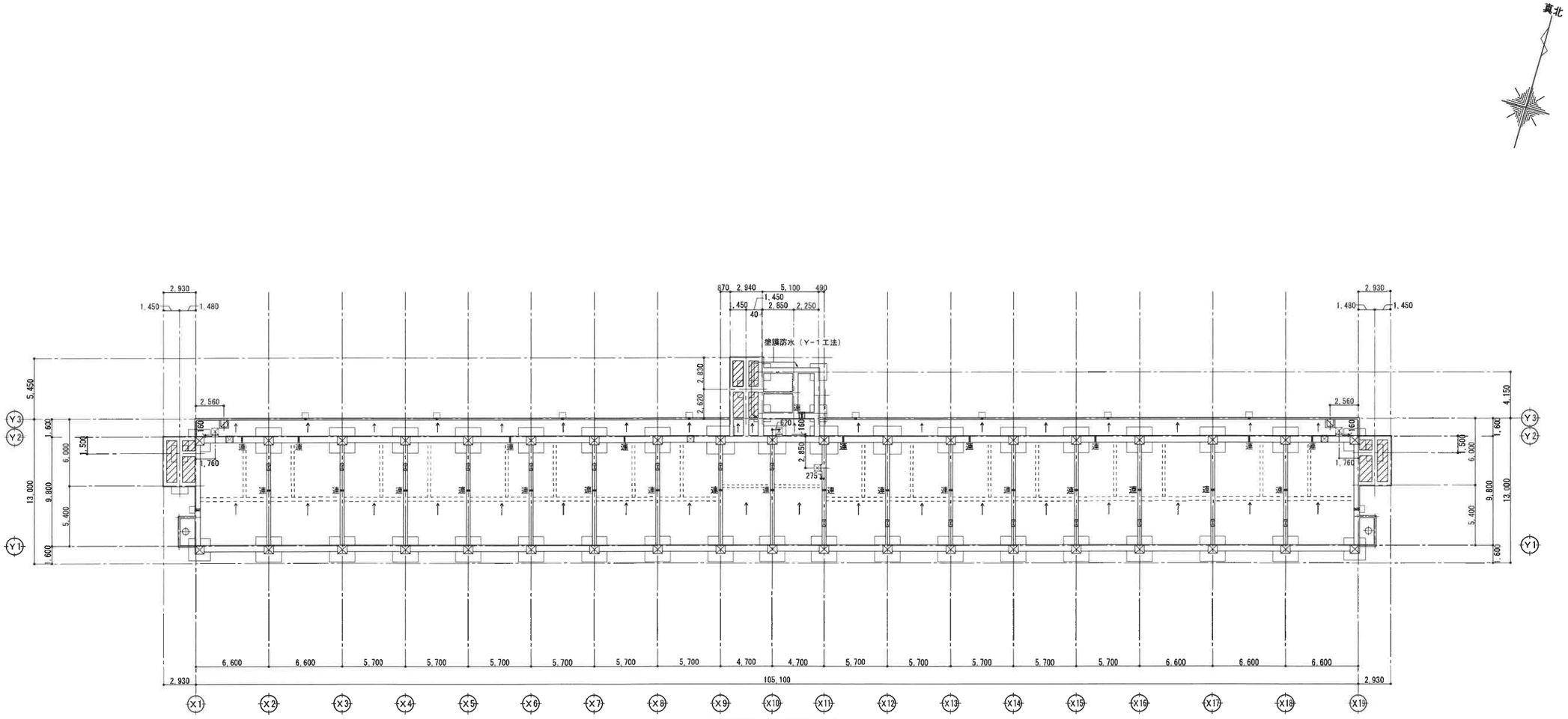
工事概要

[第２期工事　計画住戸数]	
住戸タイプ	戸数
１DK住戸	１５戸
２DK住戸	８８戸
３DK住戸	４０戸
合　計	１４３戸

[附帯施設]	
駐車場	８６台　６０．１３%≧６０%
自転車置場	２５８台（１２棟）１８０．４１%≧１８０%
バイク置場	３０台（２棟）２０．９７%≧２０%
ごみ置場	コンテナ２５台（１棟）
	（生活ごみ１５台　１０戸/台）
	（資源ごみ１０台　１５戸/台）

① ： 棟番号を示す

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	配置図		
A３縮尺	１／５００	A１縮尺	１／２５０
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	Ａ／０２９
原寸法	0 1 5 10 15 20 25m		



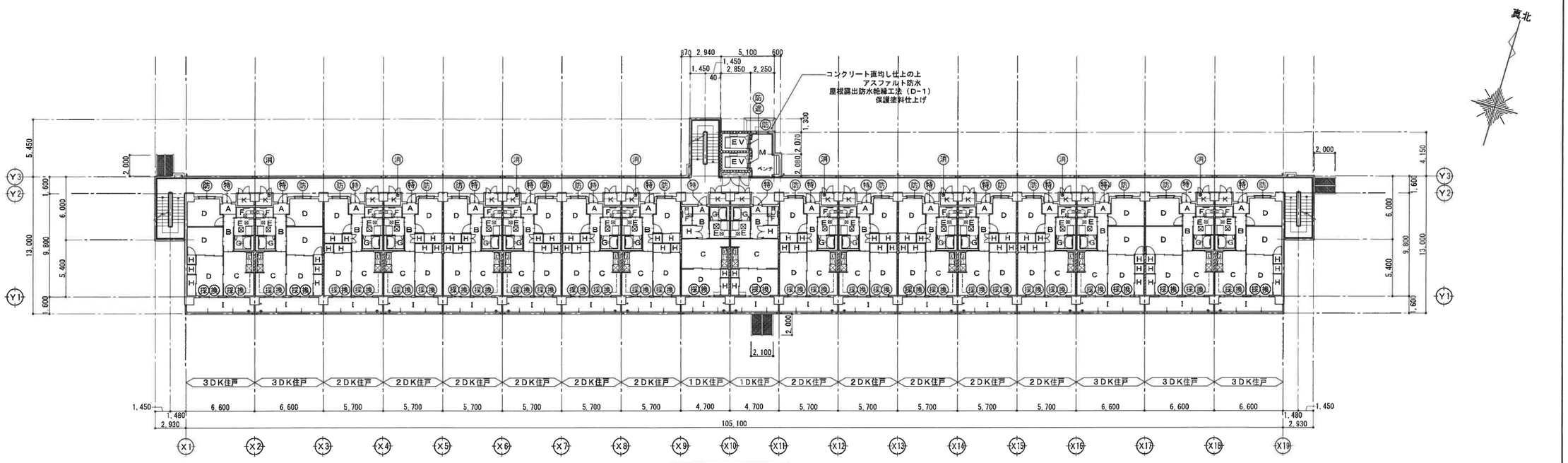
ピット平面図

※ スリーブ位置は、「ピット展開図 ０１・０２」による。

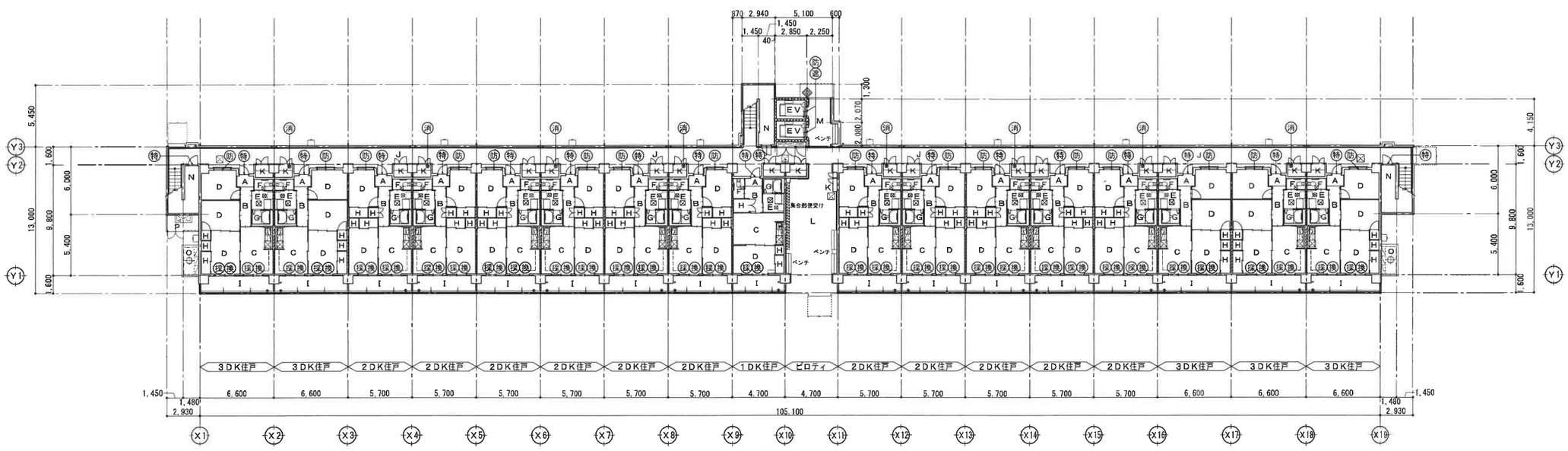
凡例

人通孔：φ６００	水勾配：1/100	埋戻し範囲を示す。			
人通孔：φ６００（兼連通管）	床下点検口（上部）				
連通管：ＶＰφ１００半割	マンホール蓋（上部）				
上−通気管：ＶＰφ７５、下−連通管：ＶＰφ１００半割	タラップ：ＳＵＳ３０４ φ１６ 既製品 ３段				
釜場：Ｗ６００×Ｄ６００×Ｈ６００	ピット底に達していない梁を示す。				
通気孔：ＶＰφ１５０（ＳＵＳ製フード付）					

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図０１（ピット階（全体））		
Ａ３縮尺	１／４００	Ａ１縮尺	１／２００
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０３０
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		



２ 階 平 面 図



１ 階 平 面 図

【室名凡例】
- Ａ： 玄関
- Ｂ： 廊下
- Ｃ： ＤＫ
- Ｄ： 洋室
- Ｅ： 洗面室
- Ｆ： 便所
- Ｇ： 浴室
- Ｈ： 物入
- Ｉ： バルコニー
- Ｊ： 共用廊下
- Ｋ： ＰＳ・ＭＢ
- Ｌ： ピロティ
- Ｍ： ＥＶホール
- Ｎ： 倉庫
- Ｏ： 引込開閉器置場
- Ｐ： ポンプ設備架台基礎

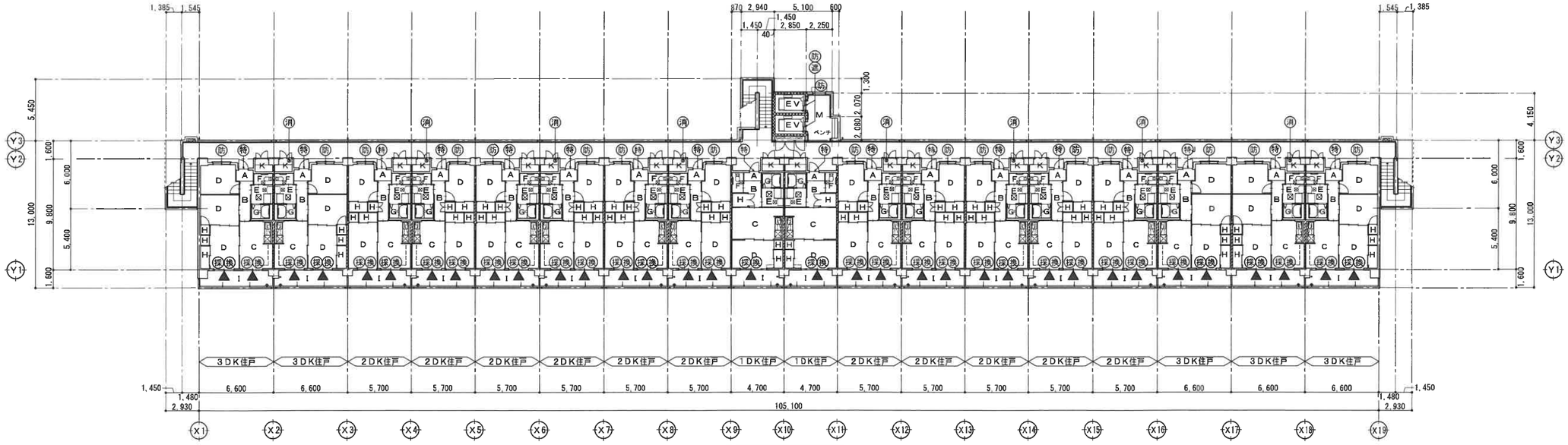
[計画戸数]

１ＤＫ住戸	１５戸
２ＤＫ住戸	８８戸
３ＤＫ住戸	４０戸
合 計	１４３戸

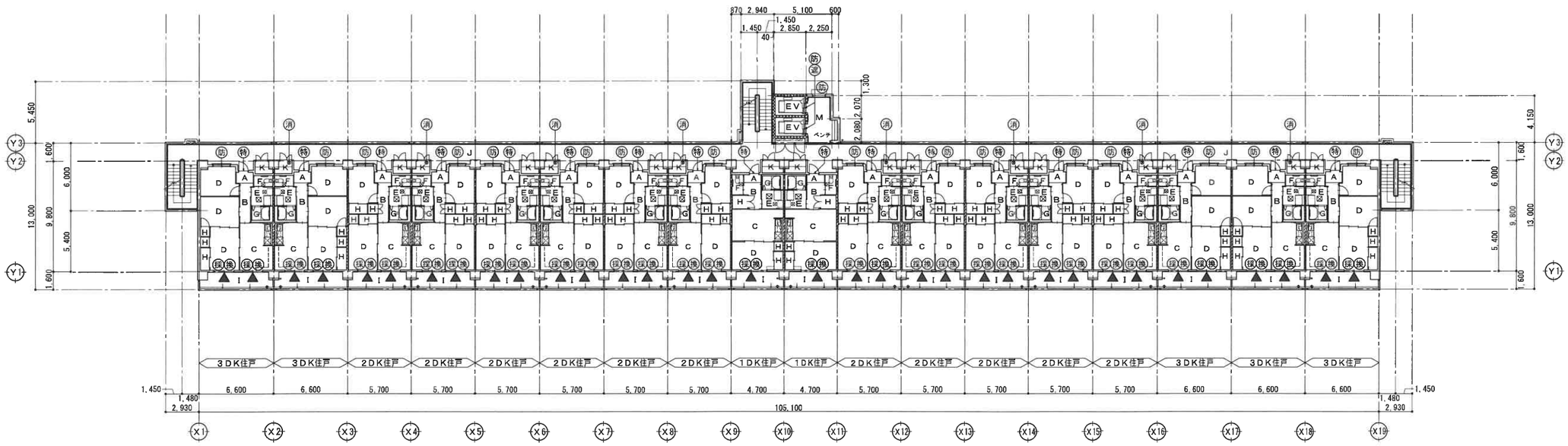
凡例

(特)	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）※３階以上のみ	◈	触知案内板
(防)	法第２条第９号の２・ロによる防火設備	☒	床下点検口（６００×６００）		
(消)	消火器設置場所（ＡＢＣ粉末消火器１０号）	▨	界壁（ＲＣ造）		
(採)	法第２８条第１項に規定する開口部	▨	竪穴区画		
(換)	法第２８条第２項に規定する開口部				
(遮)	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面図０２（１・２階（全体））
A３縮尺	１／４００
A１縮尺	１／２００
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	Ａ／０３１
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm



8 階 平 面 図



3～7 階 平 面 図

【室名凡例】
A： 玄関
B： 廊下
C： DK
D： 洋室
E： 洗面室
F： 便所
G： 浴室
H： 物入
I： バルコニー
J： 共用廊下
K： PS・MB
L： ピロティ
M： EVホール
N： 倉庫

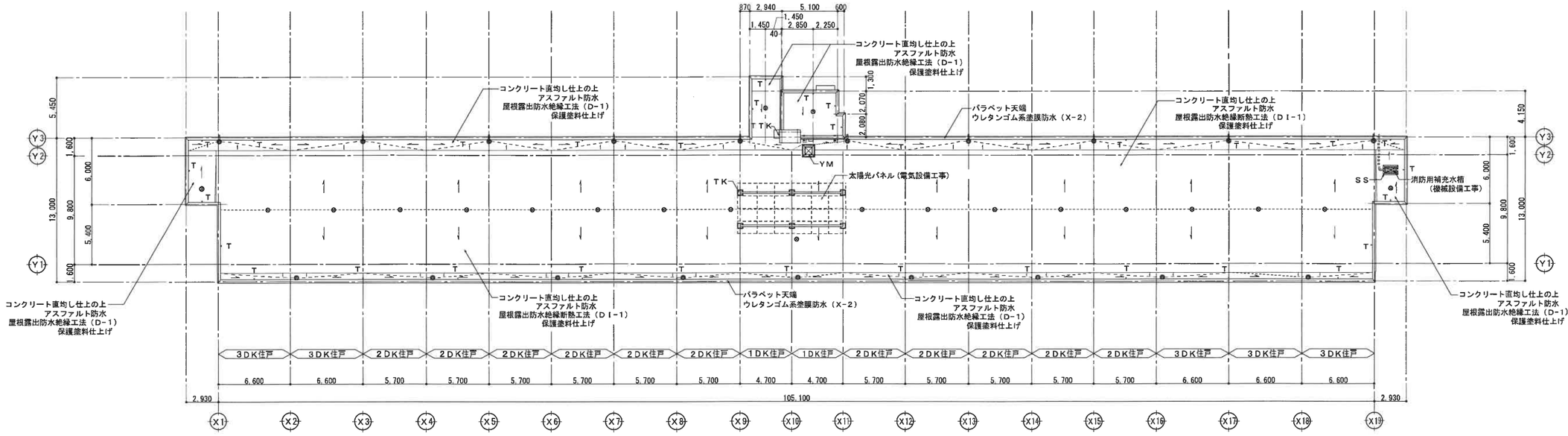
[計画戸数]

1DK住戸	15戸
2DK住戸	88戸
3DK住戸	40戸
合 計	143戸

凡例

(特)	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）※3階以上のみ
(防)	法第2条第9号の2・ロによる防火設備	☒	床下点検口（600×600）
(消)	消火器設置場所（ABC粉末消火器10号）		界壁（RC造）
(採)	法第28条第1項に規定する開口部		竪穴区画
(換)	法第28条第2項に規定する開口部		
(遮)	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）		

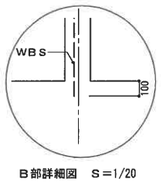
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図03（3～8階（全体））		
A3縮尺	1／400	A1縮尺	1／200
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／032
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		



屋 根 伏 図

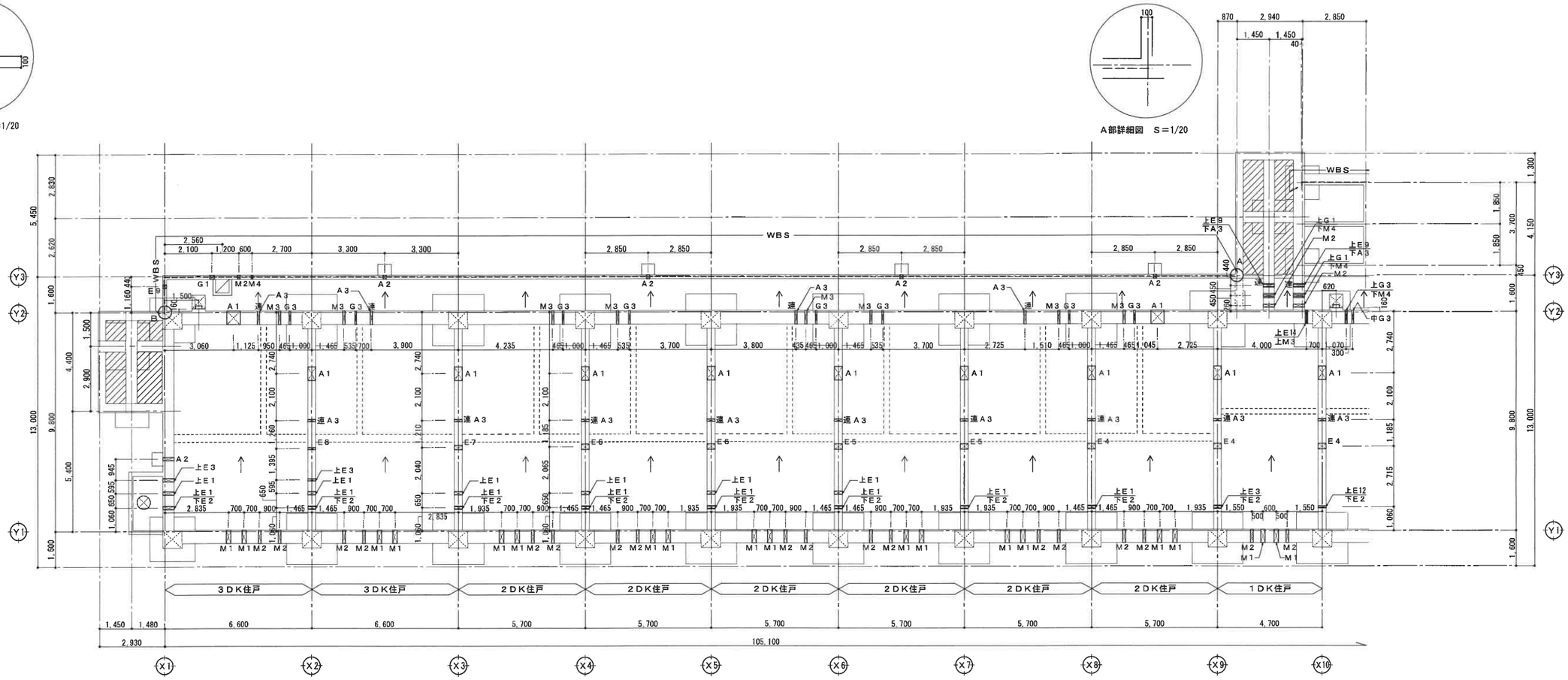
凡例													
	TK	太陽光発電モジュール架台基礎	D-5	⟶	屋根水勾配方向を示す。								
	TTK	太陽光発電トランス架台基礎 W750×D600×H200	D-21										
	SS	消火水槽架台基礎	D-30										
	YM	屋根マンホール（角型）：SUS製 600×600	A-5										
	T	吊環（ステンレス丸環）											
	⊗	脱気筒（ステンレス製） アスファルト防水用											

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図０４（屋根伏図（全体））		
A３縮尺	1／４００	A１縮尺	1／２００
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／０３３
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		



B部詳細図　S＝1/20

A部詳細図　S＝1/20



ピット平面図

※ スリーブの割付寸法は、A-046・047図による

■電気設備スリーブ一覧

E1	150×150	設置位置：A-046、047による	幹線・太陽光発電／電線管（別途工事）
E2	100× 75		
E3	150× 75		
E4	250×200		弱電／電線管（別途工事）
E5	250×150		
E6	250×100		
E7	200× 50		
E8	100× 50		
E9	150×150		
E10	60× 60		
E11	φ100		幹線／電線管（別途工事）
E12	φ 75		
E13	60× 60		
E14	φ 30		
E15	φ 30		弱電／電線管（別途工事）
E16	500×125		幹線／電線管（別途工事）
E17	φ500		幹線・弱電・太陽光発電／電線管（別途工事）

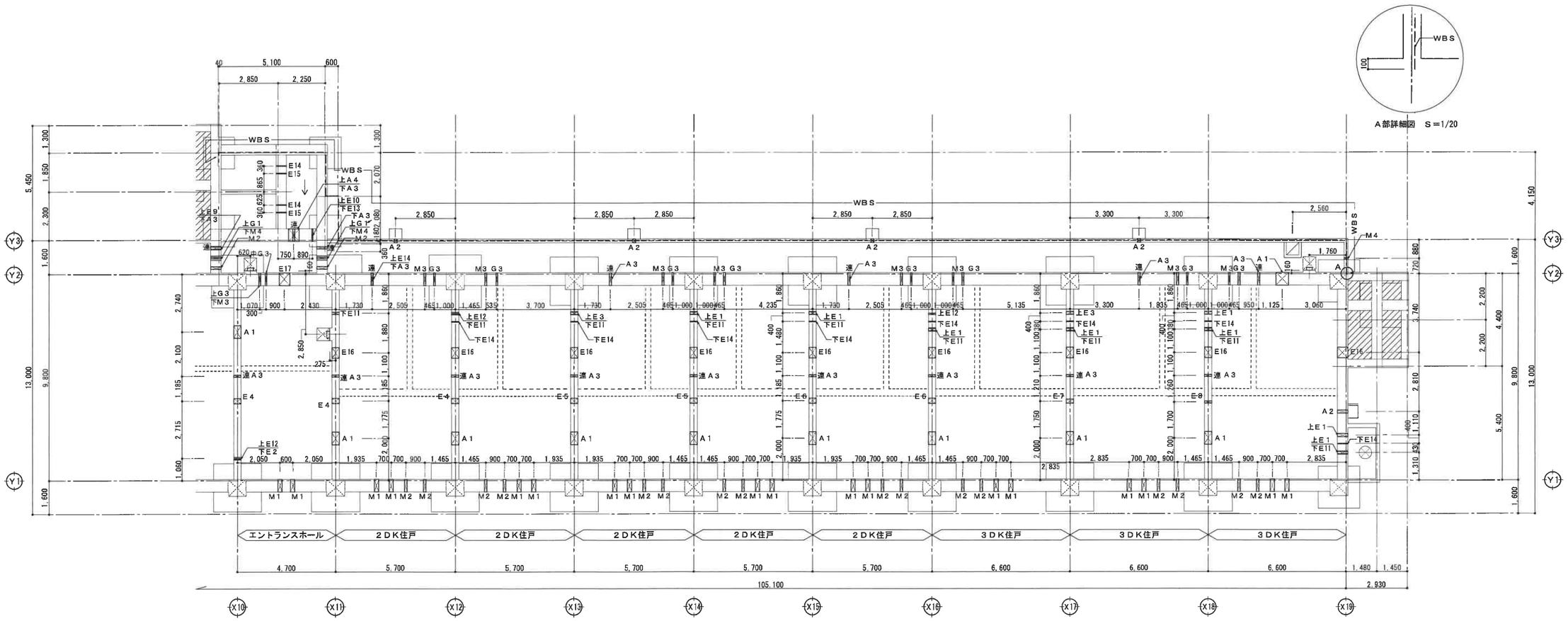
■機械設備スリーブ一覧

M1	φ200	設置位置：A-046、047による	雑排水管（別途工事）
M2	φ125		
M3	φ100		
M4	φ 75		給水管（別途工事）
G1	φ200		ガス管（別途工事）
G2	φ125		
G3	φ 75		

凡例

A1	φ600	設置位置：A-045、047による　人通孔	床下点検口（上部）	埋戻し範囲を示す。	WBS　水膨張系止水板を示す。（整厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）
A2	φ200	設置位置：A-045、047による　ピット通気孔（SUS製フード付）	マンホール蓋（上部）		
A3	φ100半割	設置位置：A-046、047による　ピット連通管	タラップ：SUS304 φ16 既製品 3段		
A4	φ500	設置位置：A-046、047による　人通孔	ピット底に連していない梁を示す。		
	釜場：W600×D600×H600				
→	水勾配：1/100				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図05（ピット階（X1～X10））		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	A／034
原寸法	0 1 5 10 15 20 25m		



ピット平面図

■電気設備スリーブ一覧

E1	150×150	設置位置：A-046、047による	幹線・太陽光発電／電線管(別途工事)
E2	100× 75		
E3	150× 75		
E4	250×200		弱電／電線管(別途工事)
E5	250×150		
E6	250×100		
E7	200× 50		
E8	100× 50		
E9	150×150		
E10	60× 60		
E11	φ100		幹線／電線管(別途工事)
E12	φ 75		
E13	60× 60		
E14	φ 30		
E15	φ 30		弱電／電線管(別途工事)
E16	500×125		幹線／電線管(別途工事)
E17	φ500		幹線・弱電・太陽光発電／電線管(別途工事)

■機械設備スリーブ一覧

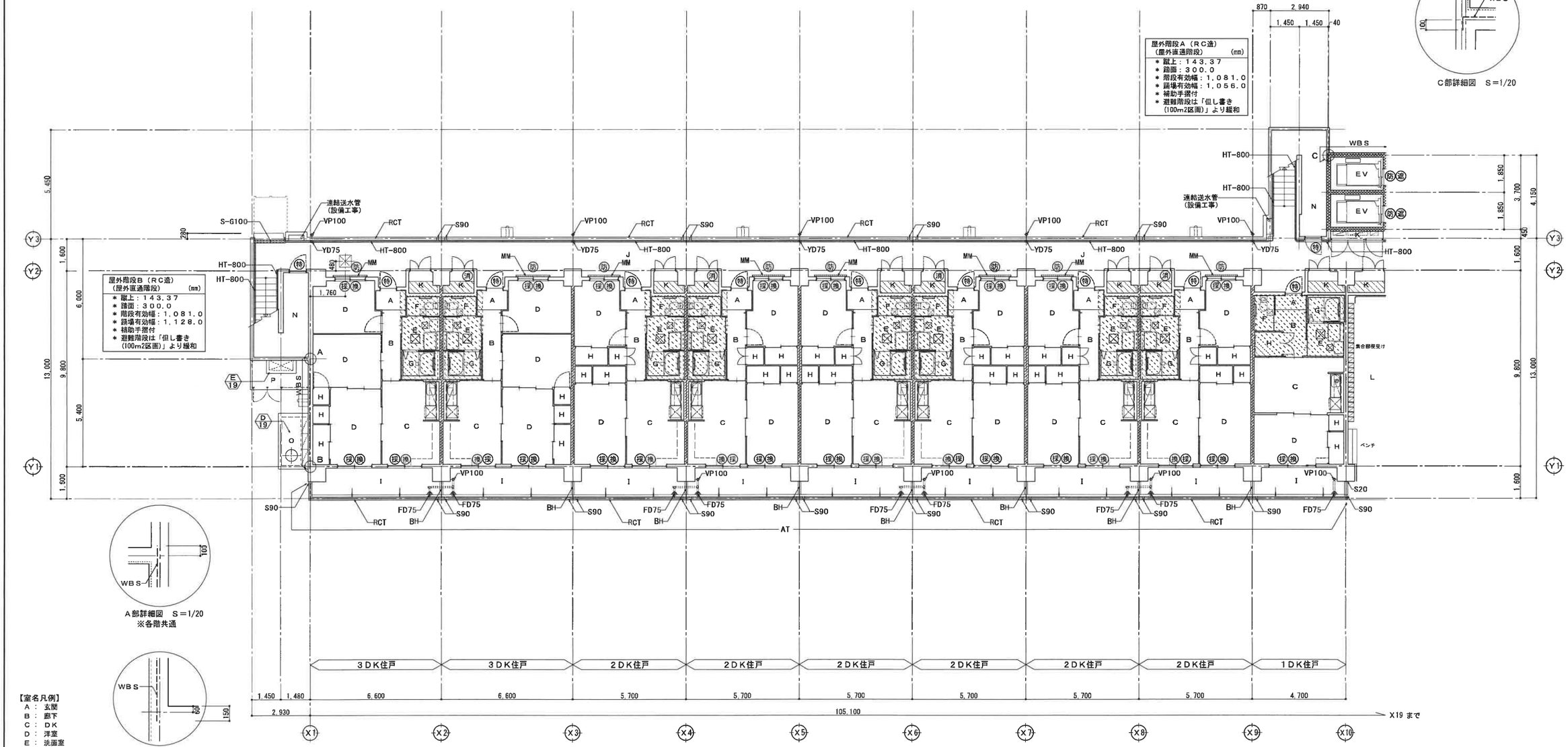
M1	φ200	設置位置：A-046、047による	雑排水管（別途工事）
M2	φ125		
M3	φ100		
M4	φ 75		給水管（別途工事）
G1	φ200		ガス管（別途工事）
G2	φ125		
G3	φ 75		

凡例

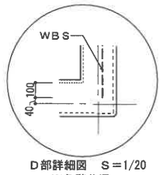
A1	φ600	設置位置：A-046、047による	人通孔	床下点検口（上部）	埋戻し範囲を示す。
A2	φ200	設置位置：A-046、047による	ピット通気孔(SUS製フード付)	マンホール蓋（上部）	
A3	φ100半割	設置位置：A-046、047による	ピット通通管	タラップ：SUS304 φ16 既製品 3段	
A4	φ500	設置位置：A-045、047による	人通孔	ピット底に連していない壁を示す。	
	釜場：W600×D600×H600				
→	水勾配：1/100				

WBS 水勝張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面図06（ピット階（X10～X19））
A3縮尺	1／200
A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	A／035
原寸法	0 1 5 10 15 20 25m

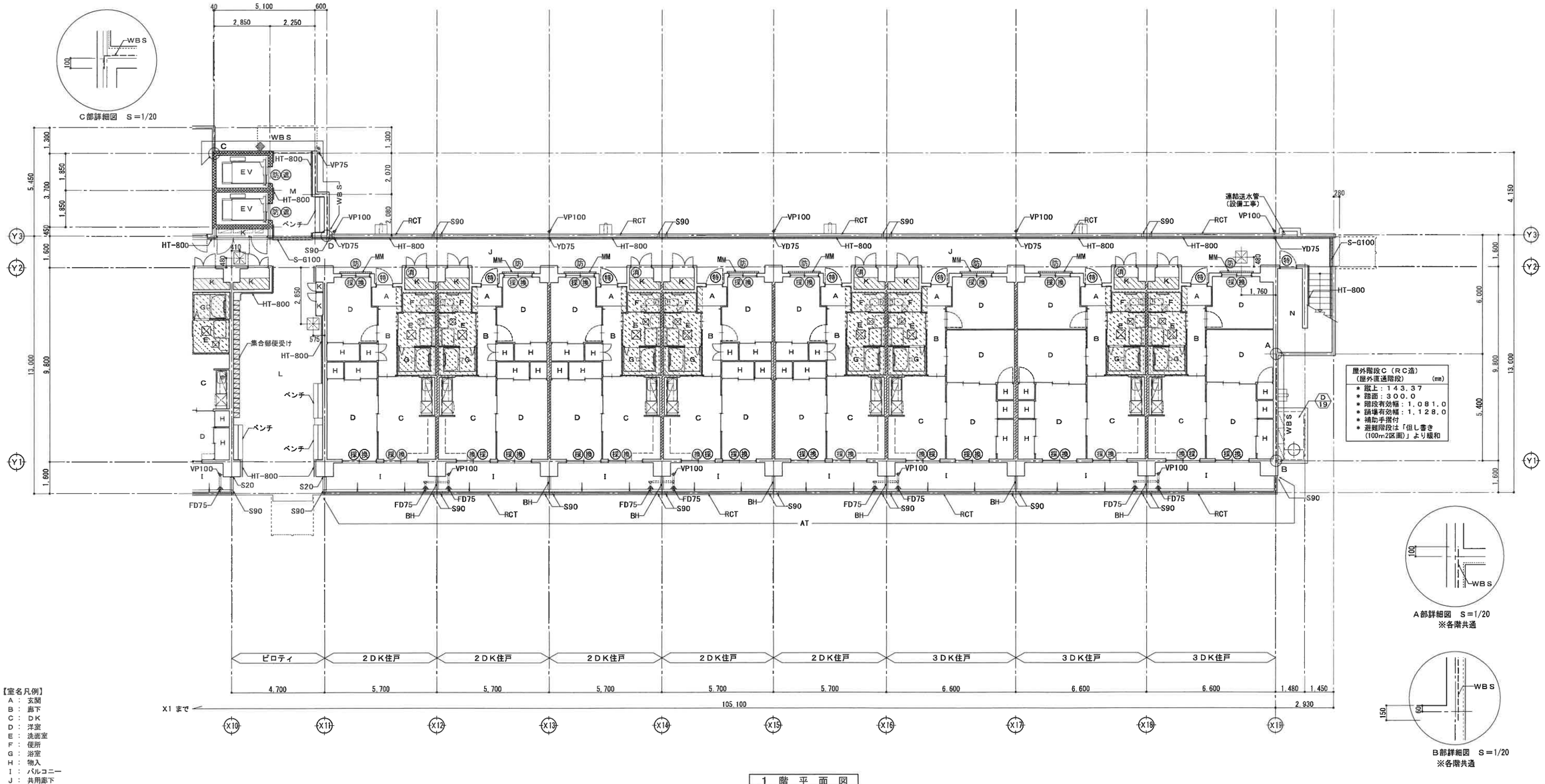


凡例																	
	(特)	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（VP-φ75・GL部は掃除口付）	A/6 A/7	BH	バルコニー隔板（有効開口 600mm以上）	A/13	RCT	コンクリート手摺	A/14 A/21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）		
	(防)	法第28条第9号の2・ロによる防火設備	☒	床下点検口（600×600）を示す。 D/3	VP100	竪樋（VP-φ100・GL部は掃除口付）	A/6 A/7	HT-800	アルミ製補助手摺	A/38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）1Fのみ	D/23				
	(消)	消火器設置場所（ABC粉末消火器10号）	▱▱▱	界壁（RC造）を示す。	FD75	縦型ドレン（フロア）φ75	A/7	RBH	落下防止庇	D/14		ピット換気孔	D/4			工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
	(採)	法第28条第1項に規定する開口部	▱▱▱	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレン（ルーフ）φ75	A/6	BS	防護柵（開放率 80%以上）	D/17		物干金物（手摺・壁付け型）	A/10			図面名称	平面図07（1階（X1～X10））
	(換)	法第28条第2項に規定する開口部			YD75	横引きドレン（フロア）φ75	A/21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）G（溝巾）	D/18		触知案内板	A/47			A3縮尺	1／40 1／200	A1縮尺	1／20 1／100
	(遮)	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	A/29	S90	手摺壁 スリット幅 90mm	A/31	S20	袖壁 スリット幅 20mm（スタイロt=20の上シーリング）				堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／036
																原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



D部詳細図　S＝1/20
※各階共通

C部詳細図　S＝1/20



屋外階段C（ＲＣ造）
（屋外直通階段）　（mm）
＊ 蹴上：１４３.３７
＊ 踏面：３００.０
＊ 階段有効幅：１,０８１.０
＊ 踊場有効幅：１,１２８.０
＊ 補助手摺付
＊ 避難階段は「但し書き（100㎡2区画）」より緩和

A部詳細図　S＝1/20
※各階共通

B部詳細図　S＝1/20
※各階共通

【室名凡例】
A：玄関
B：廊下
C：ＤＫ
D：洋室
E：洗面室
F：便所
G：浴室
H：物入
I：バルコニー
J：共用廊下
K：ＰＳ・ＭＢ
L：ピロティ
M：ＥＶホール
N：倉庫

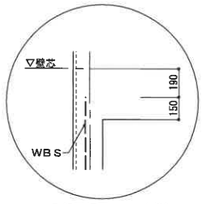
1 階 平 面 図

床スラブ：ＦＬ－３００範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、ＦＬ－１４０とする。）

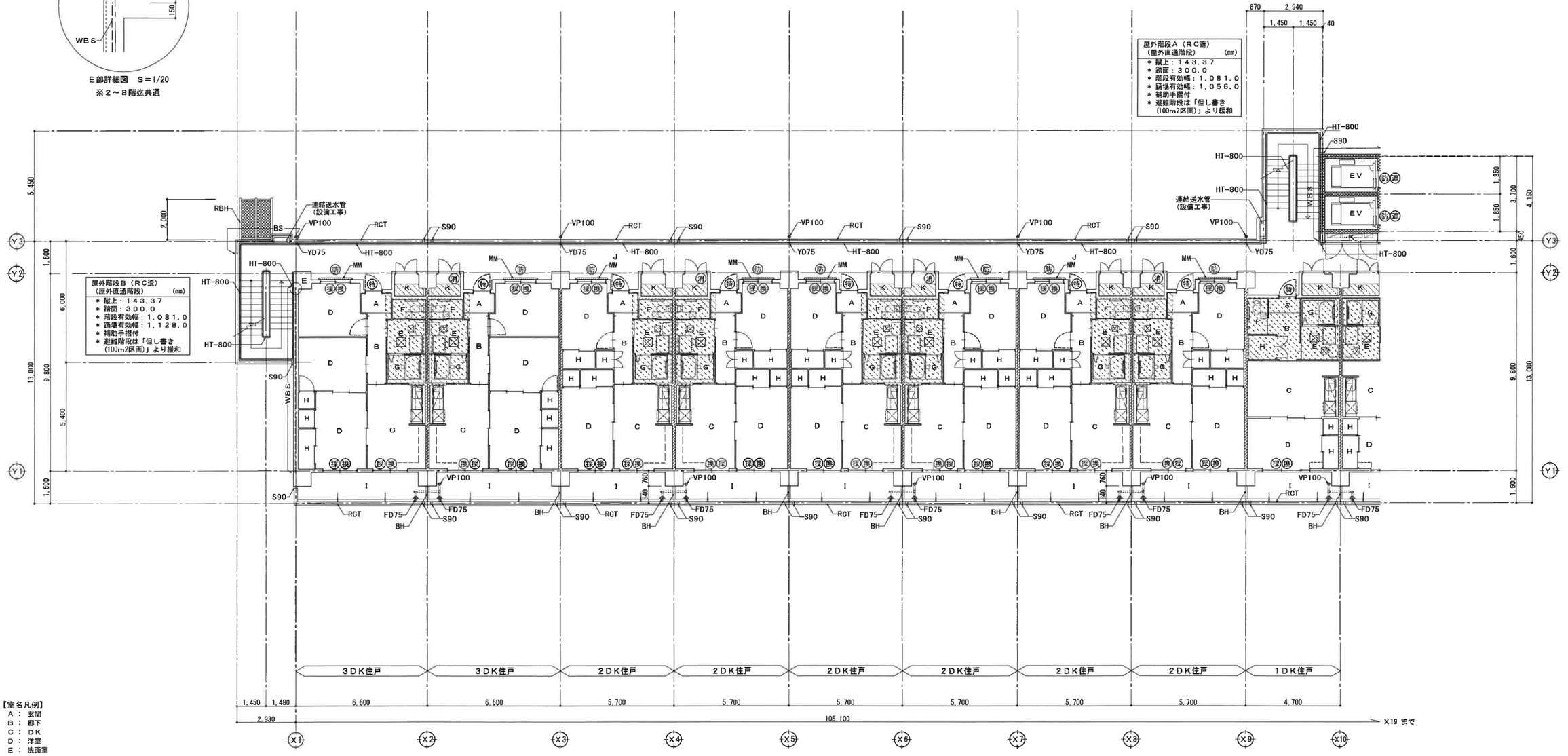
凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（ＶＰ-φ７５・ＧＬ部は掃除口付） A6 A7	BH	バルコニー隔板（有効開口 ６００㎜以上） A13	RCT	コンクリート手摺 A14 A21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は２５％以下とすること。）
防	法第２条第９号の２・ロによる防火設備	☒	床下点検口（６００×６００）を示す。 D3	VP100	竪樋（ＶＰ-φ１００・ＧＬ部は掃除口付） A6 A7	HT-800	アルミ製補助手摺 A38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）１Ｆのみ D23		
消	消火器設置場所（ＡＢＣ粉末消火器１０号）	▨	界壁（ＲＣ造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ７５ A7	RBH	落下防止庇 D14		ピット換気孔 D4		
煙	法第２８条第１項に規定する開口部	▨	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ７５ A6	BS	防護幅（開放率 ８０%以上） D17		物干金物（手摺・壁付け型） A10		
換	法第２８条第２項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ７５ A21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）G(溝巾) D18		触知案内板 A47		
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子 A29	S90	手摺壁 スリット幅 ９０㎜ A31	S20	袖壁 スリット幅 ２０㎜（スタイロt=２０の上シーリング）		

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面図０８（１階（X10～X19））
A3縮尺	１／４０ １／２００
A1縮尺	１／２０ １／１００
堺市	建築都市局　建築部
図面番号	Ａ／０３７
原寸法	0　1,000　2,500　5,000　7,500　10,000㎜



E部詳細図　S＝1/20
※２～８階迄共通



【室名凡例】
Ａ：玄関
Ｂ：廊下
Ｃ：ＤＫ
Ｄ：洋室
Ｅ：洗面室
Ｆ：便所
Ｇ：浴室
Ｈ：物入
Ｉ：バルコニー
Ｊ：共用廊下
Ｋ：ＰＳ・ＭＢ
Ｌ：ピロティ
Ｍ：ＥＶホール
Ｎ：倉庫

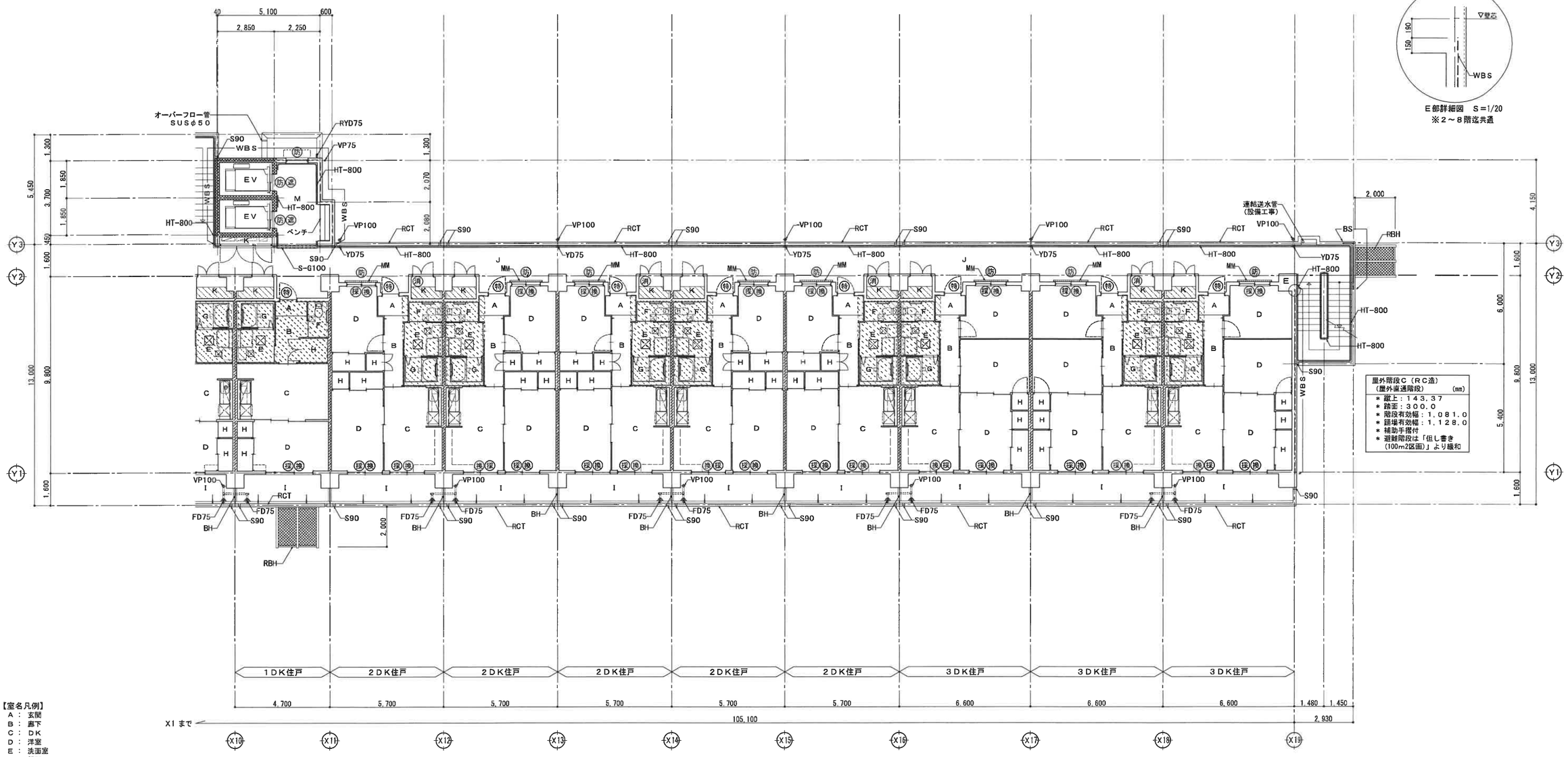
２　階　平　面　図

床スラブ：ＦＬ－３００範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、ＦＬ－１４０とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（ＶＰ-φ７５・ＧＬ部は掃除口付）	BH	バルコニー隔板（有効開口 ６００㎜以上）	RCT	コンクリート手摺	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は２５％以下とすること。）
防	法第２条第９号の２・ロによる防火設備	☒	床下点検口（６００×６００）を示す。	VP100	竪樋（ＶＰ-φ１００・ＧＬ部は掃除口付）	HT-800	アルミ製補助手摺	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）１Ｆのみ		
消	消火器設置場所（ＡＢＣ粉末消火器１０号）		界壁（ＲＣ造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ７５	RBH	落下防止庇		ピット換気孔		
採	法第２８条第１項に規定する開口部		竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ７５	BS	防護柵（開放率 ８０%以上）		物干金物（手摺・壁付け型）		
換	法第２８条第２項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ７５	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）Ｇ(溝巾)		触知案内板		
避	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	S90	手摺壁　スリット幅 ９０㎜				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面図０９（２階（Ｘ1～Ｘ10））
Ａ３縮尺	１／４０　１／２００
Ａ１縮尺	１／２０　１／１００
堺市	建築都市局　建築都
図面番号	Ａ／０３８
原寸法	0　1,000　2,500　5,000　7,500　10,000mm



【室名凡例】
A：玄関
B：廊下
C：DK
D：洋室
E：洗面室
F：便所
G：浴室
H：物入
I：バルコニー
J：共用廊下
K：PS・MB
L：ピロティ
M：EVホール
N：倉庫

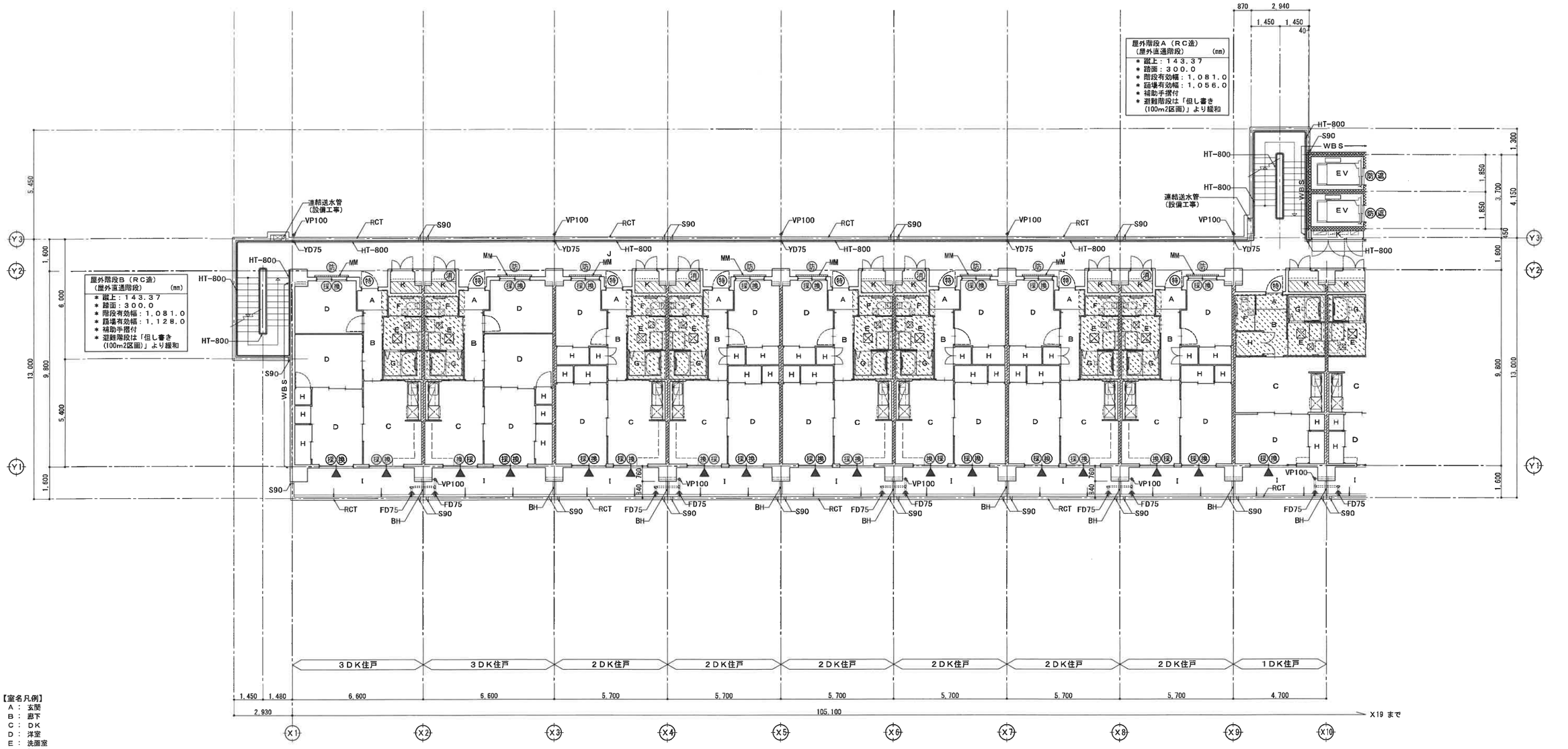
2階平面図

床スラブ：FL－300範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、FL－140とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（VP-φ75・GL部は掃除口付）	A 6 A 7	BH	バルコニー隔板（有効開口 600mm以上）	A 13	RCT	コンクリート手摺	A 14 A 21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）
防	法第2条第9号の2・ロによる防火設備	☒	床下点検口（600×600）を示す。	VP100	竪樋（VP-φ100・GL部は掃除口付）	A 6 A 7	HT-800	アルミ製補助手摺	A 38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）1Fのみ	D 23		
消	消火器設置場所（ABC粉末消火器10号）	▨	界壁（RC造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ75	A 7	RBH	落下防止庇	D 14		ピット換気孔	D 4		
採	法第28条第1項に規定する開口部	▩	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ75	A 6	BS	防護柵（開放率 80%以上）	D 17		物干金物（手摺・壁付け型）	A 10		
換	法第28条第2項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ75	A 21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）G（溝巾）	D 18		触知案内板	A 47		
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	A 29	S90	手摺壁 スリット幅 90mm	A 31					

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面図10（2階（X10～X19））
A3縮尺	1／40 1／200
A1縮尺	1／20 1／100
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	A／039
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm



【室名凡例】
Ａ：玄関
Ｂ：廊下
Ｃ：ＤＫ
Ｄ：洋室
Ｅ：洗面室
Ｆ：便所
Ｇ：浴室
Ｈ：物入
Ｉ：バルコニー
Ｊ：共用廊下
Ｋ：ＰＳ・ＭＢ
Ｌ：ピロティ
Ｍ：ＥＶホール
Ｎ：倉庫

３～７階平面図

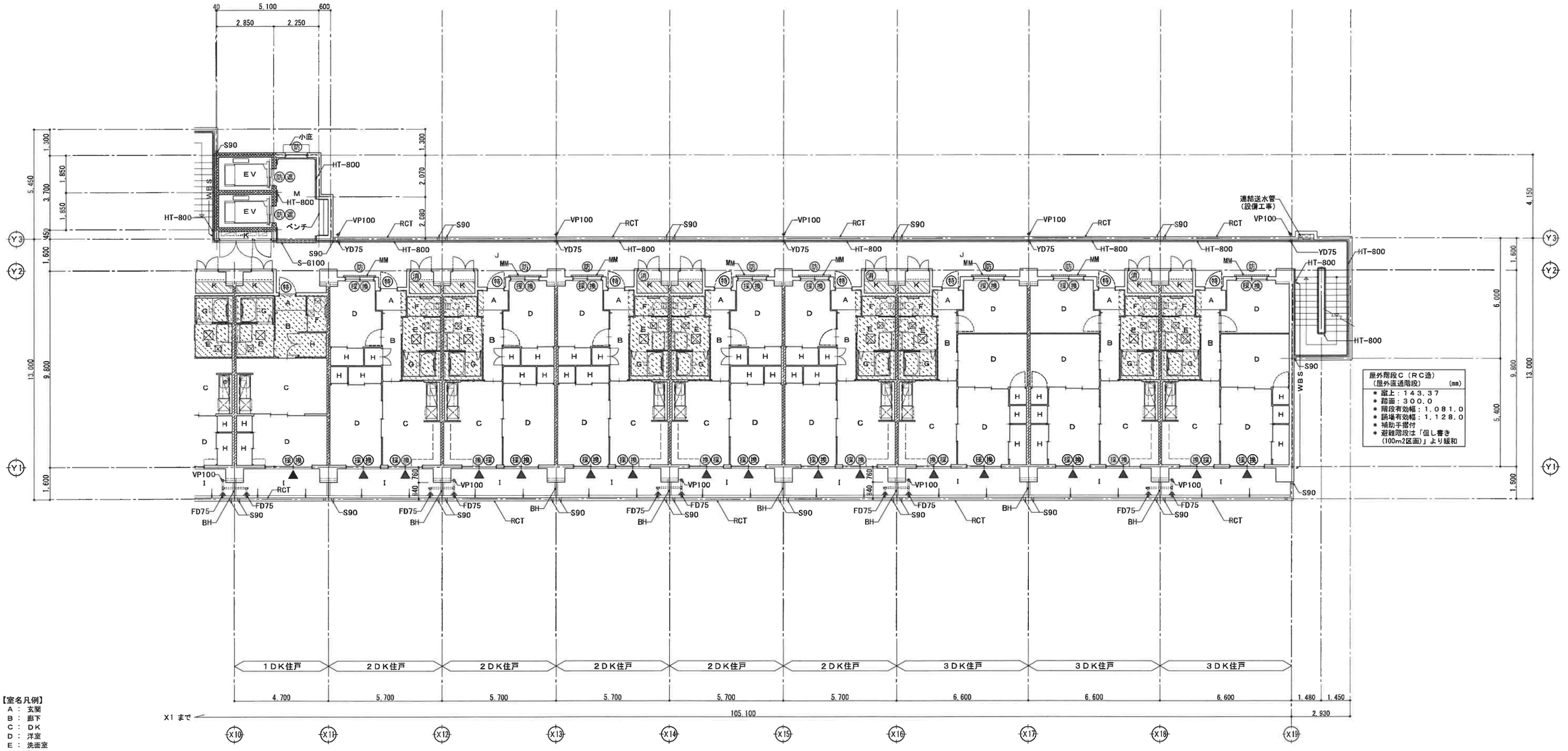
床スラブ：ＦＬ－３００範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、ＦＬ－１４０とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（ＶＰ-φ７５・ＧＬ部は掃除口付）	A-6 A-7	BH	バルコニー隔板（有効開口 ６００mm以上）	A-13	RCT	コンクリート手摺	A-14 A-21
防	法第２条第９号の２・ロによる防火設備	☒	床下点検口（６００×６００）を示す。	VP100	竪樋（ＶＰ-φ１００・ＧＬ部は掃除口付）	A-6 A-7	HT-800	アルミ製補助手摺	A-38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）１Ｆのみ	D-23
消	消火器設置場所（ＡＢＣ粉末消火器１０号）		界壁（ＲＣ造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ７５	A-7	RBH	落下防止庇	D-14		ピット換気孔	D-4
排	法第２８条第１項に規定する開口部		竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ７５	A-6	BS	防護柵（開放率 ８０%以上）	D-17		物干金物（手摺・壁付け型）	A-10
換	法第２８条第２項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ７５	A-21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）Ｇ（溝巾）	D-18		触知案内板	A-47
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	A-29	S90	手摺壁 スリット幅 ９０mm	A-31			

WBS：水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は２５%以下とすること。）

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図１１（３～７階（X1～X10））		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０４０
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



【室名凡例】
A ： 玄関
B ： 廊下
C ： ＤＫ
D ： 洋室
E ： 洗面室
F ： 便所
G ： 浴室
H ： 物入
I ： バルコニー
J ： 共用廊下
K ： ＰＳ・ＭＢ
L ： ピロティ
M ： ＥＶホール
N ： 倉庫

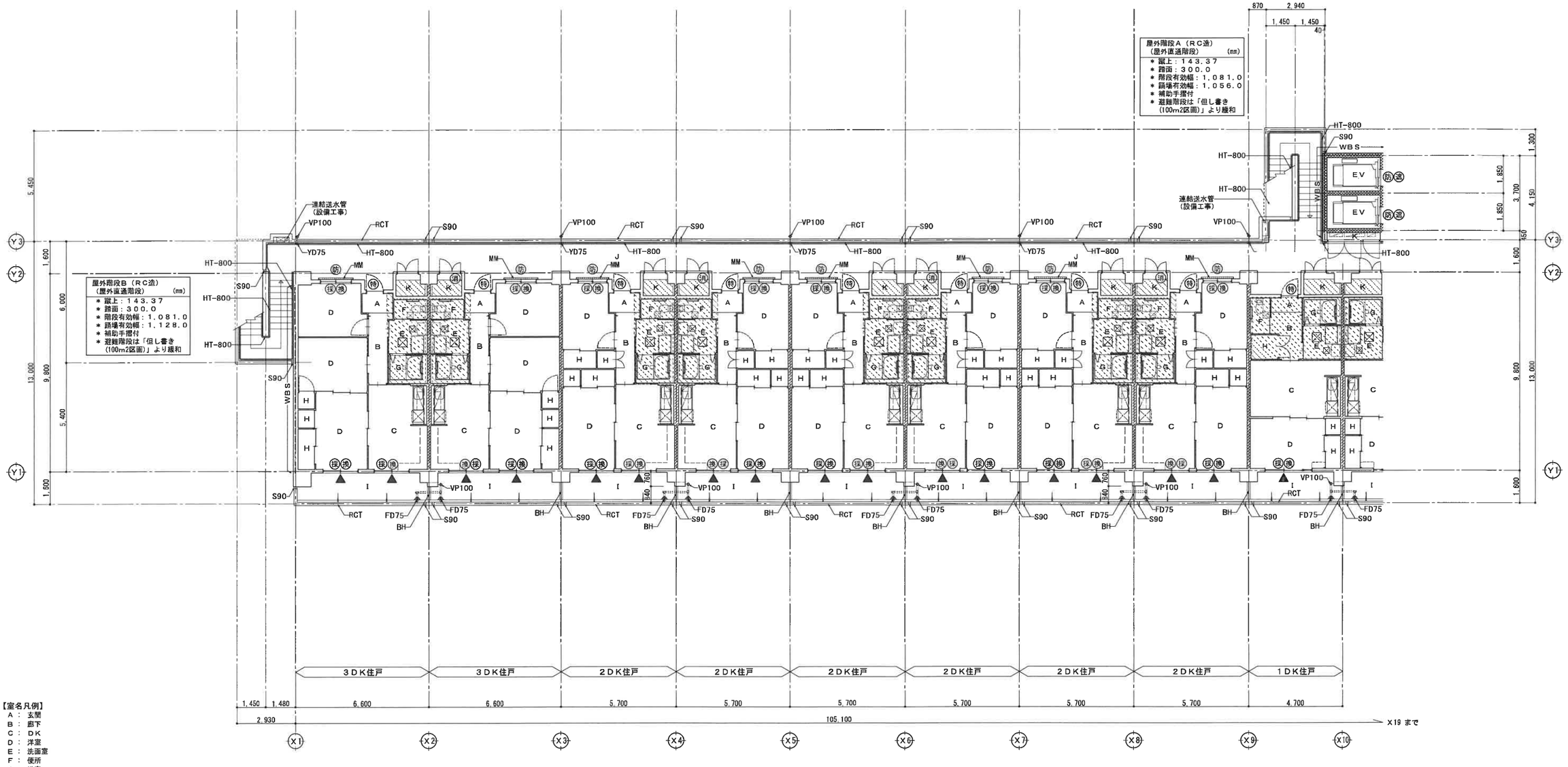
３ ～ ７ 階 平 面 図

床スラブ：ＦＬ－３００範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、ＦＬ－１４０とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（ＶＰ-φ７５・ＧＬ部は掃除口付）	A 6 A 7	BH	バルコニー隔板（有効開口 ６００㎜以上）	A 13	RCT	コンクリート手摺	A 14 A 21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は２５％以下とすること。）
防	法第２条第９号の２・ロによる防火設備	☒	床下点検口（６００×６００）を示す。	VP100	竪樋（ＶＰ-φ１００・ＧＬ部は掃除口付）	A 6 A 7	HT-800	アルミ製補助手摺	A 38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）１Ｆのみ	D 23		
消	消火器設置場所（ＡＢＣ粉末消火器１０号）	▨	界壁（ＲＣ造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ７５	A 7	RBH	落下防止庇	D 14		ピット換気孔	D 4		
採	法第２８条第１項に規定する開口部	▭	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ７５	A 6	BS	防護柵（開放率 ８０%以上）	D 17		物干金物（手摺・壁付け型）	A 10		
換	法第２８条第２項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ７５	A 21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）Ｇ（溝巾）	D 18		触知案内板	A 47		
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	A 29	S90	手摺壁 スリット幅 ９０㎜	A 31					

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図１２（３～７階（X10～X19））		
A３縮尺	１／２００	A１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０４１
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000㎜		



8 階 平 面 図

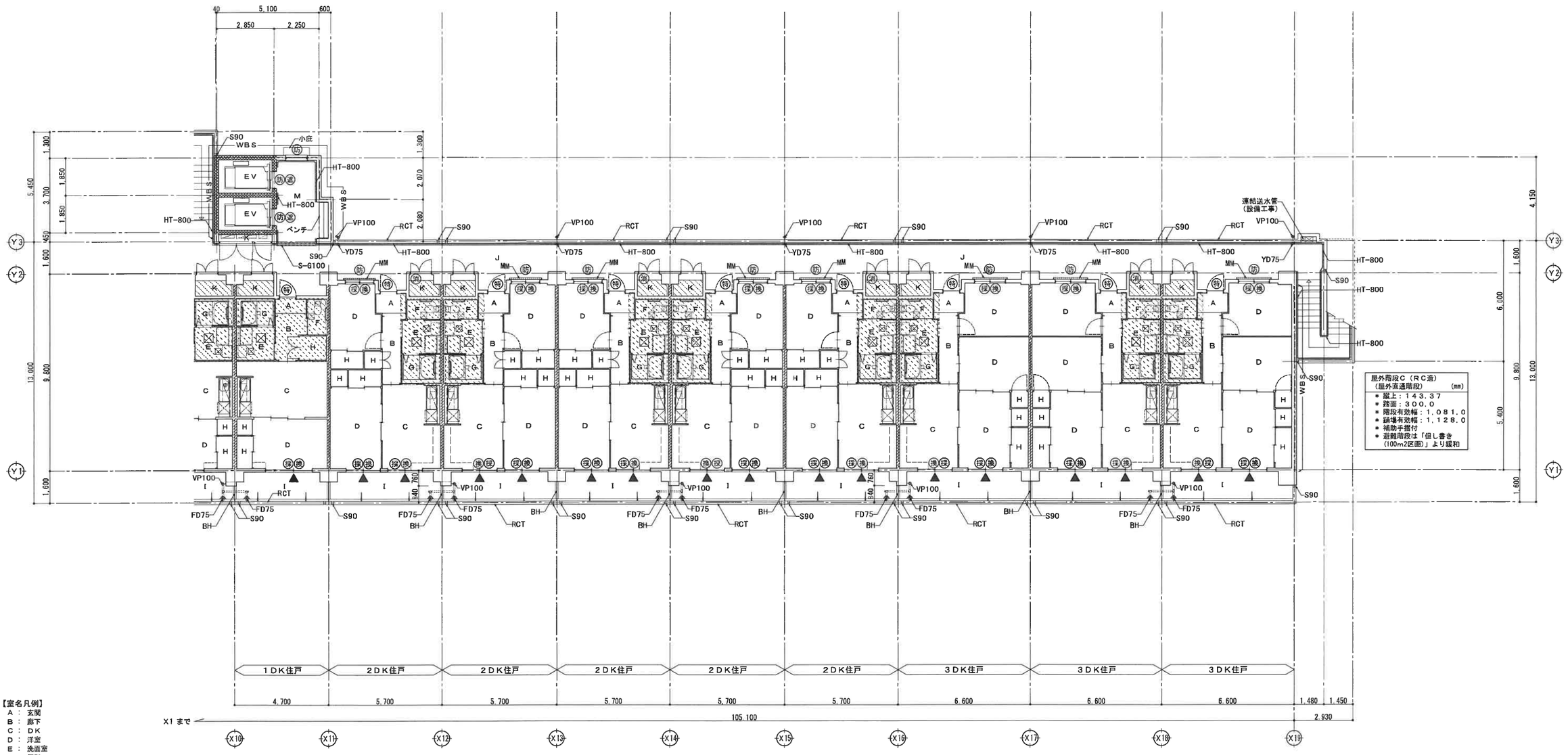
【室名凡例】
A： 玄関
B： 廊下
C： DK
D： 洋室
E： 洗面室
F： 便所
G： 浴室
H： 物入
I： バルコニー
J： 共用廊下
K： PS・MB
L： ピロティ
M： EVホール
N： 倉庫

床スラブ：FL−300範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、FL−140とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（VP-φ75・GL部は掃除口付）	A-6 A-7	BH	バルコニー隔板（有効開口 600mm以上）	A-13	RCT	コンクリート手摺	A-14 A-21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）
防	法第2条第9号の2・ロによる防火設備	☒	床下点検口（600×600）を示す。	VP100	竪樋（VP-φ100・GL部は掃除口付）	A-6 A-7	HT-800	アルミ製補助手摺	A-38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）1Fのみ	D-23		
消	消火器設置場所（ABC粉末消火器10号）	▨	界壁（RC造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ75	A-7	RBH	落下防止庇	D-14		ピット換気孔	D-4		
採	法第28条第1項に規定する開口部	▭	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ75	A-6	BS	防護柵（開放率 80%以上）	D-17		物干金物（手摺・壁付け型）	A-10		
換	法第28条第2項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ75	A-21	S-G100	ステンレス製グレーチング（縦目、ノンスリップ）G(溝巾)	D-18	◈	触知案内板	A-47		
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子	A-29	S90	手摺壁 スリット幅 90mm	A-31					

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図13（8階（X1〜X10））		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／042
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



8 階 平 面 図

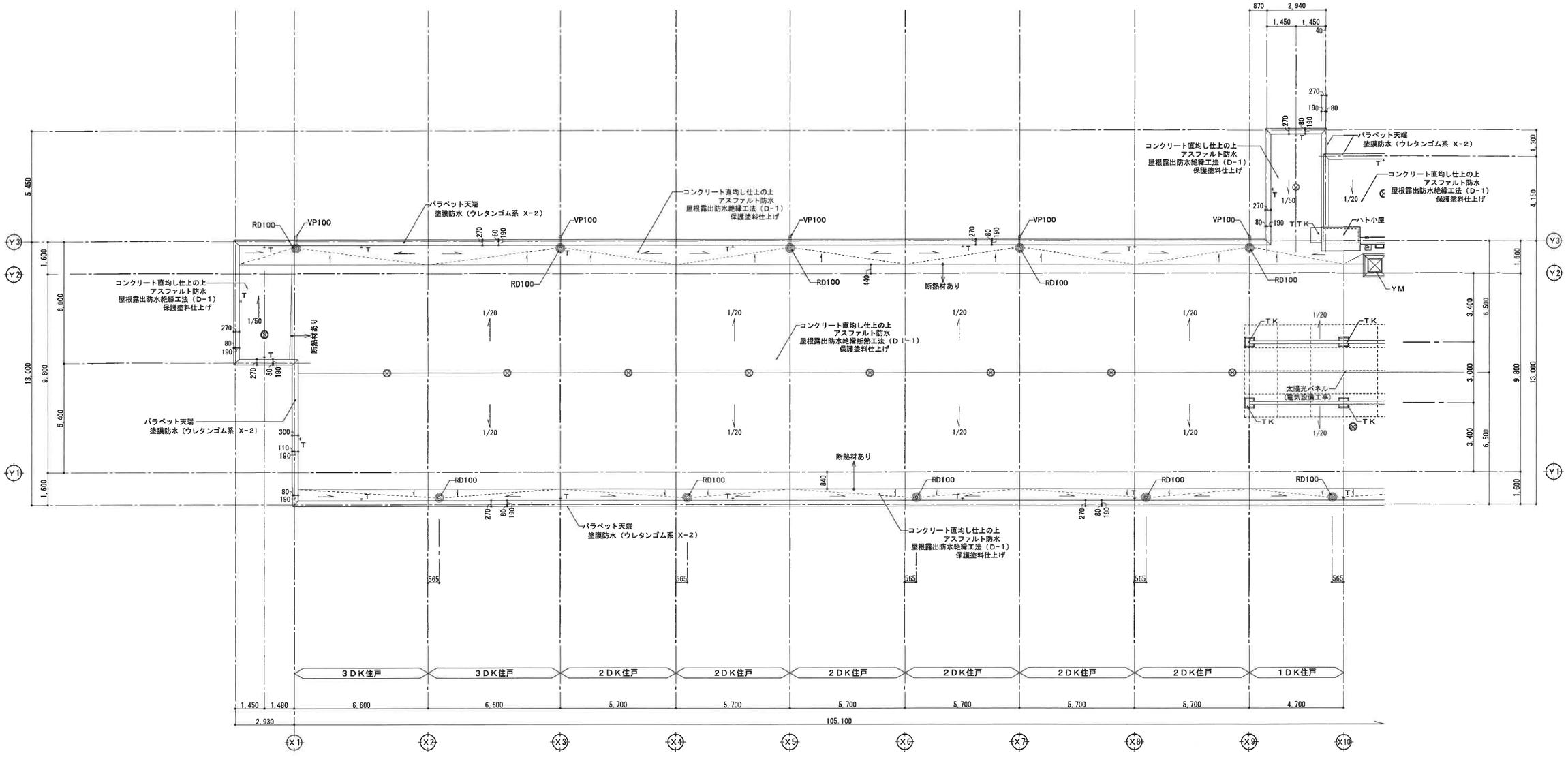
【室名凡例】
A：玄関
B：廊下
C：DK
D：洋室
E：洗面室
F：便所
G：浴室
H：物入
I：バルコニー
J：共用廊下
K：PS・MB
L：ピロティ
M：EVホール
N：倉庫

床スラブ：FL−300範囲を示す。
（特記なき限り住戸内床スラブ天は、FL−140とする。）

凡例

特	特定防火設備（常時閉鎖）	▲	非常用進入口（代替進入口）を示す。※3階以上のみ	VP75	竪樋（VP−φ75・GL部は掃除口付） A-6 A-7	BH	バルコニー隔板（有効開口 600mm以上） A-13	RCT	コンクリート手摺 A-14 A-21	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）
防	法第2条第9号の2・ロによる防火設備	☒	床下点検口（600×600）を示す。	VP100	竪樋（VP−φ100・GL部は掃除口付） A-6 A-7	HT−800	アルミ製補助手摺 A-38	AT	アルミ製手摺（トップレールタイプ）1Fのみ D-23		
消	消火器設置場所（ABC粉末消火器10号）	▨	界壁（RC造）を示す。	FD75	縦型ドレイン（フロア）φ75 A-7	RBH	落下防止庇 D-14		ピット換気孔 D-4		
採	法第28条第1項に規定する開口部	▩	竪穴区画を示す	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ75 A-6	BS	防護棚（開放率 80%以上） D-17		物干金物（手摺・壁付け型） A-10		
換	法第28条第2項に規定する開口部			YD75	横引きドレイン（フロア）φ75 A-21	S-G100	ステンレス製グレーチング（細目、ノンスリップ）G（溝巾） D-18		触知案内板 A-47		
遮	遮煙性能付き扉（常時閉鎖）			MM	窓面格子 A-29	S90	手摺壁 スリット幅 90mm A-31				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図14（8階（X10〜X19））		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／043
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		

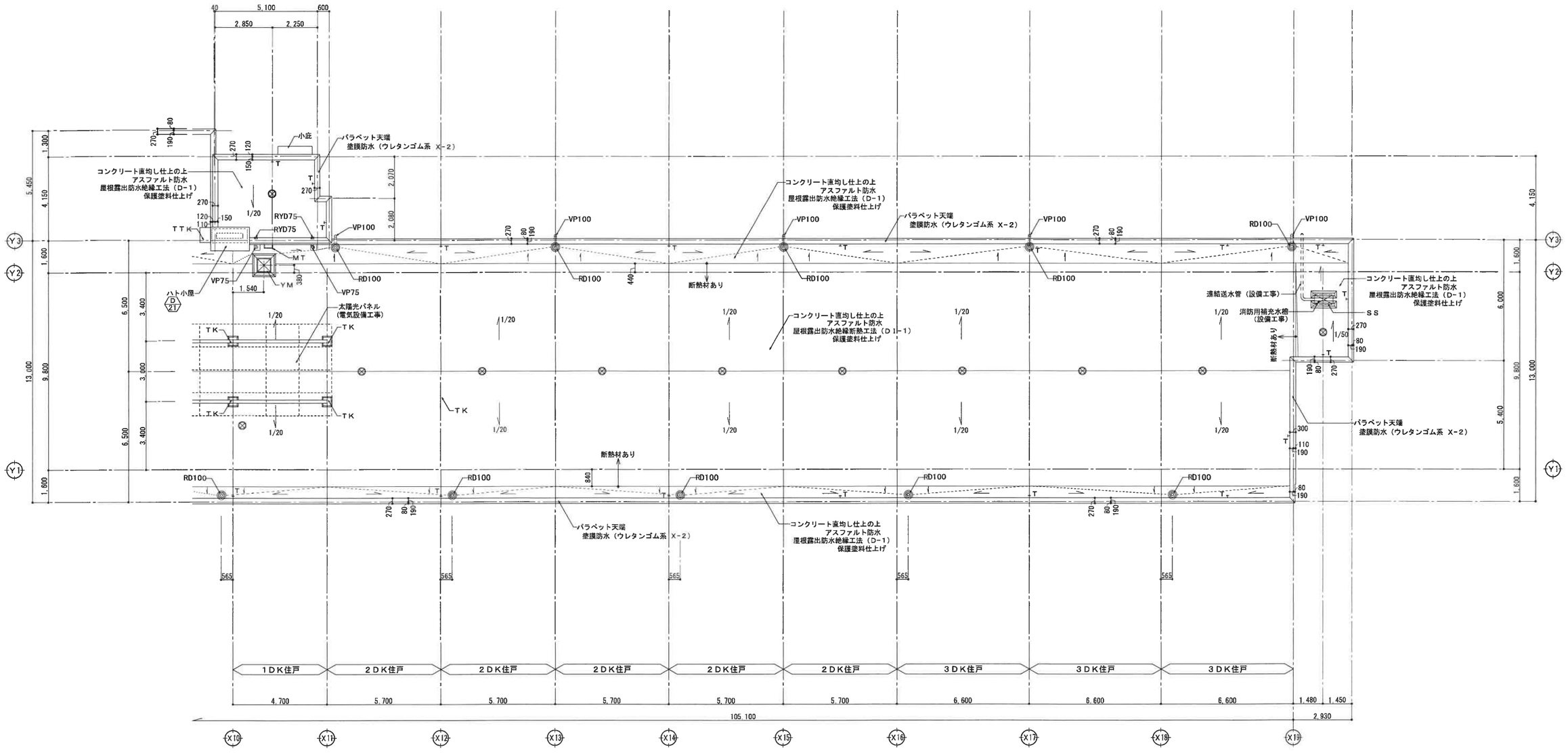


屋 根 伏 図

凡例

TK	太陽光発電モジュール架台基礎	D-5	RD100	縦型ドレイン（ルーフ）φ100	
TTK	太陽光発電トランス架台基礎 W750×D600×H200	D-21	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ75	
SS	消火水槽架台基礎	D-30	T	吊環（ステンレス丸環）	
YM	屋根マンホール（角型）：SUS製 600×600	A-5	MT	メンテナンスタラップ	
VP75	竪樋（VP-φ75）		⊗	脱気筒（ステンレス製） アスファルト防水用	
VP100	竪樋（VP-φ100）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図15（屋根伏図（X1～X10））		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／044
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		

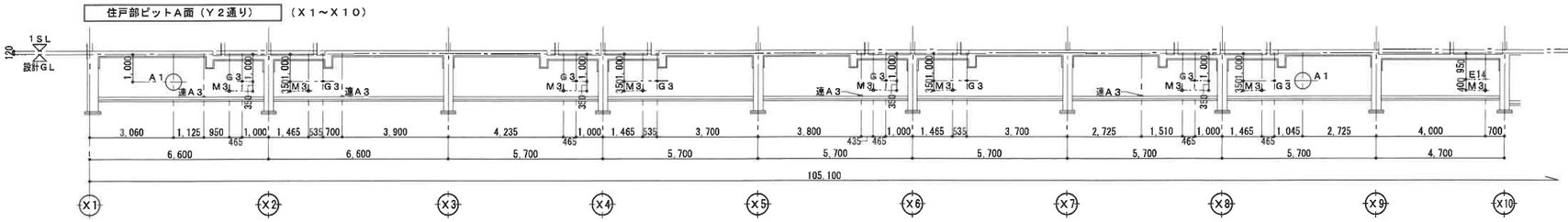


屋 根 伏 図

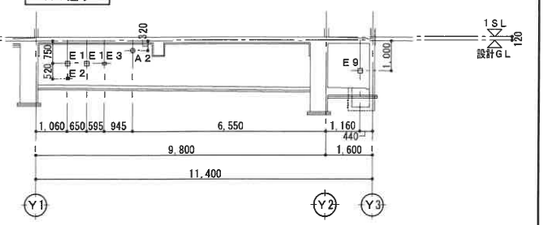
凡例												
	ＴＫ	太陽光発電モジュール架台基礎 D-5	RD100	縦型ドレイン（ルーフ）φ１００								
	ＴＴＫ	太陽光発電トランス架台基礎 W750×D600×H200 D-21	RYD75	横引きドレイン（ルーフ）φ７５								
	ＳＳ	消火水槽架台基礎 D-30	┴T	吊環（ステンレス丸環）								
	ＹＭ	屋根マンホール（角型）：ＳＵＳ製 ６００×６００ A-5	ＭＴ	メンテナンスタラップ								
	VP75	竪樋（ＶＰ-φ７５）	⊗	脱気筒（ステンレス製） アスファルト防水用								
	VP100	竪樋（ＶＰ-φ１００）										

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	平面図１６（屋根伏図（Ｘ10～Ｘ19））		
Ａ３縮尺	１／２００	Ａ１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０４５
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		

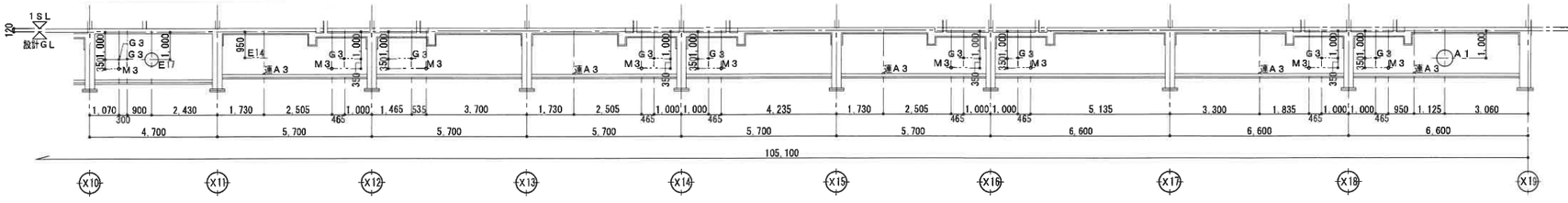
住戸部ピットA面（Y２通り）　（X１～X１０）



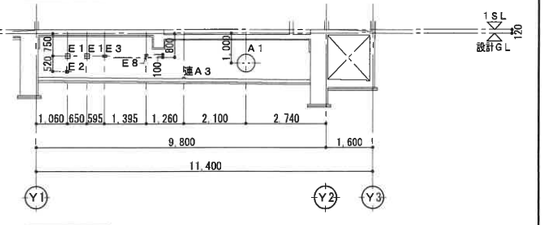
X１通り



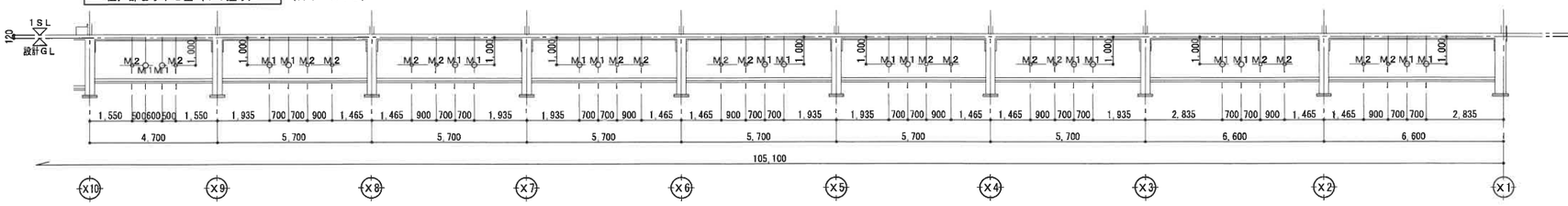
住戸部ピットA面（Y２通り）　（X１０～X１９）



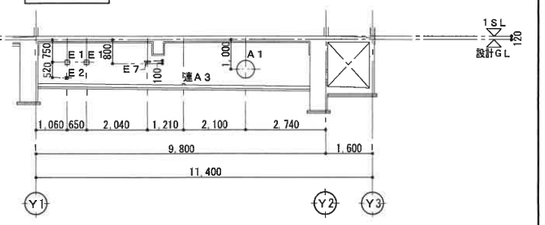
X２通り



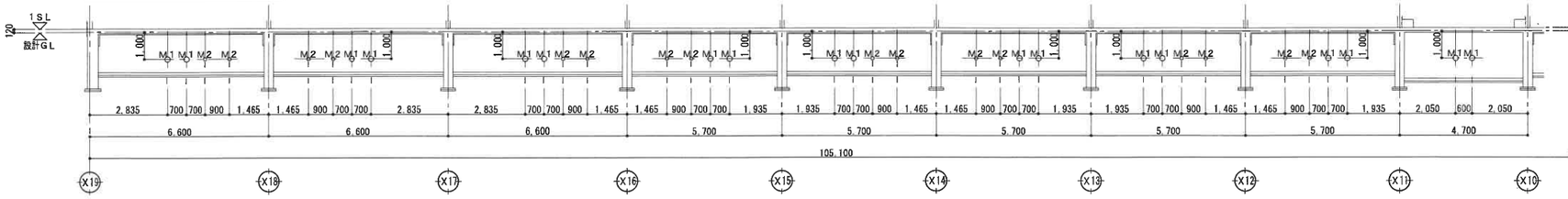
住戸部ピットC面（Y１通り）　（X１～X１０）



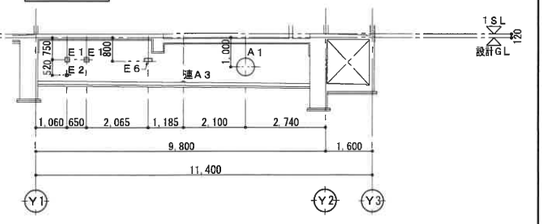
X３通り



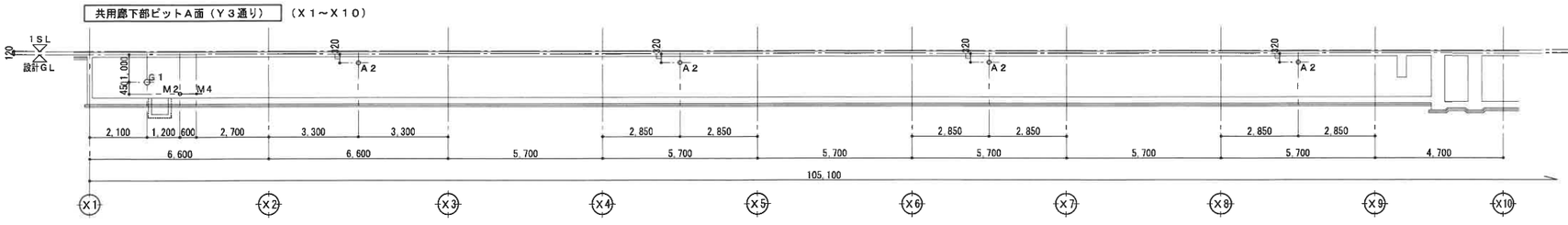
住戸部ピットC面（Y１通り）　（X１０～X１９）



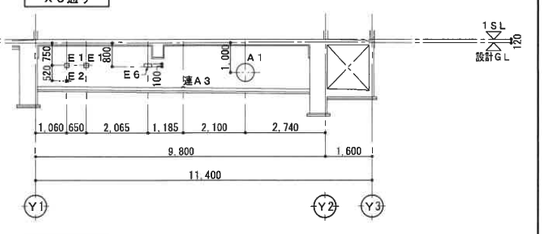
X４通り



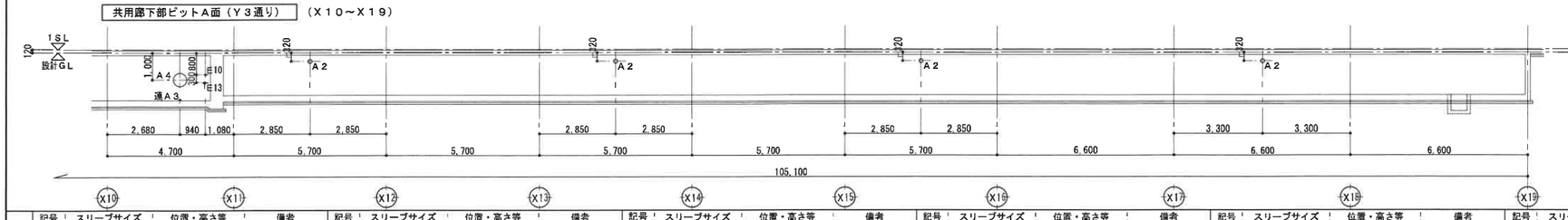
共用廊下部ピットA面（Y３通り）　（X１～X１０）



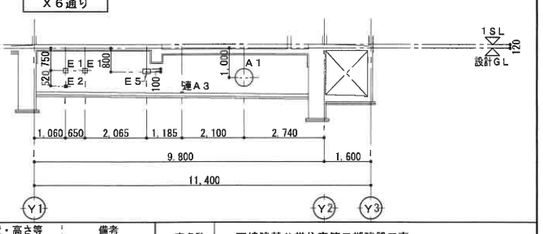
X５通り



共用廊下部ピットA面（Y３通り）　（X１０～X１９）



X６通り



凡例

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
A１	φ６００	図示による	建築・人通孔
A２	φ２００	図示による	建築・ピット通気孔
A３	φ１００半割	図示による	建築・ピット連通管
A４	φ５００	図示による	建築・人通孔

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
E１	１５０×１５０	図示による	幹線・太陽光発電
E２	１００× ７５	図示による	／電線管（別途工事）
E３	１５０× ７５	図示による	
E４	２５０×２００	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E５	２５０×１５０	図示による	
E６	２５０×１００	図示による	
E７	２００× ５０	図示による	
E８	１００× ５０	図示による	
E９	１５０×１５０	図示による	

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
E１０	６０× ６０	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E１１	φ１００	図示による	幹線／電線管（別途工事）
E１２	φ ７５	図示による	
E１３	６０× ６０	図示による	
E１４	φ ３０	図示による	
E１５	φ ３０	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E１６	５００×１２５	図示による	幹線／電線管（別途工事）
E１７	φ５００	図示による	幹線・弱電・太陽光発電 ／電線管（別途工事）

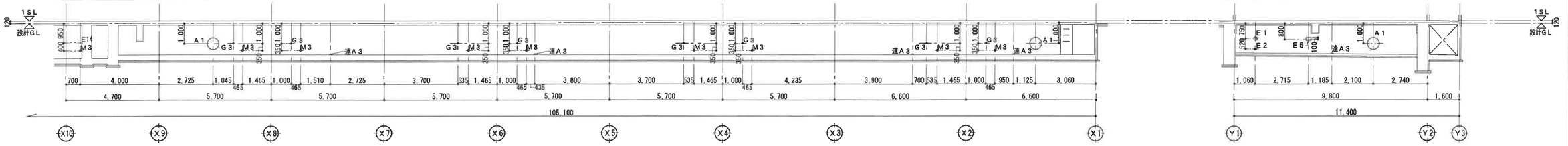
記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
M１	φ２００	図示による	雑排水管（別途工事）
M２	φ１２５	図示による	
M３	φ１００	図示による	
M４	φ ７５	図示による	給水管（別途工事）

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
G１	φ２００	図示による	ガス管（別途工事）
G２	φ１２５	図示による	
G３	φ ７５	図示による	

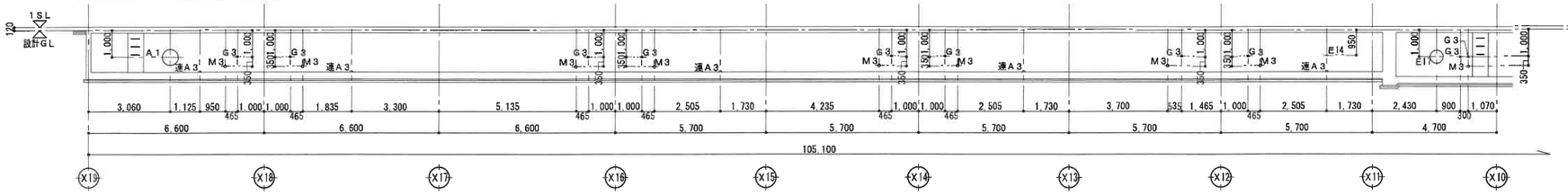
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	ピット展開図０１		
A３縮尺	１／２００	A１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局　建築部	図面番号	Ａ／０４６
原寸法	0　1,000　2,500　5,000　7,500　10,000mm		

共用廊下部ピットC面（Y２通り）（X１～X１０）

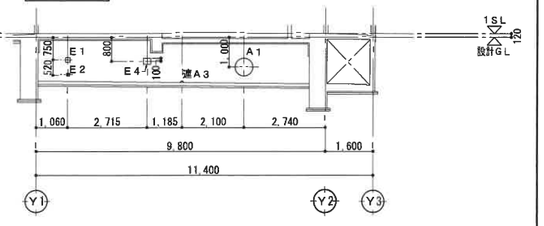


X７通り

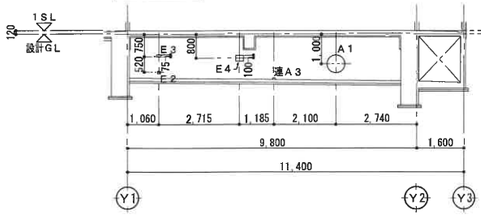
共用廊下部ピットC面（Y２通り）（X１０～X１９）



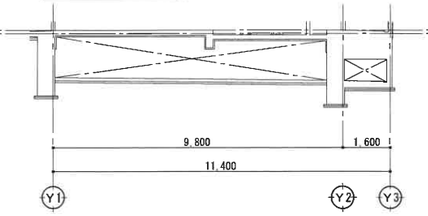
X８通り



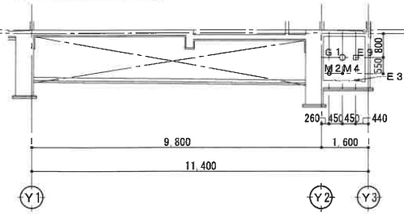
X９通り



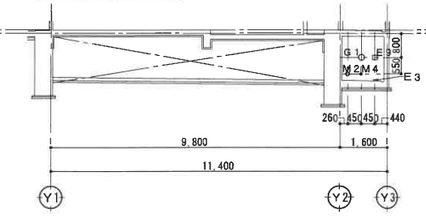
X９通り＋８７０



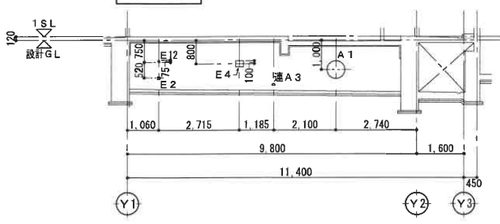
X９通り＋２，３２０



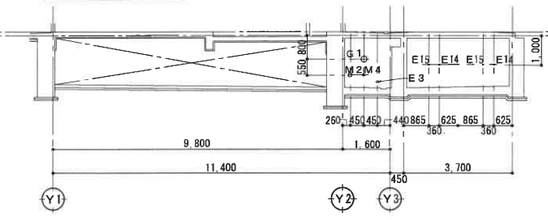
X９通り＋３，８１０



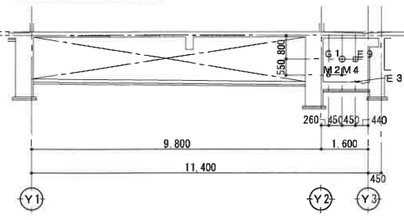
X１０通り



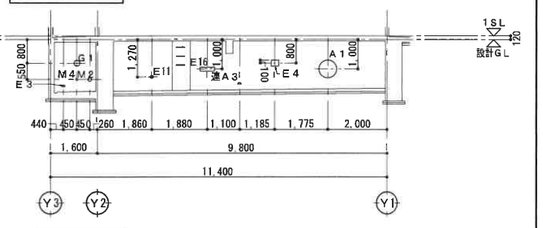
X１０通り＋１，９６０



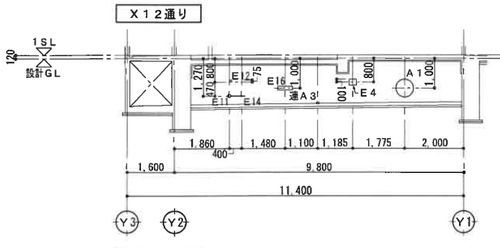
X１０通り＋４，２１０



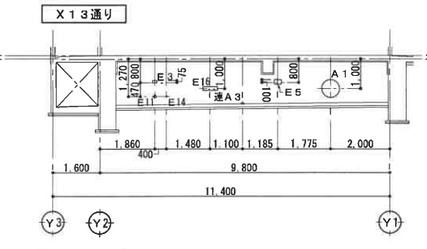
X１１通り＋４９０



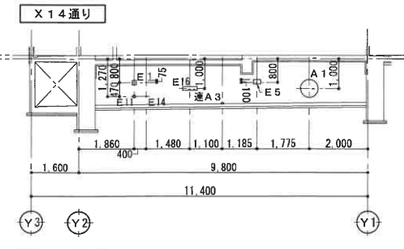
X１２通り



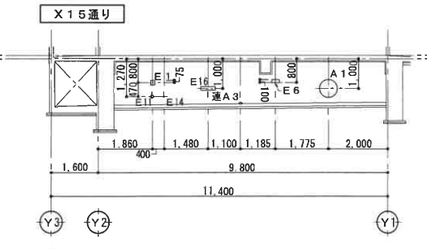
X１３通り



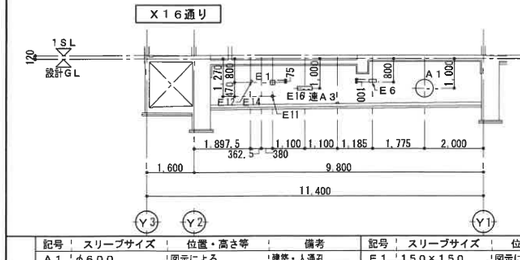
X１４通り



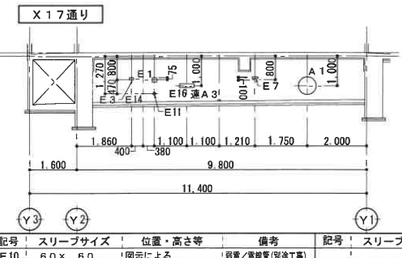
X１５通り



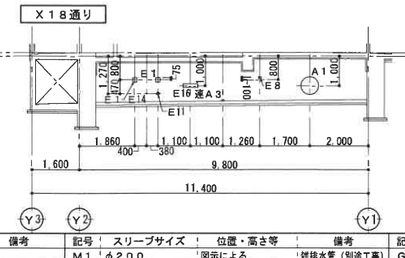
X１６通り



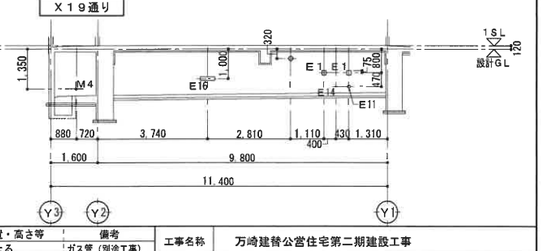
X１７通り



X１８通り



X１９通り



凡例

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
A１	φ６００	図示による	建築・人通孔
A２	φ２００	図示による	建築・ピット通気孔
A３	φ１００半割	図示による	建築・ピット通過管
A４	φ５００	図示による	建築・人通孔

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
E１	１５０×１５０	図示による	幹線・太陽光発電
E２	１００× ７５	図示による	／電線管（別途工事）
E３	１５０× ７５	図示による	
E４	２５０×２００	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E５	２５０×１５０	図示による	
E６	２５０×１００	図示による	
E７	２００× ５０	図示による	
E８	１００× ５０	図示による	
E９	１５０×１５０	図示による	

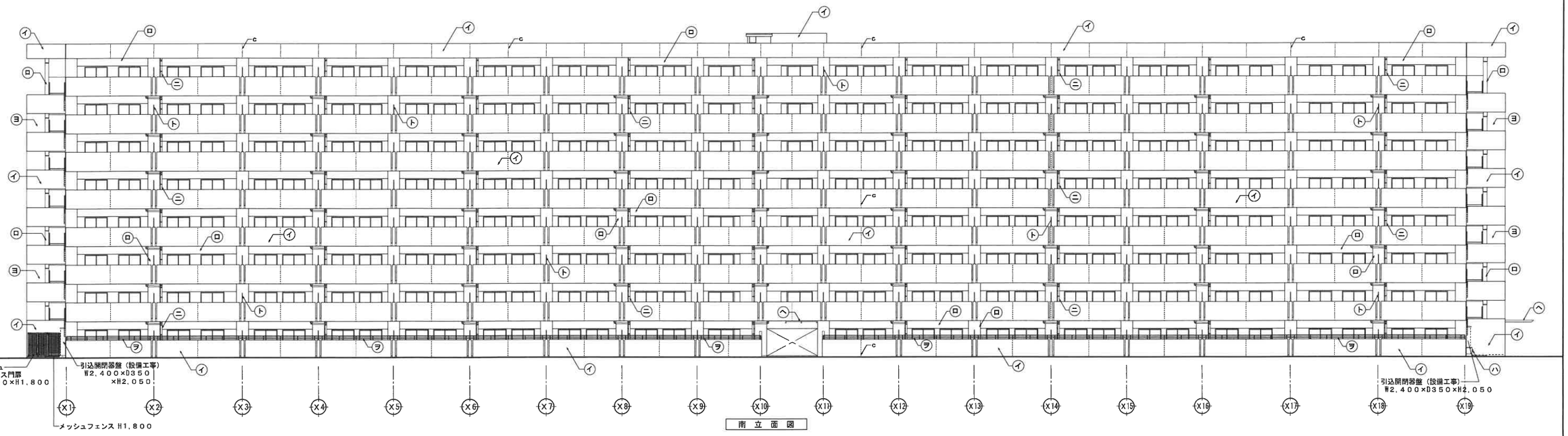
記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
E10	６０× ６０	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E11	φ１００	図示による	幹線／電線管（別途工事）
E12	φ ７５	図示による	
E13	６０× ６０	図示による	
E14	φ ３０	図示による	
E15	φ ３０	図示による	弱電／電線管（別途工事）
E16	５００×１２５	図示による	幹線／電線管（別途工事）
E17	φ５００	図示による	幹線・弱電・太陽光発電／電線管（別途工事）

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考

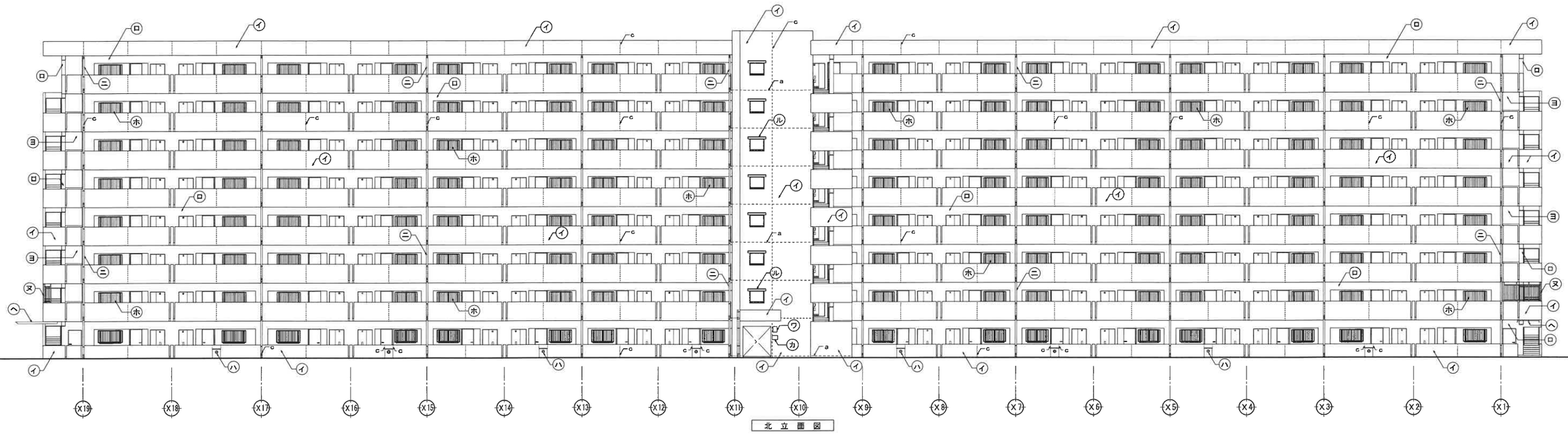
記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
M１	φ２００	図示による	雑排水管（別途工事）
M２	φ１２５	図示による	
M３	φ１００	図示による	
M４	φ ７５	図示による	給水管（別途工事）

記号	スリーブサイズ	位置・高さ等	備考
G１	φ２００	図示による	ガス管（別途工事）
G２	φ１２５	図示による	
G３	φ ７５	図示による	

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	ピット展開図０２
A３縮尺	１／２００
A１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	Ａ／０４７
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm



南 立 面 図

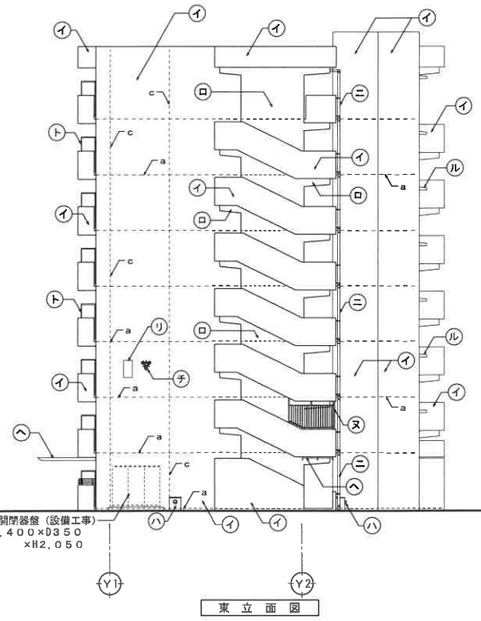


北 立 面 図

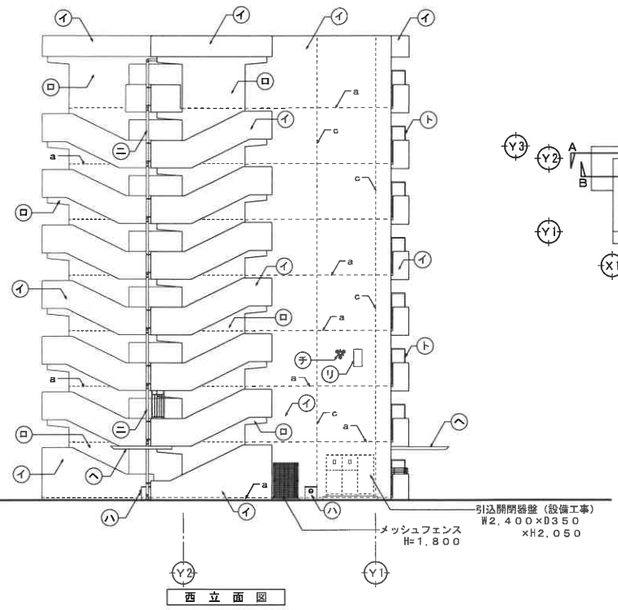
凡例

(イ)	外壁（最外面）：コンクリート打放しの上 複層塗材E	(ト)	バルコニー隔板 A-13	(ワ)	棟番号表示板 D-31	a	打継目地（シーリング） A-39	※ 外壁の色分けは、別途提供する外壁色彩計画による。
(ロ)	外壁（その他）：コンクリート打放しの上 複層塗材E	(チ)	市章：ステンレス製切文字 ５００タイプ A-40	(カ)	触知案内板 A-47	b	化粧目地（シーリング） A-39	
(ハ)	ピット換気孔 D-4	(リ)	棟番号：アルミ製 ８６０型 A-41	(ヨ)	屋外階段（上裏）：コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	c	誘発目地（シーリング） A-39	
(ニ)	竪樋：カラーＶＰ A-6 A-7	(ヌ)	防護柵 D-17					
(ホ)	アルミ製窓面格子 A-29	(ル)	小庇：コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2） A-8					
(ヘ)	落下防護庇 D-14	(ヲ)	アルミ製手摺（トップレールタイプ） D-23					

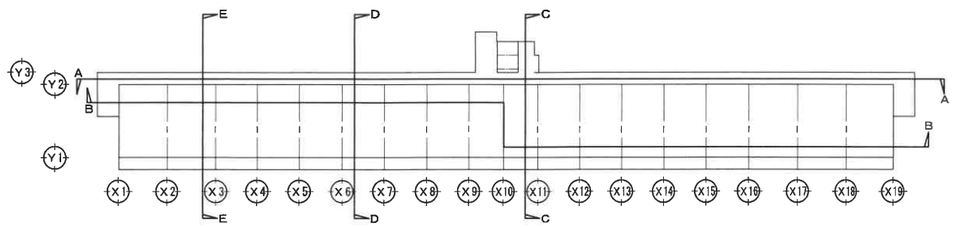
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	立面図０１		
A３縮尺	１／３００	A１縮尺	１／１５０
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	Ａ／０４８
原寸法	0 1,000 3,000 5,000 10,000 15,000㎜		



東 立 面 図



西 立 面 図



断 面 位 置 図

【室名凡例】
A： 玄関
B： 廊下
C： DK
D： 洋室
E： 洗面室
F： 便所
G： 浴室
H： 納入
I： バルコニー
J： 共用廊下
K： PS・MB
L： エントランスホール
M： EVホール
N： 倉庫
O： EV
P： ピット



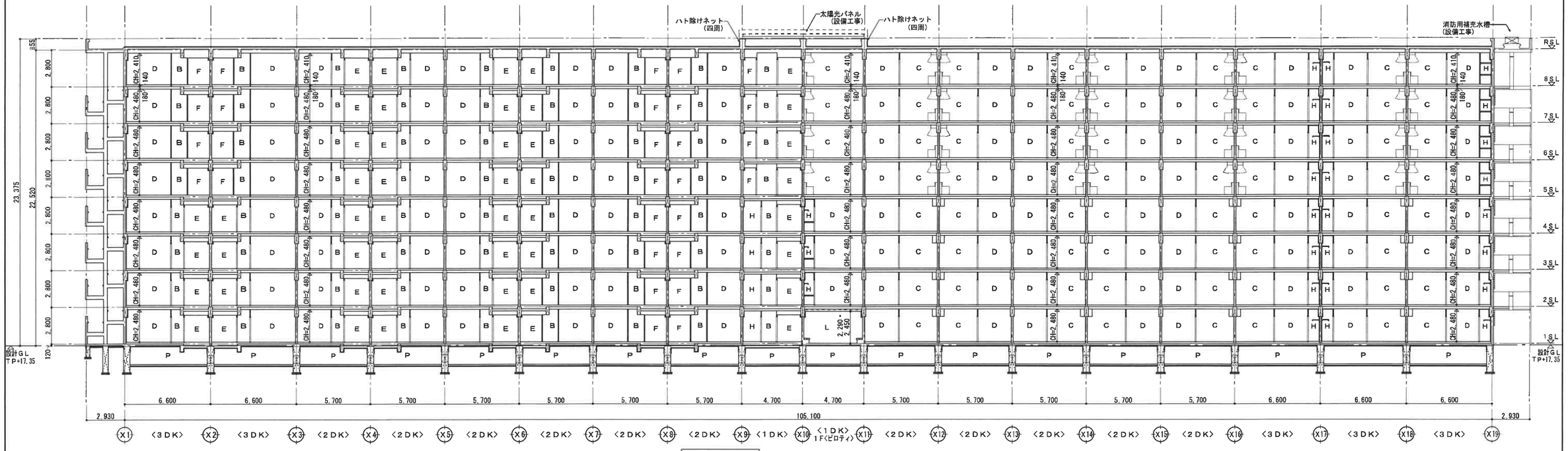
A-A 断 面 図

凡例

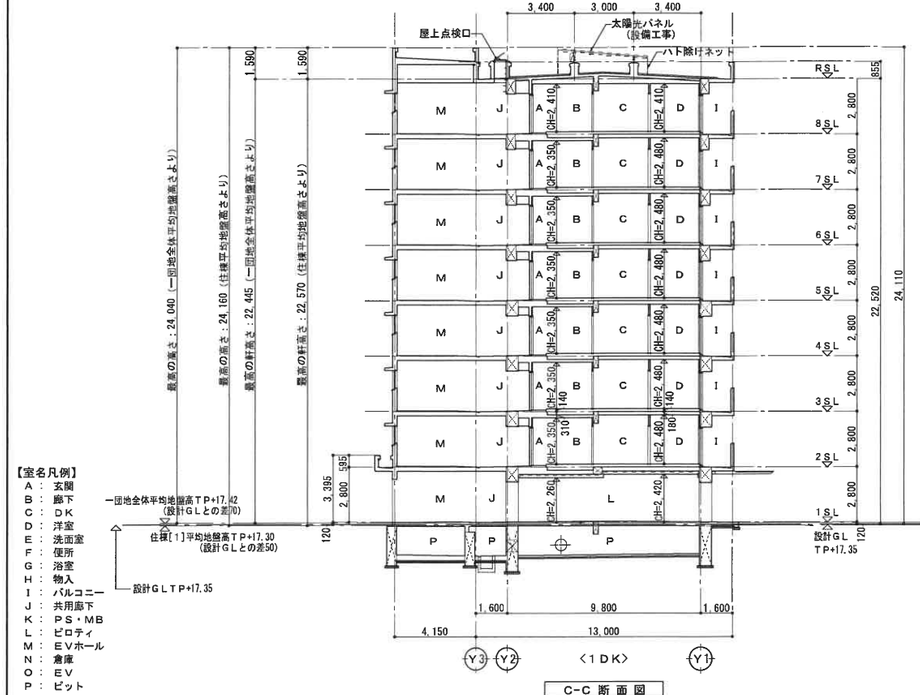
イ	外壁等（最外面）：コンクリート打放しの上 複層塗材E	ト	バルコニー隔板 A-13	ワ	様番号表示板 D-31	a	打継目地（シーリング） A-39
ロ	外壁等（その他）：コンクリート打放しの上 複層塗材E	チ	市章：ステンレス製切文字 500タイプ A-40	カ	触知案内板 A-47	b	化粧目地（シーリング） A-39
ハ	ピット換気孔 D-4	リ	様番号：アルミ製 860型 A-41			c	誘発目地（シーリング） A-39
ニ	竪樋：カラーVP A-6 A-7	ヌ	防護柵 D-17				
ホ	アルミ製窓面格子 A-29	ル	小庇：コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2） A-8				
ヘ	落下防護庇 D-14	ヲ	アルミ製手摺（トップレールタイプ） D-23				

※ 外壁の色分けは、別途提供する外壁色彩計画による。

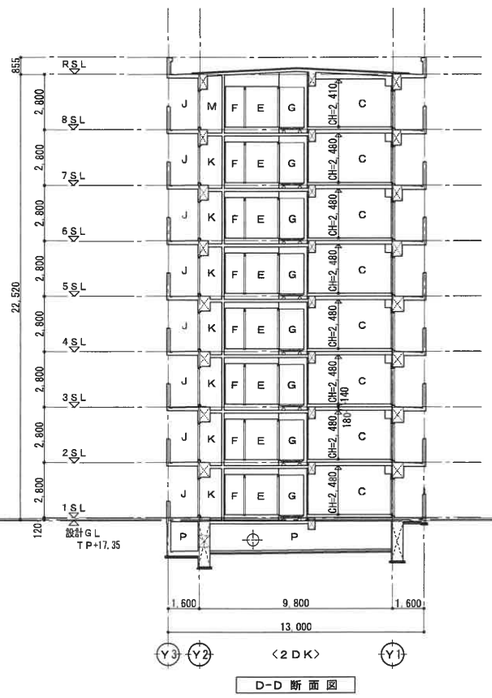
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	立面図02・断面図01		
A3縮尺	1／300	A1縮尺	1／150
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／049
原寸法	0 1,000 3,000 5,000 10,000 15,000mm		



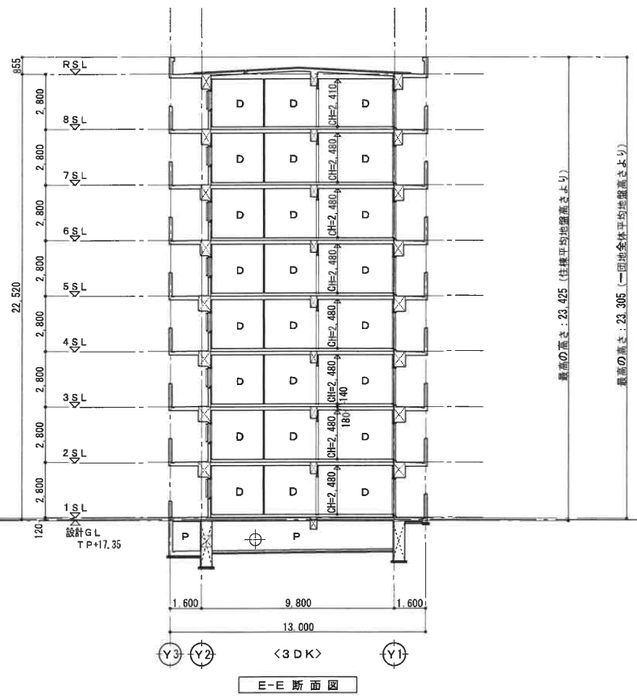
B-B 断面図



C-C 断面図



D-D 断面図



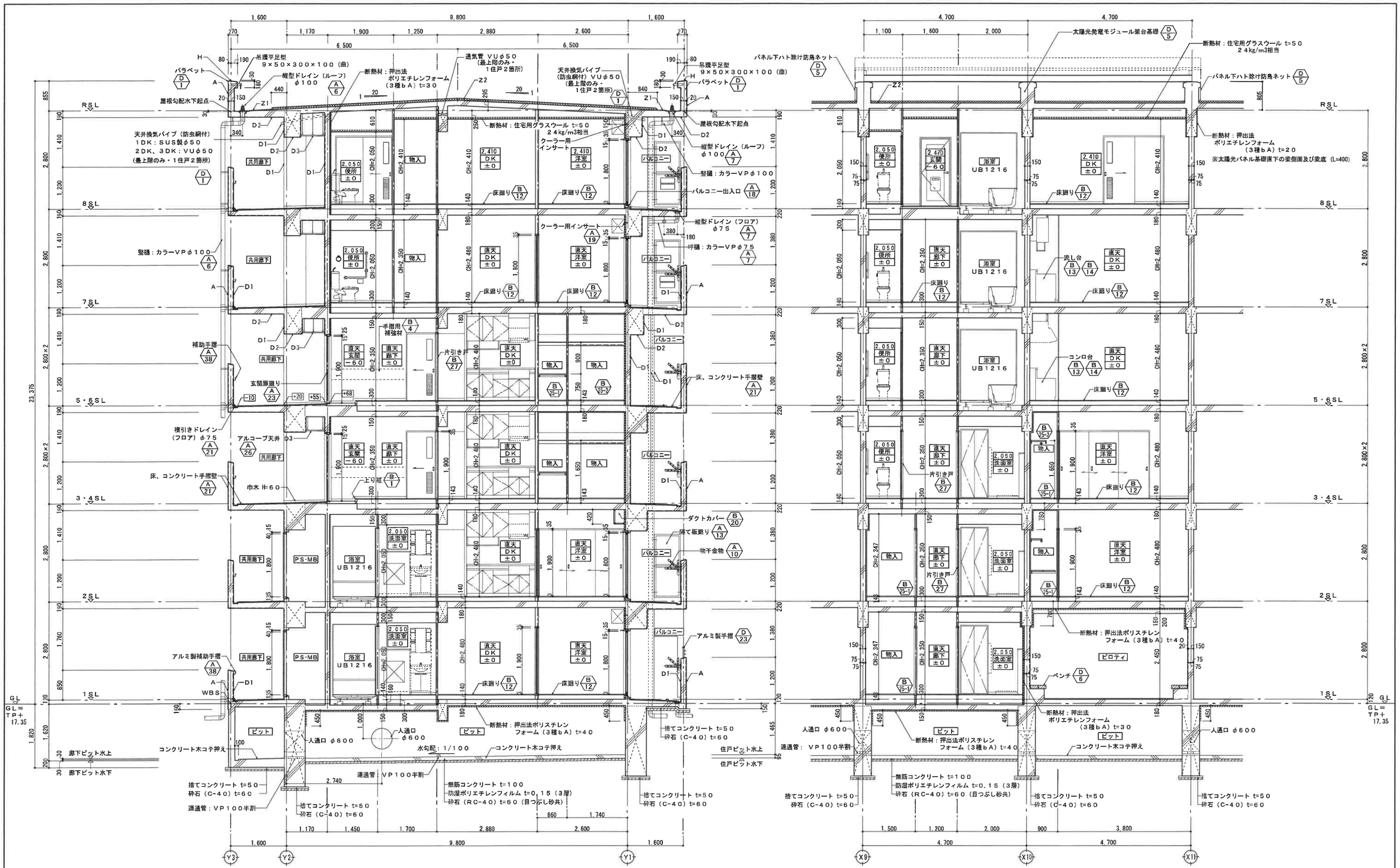
E-E 断面図

【室名凡例】

A：	玄関
B：	廊下
C：	DK
D：	洋室
E：	洗面室
F：	便所
G：	浴室
H：	物入
I：	バルコニー
J：	共用廊下
K：	PS・MB
L：	ピロティ
M：	EVホール
N：	倉庫
O：	EV
P：	ピット

凡例

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	断面図02
A3縮尺	1／300
A1縮尺	1／150
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	A／050
原寸法	0 1,000 3,000 5,000 10,000 15,000mm



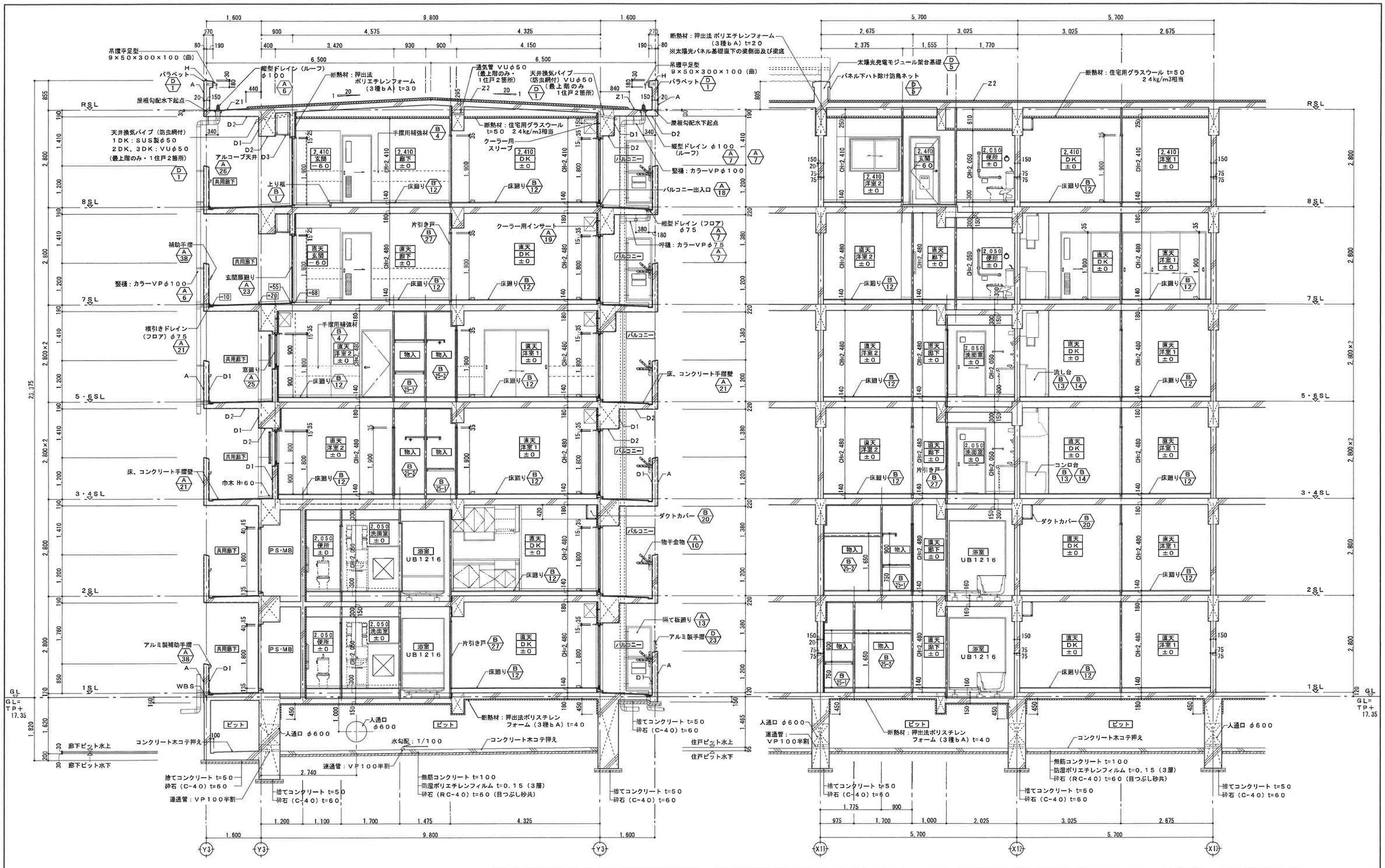
仕上凡例				仕上凡例			
	A	外壁等（最外面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E		Z1	屋根：軒先	コンクリート直均しの上 アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D−1）
	D1	外壁（その他）柱・梁（側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E		Z2	屋根：大屋根	コンクリート直均しの上 アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D−1）（断熱材：硬質ウレタンフォーム2種1号 t=50）
	D2	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E		WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）	
	D3	天井（アルコーブ）	ケイ酸カルシウム板t=6.0 底目貼の上 外装薄塗材E				
	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X−2）				

凡例

B20 ディテールNo.を示す。

直天 洋室 ±0 天井高さを示す。室名を示す。床仕上レベルを示す。

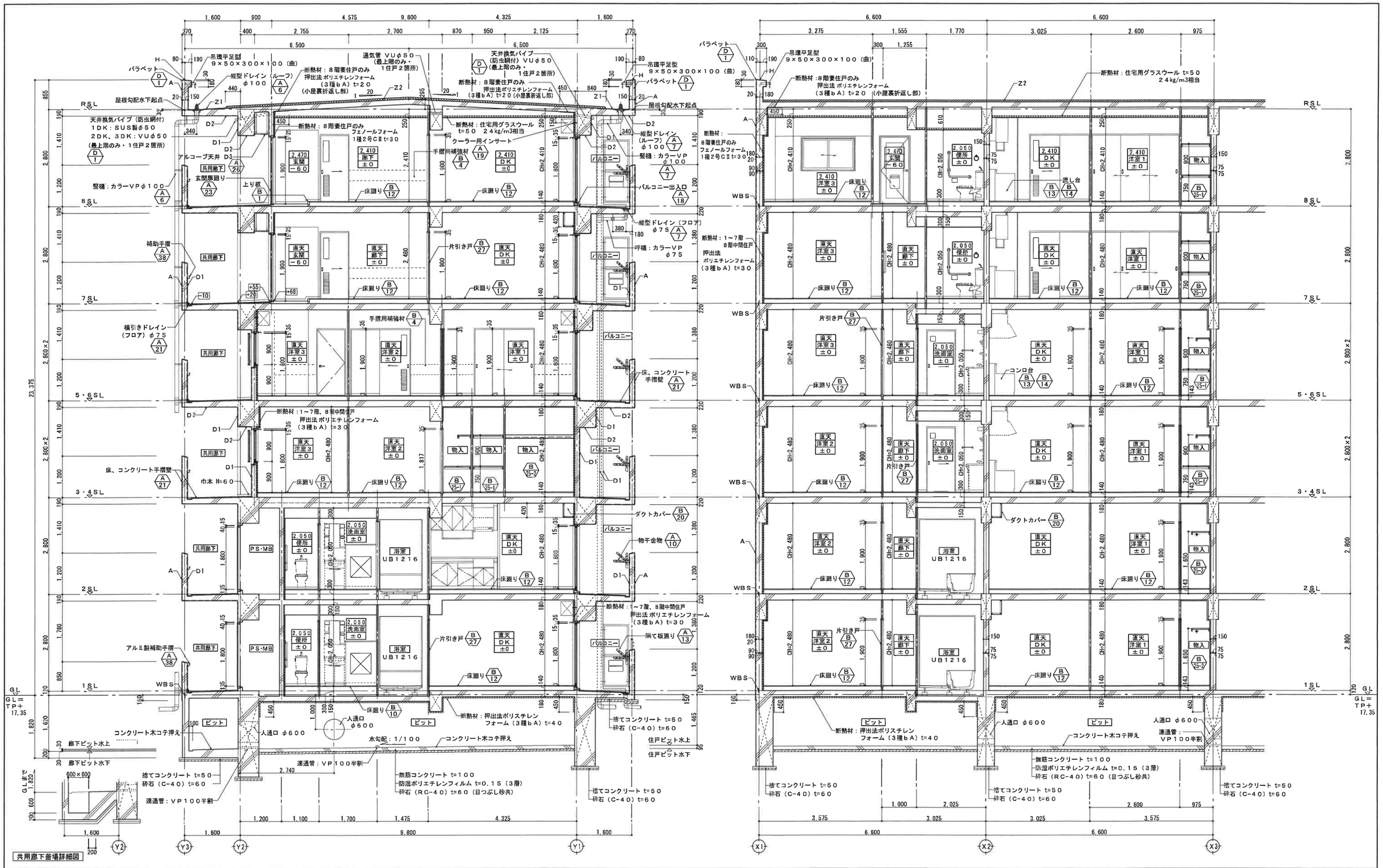
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	矩計図01（1DKタイプ）		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／051
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		



仕上凡例						
	A	外壁等（最外面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	Z1	屋根：軒先	コンクリート直均し仕上の上アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D-1）
	D1	外壁（その他） 柱・梁（側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	Z2	屋根：大屋根	コンクリート直均し仕上の上アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D1-1） （断熱材：硬質ウレタンフォーム2種1号 t=50）
	D2	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）	
	D3	天井（アルコーブ）	ケイ酸カルシウム板t=6.0 底目貼の上 外装薄塗材E			
	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）			

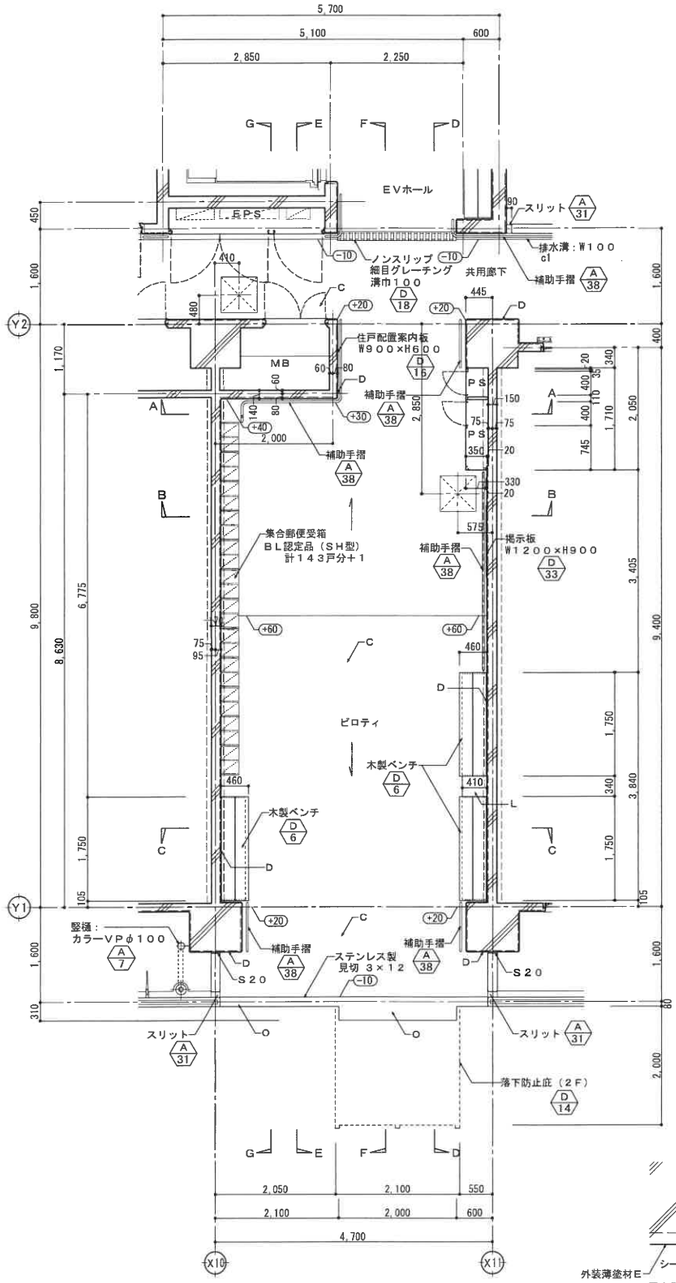
凡例	
B 20	ディテールNo.を示す。
直天 洋室 ±0	天井高さを示す。 室名を示す。 床仕上レベルを示す。

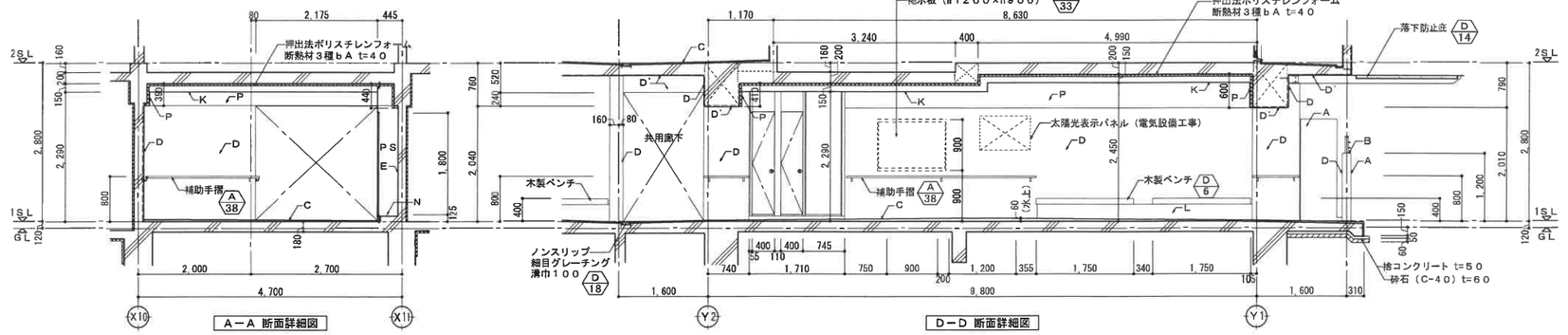
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	矩計図02（2DKタイプ）		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／052
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

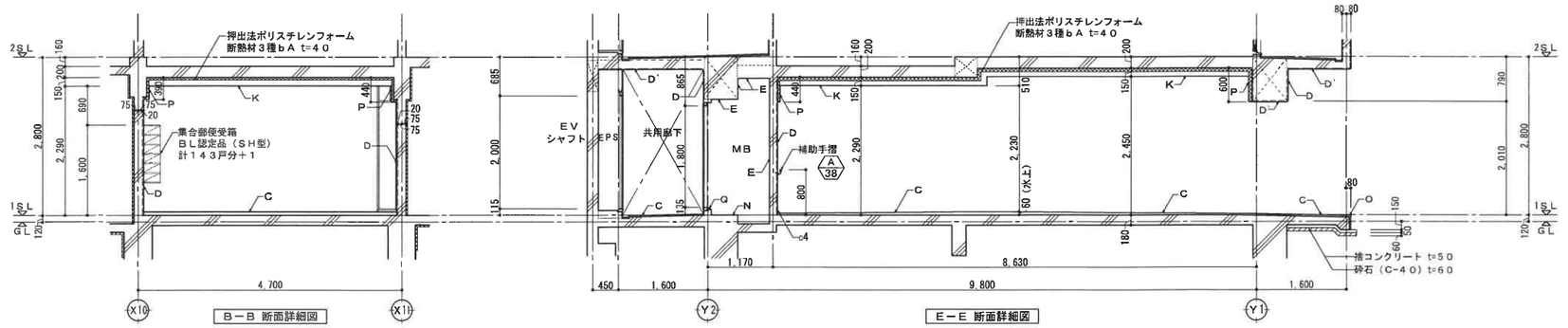


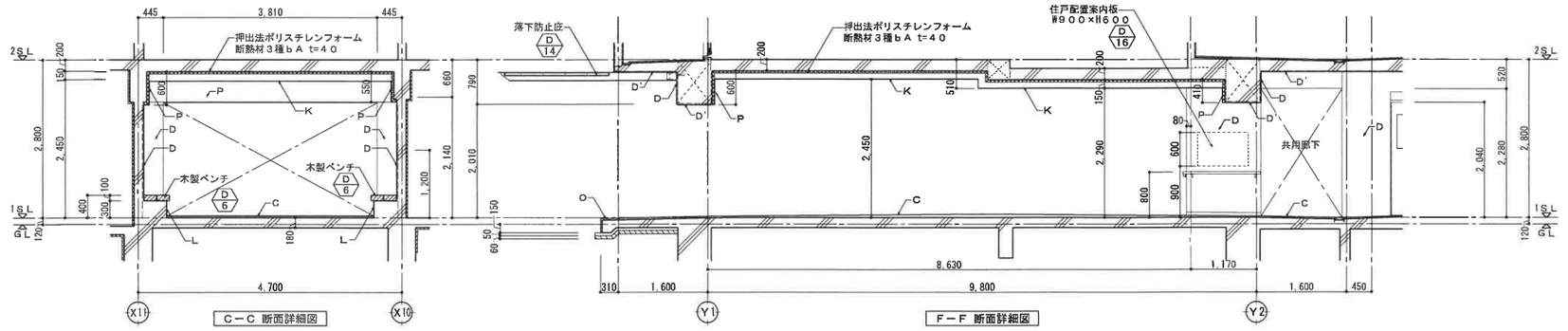
仕上凡例				仕上凡例			凡例	
	A	外壁等（最外面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	Z1	屋根：軒先	コンクリート直均し仕上の上アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D-1）	B20	ディテールNo.を示す。
	D1	外壁（その他）柱・梁（側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	Z2	屋根：大屋根	コンクリート直均し仕上の上アスファルト防水 屋根露出防水絶縁工法（D1-1）（断熱材：硬質ウレタンフォーム2種1号 t=50）	直天 洋室 ±0	天井高さを示す。室名を示す。床仕上レベルを示す。
	D2	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	WBS	水膨張系止水板を示す。（壁厚（増打ちを含む）に対し、増打ち厚さ以上、且つ打継目地と止水板を併せた断面欠損率は25%以下とすること。）			
	D3	天井（アルコーブ）	ケイ酸カルシウム板t=6.0 底目貼の上 外装薄塗材E					
	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）					

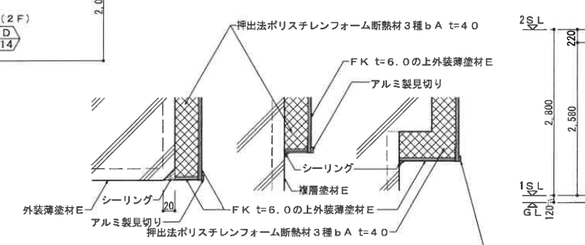
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	矩計図03（3DKタイプ）		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／053
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		



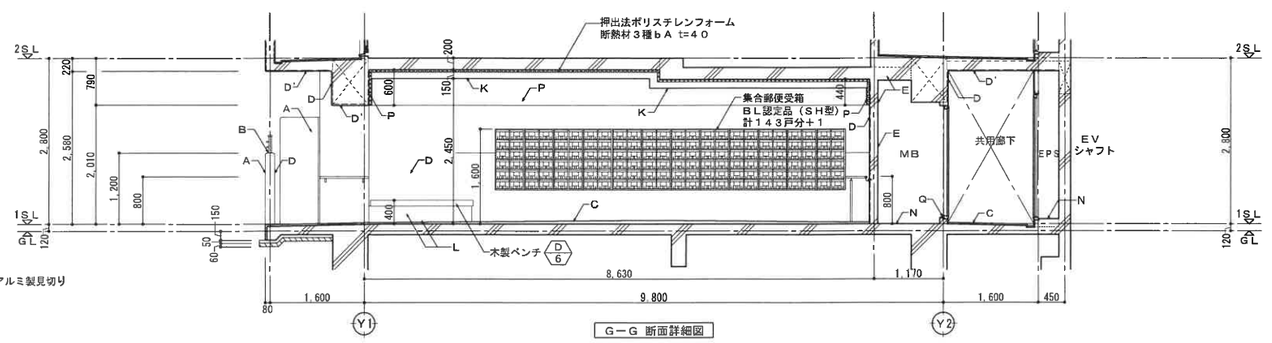








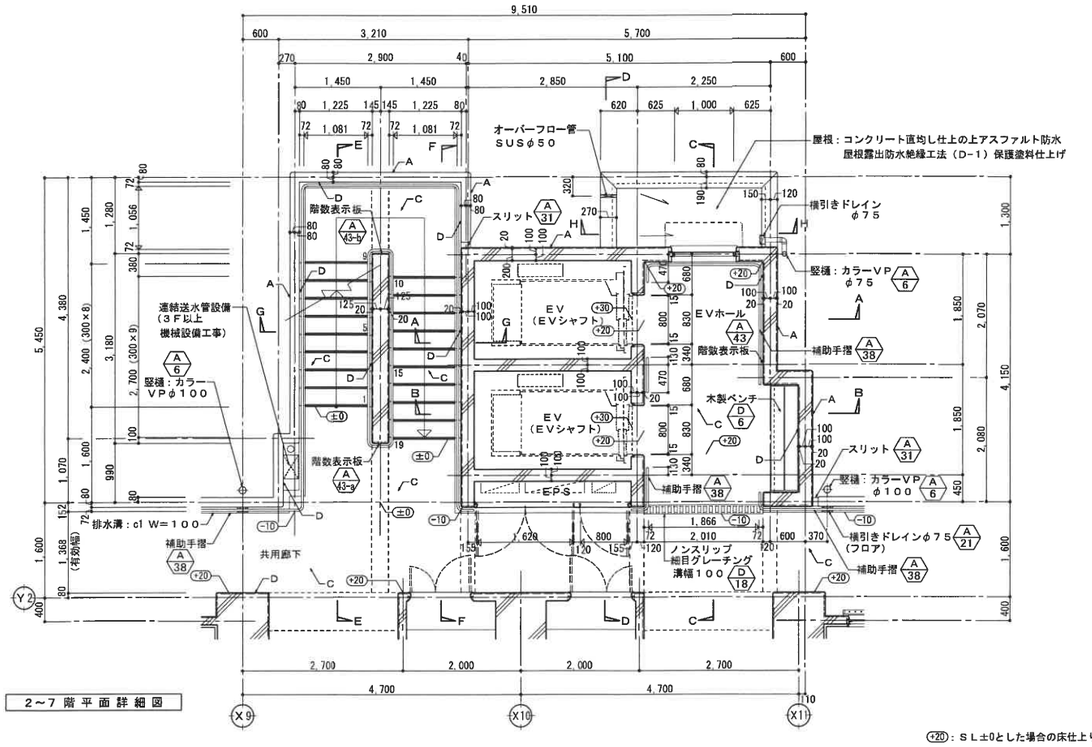
断熱材端部詳細図　S=1／5
※ シーリング：PU－2とする



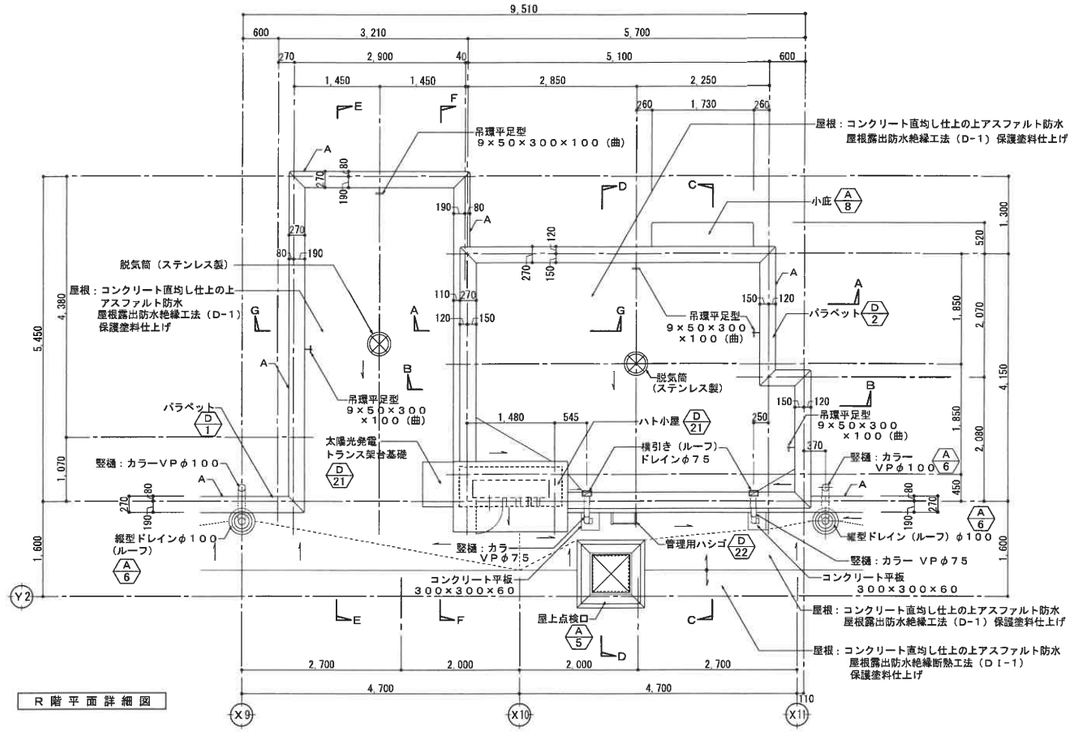
+20 ： 1FL＝±0とした場合の 床仕上げ天端レベルを示す。

仕上凡例												
	A	外壁（最外面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	N	床（MB・ピット）	コンクリート金コテ押え
	B	手摺天端	コンクリート打放しの上 耐候性塗料（DP）塗	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	I	床	モルタル金コテ押え（t=20）	O	床	モルタル金コテ押えの上屋外用合成樹脂塗床
	C	床	モルタル塗り（t=20）の上 防滑性ビニル床シート t=2.5	E	壁・天井	コンクリート打放し	J	床	モルタル下地の上 磁器質タイル貼 100角	P	梁	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=40 FK t=6.0の上 外装薄塗材E
	c1	排水溝	モルタル塗り（t=10～30）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	K	天井	FK t=6.0（LGS下地）の上 外装薄塗材E	Q	床	防水モルタル金コテ押え t＝30
	c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押え（t=20）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	L	木製ベンチRC躯体	コンクリート打放しの上 EP－G塗	S20		袖壁 スリット幅 20㎜（スタイロt=20の上シーリング）
							M	巾木	ステンレス巾木 H=300 t=2.0	※天井出隅部、アルミ製見切り材設置のこと。		

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	ピロティ廻り詳細図		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／054
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

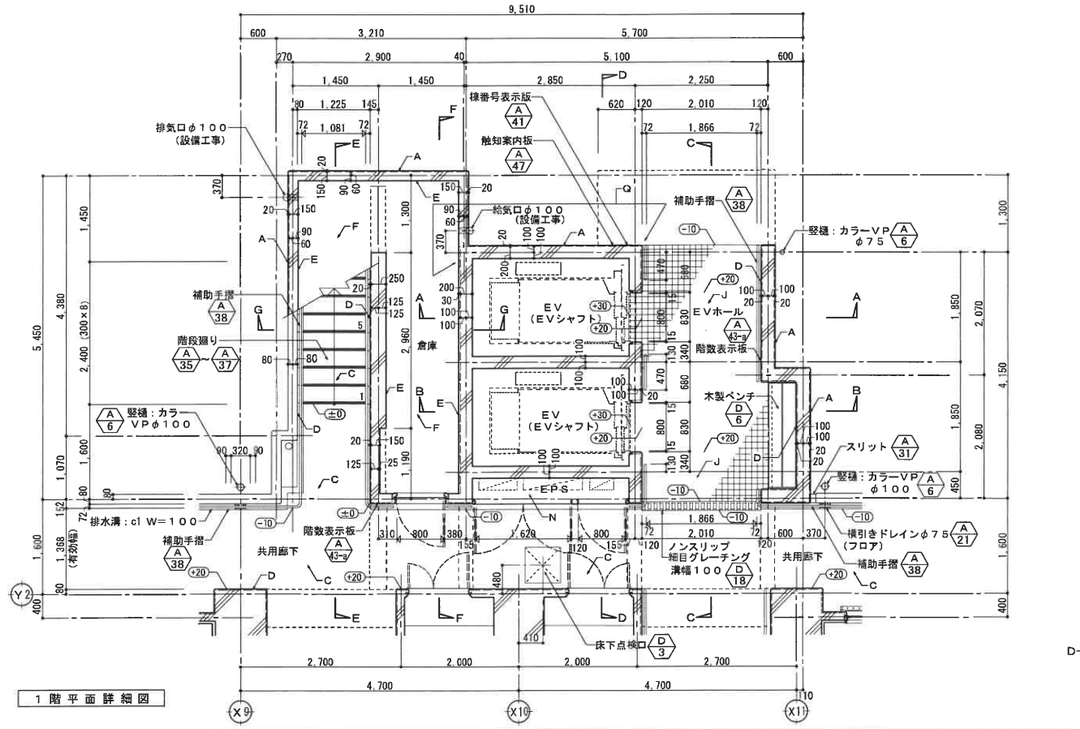


2～7 階 平 面 詳 細 図

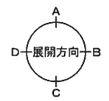


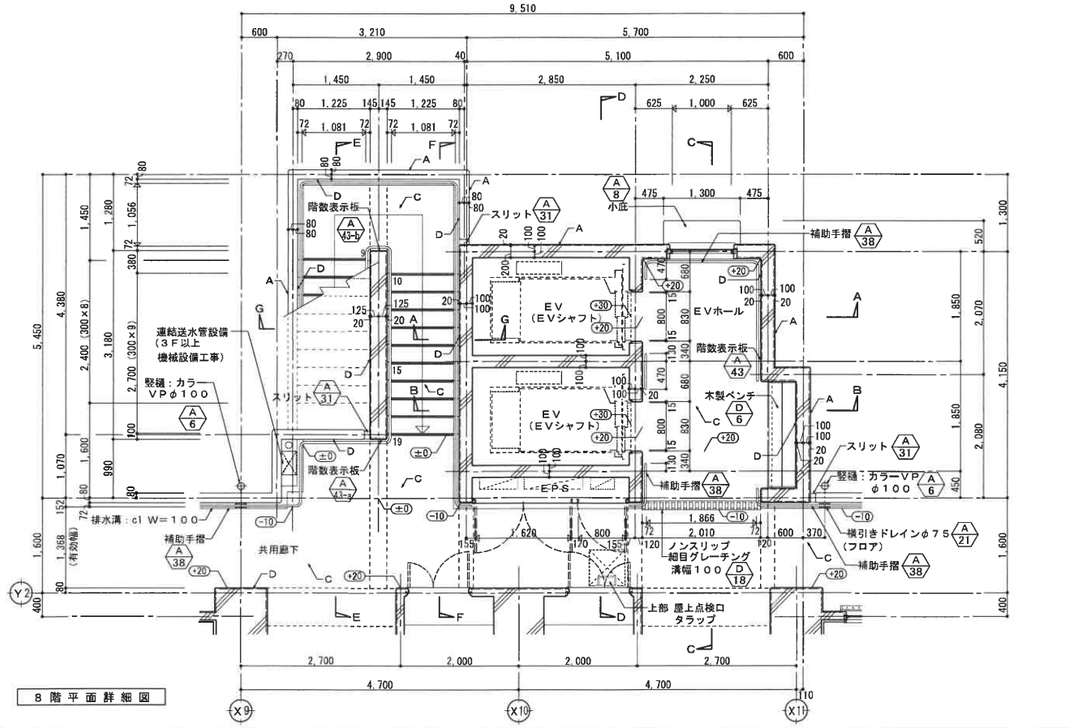
R 階 平 面 詳 細 図

+20：ＳＬ±0とした場合の床仕上り天端レベルを示す。



1 階 平 面 詳 細 図

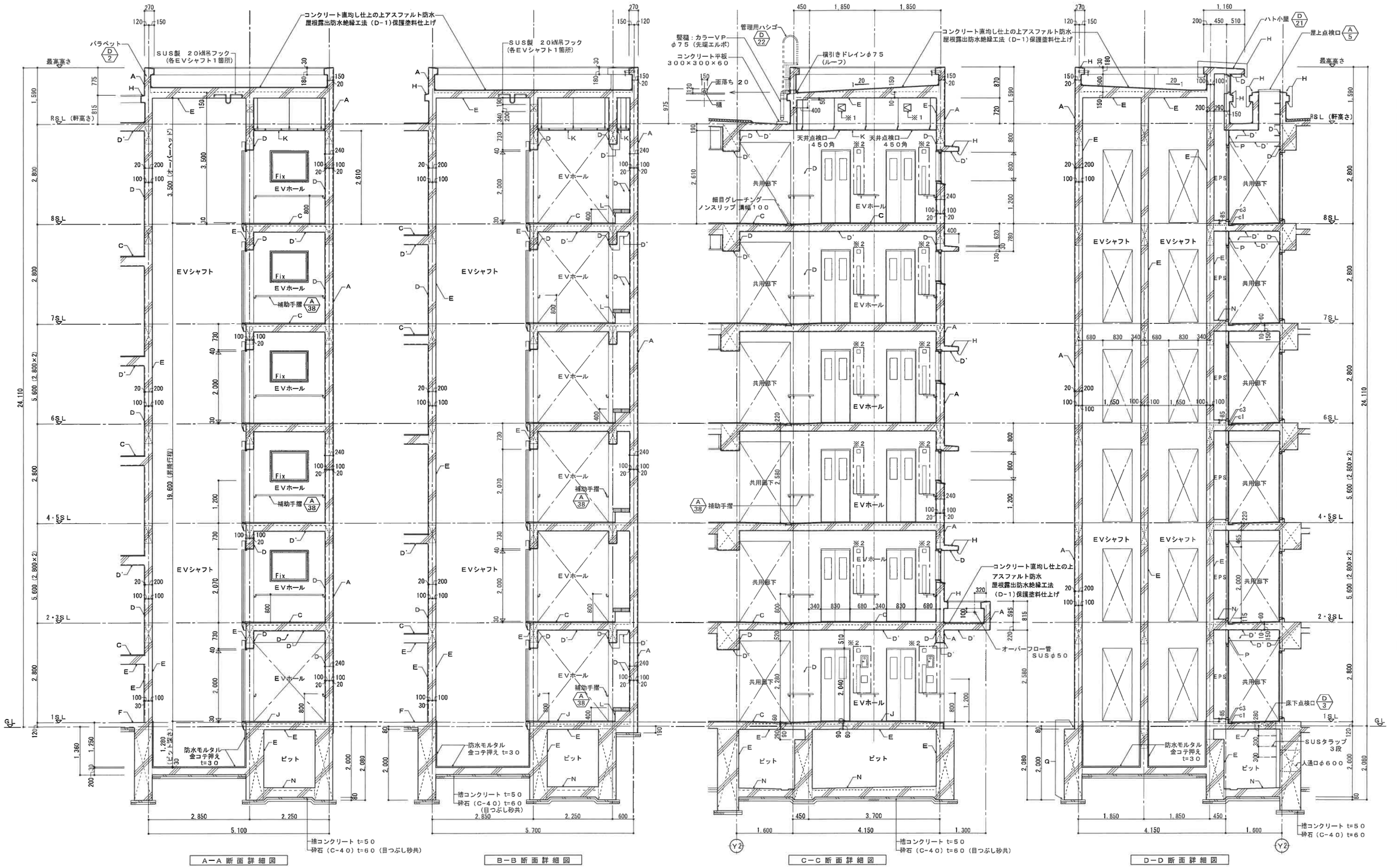




8 階 平 面 詳 細 図

仕上凡例												
	A	外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材E	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	N	床（MB・ピット）	コンクリート金コテ押え
	B	手摺天端	コンクリート打放しの上 耐候性塗料（DP）塗	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	I	床	モルタル金コテ押え（t=20）	Q	EVピット地中梁外部面 図示範囲	ゴムアスファルト系塗膜防水Y一1工法
	C	床	モルタル塗り（t=20）の上防滑性ビニル床シート t=2.5	E	壁・天井	コンクリート打放しのまま	J	床	モルタル下地の上 磁器質タイル貼 100角			
	c1	排水溝	モルタル塗り（t=10～30）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	K	壁・天井	FK t=6.0（LGS下地）の上 外装薄塗材E			
	c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押え（t=20）の上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	L	木製ベンチRC躯体	コンクリート打放しの上 EP一G塗			

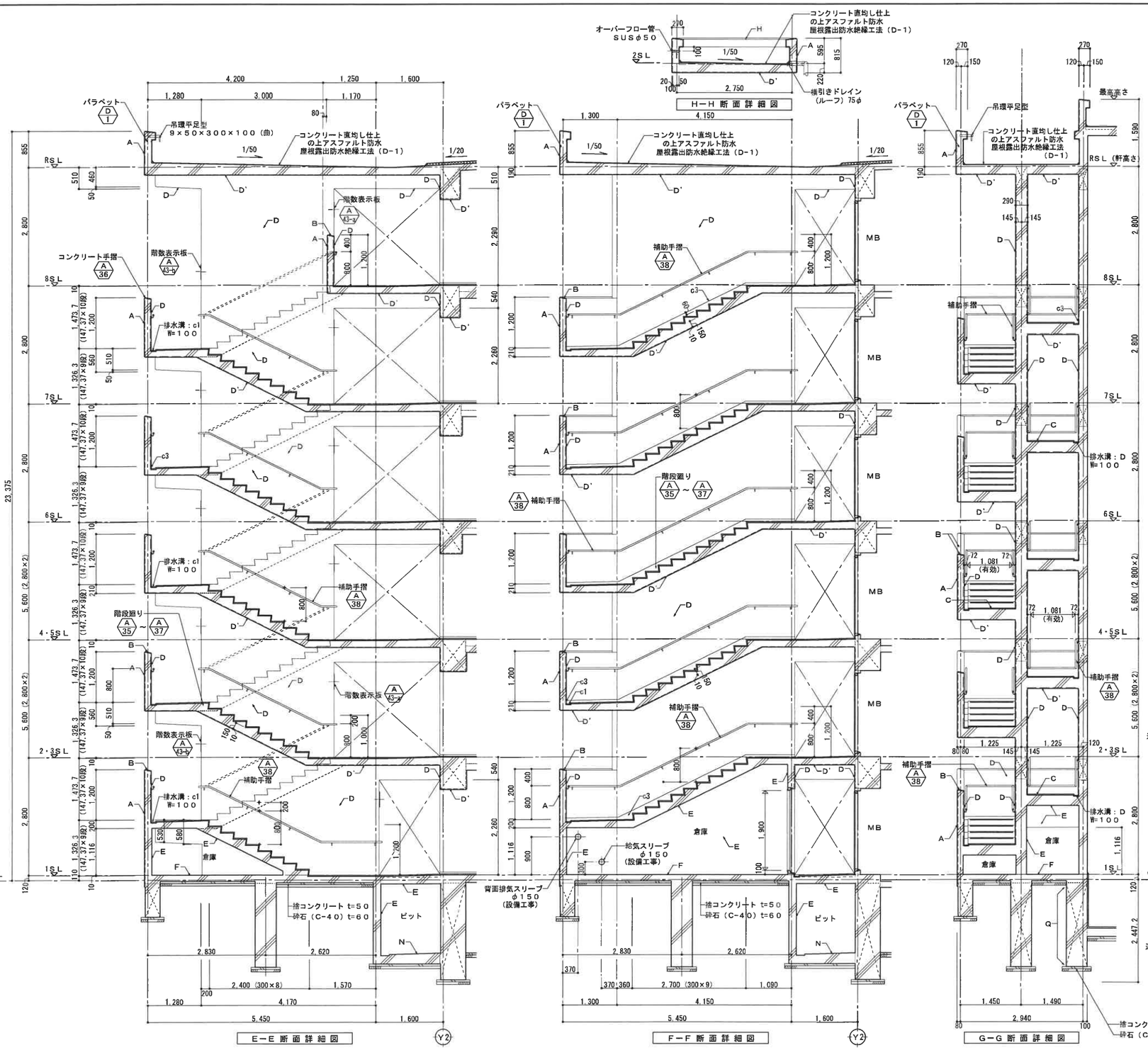
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	EV・EVホール・屋外階段A廻り詳細図01		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／055
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

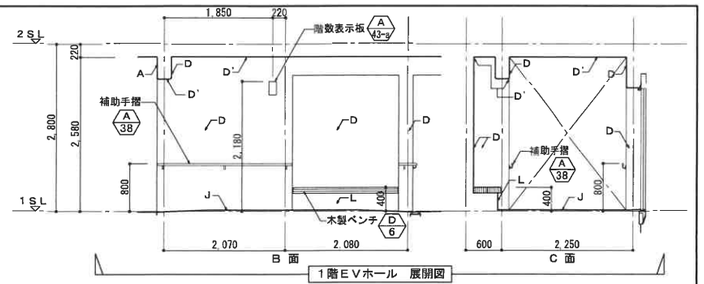


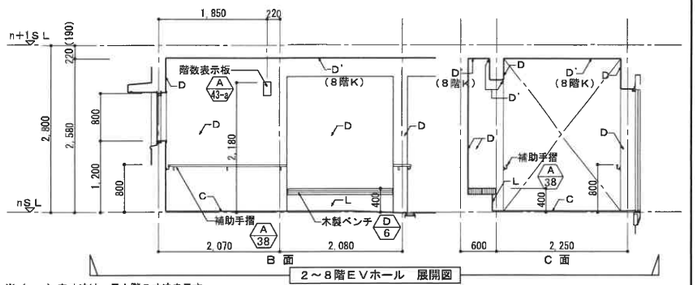
仕上凡例											
A	外壁	コンクリート打放しの上　複層塗材E	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上　複層塗材E	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	N	床（MB・ピット）	コンクリート木コテ押え
B	手摺天端	コンクリート打放しの上　耐候性塗料（DP)塗	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上　外装薄塗材E	I	床	モルタル金コテ押え（t=20）	O	床	モルタル金コテ押えの上防塵用塗料塗り
C	床	モルタル塗り（t=20）の上　防滑性ビニル床シート t=2.5	E	壁・天井	コンクリート打放し	J	床	モルタル下地の上　磁器質タイル貼　100角	P	EPS　垂れ壁	FK t=8.0二重貼（LGS下地）の上 複層塗材E
c1	排水溝	モルタル塗り（t=10～30）の上　ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	K	天井	FK t=6.0（LGS下地）の上　外装薄塗材E	Q	EVピット地中梁外部面　図示範囲	ゴムアスファルト系塗膜防水Y－1工法
c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上　ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押え（t=20）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	L	木製ベンチRC躯体	コンクリート打放しの上 EP－G塗			

※1：煙感知器・点検ハッチ　スチール t=1.6　SOP塗装　（電気設備工事）
※2：乗場押ボタン、乗場位置表示器、点字注意板、国際シンボルマーク、インターホンボックス（昇降機設備工事）

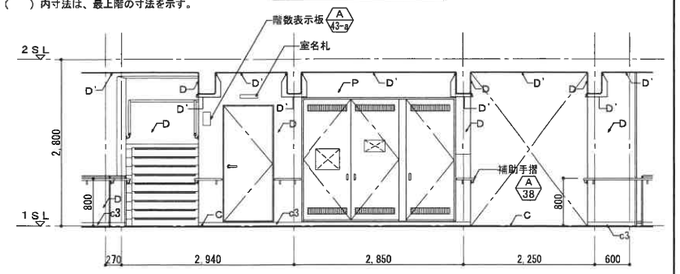
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	EV・EVホール・屋外階段A廻り詳細図02		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市　建築都市局　建築部		図面番号	A／056
原寸法	0　500　1,000　2,000　3,000　5,000mm		

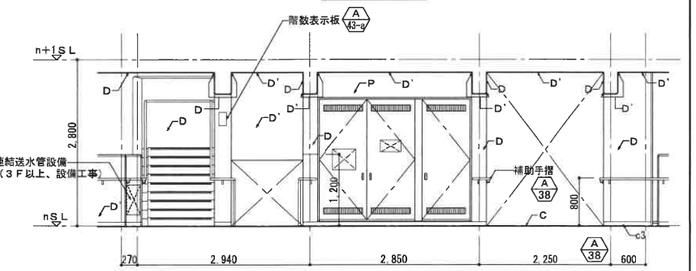


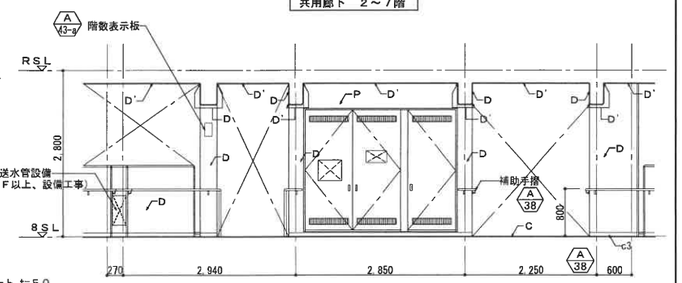




※（ ）内寸法は、最上階の寸法を示す。

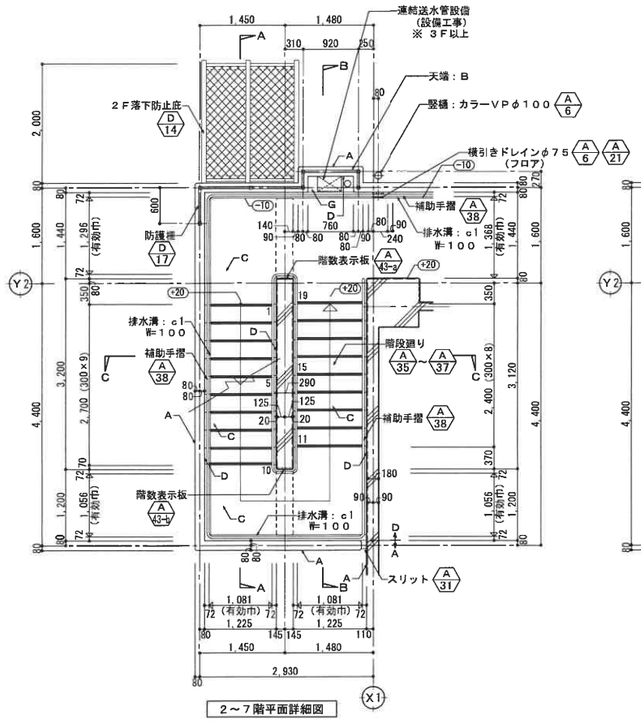


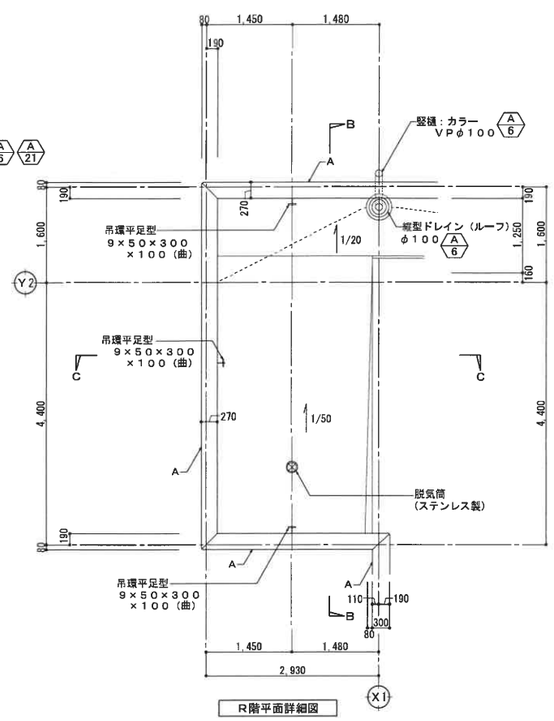


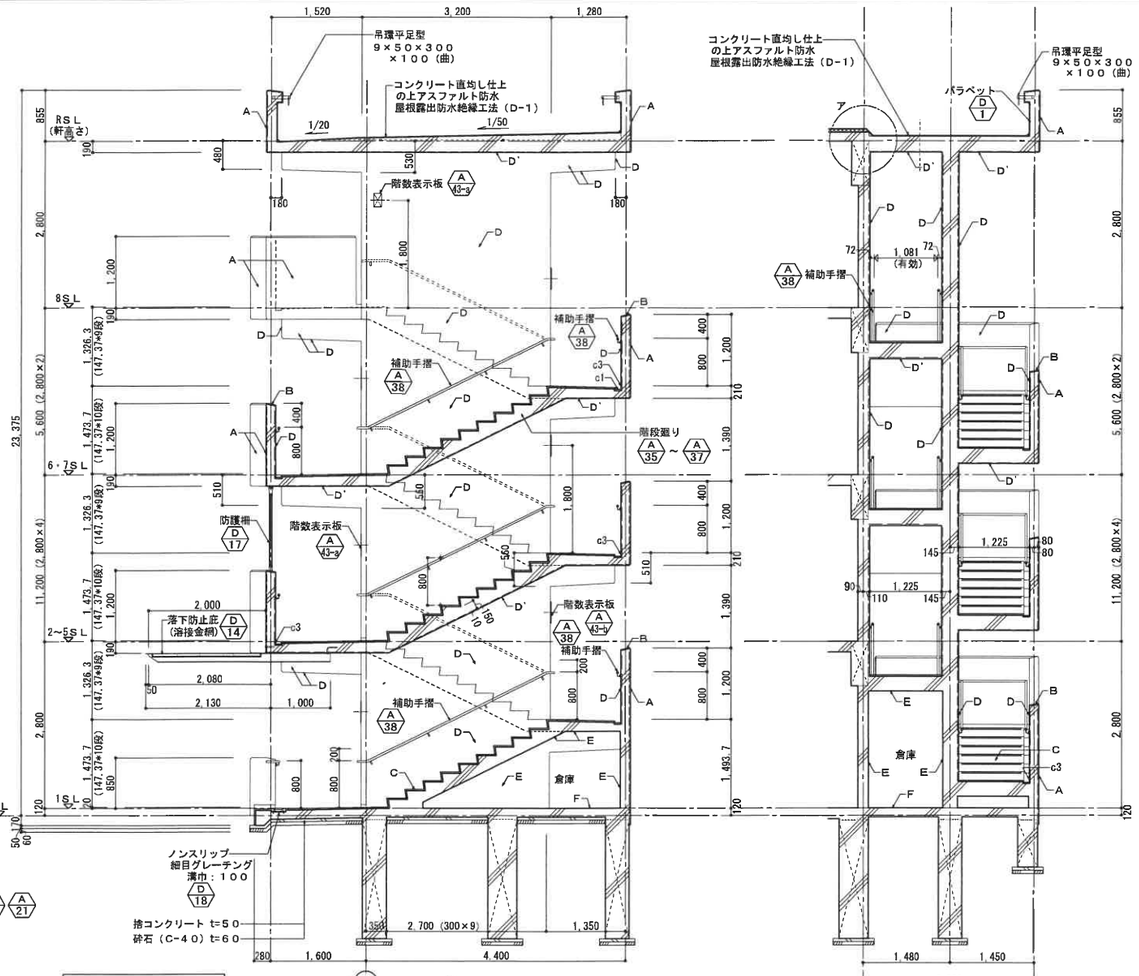


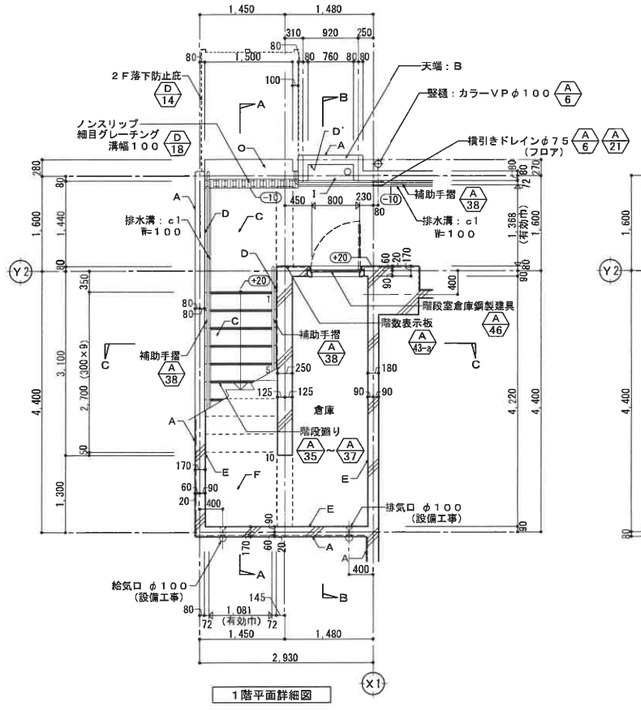
仕上凡例	A	外壁	コンクリート打放しの上 複層塗材E	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	N	床（MB・ピット）	コンクリート木コテ押え
	B	手摺天端	コンクリート打放しの上 耐候性塗料（DP）塗	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	I	床	モルタル金コテ押え（t=20）	P	EPS 張れ壁	FK t=8.0二重貼（LGS下地）の上 複層塗材E
	C	床	モルタル塗り（t=20）の上防滑性ビニル床シート t=2.5	E	壁・天井	コンクリート打放し	J	床	モルタル下地の上 磁器質タイル貼 100角	Q	EVピット地中梁外部面 図示範囲	ゴムアスファルト系塗膜防水Y－1工法
	c1	排水溝	モルタル塗り（t=10～30）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	K	天井	FK t=6.0（LGS下地）の上 外装薄塗材E			
	c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押え（t=20）の上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	L	木製ベンチRC躯体	コンクリート打放しの上 EP－G塗			

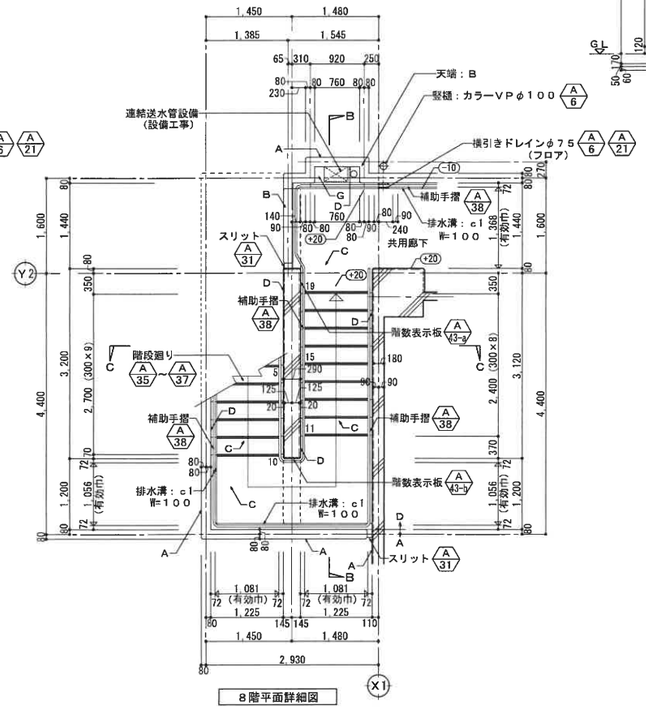
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	EV・EVホール・屋外階段A廻り詳細図03		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／057
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

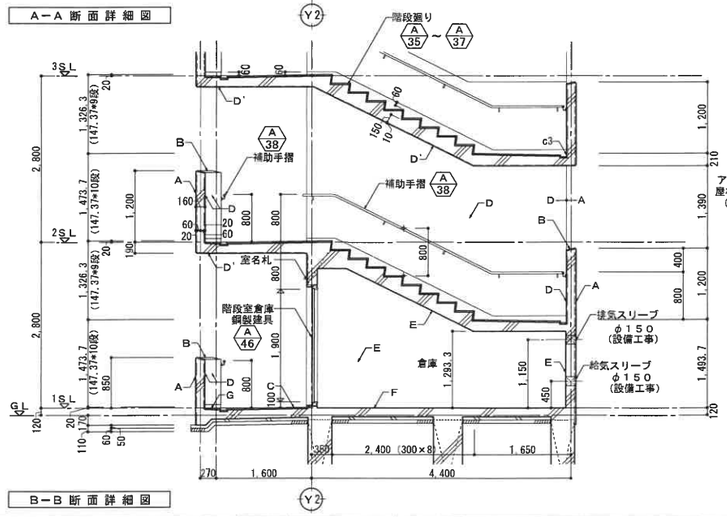


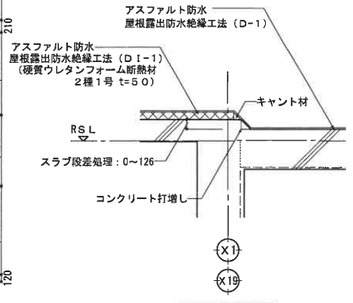








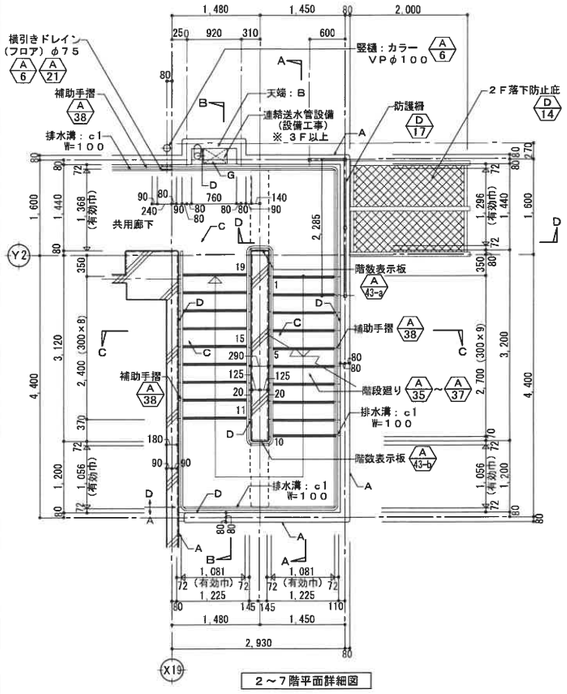




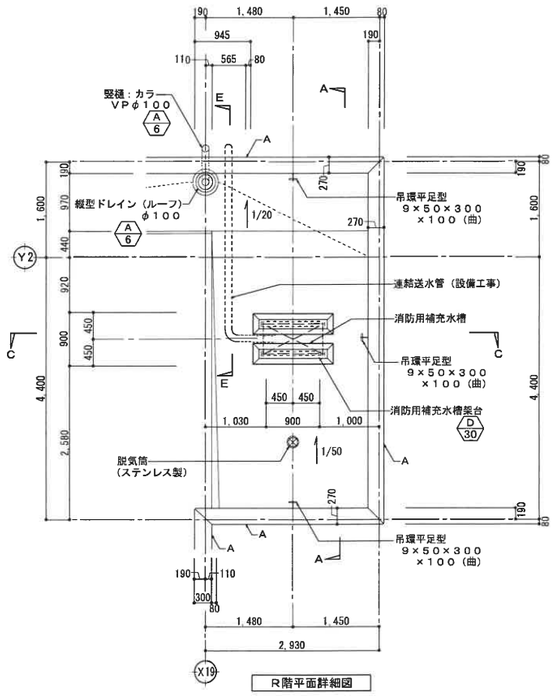
ア 部 詳 細 図　1／２０

仕上凡例												
	A	外壁	コンクリート打放の上 複層塗材Ｅ	c5	巾木	コンクリート打放し	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上、ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ-２）	N	床（ＭＢ・ピット）	コンクリート金コテ押え
	B	手摺天端	コンクリート金コテの上耐候性塗料（ＤＰ）塗	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	I	床	モルタル金コテ押え	O	床	モルタル金コテ押えの上防塵用塗料塗り
	C	床	モルタル塗り（t=２０）の上防滑性ビニル床シート t=２.５	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材Ｅ	J	床	モルラル下地の上 磁器質タイル貼 １００角			
	c1	排水溝	モルタル塗りの上、ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ-２）	E	壁・天井	コンクリート打放しのまま	K	壁・天井	ＦＫ t=６.０（ＬＧＳ下地）の上外装薄塗材Ｅ			
	c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上、ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ-２）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	M	巾木	ステンレス巾木 Ｈ=３００ t=２.０			
	c4	巾木	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押えの上、ウレタンゴム系塗膜防水（Ｘ-２）						

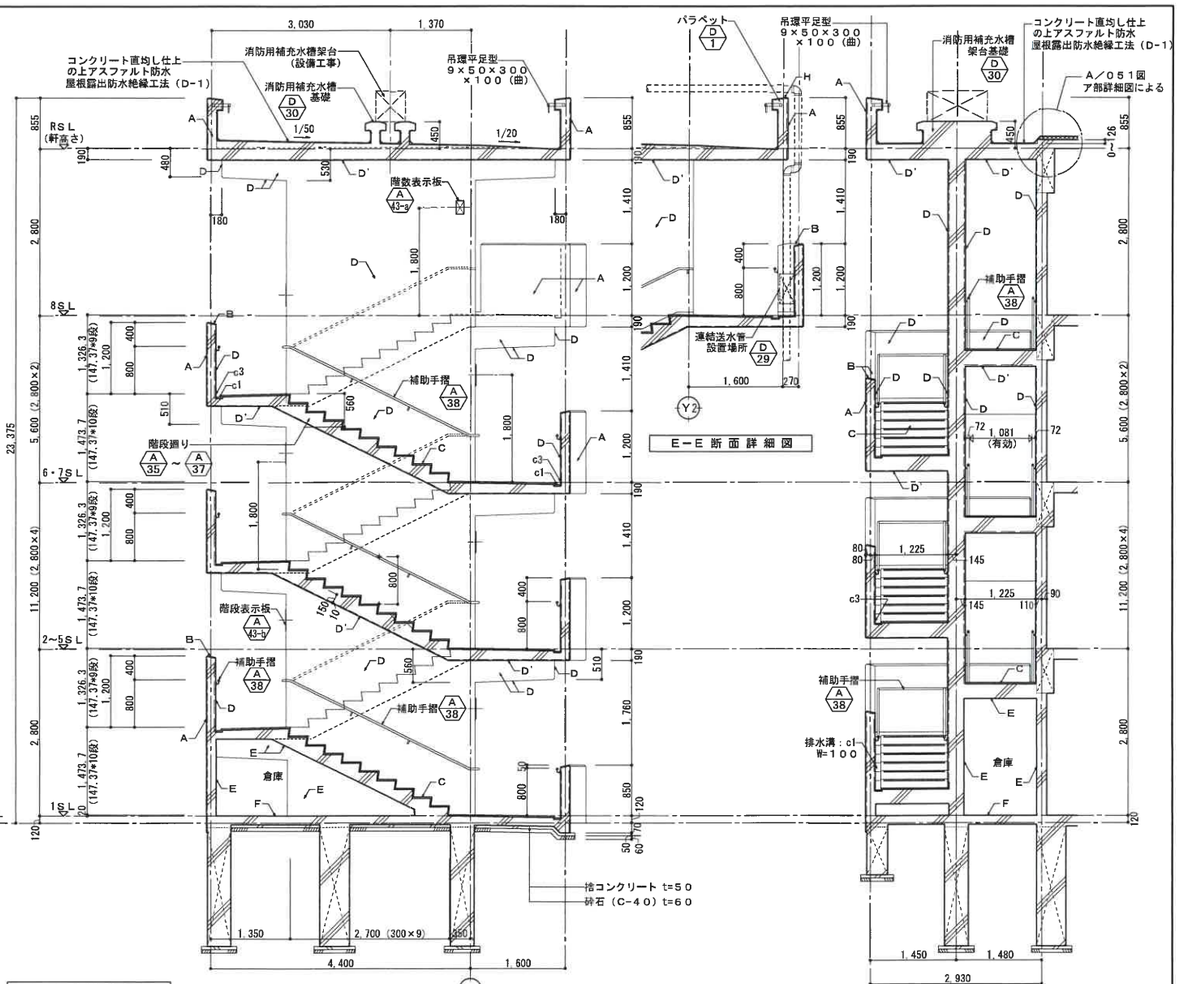
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	屋外階段Ｂ廻り詳細図		
Ａ３縮尺	１／１００ １／４０	Ａ１縮尺	１／５０ １／２０
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０５８
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		



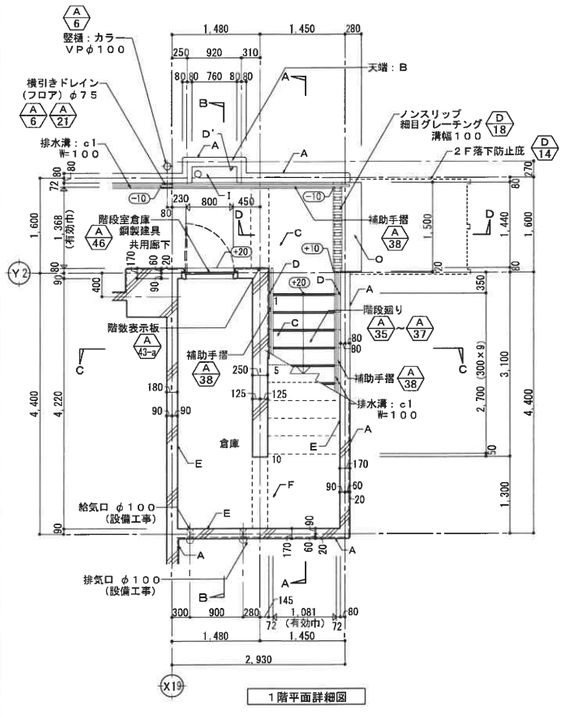
2～7階平面詳細図



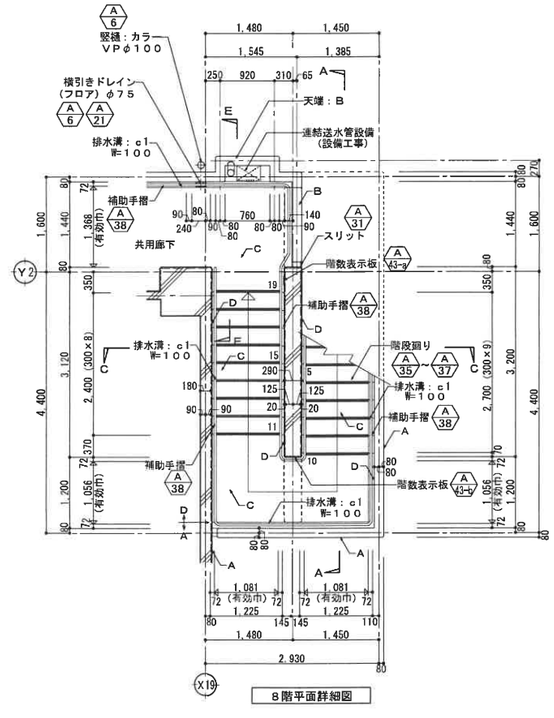
R階平面詳細図



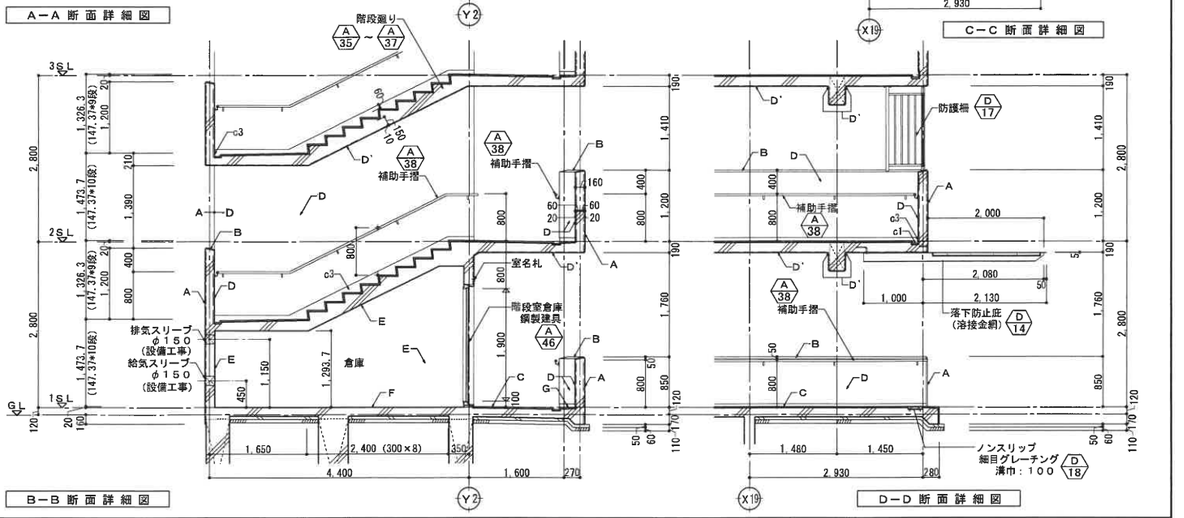
E－E 断面詳細図　A－A 断面詳細図　C－C 断面詳細図



1階平面詳細図



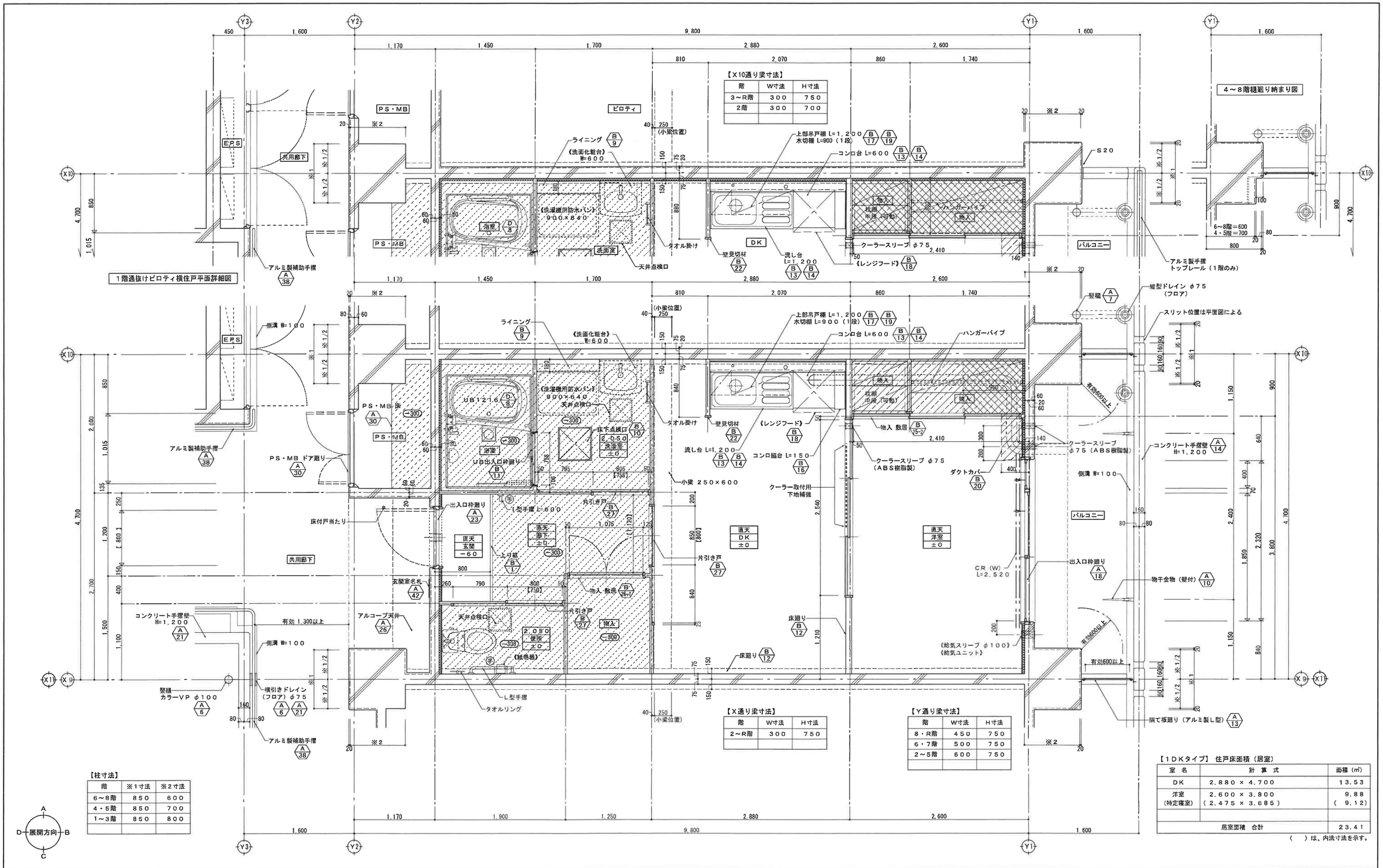
8階平面詳細図



B－B 断面詳細図　D－D 断面詳細図

仕上凡例												
	A	外壁（最外面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	D	壁・柱・梁（外部側面）	コンクリート打放しの上 複層塗材E	H	天端・小庇等	コンクリート金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	N	床（MB・ピット）	コンクリート木コテ押え
	B	手摺天端	コンクリート金コテの上 耐候性塗料（DP）塗	D'	梁（上裏）・天井	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	I	床	モルタル金コテ押え	O	床	モルタル金コテ押えの上防塵用塗料塗り
	C	床	モルタル塗り（t=20）の上防滑性ビニル床シート t=2.5	E	壁・天井	コンクリート打放しのまま	J	床	モルタル下地の上 磁器質タイル貼 100角			
	c1	排水溝	モルタル塗りの上、ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	F	床（倉庫）	コンクリート金コテ押え	K	壁・天井	FK t=6.0（LGS下地）の上外装薄塗材E			
	c3	巾木（排水溝脇）	コンクリート打放しの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	G	連結送水管設置床	モルタル金コテ押えの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）						

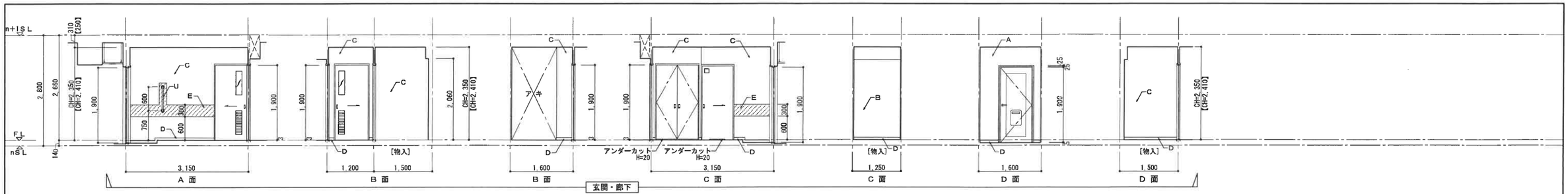
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	屋外階段C廻り詳細図		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／059
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

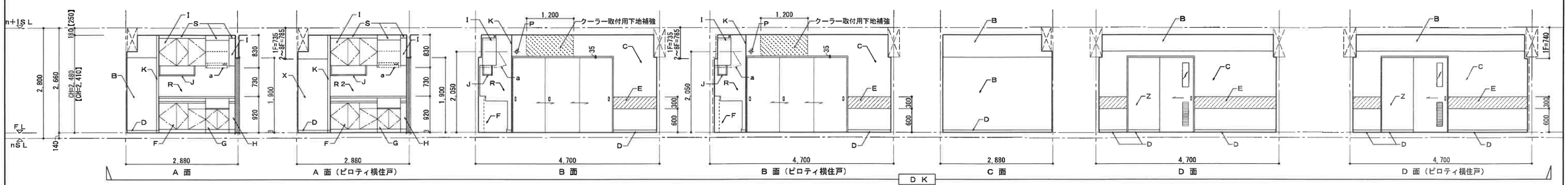


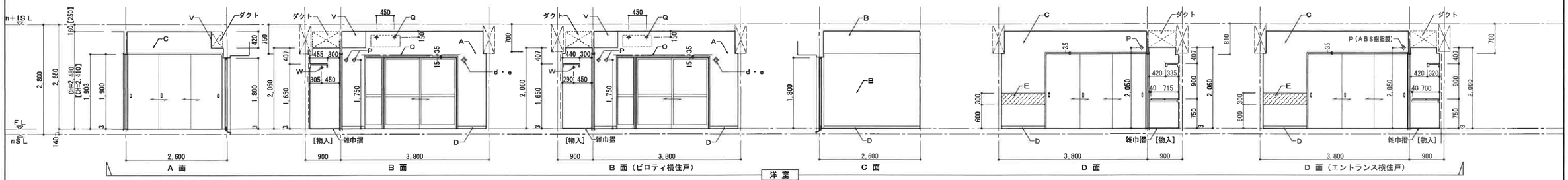
【注記】
※ 反転タイプあり
※ ㊦は手摺取付位置を示す。
※ 【 】寸法は、出入口及び通路有効開口巾を示す。
※ 《 》は設備工事を示す。
※ ドレン位置は平面図による。

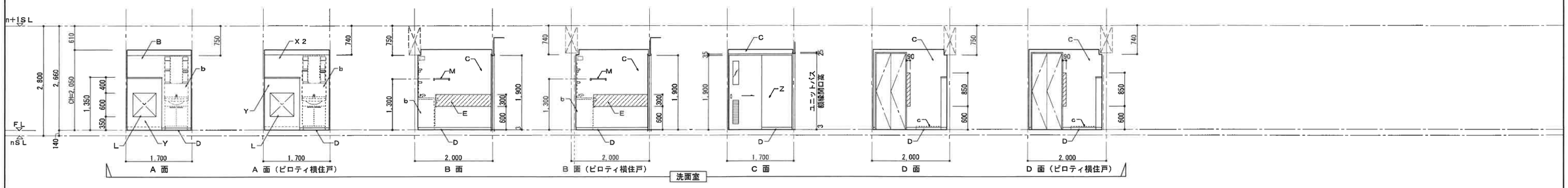
【凡例】
B 20 ディテールNo.を示す。
直天 洋室 ±0 天井高さを示す。室名を示す。床仕上レベルを示す。
外壁断熱（押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 GB-R t=9.5裏打）範囲を示す。
下り天井（ダクトスペース）範囲を示す。
物入上部スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=25施工範囲を示す。
スラブ下がり範囲を示す（FL−300、 SL−160）
クーラーインサート位置を示す。
S20 袖壁 スリット幅 20mm（スタイロt=20の上シーリング）

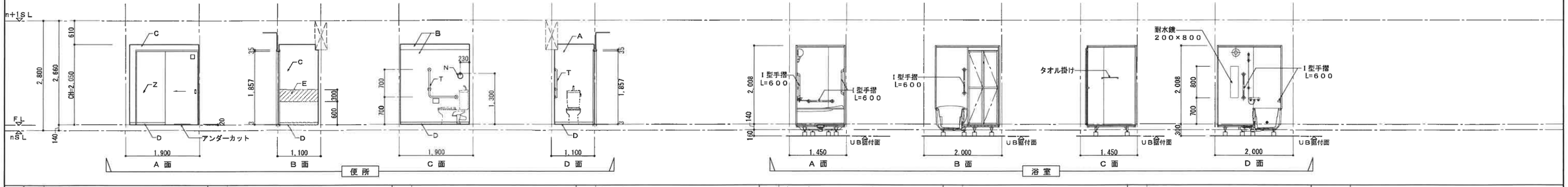
| | | |







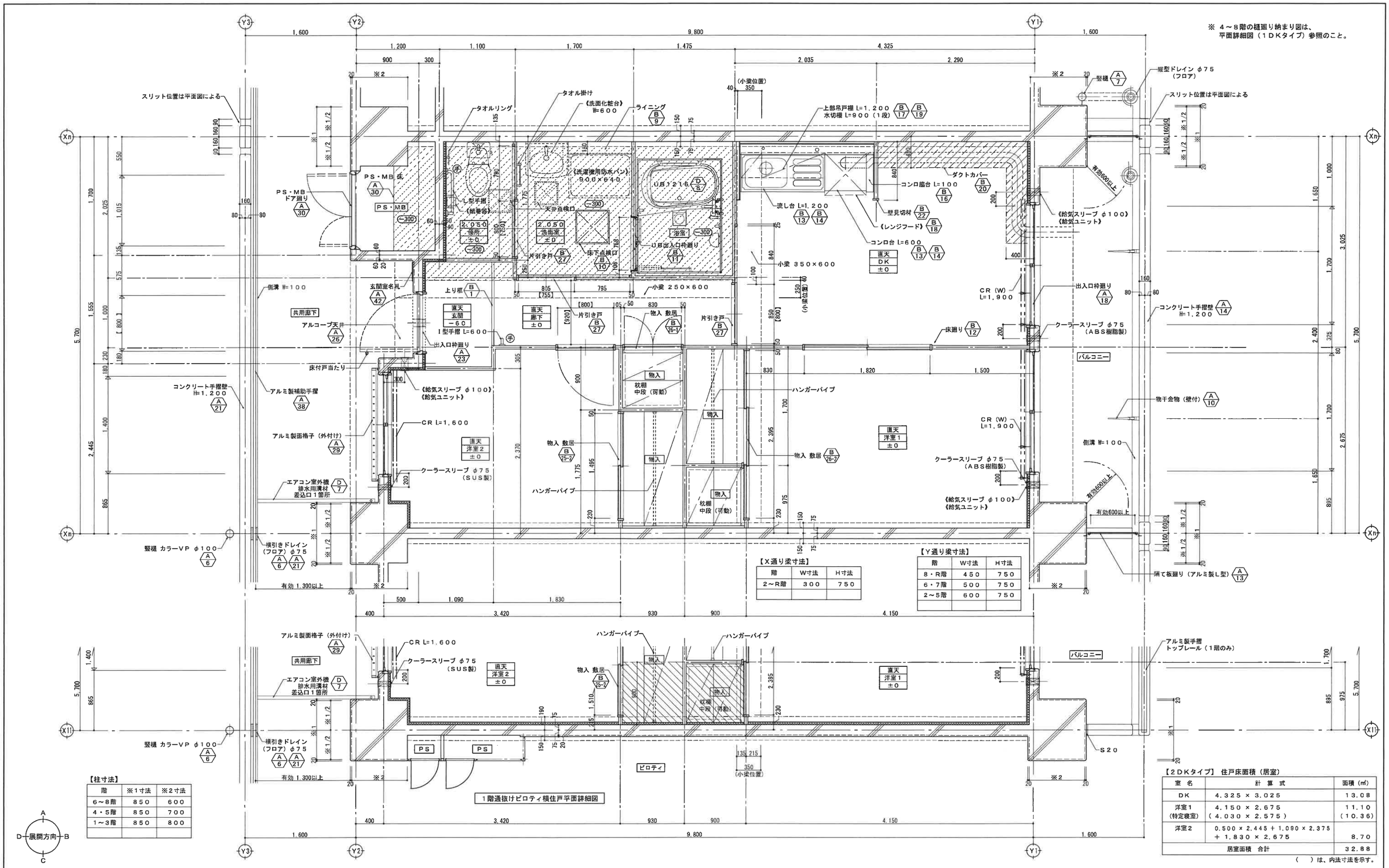




凡例・注記															
	A	(外壁) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上ビニルクロス貼	G	コンロ台 L=600 バックガード一体型	M	タオル掛け：ステンレス製 L=400	R2	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 GB-S t=9.5の上 化粧FK t=6.0貼	X	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上ビニルクロス貼		[別途設備工事]		[注記]	
	B	(住戸界壁) コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼	H	コンロ脇台 L=150	N	タオル掛け：ステンレスリング	S	幕板：ポリ合板 t=4.0（吊戸棚と同色）	X2	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 GB-S t=9.5の上ビニルクロス貼	a	《レンジフード》		寸法：【 】内は最上階を示す。	
	C	(内装パネル) GB-R t=9.5の上ビニルクロス貼	I	吊戸棚 L=1,200	O	アルミカーテンレール（W）	T	L型手摺 600×700	Y	(内装パネル) GB-S t=9.5の上ビニルクロス貼	b	《洗面化粧台》			
	D	ビニル巾木 H=60	J	水切縁（SUS304・1段）L=900	P	クーラースリーブ φ75（バルコニー側：ABS樹脂製）（共用廊下側：SUS製）	U	I型手摺 L=600	Z	ラワン合板 t=4.0の上ビニルクロス貼	c	《洗濯機用防水パン》			
	E	手摺用補強材	K	壁見切り縁	Q	クーラーインサート2本（化粧ナット付）	V	ダクトカバー			d	《給気スリーブ φ100》			
	F	流し台 L=1,200	L	壁点検口	R	GB-S t=9.5の上 化粧FK t=6.0貼	W	ハンガーパイプ φ32			e	《給気ユニット》			

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	展開図（1DKタイプ）		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／061
原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		

※ ４～８階の廻り納まり図は、
平面詳細図（１ＤＫタイプ）参照のこと。



【X通り梁寸法】

階	W寸法	H寸法
2～R階	300	750

【Y通り梁寸法】

階	W寸法	H寸法
8・R階	450	750
6・7階	500	750
2～5階	600	750

【柱寸法】

階	※1寸法	※2寸法
6～8階	850	600
4・5階	850	700
1～3階	850	800

【２ＤＫタイプ】 住戸床面積（居室）

室 名	計 算 式	面積（㎡）
DK	4,325 × 3,025	13.08
洋室1（特定寝室）	4,150 × 2,675（4,030 × 2,575）	11.10（10.36）
洋室2	0,500 × 2,445 + 1,090 × 2,375 + 1,830 × 2,675	8.70
居室面積 合計		32.88

（ ）は、内法寸法を示す。

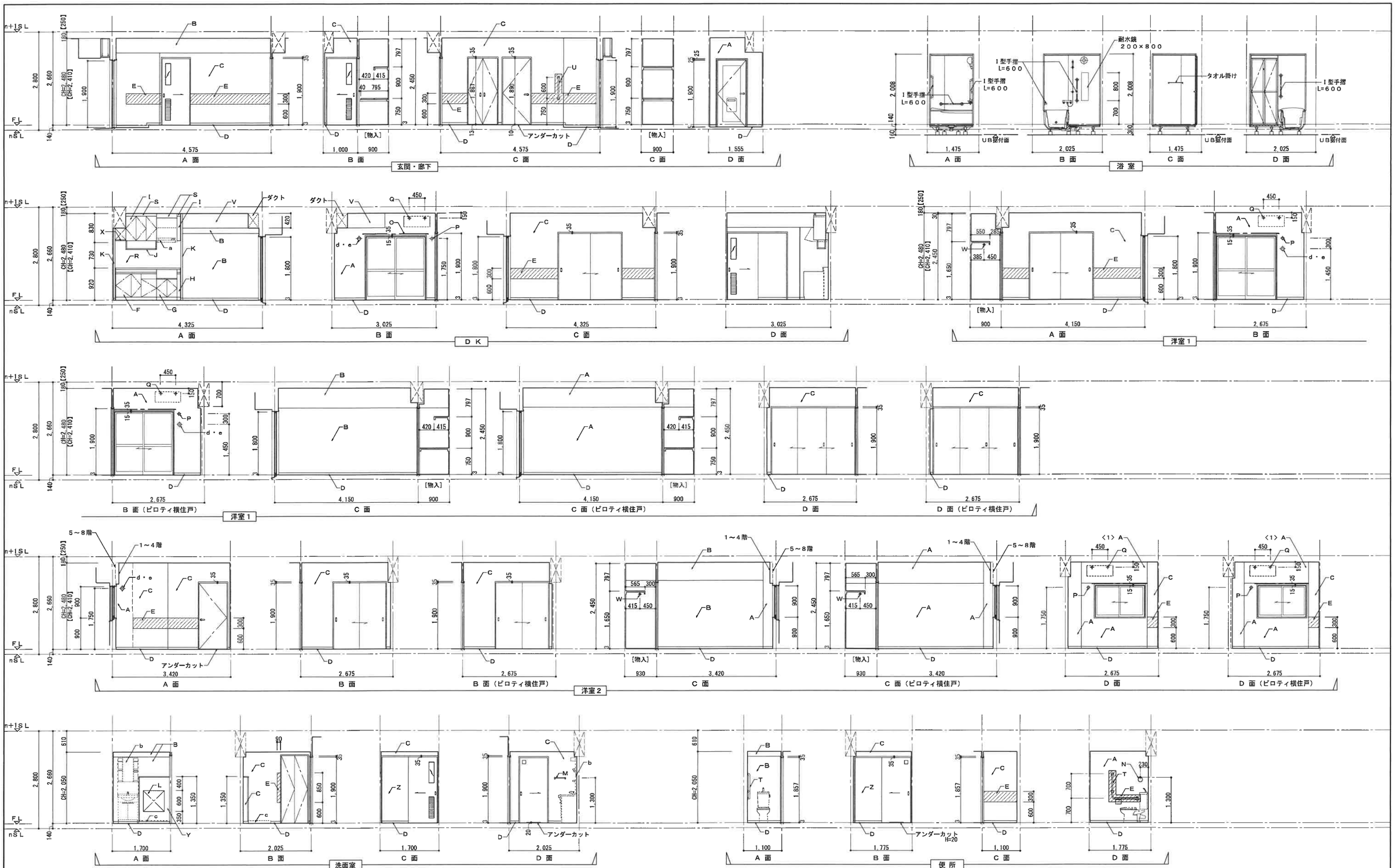
A
D 展開方向 B
C

注記・凡例等

【注記】
※ 反転タイプあり
※ ㊦は手摺取付位置を示す。
※ 【 】寸法は、出入口及び通路有効開口巾を示す。
※ 《 》は設備工事を示す。
※ ドレン位置は平面図による。

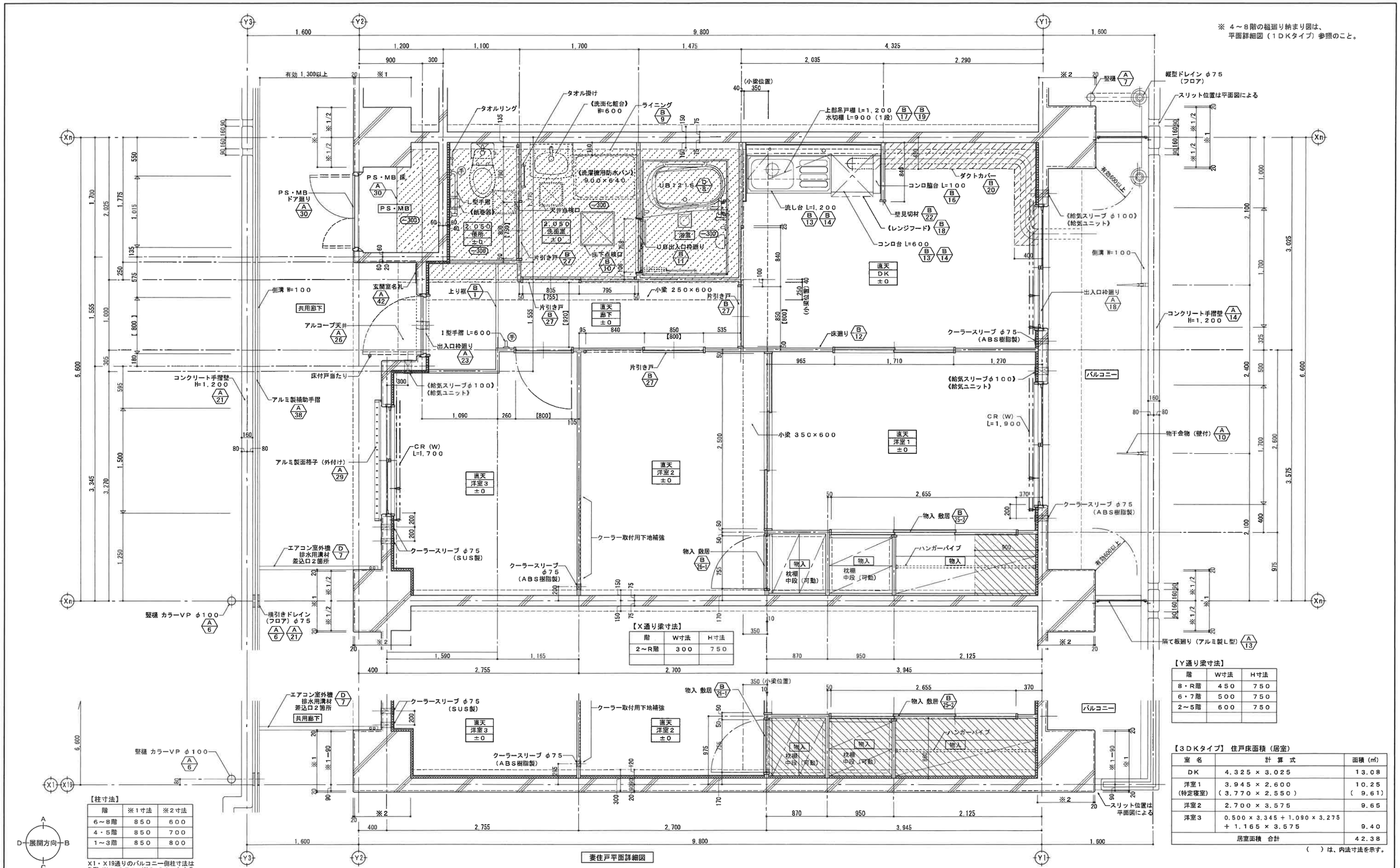
【凡例】
B 20 ディテールＮｏ.を示す。
直天 洋室 ±0 天井高さを示す。室名を示す。床仕上レベルを示す。
外壁断熱（押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=30 GB-R t=9.5裏打）範囲を示す。
下り天井（ダクトスペース）範囲を示す。
物入上部スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25施工範囲を示す。
スラブ下がり範囲を示す（ＦＬ−３００、 ＳＬ−１６０）
クーラーインサート位置を示す。
S20 袖壁 スリット幅 20㎜（スタイロt=20の上シーリング）

| | | |



凡例・注記																					
	A	(外壁) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上ビニルクロス貼	G	コンロ台 L=600 バックガード一体型	M	タオル掛け：ステンレス製 L=400	S	幕板：ポリ合板 t=4.0（吊戸棚と同色）	Y	(内装パネル) GB-S t=9.5の上ビニルクロス貼		［別途設備工事］		［注記］	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事			
	B	(住戸界壁) コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼	H	コンロ脇台 L=100 (B 16)	N	タオル掛け：ステンレスリング	T	L型手摺 600×700	Z	ラワン合板 t=4.0の上ビニルクロス貼	a	《レンジフード》		寸法：【 】内は最上階を示す。	図面名称	展開図（２ＤＫタイプ）			
	C	(内装パネル) GB-R t=9.5の上ビニルクロス貼	I	吊戸棚 L=1,200 (B 17)	O	アルミカーテンレール（W）	U	Ｉ型手摺 L=600			b	《洗面化粧台》			Ａ３縮尺	１／１００	Ａ１縮尺	１／５０	
	D	ビニル巾木 H=60	J	水切棚（SUS304・1段）L=900 (B 19)	P	クーラースリーブ φ75 (バルコニー側：ABS樹脂製) (共用廊下側：SUS製)	V	ダクトカバー (B 20)			c	《洗濯機用防水パン》			堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０６３	
	E	手摺用補強材 (B 4)	K	壁見切り縁 (B 21) (B 22)	Q	クーラーインサート２本（化粧ナット付）	W	ハンガーパイプ φ32			d	《給気スリーブ φ100》			原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm			
	F	流し台 L=1,200 (B 13) (B 14)	L	壁点検口 (B 9)	R	GB-S t=9.5の上 化粧ＦＫ t=6.0貼	X	固定棚 (B 28)			e	《給気ユニット》							

※ ４～８階の廻り納まり図は、
平面詳細図（１ＤＫタイプ）参照のこと。



階	W寸法	H寸法
2～R階	300	750

階	W寸法	H寸法
8・R階	450	750
6・7階	500	750
2～5階	600	750

階	※1寸法	※2寸法
6～8階	850	600
4・5階	850	700
1～3階	850	800

X1・X19通りのバルコニー側柱寸法は各階 ※1=850、※2=800とする。

妻住戸平面詳細図

【3DKタイプ】 住戸床面積（居室）

室名	計算式	面積（㎡）
DK	4.325 × 3.025	13.08
洋室1 (特定寝室)	3.945 × 2.600 （3.770 × 2.550）	10.25 （ 9.61）
洋室2	2.700 × 3.575	9.65
洋室3	0.500 × 3.345 + 1.090 × 3.275 ＋ 1.165 × 3.575	9.40
居室面積 合計		42.38

（ ）は、内法寸法を示す。

注記・凡例等

【注記】
- ※ 反転タイプあり
- ※ ㊦は手摺取付位置を示す。
- ※【 】寸法は、出入口有効開口巾を示す。
- ※《 》は設備工事を示す。
- ※ ドレイン位置は平面図による。

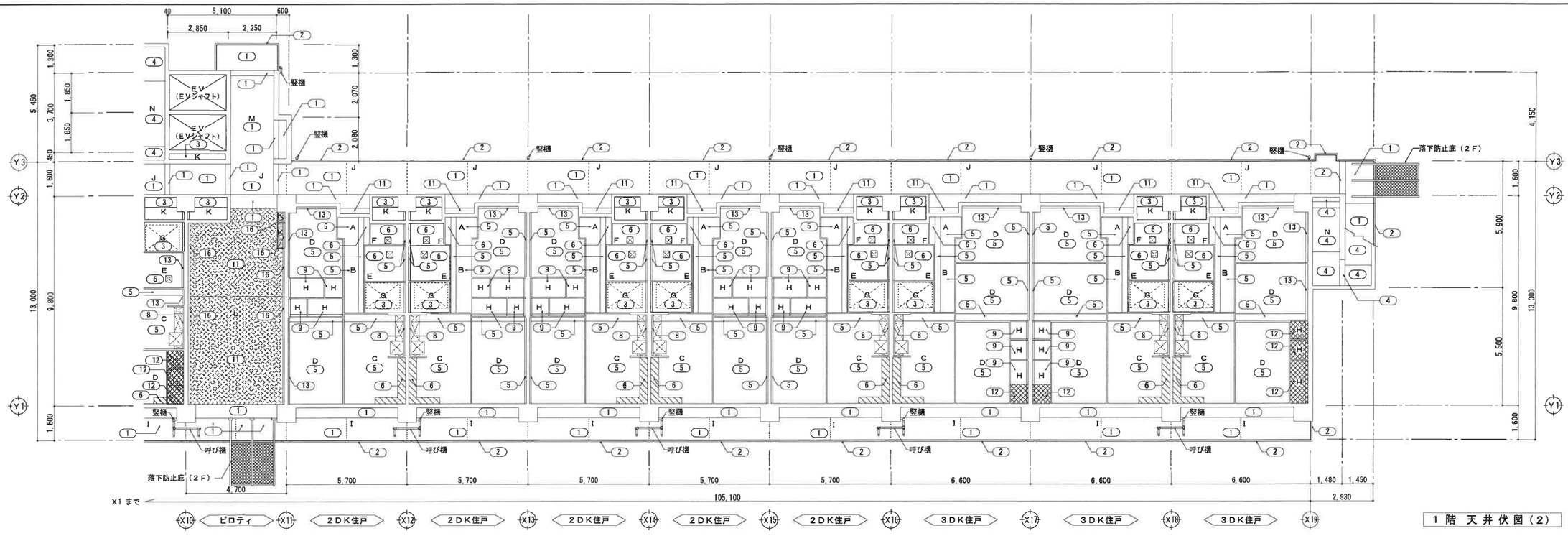
【凡例】
- B 2.0 ディテールＮｏ.を示す。
- 直天 洋室 ±0 天井高さを示す。室名を示す。床仕上レベルを示す。
- 外壁断熱（押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=30 GB-R t=9.5裏打）範囲を示す。 8階妻住戸のみ、外壁断熱（フェノールフォーム断熱材Ⅰ種2号ＣⅡ t=30）
- 下り天井（ダクトスペース）範囲を示す。
- 物入上部スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25施工範囲を示す。
- スラブ下がり範囲を示す（ＦＬ－300、 ＳＬ－160）
- クーラーインサート位置を示す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
8F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
7F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
6F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
5F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
4F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
3F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
2F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	1DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK																			
西 1F	3DK	3DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	1DK	ENT	2DK	2DK	2DK	2DK	2DK	3DK	3DK	3DK	東																			

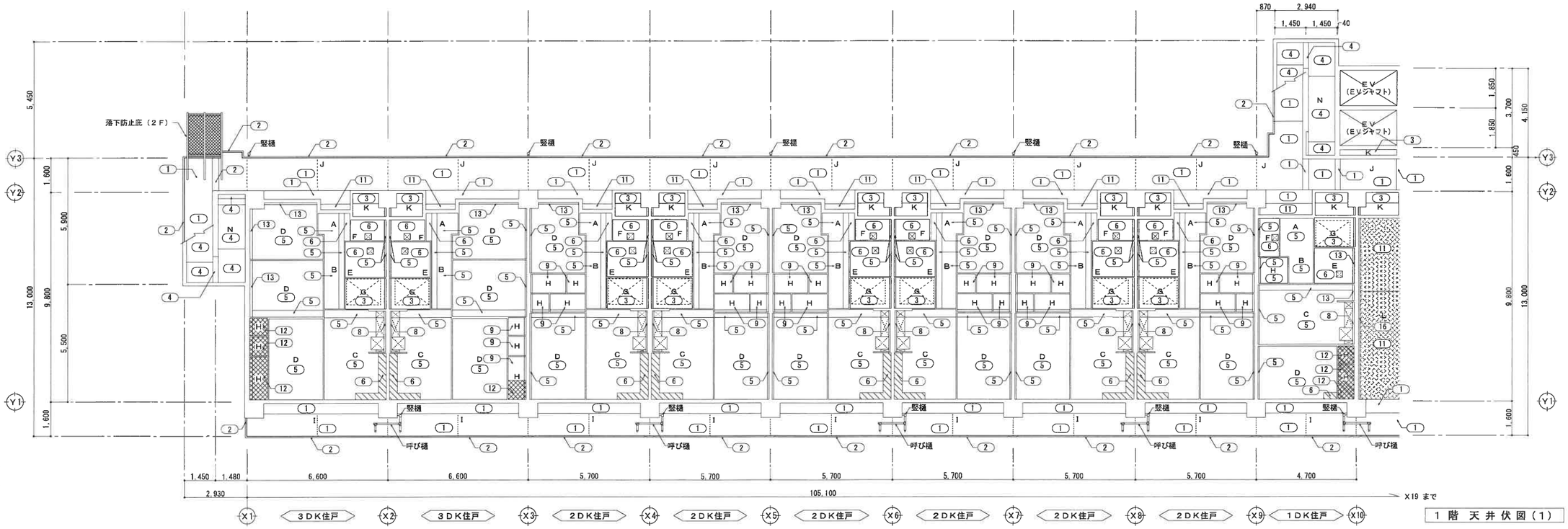
工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	平面詳細図（３DKタイプ）
A3縮尺	1／50
A1縮尺	1／25
堺市 建築都市局 建築部	図面番号 A／064
原寸法	0 250 5000 1,000 1,500 2,500mm



凡例・注記																							
	A	(外壁) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上ビニルクロス貼 8階妻住戸のみ、フェノールフォーム板 1種2号 t=30	B 13 14	F	流し台 L=1,200	B 13 14	L	壁点検口	B 9	R	GB-S t=9.5の上 化粧FK t=6.0貼	X	固定棚	B 28		[別途設備工事]		[注記]	工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
	B	(住戸界壁) コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼		G	コンロ台 L=600 バックガードー体型		M	タオル掛け：ステンレス製 L=400		S	幕板：ポリ合板 t=4.0（吊戸棚と同色）	Y	(内装パネル) GB-S t=9.5の上ビニルクロス貼		a	《レンジフード》		寸法：【 】内は最上階を示す。	図面名称	展開図（3DKタイプ）		
	C	(内装パネル) GB-R t=9.5の上ビニルクロス貼		H	コンロ脇台 L=100	B 16	N	タオル掛け：ステンレスリング		T	L型手摺 600×700	Z	ラワン合板 t=4.0の上ビニルクロス貼		b	《洗面化粧台》			A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
	D	ビニル巾木 H=60		I	吊戸棚 L=1,200	B 17	O	アルミカーテンレール（W）		U	I型手摺 L=600				c	《洗濯機用防水パン》			堺市	建築都市局 建築部	図面番号	A／065
	E	手摺用補強材	B 4	J	水切棚（SUS304・1段）L=900	B 19	P	クーラースリーブ φ75（バルコニー側：ABS樹脂製）（共用廊下側：SUS製）		V	ダクトカバー			B 20	d	《給気スリーブ φ100》			原寸法	0 500 1,000 2,000 3,000 5,000mm		
				K	壁見切り縁	B 21 22	Q	クーラーインサート2本（化粧ナット付）		W	ハンガーパイプ φ32				e	《給気ユニット》						



1 階 天 井 伏 図（２）



1 階 天 井 伏 図（１）

【室名凡例】
A ： 玄関
B ： 廊下
C ： ＤＫ
D ： 洋室
E ： 洗面室
F ： 便所
G ： 浴室
H ： 物入
I ： バルコニー
J ： 共用廊下
K ： ＰＳ・ＭＢ
L ： ピロティ
M ： ＥＶホール
N ： 倉庫

凡例

①	コンクリート打放しの上 外装薄塗材Ｅ	⑦	ＧＢ－Ｒ t=9.5の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	⑬	押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=30 裏打ちＧＢ－Ｒ t=9.5の上 ビニルクロス貼り	☒	アルミ枠天井点検口 ４５０×４５０（住戸内部は３００×３００）
②	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	⑧	ＧＢ－Ｒ t=9.5の上 化粧ＦＫ t=6.0張り（木下地）	⑯ ピロティのみ	押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=40の上 ＦＫ t=6.0の上 外装薄塗材Ｅ	----------	誘発目地
③	コンクリート打放し	⑨	押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）		下り天井		
④	コンクリート打放し	⑩	ＧＢ－Ｒ t=9.5の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（ＬＧＳ下地）		スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25		
⑤	コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼り	⑪	ＦＫ t=6.0（ＬＧＳ下地）の上 外装薄塗材Ｅ		スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=40 ※ピロティのみ		
⑥	ＧＢ－Ｒ t=9.5の上 ビニルクロス貼り（木下地）	⑫	スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25（外壁より９００迄）の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	天井伏図０１（１階）		
Ａ３縮尺	１／２００	Ａ１縮尺	１／１００
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	Ａ／０６６
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



2～4 階 天 井 伏 図（2）

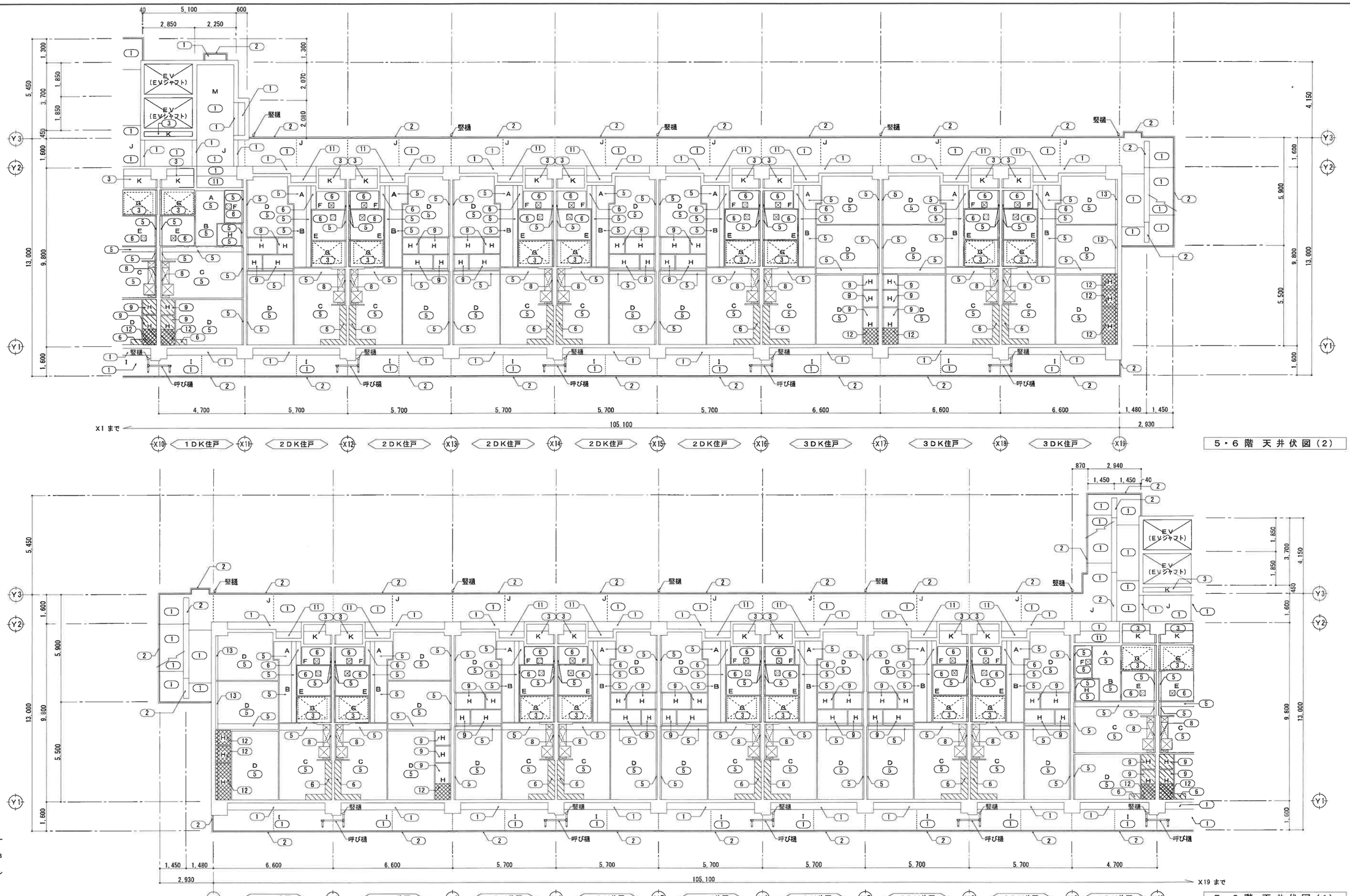
2～4 階 天 井 伏 図（1）

【室名凡例】
A ： 玄関
B ： 廊下
C ： ＤＫ
D ： 洋室
E ： 洗面室
F ： 便所
G ： 浴室
H ： 物入
I ： バルコニー
J ： 共用廊下
K ： ＰＳ・ＭＢ
L ： ピロティ
M ： ＥＶホール
N ： 倉庫

凡例

①	コンクリート打放しの上 外装薄塗材Ｅ	⑦	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（ＬＧＳ下地）	⑬	押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り	☒	アルミ枠天井点検口 450×450（住戸内部は300×300）
②	コンクリート打放しの上 複層塗材Ｅ	⑧	GB-R t=9.5の上 化粧ＦＫ t=6.0張り（木下地）			----------	誘発目地
③	コンクリート打放しのまま	⑨	押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）		下り天井		
④	コンクリート打放し補修	⑩	GB-R t=9.5の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（ＬＧＳ下地）		スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25		
⑤	コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼り	⑪	ＦＫ t=6.0（ＬＧＳ下地）の上 外装薄塗材Ｅ				
⑥	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（木下地）	⑫	スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ t=25（外壁より900迄）の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	天井伏図０２（２～４階）
A3縮尺	1／200
A1縮尺	1／100
堺市 建築都市局 建築部	図面番号 A／067
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm



5・6階 天井伏図（2）

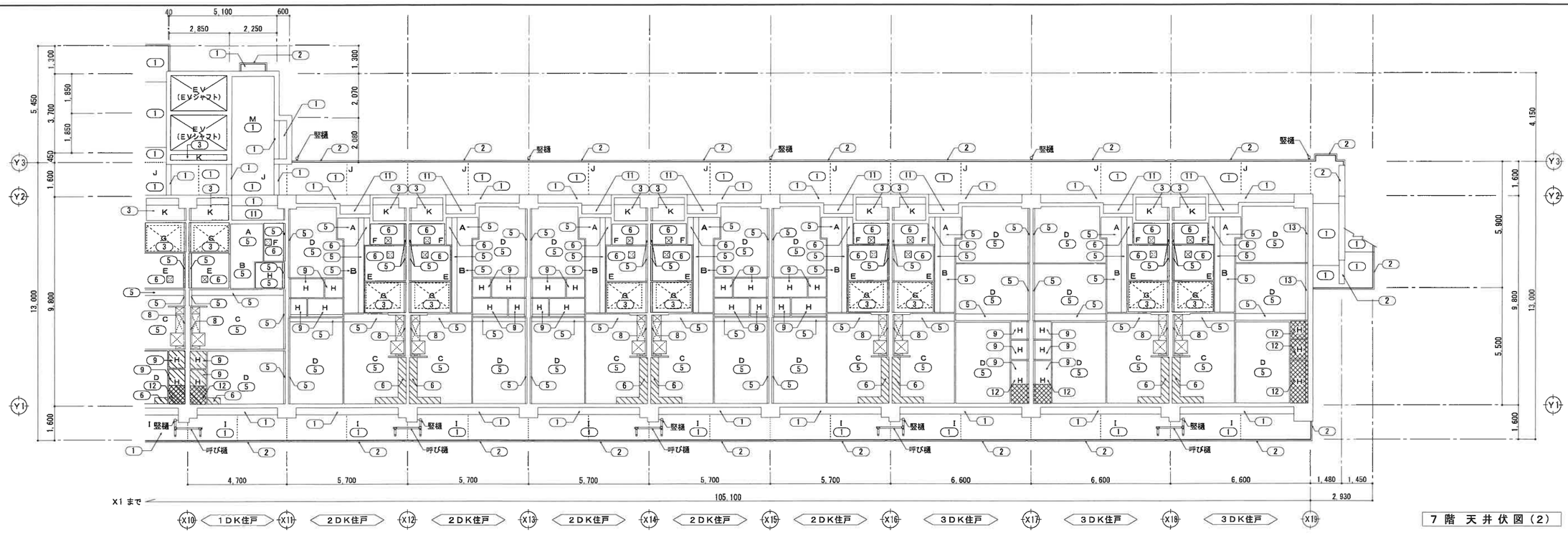
5・6階 天井伏図（1）

【室名凡例】
A： 玄関
B： 廊下
C： DK
D： 洋室
E： 洗面室
F： 便所
G： 浴室
H： 物入
I： バルコニー
J： 共用廊下
K： PS・MB
L： ピロティ
M： EVホール
N： 倉庫

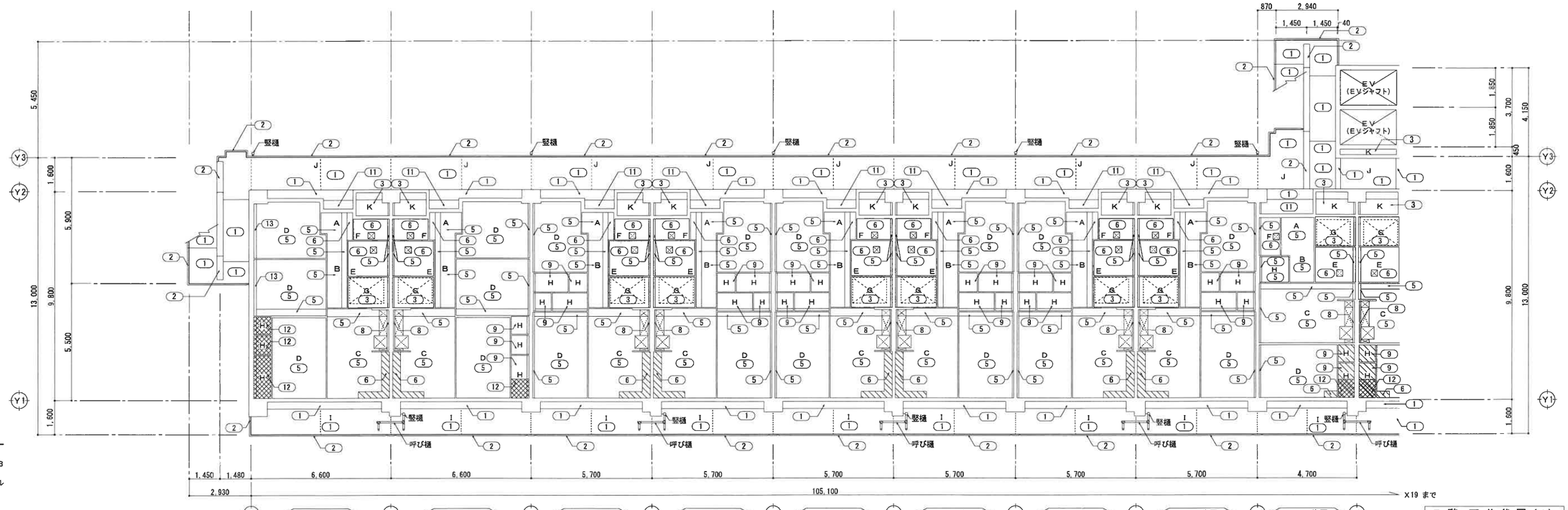
凡例

①	コンクリート打放しの上　外装薄塗材E	⑦	GB-R t=9.5の上　ビニルクロス貼り（LGS下地）	⑬	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り	☒	アルミ枠天井点検口 450×450（住戸内部は300×300）
②	コンクリート打放しの上　複層塗材E	⑧	GB-R t=9.5の上　化粧FK t=6.0張り（木下地）			----------	誘発目地
③	コンクリート打放しのまま	⑨	押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）	▨	下り天井		
④	コンクリート打放し補修	⑩	GB-R t=9.5の上　押入用プリント合板 t=4.0張り（LGS下地）	▩	スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=25		
⑤	コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼り	⑪	FK t=6.0（LGS下地）の上　外装薄塗材E				
⑥	GB-R t=9.5の上　ビニルクロス貼り（木下地）	⑫	スラブ下　押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=25（外壁より900伸）の上 押入用プリント合板　t=4.0張り（木下地）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	天井伏図03（5・6階）
A3縮尺	1／200
A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局　建築部
図面番号	A／068
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm



7 階 天 井 伏 図 (2)



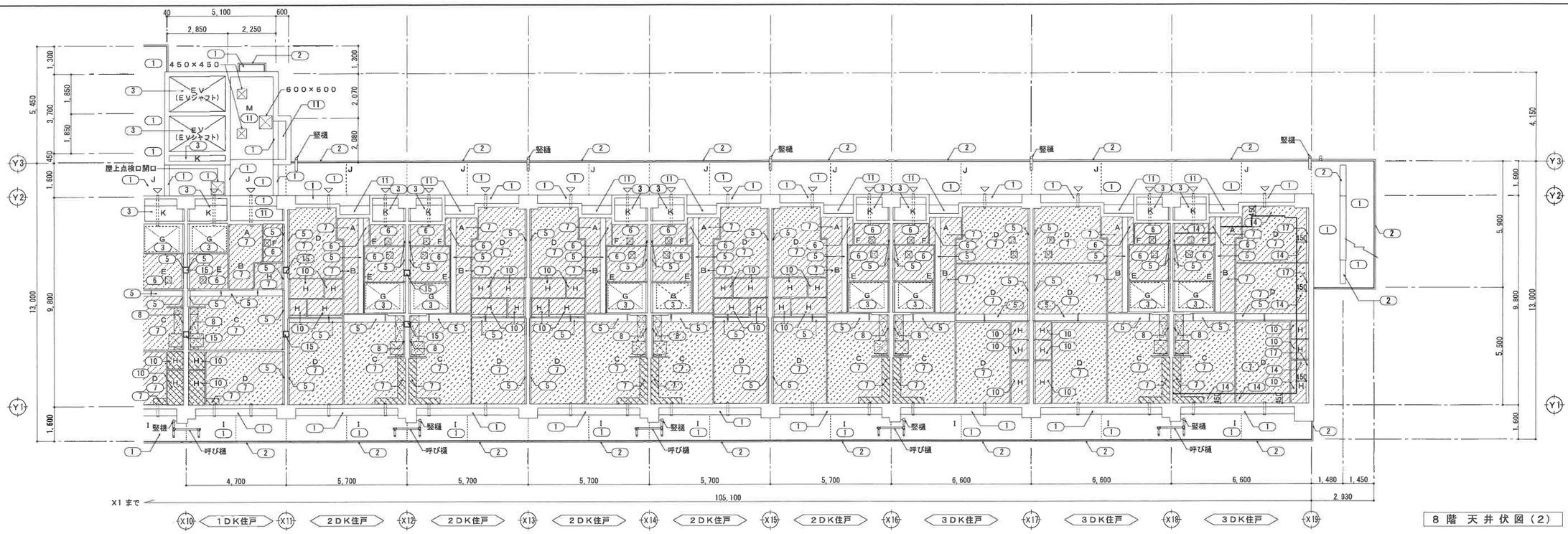
【室名凡例】
A： 玄関
B： 廊下
C： DK
D： 洋室
E： 洗面室
F： 便所
G： 浴室
H： 物入
I： バルコニー
J： 共用廊下
K： PS・MB
L： ピロティ
M： EVホール
N： 倉庫

7 階 天 井 伏 図 (1)

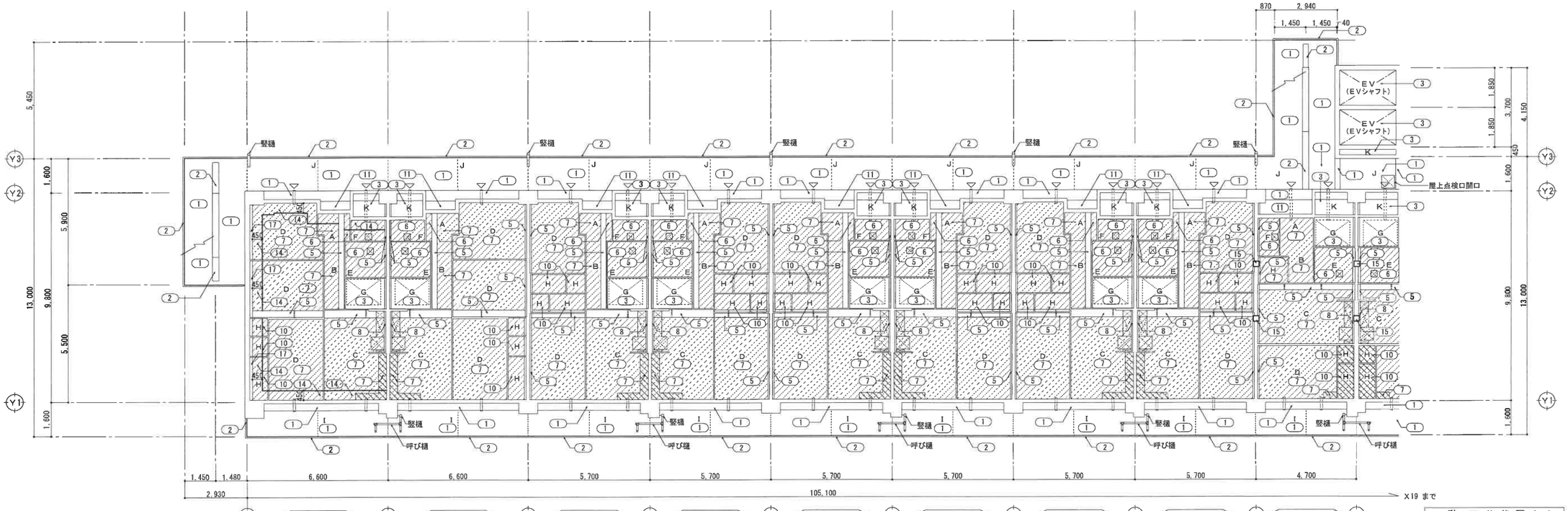
凡例

①	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	⑦	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（LGS下地）	⑬	押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り	☒	アルミ枠天井点検口 450×450（住戸内部は300×300）
②	コンクリート打放しの上 複層塗材E	⑧	GB-R t=9.5の上 化粧FK t=6.0張り（木下地）			----------	誘発目地
③	コンクリート打放しのまま	⑨	押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）		下り天井		
④	コンクリート打放し補修	⑩	GB-R t=9.5の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（LGS下地）		スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=25		
⑤	コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼り	⑪	FK t=6.0（LGS下地）の上 外装薄塗材E				
⑥	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（木下地）	⑫	スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA t=25（外壁より900強）の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）				

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
図面名称	天井伏図04（7階）		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	A／069
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm		



8 階 天 井 伏 図 （2）



8 階 天 井 伏 図 （1）

【室名凡例】
A ： 玄関
B ： 廊下
C ： DK
D ： 洋室
E ： 洗面室
F ： 便所
G ： 浴室
H ： 物入
I ： バルコニー
J ： 共用廊下
K ： PS・MB
L ： ピロティ
M ： EVホール
N ： 倉庫

凡例

①	コンクリート打放しの上 外装薄塗材E	⑦	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（LGS下地）	⑭ 8階両妻住戸のみ	押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂA t=２０ ※スラブ下面（梁側面から450まで）
②	コンクリート打放しの上 複層塗材E	⑧	GB-R t=9.5の上 化粧FK t=6.0張り（木下地）	⑮ 8階住戸のみ	押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂA t=２０ ※太陽光パネル基礎直下の梁側面から梁底まで L=400
③	コンクリート打放しのまま	⑨	押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）	⑰ 8階両妻住戸のみ	フェノールフォーム板1種2号CⅡ t=30 裏打ちGB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り
④	コンクリート打放し補修	⑩	GB-R t=9.5の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（LGS下地）		
⑤	コンクリート打放しの上 ビニルクロス貼り	⑪	FK t=6.0（LGS下地）の上 外装薄塗材E		
⑥	GB-R t=9.5の上 ビニルクロス貼り（木下地）	⑫	スラブ下 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂA t=２５（外壁より９００迄）の上 押入用プリント合板 t=4.0張り（木下地）		下り天井

	スラブ下断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材 t=２５
	小屋裏断熱材：小屋裏部分の内部天井裏は全面に住宅用グラスウール ２４kg/m3相当 t=５０を設置する。
	アルミ枠天井点検口 450×450・600×600（住戸内部は300×300）
	誘発目地
	天井裏換気パイプVU φ50（共用廊下側 防虫網付）※8階のみ ※1DKのみSUS φ50
	天井裏換気パイプVU φ50（バルコニー側 防虫網付）※8階のみ

工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事
図面名称	天井伏図05（8階）
A3縮尺	1／200
A1縮尺	1／100
堺市	建築都市局 建築部
図面番号	A／070
原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm